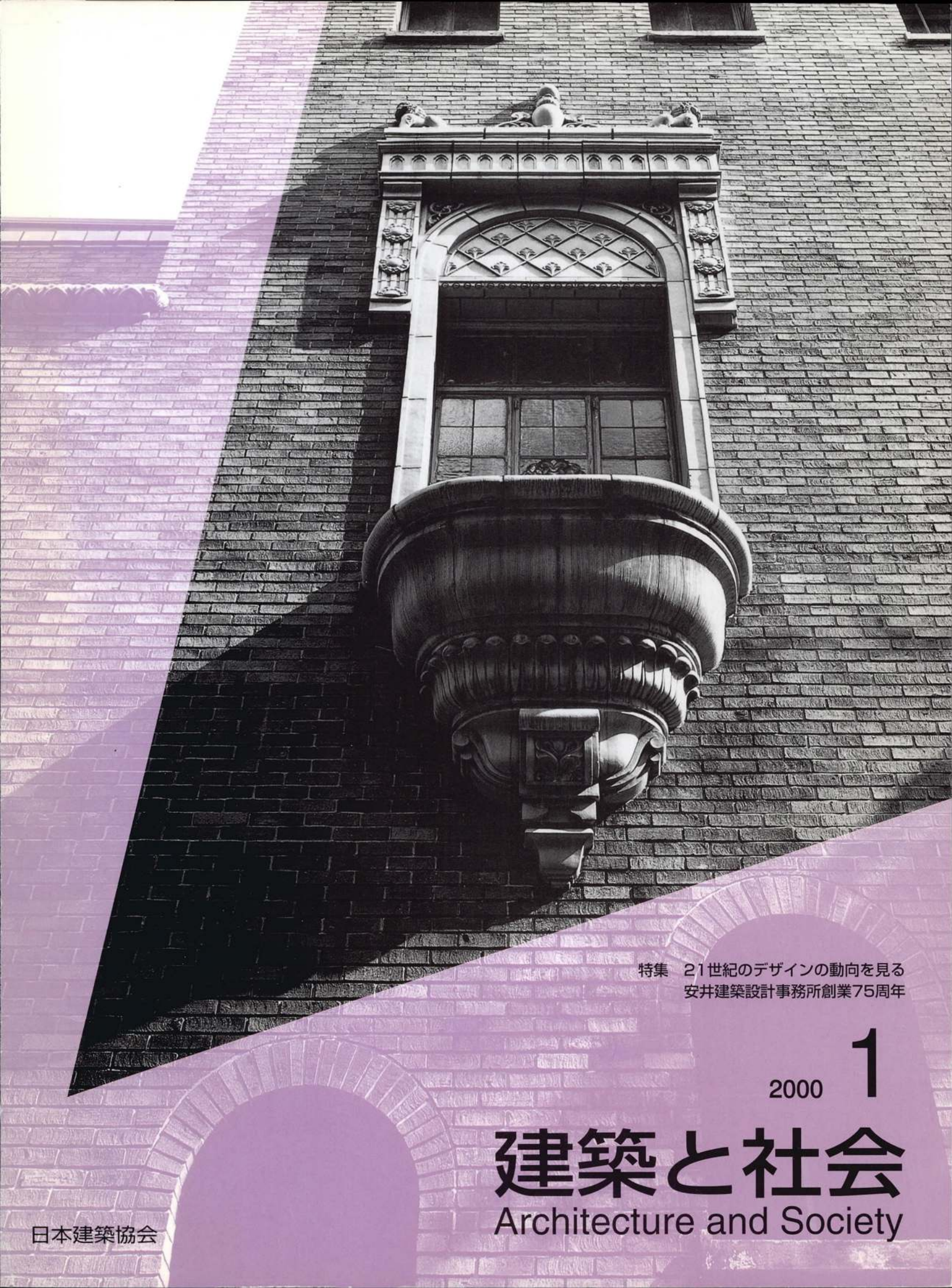


特集　21世紀のデザインの動向を見る
安井建築設計事務所創業75周年

2000 1

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会



営業免許

■	一般内装仕上工事業	建設大臣　許可(般-9)第17646号
■	一般機械器具設置工事業	建設大臣　許可(般-9)第17646号
■	特定管工事業	建設大臣　許可(特-9)第17646号
■	医療用具販売業	大阪府茨保　第124-52号（東京都北部薬事衛生事業所）
■	特別管理産業廃棄物処理業	第396108069号
■	微生物的検査所	大阪府知事登録　第148号
■	医療関連サービス認定	G(2)-9610270168

病院設備の総合メーカー目指してチャレンジ。

無菌室施工／空気調和システム／医療機器製造販売／水処理設備工事／防護工事／解剖システム
中材システム／実験・検査システム／清潔環境管理システム／病棟システム／薬局調剤システム

精研医科工業株式会社

本　　社　〒566-0062 大阪府摂津市鳥飼上3丁目1番28号　TEL (0726)53-6161　FAX (0726)53-6225
東京営業所　〒115-0051 東京都北区浮間3丁目16番15号　TEL (03)5392-6051　FAX (03)5392-6053
横浜営業所　〒229-1137 神奈川県相模原市二本松2丁目5番4号　TEL (042)773-0912　FAX (042)772-4785
大阪営業所　〒566-0062 大阪府摂津市鳥飼上3丁目1番28号　TEL (0726)53-6161　FAX (0726)53-6225
物流倉庫　〒570-0017 大阪府守口市佐太東町1丁目35番5号　TEL (06)6904-4455

2000年を迎えて

社団法人 日本建築協会会長 市川　宏

新しい年を迎え、会員の皆様のご多幸と建築界の繁栄を心からお祈りいたします。

20世紀も最後の年、いよいよ21世紀へ飛躍すべき格別の年を迎えたわけです。この100年の、明治、大正、昭和、平成の歴史とともに、日本の建築界の歴史もまた、後世になってふり返ってみてもまさしく波乱に満ちた特記すべき時代として記憶に残ることと思います。

幕末以来お雇い外国人によって主導されてきた日本の建築界は20世紀を目前にして、工部大学校、後に帝国大学造家学科の発足とも相俟って、日本人による日本の近代建築の時代へと発展し、官公庁あるいは財閥の本支店などのビル建設の追い風を受けて当初は主として東京中心で推移した建築界は、程なく紡績業を中心とする産業の発展と結びついた大阪において急激に活気を呈しはじめた中で新しい20世紀を迎えることになります。そしてアール･ヌーボー、ゼツェッション、将又(はたまた)新しい技術や材料の導入とともに建築非芸術論なども流れる中で、都市環境の貧困を憂えて発足したのが日本建築協会です。

発足後10年足らずでわが国はじめての公益法人として、名実ともに建築を通じて社会に貢献する全国団体としての地位を確立、創立30周年を迎えた1947年には、第２次世界大戦によって廃墟と化した都市の復興のために建築界をつなぐ総合団体としての道を歩みはじめ、爾来53年、昨年は創立以来の活動を取りまとめた協会80年史を刊行したのでありますが、過去の輝かしい歴史をふり返りますとき、私ども建築協会がいかに多くの困難を克服して今日に至ったかということが理解され、誠に感慨深いものを覚えます。

しかしながら、現在のわが国の社会環境は未曽有の大不況のもと、これまでに経験したことのない大きな曲がり角に差しかかっております。国際競争がますます激化する中で、建築を取り巻く環境も一段と厳しさを増しております。私ども日本建築協会もその渦中にあることは言うまでもありません。

建築を通じて社会に貢献するためには、いかにあるべきか。建築に関わるすべての分野の優れた技術・知識が参加し得る、他に類を見ない団体の特性は本当に生かされているであろうか。21世紀を目前にしたこの大きな節目の年に、今一度過去の業績をふり返り、現状を把握し、英知を集めて来るべき21世紀の日本建築協会の新しい針路を定めることが私どもに課せられた大きな責務であると考えます。

ここに会員の皆様方のご理解とご協力をお願い申しあげますとともに、重ねて皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

日本建築協会・常設委員会

本年の抱負

編集委員会

新しい顕彰制度とは

編集委員長

宮田　照久

『建築と社会』の編集を仰せつかって早や一年近くになります。景気後退に伴う会員数・広告収入の減少による財政的圧迫への対応が、引き継ぎ時の最大課題でありました。各種検討の結果、紙面の魅力をどう発揮していくのかがわれわれ編集委員にとって唯一の解決策であるというのが共通の認識でした。そうして生まれてきたのが、ここに紹介します新顕彰制度です。

当協会にはすでに『日本建築協会賞』等の歴史ある顕彰制度が整備されています。しかしこれまで作品・論文等を顕彰するものはなく、多方面から要望されていたところであります。詳細は会告を一読いただくとして、その要旨は本誌掲載の作品・論文のうち、読者の投票を基本とし選考していくという点にあります。このことにより会員相互の深い理解と活発な交流が生まれ、協会の底辺拡大につながり、まさに『建築と社会』の広がりになっていくことが本当の狙いです。

この顕彰制度はまだ生まれたばかり、これから大きく育つかどうかは会員の皆様次第です。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

事業委員会

会員と委員と協会が一体となって前進

事業委員長

多井　幸男

数年前より提唱していた正副常設委員長会議をもつことが出来た。そこでは、時代の変化が痛切に感じられる今日、従来の事業に加えて、若い方に入会して頂くメリットはどこにあるか、どうすれば「建築と社会」が多く読まれるか、複雑に入ってくる情報化社会にいかに対処できるか、等の議論がある。

協会設立以来、「建築を通じて社会に貢献する」との目標を掲げて80数年。各分野に分かれて活躍している私たちの委員会（見学会小委員会・情報小委員会・若い会員の集い小委員会）を通じて、協会にいつでも相談できる、どこへでも見学に行ける、情報を求めるときは協会はどんなに親切に対応してくれるか。それを実行するには、諸事業への会員の意見・希望を多く聞き、われわれ委員と協会職員が三位一体になって魅力ある開かれた協会へと努力するしかないように思っている。

私たちはそれを求めて前進します。

教育委員会

支部会員との接点

教育委員長

片倉　健雄

「建築工事実務講習会」の歴史は長く、1957年に始まった「現場管理実務講習会」が発展して、以来40年以上続いている当協会の定番ともいえる事業です。これは歴代の委員の方々のご努力で、実務の実態を反映した、より役に立つ内容に焦点を絞ってきたことと、充実したテキストと実務の第一線の講師陣の講義が、中堅技術者のニーズに沿ったものになっているためと思われます。

この事業の今ひとつの特長は、大阪だけでなく、東海支部のほか広島、京都での開催もあり、支部の会員の方々の参加の機会を作るとともに、支部の運営にも寄与しています。

今ひとつの例年の事業である「工高生デザインコンクール」は、新鮮なテーマと、教育現場の実態に沿う努力を重ねていますので、全国からの応募が確実に続いており、これもまた、支部の方々とのつながりをもつ事業です。

このような活動を、今年も積極的に進めて参りたいと考えております。よろしくご支援下さい。

出版委員会

一杯飲むのを節約して当会の企画の本一冊を買ってください

出版委員長

山田　　修

「いい本は出しても本が売れない」いわゆる活字ばなれの時代がやってきました。さらに、少子化現象、建築界への新入社員の激減が拍車をかけます。

過日、ある若者がわたしに「一杯飲む金はあるが、一冊の本は買わない」と話してくれました。

ふきすさぶ不況嵐のなかで、建築人の心の豊かさは失われていきます。人間はパンのみにて生くるにあらず、で心の豊かさは「読書から得るもの」と思うのですが……。

こんな社会でも、当会は前進を続けなければならない宿命を負っています。

どうぞ、会員の皆様、今こそ心を豊かにし知恵を蓄えるために、当会企画の本を一冊でもお買いあげくださるよう、お願いいたします。

わたしたち委員は、いい著者によるいい本を企画するべく、委員の英知をしぼり前進していきたい、と念じておる次第です。

建材委員会

改正建築基準法の施行時期近づく

建材委員長

和田　克朗

平成11年６月、通称「住宅品質確保促進法」が公布された（施行は平成12年６月）。建築基準法の大改正に続く、建築関連法規の見直しである。

昨今、いろいろな工業製品について、品質保証の関心が高まる中で、住宅の品質保証については、家庭電化製品など工業製品に比べて遅れていることが指摘されていたところであるが、同法の施行により、住宅についても、第三者機関が性能を評価した「保証書（住宅性能評価書）」を交付することにより、消費者保護が拡大されることとなる。

建築基準法でも現場検査の不備が問題視され、今回の改正によって、現場検査の充実が図られることとなったが、住宅品質確保促進法では、４回以上の検査を行い、設計段階では構造耐力はもとより、耐久性、遮音性、省エネ性等も性能評価の対象とされる。

建築材料の品質・性能が一層重視される（ますます住宅用新建材の素性が問われる）時代を迎える。

建材委員会で、委員の評価に基づいた「新しい建材」を「建築と社会」の誌面を通じて紹介しているが、さらに住宅品質確保の観点からの評価も加え、委員会活動の充実を図りたい。

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』実施のお知らせ

日本建築協会誌「建築と社会」では、新世紀の幕開けとなる2001年初頭より、本誌掲載の建築作品、論文、記事を対象に本会会員の投票による顕彰制度、読者と選ぶ『建築と社会賞』を実施いたします。

本賞は、「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい、社会性、環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文、記事などを顕彰するものです。なお、その選考方法は、会員参加を考え、会員読者の投票による第一次選考及び、編集委員会で定めた選考委員会での第二次選考を経て決定いたします。

1月号読者アンケート用紙は、p51に掲載しています

〔選考対象〕

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』は、2000年1月号～12月号の本誌「建築と社会」の「作品作風頁」「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」に掲載された建築作品及び、「特集頁」「シリーズ頁」「実務の頁」「投稿欄」・その他頁に掲載された論文、記事の中から選考する。

〔選考・スケジュール〕

●第一次選考

「建築と社会」2000年1月号～12月号の各号に読者アンケート用紙(FAX送付用)を掲載し、会員読者から送付いただく。また、2000年12月号には会員読者の投票用ハガキを綴じ込み、双方に準拠し第一次選考を行う。12月号には、選考要項、選考委員名などを掲載する。

●第二次選考

「建築と社会」編集委員会で定めた本賞選考委員会で、第一次選考を通過した作品、論文、記事などを該当者より提出された審査資料に基づいて選考する。

●発表

入賞者は、本人に通知するとともに、「建築と社会」2001年4月号で発表。同年4月に開催される編集委員会総会で表彰予定。

〔表彰内容〕

作品　　1～3点
論文・記事　1～3点
各入選作品・論文・記事に対し、賞状、記念品を贈呈する。

淡路夢舞台を訪ねる
――バスツアー見学会――



淡路夢舞台

兵庫県では「淡路島国際公園都市」整備構想の中核施設として、「淡路夢舞台」の建設を進めており、2000年3月にオープンする予定です。この施設は、広大な土砂採取跡地を緑化することにより自然を回復し、その中に国際会議場やホテル、温室などの施設群を散在させ、自然との共生を図ることを意図したものです。

また隣接地では、2000年3月18日から半年間にわたり、国際園芸・造園博「ジャパン・フローラ2000」が開催される予定です。

今回、兵庫県企業庁並びに㈱夢舞台関係者の格別のご協力により、見学会開催の運びとなり、安藤忠雄建築研究所の担当者より本計画の設計説明をしていただけることになりました。

また、夢舞台敷地の近くにある同研究所設計の本福寺水御堂やTOTOセミナーハウス等を合わせてバスで一巡する見学会を企画しました。

寒さ厳しき時節ではありますが、多数の方々のご参加をお待ちしています。

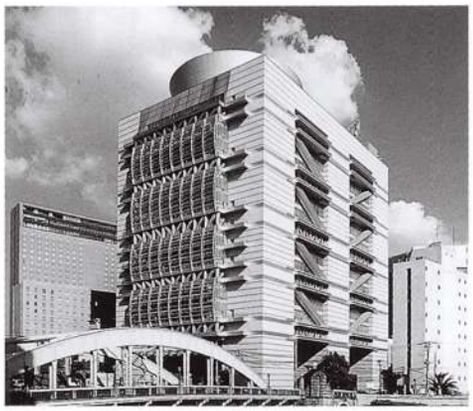
左下:TOTOセミナーハウス
右下:真言宗本福寺水御堂





日　時　2000年 2 月19日(土)
　　8:30―18:00
見学先　淡路夢舞台
　　真言宗本福寺水御堂
　　TOTOセミナーハウス
講　師　長谷川浩三／兵庫県企業庁
　　淡路建設局局長
　　安藤忠雄建築研究所担当者
　　秦　力／竹中工務店総括作業所長
交　通　貸切バスツアー／大型バス2台
集　合　三宮駅前
定　員　80人／申込多数の場合は抽選
参加費　会員6,000円、一般7,000円
　　学生1,000円引
　　＊昼食・税込
申　込　2月7日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：淡路夢舞台を訪ねる
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証と参加費振込先を2月8日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会
　　主査：森田芳次／安井建築設計事務所

大阪府立国際会議場
(愛称:グランキューブ大阪)
見学会
(再掲)



広がる国際化時代、21世紀を迎えるにあたり、人、モノ、情報の国際交流拠点として大阪の果たす役割は、ますます高まってきています。このような中で、大阪の都心部に立地した本格的な総合交流施設を望む声は、国内はもとより広く世界から寄せられています。その期待に応えた世界へのグランドゲートとして「大阪国際会議場」は2000年3月誕生します。

施設内容は、8カ国語の同時通訳機能を持つ最大2754人収容可能なメインホール、国際的なVIPの使用を意識した500人収容のハイグレードな特別会議室のほか、利用目的や人数に応じて組み合わせ可能な25の会議室がある。また多目的に利用できるイベントホールは、広さ2600㎡、高さ9.4mの無柱空間が開放感あふれるスペースを創出します。床は1t/㎡の耐荷重があり、展示物搬入用のエレベーターは4.5tの重さに耐えるため乗用車なら自走で運び込めるなど、多くの人々に親しんでいただける交流の場と、使いやすさに重点を置いた世界第一級の国際会議場を目指している。

●建築概要

所在地	大阪市北区中之島5-3外
発注者	大阪府
設計	大阪府建築都市部公共建築室 黒川・イブスタイン・アラップJV
監理	大阪府建築都市部公共建築室 大阪府建設監理協会 黒川紀章建築都市設計事務所
施工	竹中・大林・フジタ・錢高・松村 シャール・大末・西武・大鉄・今西JV
敷地面積	9,952.81㎡
建築面積	6,756.93㎡
延床面積	67,031.17㎡
構造規模	S·SRC·RC、B3·13F·P2
工期	1996年11月～1999年12月

日時　2000年1月25日(火)
13:30—16:30
講師　吉川正典
／大阪国際会議場営業部長(予定)
藤沢康宏／黒川紀章建築都市設計事務所
集合　現地／大阪市北区中之島5-3外
＊JR「新福島」駅より徒歩約10分
地下鉄「阿波座」駅より徒歩約15分
定員　60人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円／税込
申込　1月18日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:大阪府立国際会議場見学会
②氏名
③個人会員·団体会員·一般の別
④職場·学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月19日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：松本　剛／大阪府

茶室見学会
第13回
飛雲閣憶昔席
青蓮榭と澆花亭
(再掲)

日時　2000年2月5日(土)
13:30—16:00
講師　中村昌生／京都工繊大名誉教授
集合　現地／西本願寺内
京都市下京区堀川通花屋町下ル
＊JR京都駅より徒歩約15分
定員　30人
＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員3,000円、一般4,000円
学生1,000円引、＊税込
申込　1月28日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:茶室見学会
②氏名
③個人会員·団体会員·一般の別
④職場·学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月31日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：福家　敬／鉄建建設



飛雲閣憶昔席/平面図

今回は、西本願寺境内の庭園「滴翠園」にある飛雲閣に付属する茶室を見学します。

○憶昔席(いくじゃくせき)
憶昔は、飛雲閣舟入の間の東に水屋を隔てて接している。茶室は、にじり口を入ると薄縁が敷かれた板間があり、無目敷居を隔てて三畳半の座敷が続く。相伴席である板間が付加されることによって、座敷は上段の間に見立てられる。そこに床が設けられ、付書院が備えられている。そして床柱には珍木を立て、框は黒塗りとし格調をこめている。この間取りは、いかにも数寄らしい作風が示されており、本願寺の茶道の歴史における画期的な遺構となっている。



○青蓮榭(せいれんしゃ)と澆花亭(ぎょうかてい)
田舎家風の外観で、上段、床、洞庫を備えた四畳半茶室(青蓮榭)と五畳半枡床の開放的な座敷(澆花亭)とが接続され、台所が付加されている。青蓮榭は、にじり口の中に入側を隔てて四畳半茶室があり、そこには床と相対して上段が設けられているという異色な構成である。それは相伴席と貴人席を特設した茶室といえる。こうした茶室に配された広間(澆花亭)も異色である。全体六畳のなかに床を枡床に圧縮し、点前座を一畳とって中柱を立て、二方を開放的にして縁を廻している。それは遠州風でも織部風でもない、瀟洒で高貴な雰囲気を漂わせている。

建築と社会 2000 1

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第81集／通巻934号

今月の表紙

表紙デザイン／笹村欽也
建築写真撮影／河合止揚

●大阪倶楽部
設計／安井武雄　施工／大林組
1924年　大阪市中央区高麗橋

■建物西面に光があたり、テラコッタの装飾窓が壁面に影を落とすとき、深みと輝きを増し、この建物の持つ真の美しさが伝わってくる。
建設当初は、光を浴びて結晶のように輝いていたであろうその姿を、いま午後の一瞬、味わうことができる。（笹村）

■特集予告

2月号／中国支部ーしまなみ海道と中国地方の街づくり
3月号／東海支部会員作品　越中・富山ー地域文化の形成と施設づくり
4月号／こころを癒す環境デザイン

編集委員会（平成11年度）

■副会長
金多　潔
葉貴　公明
■編集理事
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
立野　一郎
真塚　達夫
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松川　敏正
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
大村　昌聡
※荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
桜井　則雄
塚本　史郎
服部　光宏
山本　匡
★インテリア・住宅系
※石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
中田　誠
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ベリー史子
水谷　美香
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
楠本　隆
佐治　明志
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
堀内　一夫
桝井　貴廣
村上幸三郎
※谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
植田　実
※小椎八重猛
太刀川丈陽
十倉　毅
能美　敏男
野口　幸忠
福井　茂和
□法令分科会
池口　和雄
亀谷　周二
黒木　省二
椎名　辰之
田村　俊郎
※浜野　幸雄
■作品作風小委員会
赤木　隆
秋山　茂
朝倉　一晃
川上比奈子
倉澤奈千子
杉本　浩
寺岡　宏治
中村　文紀
藤城　義丈
△前川　治彦
牧野　雅一
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河﨑　敦子
高岡　伸一
高田　光雄
高橋　麗子
△塚口　明洋
辻川ひとみ
土田　伸二
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
△岩井　武夫
小幡　義明
加納伸太郎
家森　康彰
勝　一弘
小山　昭
斉藤　治久
武田　修示
平松　勉
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　1999年12月25日
発　行　2000年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データーネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集● **21世紀のデザインの動向を見る**

[総論1] 都市・住環境のこれまでと今後●富安秀雄 — 18
[総論2] ランドスケープから見た建築デザイン●中村　一 — 20
[総論3] 建築デザインと情報技術の革新●山口重之 — 22
[アンケート] 21世紀のデザインの動向を見る — 24
35歳定年を胸に●安倍浩一．「構造制御」の実現●井上　豊　光の被写体●岡　幸男．社会環境デザインへ●加藤　晃．インテリアデザインの未来●加藤　力．地球環境・個人の時代●片山紘一．使命から提案へ●金檀　勲．多重ネットワーク社会●小林郁雄．ミリマルデザイン●駒田哲男．「ほんもの」志向●近藤一雄．試練のあとに●佐々木恵子．「そだてる」デザイン●佐々木葉二．コラボレーション●清水柾博．環境に調和する器●瀬川輝夫．ポストユニバーサルデザイン●田中直人．人・自然・建築と共生する光●田村利夫．自然と市民のパワー●高田　昇．良質のデザイン●辻　英一．設備は建築の殻を超える●中北英孝．望まれるエンジニア育成●中原達夫．時間の中で美を構築●長谷川弘直．まちづくりとコミュニティーアート●畑　弘行．感動を与えるデザインの共有●福岡喜久雄．安心都市の創造●室崎益輝．有限な生存圏●八木大児．新しいジャポニズム●山岸　豊．一寸先は闇●吉田和央．性能と質の時代●吉田治典．ゼロエミッション住宅●吉村元男．

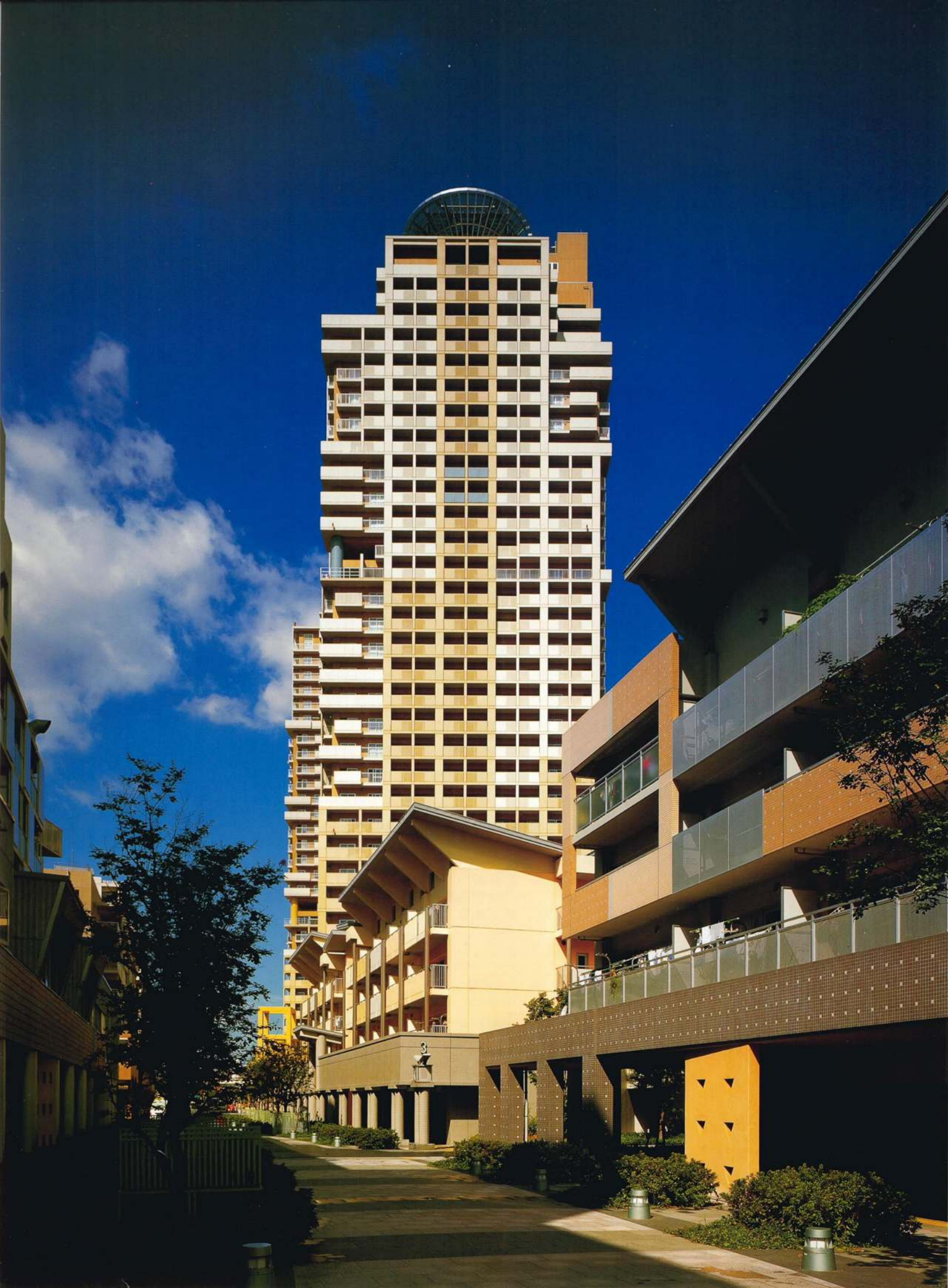
特集● **安井建築設計事務所創業75周年**

[秋日歓談] 21世紀へ語りつぐ―安井事務所の軌跡●佐野正一／向井正也 — 58
[作　品] 大阪倶楽部／野村證券本社／大阪ガスビル／サントリー山崎蒸溜所／奈良市庁舎／熊本県立図書館／あいち健康の森健康科学総合センター「あいち健康プラザ」／勤労者リフレッシュセンター「スパウザ小田原」／京都競馬場スタンド／大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」／国立病院九州医療センター／サントリーホール／東京国立博物館　平成館／天王寺ステーションビル・天王寺ターミナルビル「MiO」／大阪ターミナルビル「アクティ大阪」／大阪国際空港ターミナルビル　再整備／那覇空港国内線旅客ターミナルビル／東京国際空港庁舎・管制塔／新宿野村ビル／さくら銀行関西本部ビル／大和銀行本店ビル／アーバネックス御池ビル／明海ビル／日本アイ・ビー・エム大阪南港ビル／国税庁醸造研究所／リゾートトラスト　エクシブ鳥羽／有明パークビル・東京ベイ有明ワシントンホテル／弁天町駅前開発土地信託事業「ORC200」 — 66
建築概要 — 99
[座 談 会] 21世紀へ語り継ぐ激動の昭和―戦中戦後の協会活動をふり返って — 102

年頭のことば　2000年を迎えて●市川　宏 — 1
本年の抱負　常設委員会●宮田照久・多井幸男・片倉健雄・山田修・和田克朗 — 2
会告　読者と選ぶ第１回『建築と社会賞』実施のお知らせ．淡路夢舞台を訪ねる―バスツアー見学会．大阪府立国際会議場（愛称・グランキューブ大阪）見学会．茶室見学会⑬飛雲閣憶昔席、青蓮庵、滴花亭 — 3

作品作風
HAT神戸・灘の浜2番館 — 6
北京城 — 8
近鉄学園前駅ビル（ル・シエル学園前） — 10
割烹旅館　藤乃家 — 12

gallery　光の形態（村岡治彦）●赤木　隆 — 14
建築の眼　困ったときの○△□頼み●宮崎興二　酒の功罪●中山詳三　エコロジー狂想曲●遠藤秀平　夜明け前●桑田和明 — 16
工高生デザインコンクール　設計課題：道の駅 — 40
being　バードハウスプロジェクト実行委員会　総括プロデューサー（芳野大樹）●高橋麗子 — 44
法令コーナー　中間検査制度―大阪府、神戸市、堺市の概要―●亀谷周二 — 46
構造の頁　鉄骨梁のウェブに孔をあける●福知保長 — 48
設備の頁　超微細発泡光反射板●株本　昭 — 50
施工材料の頁　発泡スチロール型枠●下前則夫 — 52
基礎講座A　文章は一目瞭然に書く●山田　修 — 53
基礎講座B　屋外消火栓、消防用水、連結散水設備●由上雅章 — 54
information　近代建築講座開講．「環境共生住宅―河内長野木戸住宅を対象として―」フォーラム．第4回「震災対策技術展2000」～震災対策技術の向上と対策設備の推移～．第19回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）入賞作品 — 55
月間の動き　平成11年10月分 — 56



作品風

建築主■都市基盤整備公団（旧住都公団）関西支社

基本設計■
都市基盤整備公団関西支社震災復興本部市街地整備第一部建築課

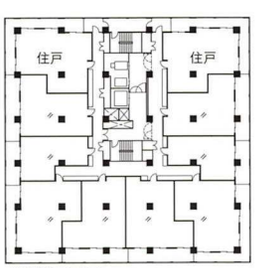
実施設計■大林組

工事監理■都市基盤整備公団技術監理部神戸工事事務所

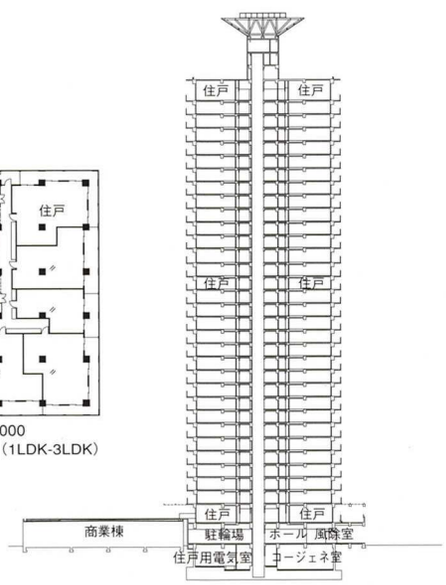
施工■大林・ナカノ建設工事共同企業体

HAT神戸・灘の浜２番館

この建物は、阪神・淡路大震災による「神戸市復興計画」のシンボルプロジェクトである、東部新都心「HAT神戸」の東側臨海部に位置する団地内の、超高層集合住宅と物販店舗として計画された。
RC造33階建の都市基盤整備公団（旧住都公団）賃貸住宅であり、隣棟（RC造31階）とツインタワーを形成し、現在地域のランドマーク的存在となっている。
技術面では大林組保有技術で関西初のRC自動化建設システム（ビッグキャノピー工法）を施工に採用し、品質の確保・工期短縮・生産性の向上・作業性の改善等を実現している。
外観はヒューマンスケール化した基壇（ポルティコ）、垂直マリオンと変化のあるコーナー部で構成した中間部、印象的なホバリングスペースのクラウン部という三層構成のデザインにより、ランドマークとしてのシンボル性を表現している。
住戸計画では超高層のメリットを生かし、六甲の山並と神戸港の眺望を意識し、採光・通風・開放性にも優れた、豊かな空間を有する豊富な住戸バリエーションを展開している。
機能面では全住戸長寿社会対応とし、床段差をなくしたバリアフリー対応の仕様となっている。　（植田勝己／大林組）



基準階平面図　1：1000
戸数・形式ー301戸（1LDK-3LDK）



断面図　1：1600

所 在 地 ――神戸市灘区摩耶海岸通り2丁目3-2
敷地面積 ――14,614.08㎡（一団地内の仮想敷地面積）
建築面積 ――　3,110.94㎡
延床面積 ――40,191.55㎡
構造規模 ――RC（一部S）、B1、33F、P4F
工　　期 ――1997年４月～1999年８月
最 寄 駅 ――JR東海道本線・灘駅
撮　　影 ――名執一雄

左頁：東側外観、右頁上から神戸港を望む／ポルティコ全景／
１階エントランスホール／２階通り抜け広場

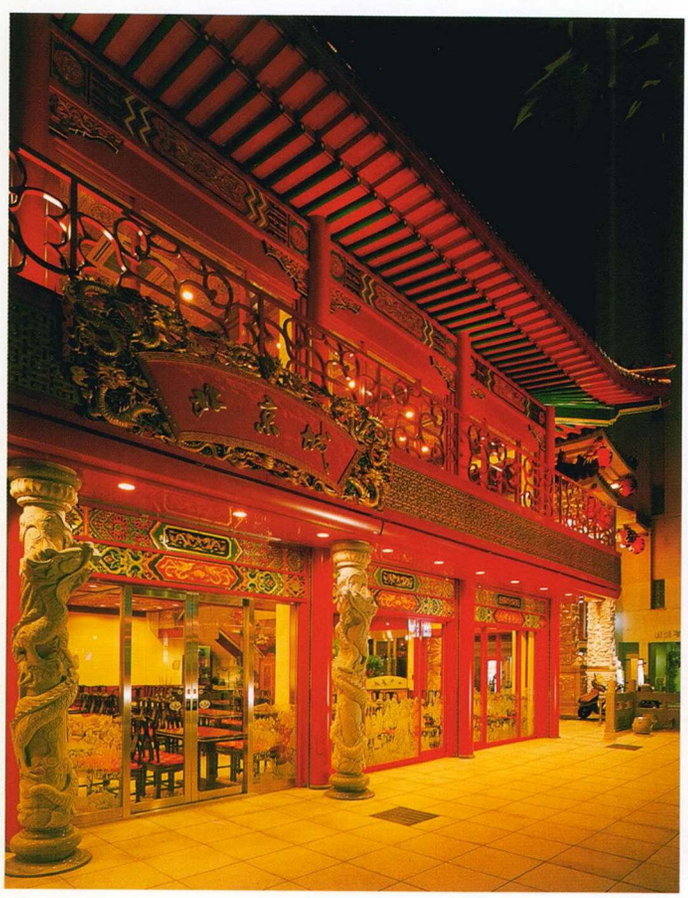














作品
作風

設計監理■
黄 設計事務所

施工■
大林組

北京城

この建物は神戸都心商業地の国際色豊かな、極めて個性の強い“中華街”の玄関口に位置する。また異国情緒豊かな街並の形成を目指す景観形成地域でもある。株式会社東栄商行の経営するレストランと物販店であり、観光地中華街の顔となる建物の依頼であった。

建物は明朝（14～17世紀）の最もきらびやかな宮殿、楼閣建築を模して、中国の伝統建築の様式をできるだけ導入し、聊かでもその文化を継承した建物を目指して、伝統の“作法”に従って、特に木組で最も特徴的な（和様に対して）雀替（持送り）や頭貫、飛貫（柱繋）深い軒先と軒端の扇垂などを積極的にとり入れ表現する、斗栱の不燃材への転換は種々問題があって割愛した。建物の彩色は伝統の作法にしたがいながらも、地域環境との調和を考慮して、配色は押え気味にした、柱や部材等の表現も若干簡素にし、部材も一回り小さくして、建物を瀟洒に仕上げた。

屋根の黄琉璃瓦は中国佛山窯製で、鴟尾や飾り瓦はそれぞれに故事がある。大棟飾りの双龍は宮殿建築の様式ではなく、南方の新しい寺廟に見られるもので、商業建築のにぎわいを演出するのにアレンジしたものである。東側の広場は春節祭（旧正）に獅子舞、仲秋節（お月見）には月餅の露店などが並ぶ、多用な広場としてしつらえた。

集客＝面白くないと人は集まらないの鉄則通りに、面白さ＝異空間、めずらしさ、にぎやかさ、選ぶ楽しさ、意外性、美味、滞留…など、そんな遊びの要素を盛った商業空間である。

建物の商業性を満足させながら、不燃材で中国伝統の木造建築の豊かな表現を、どこまでその表現をしうるかが闘いであった。

（黄　進興／黄 設計事務所）

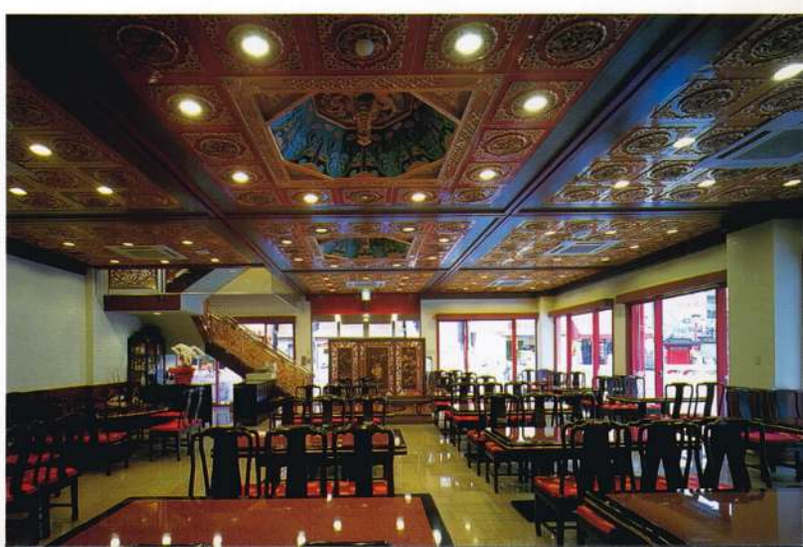


配置図　1：600

所 在 地 —— 神戸市中央区栄町通１丁目2-31
敷地面積 ——　874.63㎡
建築面積 ——　612.15㎡
延床面積 ——1,143.00㎡
構造規模 ——S、2F
工　　期 ——1998年12月～1999年９月
最 寄 駅 ——JR神戸線・元町駅
撮　　影 ——名執一雄








近鉄
KINTETSU
学園前駅
GAKUEMMAE STATION

作品風

総合監理・基本設計■
近畿日本鉄道

設計・監理■
全日本コンサルタント
大林組本店一級建築士事務所

施工■
大林組・竹中工務店・大日本土木・森本組共同企業体
近畿工業

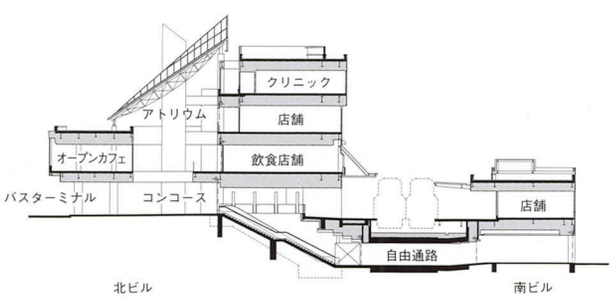
近鉄学園前駅ビル
（ル・シエル学園前）

近鉄「学園前駅」は大阪のベッドタウンの玄関として発展してきたが、今回リニューアルに伴って駅ビルにしたものである。デザインにあたっての課題は、駅のアイデンティティを建築的に表現することと同時に、駅施設と商業施設が一体となった人々の交流・交歓の場として、華やかで賑わいのある立体的な街空間を備えた駅をつくり出すことであった。

この課題を解決するために、コンコースの真上に4層吹抜のアトリウムを設けた。そして、ガラスの大屋根を正面に向かって傾斜させ、中に包まれた商業空間が外観からも伺えるようにした。夜間には壁面を飾る照明やライトアップされた張弦梁構造の屋根架構がガラスを通して浮かび上がり、駅ビルをよりシンボリックなものにしている。駅ビルの名称である「ル・シエル」（仏語で“空”）はアトリウムから空を仰ぎ見ることにちなんで名付けられている。

自然の光と風が入る快適なアトリウム空間には様々な仕掛けを施した。吹抜を斜めに横切るブリッジ、吹抜の真中を浮遊するように上昇するエスカレータ、ガラス屋根を貫通するカラフルなシースルーエレベータなどが人々の回遊と立体的な動きを効果的につくり出し、賑わいを演出している。そしてコンコースを行きかう人々を上の商業空間へいざなうとともに、これまで通勤通学の際に通過するだけになりがちであった駅空間にゆとりと潤いを与えている。

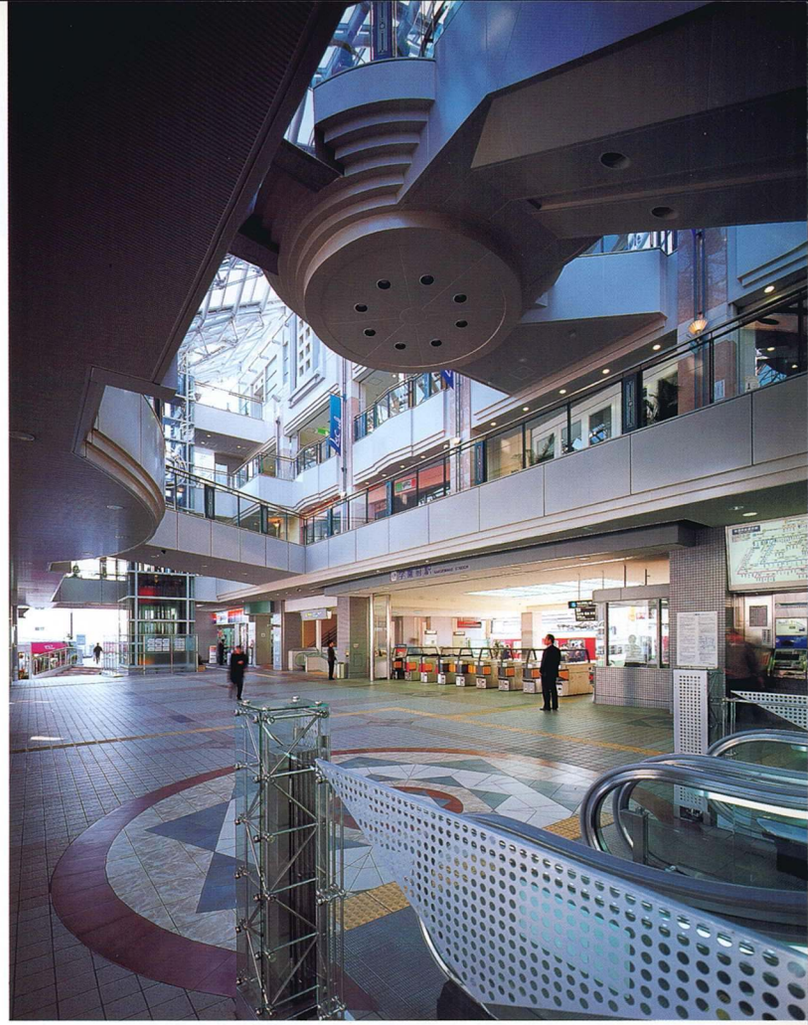
（中山　勉／近畿日本鉄道、富田昌義／大林組）



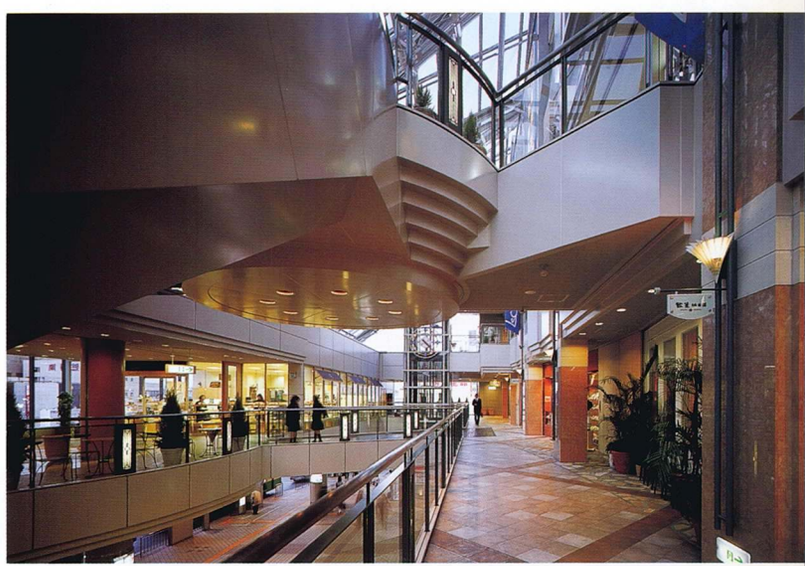
断面図1：800

所 在 地 ――奈良市学園北1丁目1番1、学園南3丁目1番2
敷地面積 ――北：8,573㎡、南：3,021㎡
建築面積 ――北：2,758㎡、南：　628㎡
延床面積 ――北：6,922㎡、南：1,120㎡
（軌道をはさんで北南二つの敷地に分かれている。面積は建築確認対象面積を示す。）
構造規模 ――S（一部RC）4F、B1F、P1F
工　　期 ――1997年1月～1999年9月
最 寄 駅 ――近鉄奈良線・学園前駅
撮　　影 ――河合止揚

◀北バスターミナルからの夕景

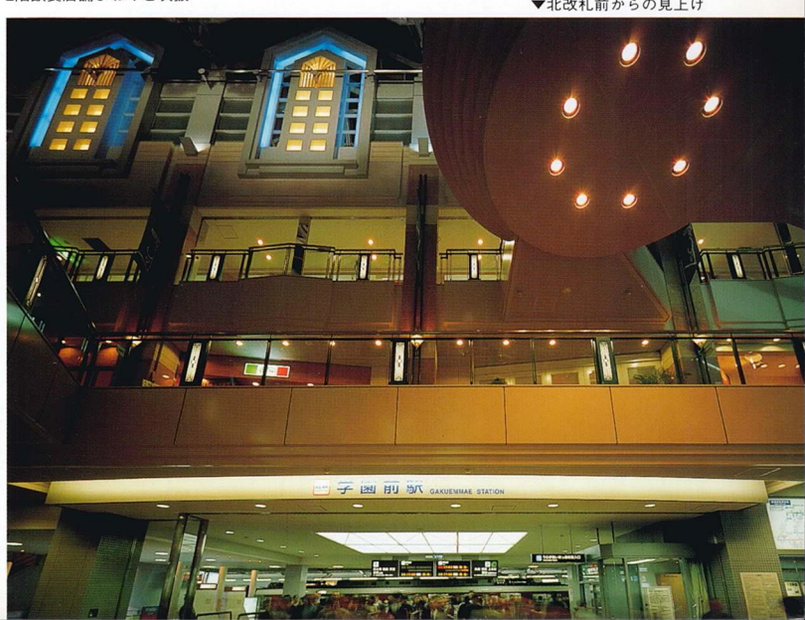


コンコース上に広がるアトリウム空間



2階飲食店舗まわりと吹抜

▼北改札前からの見上げ





作品風

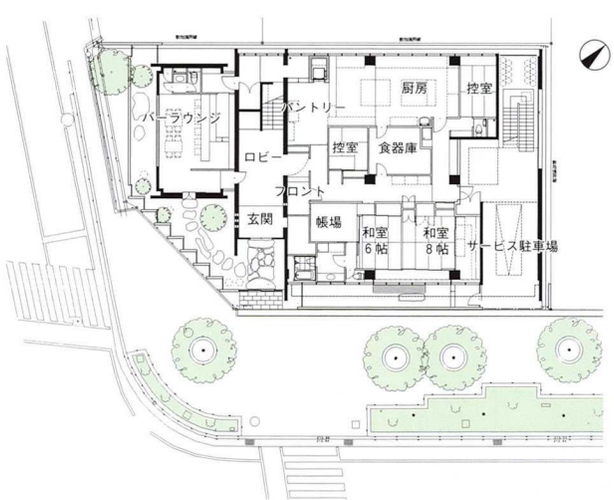
設計監理■
竹中工務店広島支店

施工■
竹中工務店広島支店

割烹旅館　藤乃家

敷地の位置する東広島市西条は、国立広島大学のある学園都市として近年市街化の進んだ街区である。古くは駅前に酒造所が集中する「酒都」であり、全国的にも灘と並ぶ名醸地として知られている。
「藤乃家」はこの地に、創業以来97年（明治35年10月創業）の伝統を誇る老舗割烹旅館であり、本計画は西条駅前土地区画整理事業に伴う移転建替計画として行われた。
伝統的な酒蔵の漆喰壁、土壁、格子窓などの表情が印象的なこの酒都西条では、それが街のシンボル的景観として市に大切に保存されている。今回の計画においてはその伝統的な表情を現代の素材に置き換え、割烹旅館としての新たな表現の創出を試みた。
外部表現においては、「線」と「面」による繊細な構成をモチーフの核とし、要素を極限にまで絞り込むことによって、日本建築の特性を抽出し、再構築した新たな「和」の表現を目指した。
内部では、彫刻家とのコラボレーションを行うことや、外壁のコンクリート打放し壁の精度を上げ、積極的に内部まで連続させることで、割烹旅館のインテリアとして、斬新な表情を創り出すことができた。

（佐藤正二・前田朋広／竹中工務店）



配置図・1F平面図　1：600

所 在 地 ——広島県東広島市西条栄町9-21
敷地面積 ——　524.79㎡
建築面積 ——　374.76㎡
延床面積 ——1,108.54㎡
構造規模 ——RC、3F、P1
工　　期 ——1998年12月～1999年９月
最 寄 駅 ——JR山陽本線・西条駅
撮　　影 ——古川泰造

◀全景



玄関アプローチ



玄関

▼2F客室（16帖）



gallery

光の形態

照明設計
村岡治彦

照明デザインが本来のあるべき姿に向かおうとしている。
これからは本当の意味での建築と一体化が実現していく。
省エネ、ローコスト、メンテナンスフリー、エコロジー。
自然光、時間、演出、機能性、意匠性等様々な欲求を満足させ、快適な光環境の創造。
そこには、もう華美な照明、意志のない器具、ただ明るいだけの器具は存在しない。
これまでも持て囃された「建築化照明」や「器具を見せない照明計画」の真価が問われる。
奇をてらった効果では騙されない。

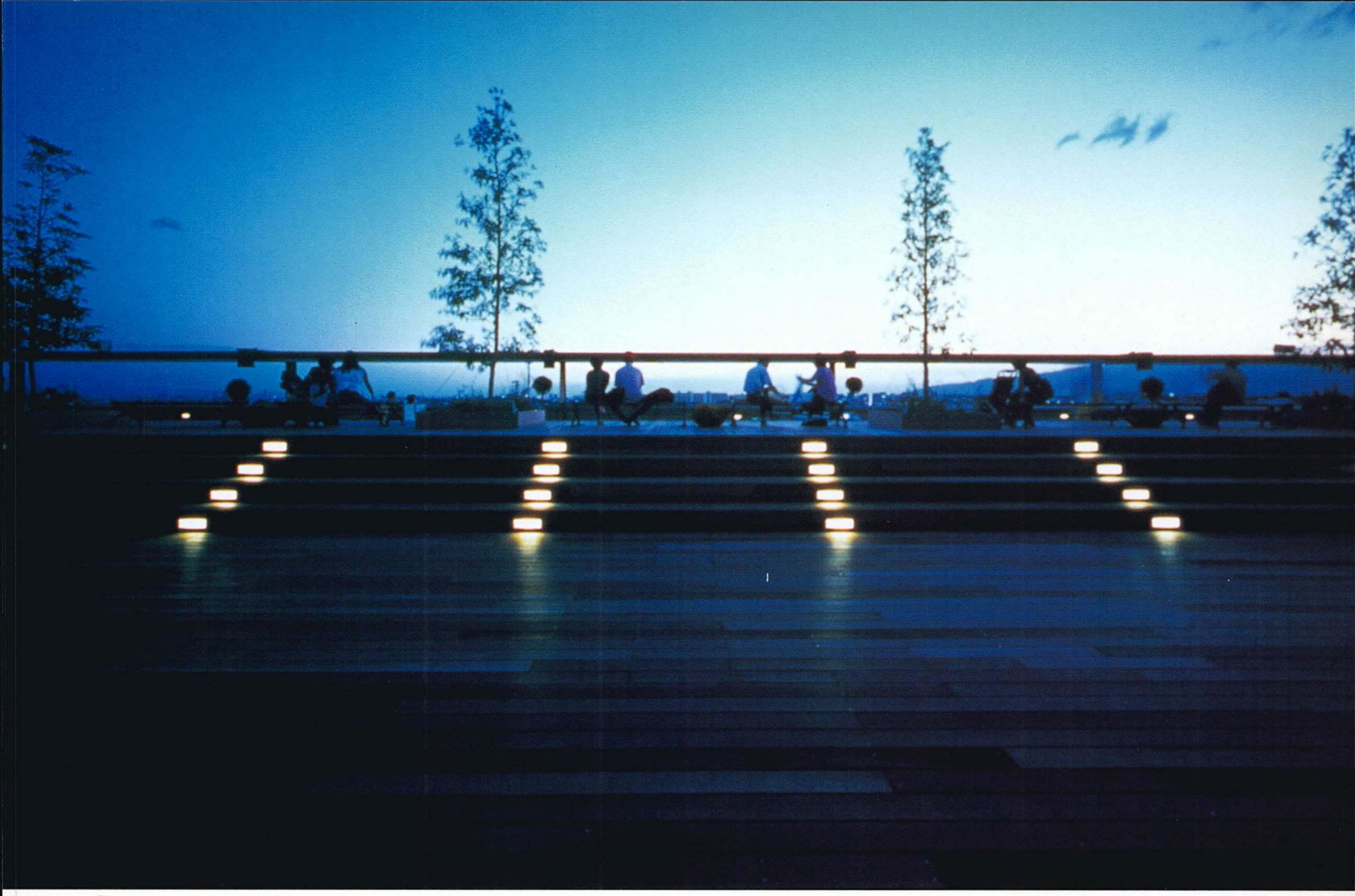
むらおか はるひこ
村岡治彦
1955　大阪府生まれ
1981　大阪工業大学建築学科卒業
1997　株式会社ライティングウエル設立

企画編集—赤木　隆（作品作風小委員会）

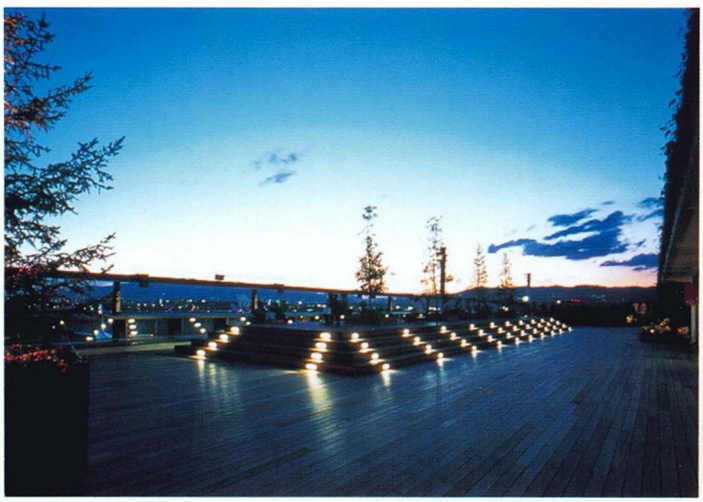


①

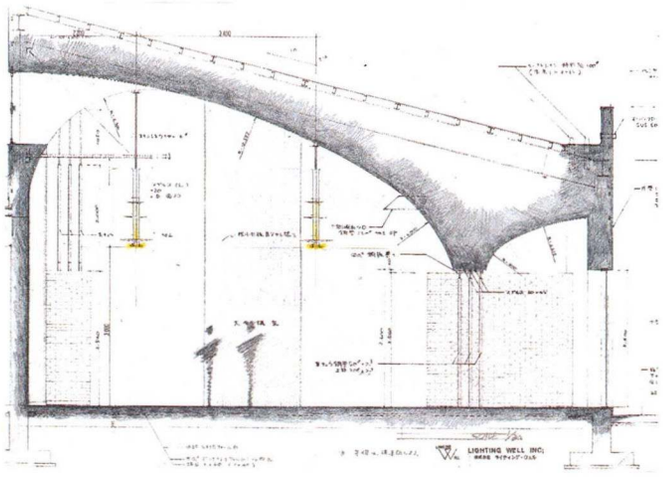
①②あぐり館（益子町総合営農指導拠点施設）
設計監理　神谷五男十都市環境建築設計所
③④大阪国際空港　展望デッキ　La・SORA
設計監理　安井建築設計事務所
写真提供　ヤマギワ



③



④



②

困ったときの○△□頼み

宮崎　興二

わが国で建築関係の本を出版するときの鉄則の一つに、表題には「幾何学」の三文字を使わないこと、というのがある。だからか、建築論の大家の一人も、建築的な空間には、心理的、物理的、象徴的、などさまざまな空間が関係するが、幾何学的な空間だけはまったく関係ない、という。建築というのは、幾何学を使って直角を出したり寸法を測ったりするのを原則とするうえ、土地や建物の測量術から幾何学は始まった、などという歴史を考えると不思議なことである。

もっと不思議なことに、それにも関わらず、わが国の建築家たちは、幾何学図形の極めつきである○△□をいたく好む。

美しいからだろうか。といってもこんな危険な三角関係のかたちに美がひそんでいるはずはない。さては○△□が縄文土器や曼荼羅などにふんだんに見られるという歴史的重みに耐えかねてのことだろうか。といっても、古いという言葉をいたく恐れる現代建築家がそんな古いかたちを好むはずはない。

ひょっとすると、使いやすい□で空間計画、丈夫な△で構造計画、無駄のない○で環境計画を象徴しようとしているのだろうか。あるいは、現代建築の神様コルビュジェが、エスプリヌーボー第一巻で、建築は幾何学である、といいながら三位一体のような○△□図を残したことにあやかって、困ったときの○△□頼みをしゃれこんでいるのだろうか。

京都大学人間・環境学研究科教授

酒の功罪

中山　詳三

先日、年一度の人間ドックで医師による問診があった。『タバコは？』「一日20本です」『お酒は？』「毎晩、ウイスキーをボトル３分の１くらい飲みます。外ではもっと飲んでます」と答えた。『50歳を過ぎてそんなことをしていたら駄目だよ。タバコは一日５～６本、酒は量を減らすことは勿論、週に２～３日は休肝日を作りなさい』「でも、それじゃ眠れないんです」と抵抗すると、『後10年程したら私の言っていることが良く判ると思うが、まあ、君の身体だから好きにしたらいいよ』と突き放されてしまった。

この半年あまりで課の若い人が４人も結婚をした。立場上、ご招待戴くのだが、乾杯の前にスピーチをするというのはなかなか勇気のいるものである。元来、人前で話をするのが大の苦手な私としては、余計に辛いものがある。ところが“酒の力”を借りると案外うまくいくことが分かった。披露宴の始まる前に水割りを５～６杯飲むと、口は滑らかになり、話すことが楽しくさえなってくる。学生時代には人前で歌おうとしても声の出なかった私がである。ただ、一度はちょっと飲み過ぎて、呂律がまわりにくいという失敗もしてしまったが、飲まないよりはずっとましだったと自分では納得している。

こうして楽しく元気でいられるのも酒のおかげと、酒の“罪”を見ずに“功”だけを見ながら、今夜もグラスを重ねている。

京都府土木建築部営繕課長

エコロジー狂想曲

遠藤　秀平

環境問題がにぎやかだ。日常的な設計行為の原点は極めて反エコロジカルであると認識しているが、最近テレビ取材もあり改めてエコロジーを考えてみた。身の回りにも環境共生を主題とする様々な情報が多くあったが、手段や表面的な資材の選択問題へのすり替えが主となっていることに驚かされた。

建築行為でのエコロジカルとは土や石・木などの自然素材を使用することやソーラーパネルを設置することではないはずである。

課題は自然破壊を象徴するエネルギー消費・社会におけるリサイクル問題など多数あるが、情報の循環としての精神的持続性としての対話的連続性に視点を置くことによる空間的エコロジーも重要ではないかと思い至った。しかし、エコロジーとは大切な視点であると思いつつ、肥大化した正当性が我々を取り囲んでいるようで別の側面が気になった。そこには、分かりやすさと正しさの前に条件反射してしまう無防備で脆弱な集団の姿が浮かび上がる。

エコロジー問題が示す説得力は新たな地球規模の価値指標を設定できる程の強さを持っているが、利用されやすい危険な信号でもあるのではないだろうか。

遠藤秀平建築研究所

夜明け前

桑田　和明

住宅地の末明、雑種の３歳犬「くんくん」に引かれて遊水池の上につくられたグランドのほとりを散歩する。犬も私も何度も身震いする冷え込みである。姿を見せない太陽が、暗い空に時間をかけて紺の色付けをはじめ、住宅屋根の連なりの影を次第に強く浮かびあがらせていく。じっと見ていると、水面の中に逆立ちしたかの錯覚を覚える。青に黒を溶かした雲が支配する中で、いく筋か異色の流れの変化、動物園で見たフラミンゴの羽毛のうす桃色の流れだ。世紀末最後の年の夜明けがきた。

前の世紀末はヨーロッパの新芸術運動で夜が明けた。

その反動であるかのように、この世紀の建築は機能の内実を表象して作家の欲望をみたしてきた。すさまじい勢いだった。世界規模で大がかりな建築や都市が建設され、材料やエネルギーの消費量とともに廃棄物やCO_2の発生量は、地球の全活動の40%を占めるという。全力でアクセルを踏んで坂道を登ってきた建設活動も下りにさしかかり、エンジンブレーキのように活動が自然の摂理に曳かれる時代がきた。

資源の枯渇や地球環境の問題は建築の構想そのものに強い影響を与えている。夜明けは、新しい世紀のどんな表象を予告しているのだろうか。

松村組品質環境管理本部長

「特集」21世紀のデザインの動向を見る

■都市・住環境のこれまでと今後……富安秀雄

■ランドスケープから見た建築デザイン……中村　一

■建築デザインと情報技術の革新……山口重之

■アンケート
「21世紀のデザインの動向を見る」

安倍　浩一
井上　豊
岡　幸男
加藤　晃
加藤　力
片山　紘一
金檀　勲
小林　郁雄
駒田　哲男
近藤　一雄
佐々木恵子
佐々木葉二
清水　柾博
瀬川　輝夫
田中　直人
田村　利夫
高田　昇
辻　英一
中北　英孝
中原　達夫
長谷川弘直
畑　弘行
福岡喜久雄
室崎　益輝
八木　大児
山岸　豊
吉田　和央
吉田　治典
吉村　元男

企画：建築系分科会

都市・住環境のこれまでと今後

富安秀雄
市浦都市開発建築コンサルタンツ取締役相談役

1．20世紀の回顧

急速な都市の拡大が、今世紀我が国の都市の最大の変化である。これには2つの直接的原因がある。1つは西欧文化導入による、医療衛生水準の向上により、古来の多産多死の状況が、多産少死となり、全国的人口急増が起こったこと。更に1つは、都市に近代的第2次産業が発達し、特に大都市では第3次産業を含む都市型産業が発達して、地方から大量の若者が流入したことである。この現象はイギリスに始まって、ヨーロッパ諸国で19世紀に見られ、多少遅れてアメリカ、そして19世紀末には我が国に及び、今発展途上の国々に波及している。大阪府の人口で見ると、1889年（明治32年）に153万が、1918年288万、39年487万、第2次大戦で減って45年約280万、55年462万、65年666万、75年828万、85年867万、以降微減の状況。我が国の歴史上未曾有の大都市が出現した。人口に関しては、1950年頃から少産少死の状況となり、1975年頃からは女性の社会進出や未婚率の増加により、子供の出生率は更に低下している。我が国の人口は、21世紀はじめピークを迎え、以降減少すると予想され、現在既に人口の高齢化・少子化、大都市圏での人口減少がはじまっている。

商業・業務を含む諸産業や、それを支える都市インフラ、特に交通輸送機能の発展は目覚ましく、高層オフィスビルやショッピングセンターが出現し、高速道路、新幹線などによって、都心を中心に土地利用、空間は一変し、我が国の高度経済成長が実現し、国民の生活水準は大幅に向上した。64年の東京オリンピック、70年大阪万博などが想い出される。これらに伴い、エネルギー消費・産業や生活廃棄物、自動車交通量等は急増し、都市環境が悪化した。この悪化は地球規模に拡大している。増加した人口は、住宅の深刻な不足をまねき、地価の廉い都市郊外の田園地帯や、丘陵部が住宅地化し、人々はそこに住み、都市は急速に拡大した。この郊外化を可能にしたのは、20世紀初期に作られた郊外電車の利用であり、70年以降は、自家用車の普及がある。

郊外化の歴史は、第2次大戦前と後に区分され、前期は比較的高所得者が対象の電鉄会社等による沿線開発が特色である。筆者が仕事を通じて経験したのは後期であり、前期に比較して、人口増の絶対量も多く、深刻な住宅難は社会問題となって、対応も公的に行われ、種々の規制や支援が行われた。住民は一般市民で、地方から流入した若者が新世帯を持って入居するタイプが多く、都市内の土地利用の転換や住環境の悪化から、都市内居住者が環境の良い郊外へ移る例も多かった。都市内及び郊外の地価は、バブル崩壊まで継続して上昇を続け、これも都市人口の郊外移転の方向を促進した。

この間、関東大震災、第2次大戦中の空襲、阪神淡路地震といった災害があり、木造主体の市街地は焼け、壊れて、その後の復興再生に際して、都市基盤の整備が大規模に行われて、近代化・防災性が向上した事実がある。こうしたプロセスを経て、京都のように災害を避け得て、保存を積極的に行っている僅かな都市を除いて、伝統的都市空間は、ほぼ消滅した。そこに既述の都市機能の高度化があり、世界的に類似する近代的中高層ビルや、自動車道路が増加したことによって、多くの都市は金太郎飴と云われる画一的空間となり、都市の個性が失われた。

都市の住環境を見ると全体的に水準が向上した。特に住戸床面積の増加が著しい。居住水準向上には、郊外住宅地の増大が寄与している。郊外住宅地は、最低、法定の緑地や道路水準を持ち、周辺は田園地帯に接し、環境は良く、しかも環境の悪化した都市内より地価が廉い為、より広い住宅を入手できる。利便性に於いては都市内に劣るが、ニュータウンの様に、都心と鉄道や道路で便利に結ばれ、都市施設の集中した都心地区を持つものもある。この環境を評価して多くの人々が郊外に居住した。しかもバブル崩壊まで地価は上昇し、郊外の人々の居住資産は次第に価値が増加していた。

一方、都市内の在来住宅地は、狭少過密な木造低層住宅地が多く、居住水準や道路・公園などの住環境・防災・高度利用等の諸点で、整備が必要であるにも拘わらず、土地所有や権利問題、居住者の経済力・高地価等々の問題があって、一部で地区改良事業が行われているものの、多くは放置されているのが現状である。しかし、都市

内には多様で充実した都市施設や文化施設があり、魅力ある都心もあって、これらが利用し易いと云う大きい利点がある。バブル崩壊後の地価下落によって、良質の一般市民用共同住宅の都市内での供給が可能となりつつあり、多くの住宅ストックも、適切な更新によって居住水準を向上させうる。また、多くの都市が減少した都市内人口の回復の為、住環境改善に努めている。

一方、地価の下落は、郊外住宅地に於ける資産価値増大の期待を除くもので、今後の郊外住宅地は、その住環境を評価する人々の居住地となると思われる。更に今世紀増え続けた大都市圏に於ける人口増加が減少に転じ、これが継続すると予想されている。こう考えると、20世紀を通じて進んだ都市の郊外拡大は、今、転機を迎えている。

2．今後の都市・住環境

都市の拡大の無い21世紀での都市・住環境の主要課題は、20世紀に作られた都市を快適に住み、働き、憩う場に改善し、質を高める事であろう。つまりストック時代であり、都市の質の向上である。また21世紀は、地球資源の制限・環境悪化改善も課題であり、我が国では加えて高齢化・少子化対応も求められる。我々の日常生活の改変が必要となる。

住環境で云えば、世界の住宅寿命は、諸数値があるが、長い英国が140年、短い米独で70～80年、我が国ではRC造を含み30年ほどという。著しく短命である。住宅の長寿化が必要である。新築時の構法・材料等の検討の他、性能保証や、瑕疵担保期間の延長も検討が要る。既存住宅では維持補修の励行は当然として、物的改変によって、長期間の生活の変化に対応して、快適に住める技法の開発が求められている。問題は多方面にある。自動車や冷蔵庫、ＴＶといった物は、早くて２～３年、10年もすると新品に換え、修理して長くは使わない。修理体制自体が消失している。発展途上国では、日本製の中古車が立派に修理して使われ、街には修理店がいっぱいある。都市インフラは、長期使用を前提に作られる場合が多いが、これが都市生活全般に及び、リサイクルを含め一般化しなければならない。

2-1　都市更新

都市を都市内と、郊外を含む外周とに分けると、都市内には課題が多い。外周部では利便施設整備、環境の維持保全などが課題であるが、都市内部には、高度利用すべき低利用地や遊休地、以前から課題の低層密集老朽住宅地に代表される、密集市街地が多い。これらを土地利用や施設の複合化と共に高度利用し、共同住宅を供給し、諸都市施設や、オープンスペースを確保しつつ、良い環境の、快適でコンパクトな市街地に整備せねばならない。ウォーターフロントも工場・倉庫群的利用から転換すべき貴重な空間である。一方、都市内には、20世紀を通じ、或いはそれ以前に形成された素晴らしい遺産がある。これを守り、活用しつつ、上記対応が行われねばならない。都心空間を守り、活性化させる為、車の利用を抑制し、公共交通を使い易く整備すると云う外国での事例、市街地保存の際のダウンゾーニングの実施等の検討も必要である。情報化・国際化の進む中で、海外から大いに学ぶ必要がある。

この際住民の参加が本格的に求められることになる。在来の上意下達方式のプロセスは、根本から改められねばならない。また、住民への支援・保護策が法的にも資金的にも必要である。これも大課題である。

2-2　都市・住環境の維持

ストックを快適に使うには、維持管理が極めて大切であるが、我が国の水準は低い。この事は、雑誌“住宅”の99年11月号に書いたので詳述しないが、要は利用者がその重要性を充分認識していない。また建物は私有されていても、人目に触れる外面には公共性がある事の認識がない。原因には、資産評価にその維持状態が反映されないことや、地域社会が崩壊して、我が町の意識が薄れたこと等がある。

ストックの時代となって、建物が長く使われれば、中古流通が増え、維持状況が評価に加わるのは必然であるが、早くこの点の改善が求められる。ストック時代には都市の個性の回復や、美観にも関心が深まり、新築でも周辺との調和が重視されよう。都市・住環境はまた、地域社会そのものでもある。計画には社会学の専門家が加わって、社会形成の視点での環境形成が必要である。

21世紀、先進諸国に比肩する美しい都市の出現が期待される。　　（とみやす　ひでお）

ランドスケープからみた建築デザイン

中村　一
京都造形芸術大学教授

1．さまよえるランドスケープ

ランドスケープという言葉が、世紀末日本を亡霊のようにうろついている。建築デザインはこの亡霊を退治すべきである、というのが私の提言である。理由は二つある。第一に、風景という素晴らしい言葉があるのに、なぜ英語が使われねばならないのか。風景では表現できない意味をランドスケープが表現しているのだ、という反論は当然予想される。しかも、それらしき意味を表すのに景観という日本語も乱用されている。

ランドスケープと並んで景観もデザイン界を横行しているのは事実である。国際化時代だから、意味が同じなら、両者が互換的に使われても問題はない。だが問題は別のところにある。問題は、両者とも風景に取って代わろうとしていることである。さらに重大なのは、それがたんなる言葉だけの問題なのか、それとも現実の問題、つまり風景そのものが消失しようとしているのか、ということである。

言葉だけに限れば、景観は風景に取って代わることはできない。双方とも景、すなわち光によって見えるものという点では共通している。しかし、景観がその客観性を表すのに対して、風景はその主観性を表している。景観が科学的景だとすると、風景は芸術的景である。このちがいが軽視されると、美しい景観などという混乱が生じる。景観はすべからくその出生地である地理学に返上すべきであろう。

一方、ランドスケープも景であるが、文脈によって景観と風景に区別して訳出される。ランドスケープ・プランニングならば景観計画、ランドスケープ・デザインとくると風景デザインと訳すのがふつうだろう。デザインを重視する立場から言えば、風景がもっとも的確であり、改めてランドスケープを担ぎ出す必要は全くないはずである。古ければ良いと一概には言えないだろうが、古代中国から継承されてきた風景の深遠な論理性には、西洋近世生まれのランドスケープは、言葉の迫力ではとうてい太刀打ちできないと思う。

同じ景でも、景の前に風（かぜ）が付くところが大きなちがいである。見えるものの前提として見えないものがあるという論理である。ここで、見えないものは社会あるいは社会関係である。風景とは直接には見えないが必ず実在する社会の上に現われる景である。風景を享受できるのは、それを支える人と人の関係が豊かで美しいからである。このすぐれた言葉、風景を大事にしたい。しかしながら現実の問題として、景観が風景に取って代わるという兆候は出現している。それは風景の死にほかならないし、景観は風景の死骸となる。そこでランドスケープが亡霊となって出てくる。

2．景観から風景へ

風景の消失は、たんに言葉の問題ではなく現実の問題であり、とくに都市において恐るべき勢いで進行してきた。そこは本来、建築デザインの競技場であるはずなのに、個々の建築に注がれるデザインのエネルギーが、都市風景の創造へ結晶していかない。そもそも近代の都市化の下では、風景の景観化は必然的であって、農村風景を都市景観が圧倒していくのは宿命であるとする見方もできよう。西欧でも１９世紀の初め頃まで、風景は自然や農村に属するものとされていたが、ボードレールは詩集「悪の花」パリ情景のなかで、逆説的ではあるが都市を風景として見ようとした。彼は大都市パリの風景に近代性を追求したのである。

その頃のパリには、彼にとっての風景が残っていた。たとえば屋根裏部屋の高みからの風景。当時それは貧乏人の特権であった。今日それは超高層ビルからの景となり、金持の特権となっている。ボードレール自身も、都市風景のなかに不吉な影をみていたと思われる。パリ情景に「七人の老人」という詩がある。重い砂利馬車が地響きを立ててとおる郭外で、彼は、腰が直角に折れ、杖に支えられた不気味な老人に出会う。さらに姿かたちの全く同じ老人が亡霊のように次から次へと現われてくる。地獄の行列を七人までは数えたが、それ以上は耐えられず、阿呆らしさに精神がいたぶられて、どっと病み付く。この詩の解釈はさまざまあろうが、私には正に現代都市風景への予言であったように思える。

今の都市には、新しさを競い、奇抜さを誇示する建築デザインがあふれている。しかし歩いて行くと、同じような町が次から次に幻影のように立ち現われてきて、それこそ阿呆らしくなる。これは日本のどの都市に行っても同じである。この先には、都市景観の地獄絵が待ち受けているだけだろう。

都市に風景を取り戻さなければならない。無理な注文と言われようが、まずは建築家に期待する以外に途はない。すべてが悲観的ではあるまい。否むしろ希望の光は差し始めているようにも感じられる。地方分権の動きである。地方に住み、地方の歴史と風土を深く身につけた建築家が風景の責任を取る時代が必ずくるだろう。風景は誰でも眺められ、楽しめるものだから、もともと公共的性格をもっている。しかし広告物に代表されるような私的利益の侵入や無意味な記念碑に代表される「上からの」公共性によって、風景の公共性はゆがめられやすい。その点では、地方分権の正当な発展によって「下からの」公共性が強まり、真に公共的な風景が創り出される可能性が生まれる。その時、下からの公共性の指導者として、建築家の真価が問われるにちがいない。

景観から風景への道程は遠い。その第一歩は、しかし、みだりにランドスケープを使わないことであろう。

3．風景と共に風致を

建築デザインがランドスケープの呪縛から解かれるべきだとする第二の理由は、建築と造園の正常な関係の樹立である。建築家から造園家に対し「ランドスケープの人」という呼びかけがなされる場合がしばしばある。この場合の両者の心理はかなり複雑だと想像される。それがランドスケープ・アーキテクチュアの省略形ならば、その訳語は七十年も前に造園として決着しているのだから、私ならば造園の人と呼んで欲しい。だが、造園という呼び名がきらいな造園家もいるから、あいまいなランドスケープへの執着が残るわけである。私としては、七十年前の先達たちが考え抜いた造園は、庭園と公園を造るという具体的目標が明確で、建築との関係もわかりやすいから、積極的に造園を尊重すべきだと考えている。建築と造園の関係では、それぞれ規模が大きくなれば必然的に分業化と専門化が起こる。しかし、それが本当の専門職業間の関係であれば、互いの協力は必ずできる。協力できないとすれば、互いに未だ専門職業の域に達していないからである。

次に、それがランドスケープ・デザインの省略形だとすれば、これこそ大問題である。たしかに造園家はランドスケープ・デザインをするけれども、建築家もそこから逃れるわけにはいかない。換言すれば、風景デザインには分業は成立しないし、するべきでもない。そこでの協力関係は、多角的であり、専門の垣根はむしろ低くしなければなるまい。この点からも造園にランドスケープというレッテルを貼るのはどうかと思う。

都市に美しい風景を創出する主役は、何と言っても建築デザインである。けれども風景という視覚的、芸術美的空間と並んで、もうひとつの空間が都市には絶対に必要である。それは風致という五感的、自然美的空間である。風致はいきいきとした自然のあじわいであり、とくに子供の心の健全な成長に不可欠の経験を与える。風景と風致は互いに相補的な関係にあり、風景に重点をおく建築デザインと言えども風致を軽視することはできない。風致デザインに関しては、造園の役割が大きいだろう。

そこで再びランドスケープの人が問題になる。それはランドスケーピングあるいはランドスケーパーの省略形ではないか、とも考えられるからである。主として樹木を植えることを通じて、風景を改善するのが昔の植木屋、今の造園業の主要な役割であり、それはランドスケーピングという言葉に通じている。その役割を強調した修景という造語も、あるていど普及している。醜悪な建物を遮蔽したり、取り柄のない建築に魅力を付加するための、樹木などによる視覚的効果は重要である。しかし修景には、たんなる視覚的改善を超えて、風景を風致の充実によって正しく整えるという意味づけも可能である。そうした方が風景への造園からの貢献としての風致デザインの意義が、より正確に示される。そうなると、視覚効果だけの意味が強いランドスケーピングから「ランドスケープの人」をイメージするのも適当とは言えない。

結局のところ、建築家と共に風景デザインをめざす造園家に対して、ランドスケープという言葉で役割分担を決めるのは無理がある。強いて言うならば、風景デザインにおいて、建築デザインは芸術美に重点を置き、造園デザインは自然美に重点を置く、ということになるだろう。

（なかむら　まこと）

建築デザインと情報技術の革新

山口重之
京都工芸繊維大学デザイン経営工学科教授

ガラス、鉄、コンクリートは20世紀の建築をつくりあげた。計算機としてのコンピュータは超高層建築を可能にし、多様なタイプの架構方式と巨大空間を生み出し、ビルディングオートメーションは人工環境の調節を効率化した。技術革新は20世紀の建築のあり様とつくり方を変革してきたことは明白である。

デジタルコンピュータの誕生は1944年エニアックが世に出たときである。数値計算機械として登場したコンピュータは60年代にはすでに絵を描き始め、現在ではマルチメディアを処理するのがコンピュータの役割である。1990年代には通信技術のデジタル化とともに情報処理との融合が進み、情報技術（IT. Information Technology）の革新が急速に進展しつつある。われわれの社会の根幹的仕組みであるコミュニケーション・インフラに大きな変革を起こしているのである。

情報技術の革新が建築や設計に何をもたらすのか、建築の世界での短い利用の歴史を振り返り、私なりに問題を提起してみたい。

夢からはじまる

いわゆるCADが登場したのは1970年代のはじめ。爾来、30年を経てようやく建築の世界にもCADが一通り行き渡った。60年代に夢想したものはこんなものだったのだろうか。

60年代は揺籃期である。コンピュータがボールペンをもってシングルラインのパースペクティヴを描く。今から考えれば実に単純な仕事である。それでも毎日鉛筆の粉に手を黒くしながら大阪万博の美術館や栃木県立美術館の設計をやっていた私には、機械が絵を描く姿はとても新鮮で衝撃的であった。

このころ製図道具としてコンピュータを考えた人は誰一人としていなかった。設計者のもつさまざまな知恵をコンピュータにどうやって教えるか、空間構成や都市計画などを議論し創り出すパートナーとしてコンピュータを位置付けていた。コンピュータ・エイディッド・デザインはマシン自体が知的でなければ成立しない。MITのN．ネグロポンテのプロジェクト：URBAN5はコンピュータとアーキテクトが会話しながら仮想都市をつくりあげるプロセスである。システムはクライテリアとアーキテクトの言葉、行動（図形処理）の間の矛盾を見つけ出し、さまざまな忠告とアドバイスを発する。アーキテクトは形態を変更するか、形態に合うようクライテリアを変更するか、後で変更するか、矛盾をそのままにしておくか、選択をせまられる。形態とクライテリア、マシンとアーキテクトの関係がクリエイティブなデザイン・ダイアログのプロトタイプを示したプロジェクトである。しかし、考える機械としてあまりにも能力の低いコンピュータに愛想を尽かした人たちも多かった。

70年代は、実用に向けて様々な試みがなされた試行錯誤の時期である。製図システムが登場してシカゴの114階建てシアーズタワーのフロアレイアウトをやってのけた。わが国でも大手ゼネコンや設計事務所では企画設計システムが開発され試用され始めた。しかしながら、コンピュータの表現力は貧弱で、とてもデザインという側面では使い物にならなかった。さらに悪いことにはコンピュータ自体が専門知識を要求する極めて高価な代物で、一般の設計者が手出しをできるほど身近なものではなかった。70年代後半にはマイクロプロセッサが登場して初めて大衆化の兆しが見え始める。

80年代はＰＣを主体に一挙にコンピュータの大衆化と実用化が進んだ。さらにグラフィックス機能が発達し、いわゆるCADやＣＧシステムが次々に登場した。ようやく一般の設計者もバブル期の絶頂と人手不足の折から投資効果を検証するまでもなくCAD/CGを導入し始め、現在では製図と視覚化のルーツとして建築設計には欠かせないものになっている。CADによる高度な製図技術を手に入れることで、製図板上ではとても描ききれなかった造形の建築が登場し始めているし、ドーム建築やうねった屋根や壁面を持つ建築や数千枚の図面を必要とする巨大建築の設計は明らかにCADの恩恵をこうむっていると思える。

90年代はCADやＣＧが成熟期を迎えるとともに、ネットワーク利用という新しい時代が始まった。特に後半はインターネット、マルチメディアの急激な普及によって、CAD/CG一辺倒の話題が次第に拡散する方向にある。80年代はＰＣの登場によって設計者個人個人の能力が拡大したが、90年代は各々のＰＣがネットワークで接続されることによってグループやチームの能力を拡大させる時期である。

私の研究室では、CAD/CGの成熟期を見越して80年代の終わりにはすべてがデジタル化された「次世代の建築設計環境」の構築実験が研究テーマとなり、現在も継続している。ＰＣはすべてLAN接続し、それぞれのコンピュータや周辺機器が建築

設計を進めるために協調して動く環境を構築しはじめた。設計情報の蓄積と共有、設計図面の分散作成と統合、設計会議の支援などチームとしての設計環境を整えるためのサブテーマを次々と進めてきた。95年からは研究室LANをインターネットに接続することでさらに多用な展開が待っていた。この間、いくつかのコンペを経験することでチームの設計方法の共通基盤を確立することやコラボレーションの方法が常に大きな問題として興味をそそった。

設計のツールとして成熟したCAD/CGはすでに手元にある。幸い、情報技術は安価で高性能な情報処理機能と通信機能を提供し始めている。急速に発展する情報技術は産業界やわれわれの生活に大きな変革をせまっているとともに、建築の仕事にも大きな変革をもたらすことは間違いない。

設計環境の未来

私は数年前から大学間でのインターネットを利用した遠隔地間協調設計の実験を行っている。数千キロ離れた外国の大学、数百キロ離れた日本の大学、そして私の研究室の学生たちがいくつかのチームを組みインターネット上に用意された仮想設計室（VDS：Virtual Design Studio）にアクセスし、そこでデザインを議論しながら課題をこなしている。まったく面識もなく生活習慣や言葉を超えて一つの課題を共同で設計する。大学ではネットワーク利用には特に大きな費用はかからないことも、このような実験に幸いしている。仕組みについて少しお話ししておきたい。

仮想設計室はいわゆるインターネットのホームページである。そこにそれぞれの意見やアイデアを貼り付け、誰からでも見えるように書込みが出きるようにしたものである。各人のコンピュータ上にはインターネットのブラウザ、ビデオ会議、ホワイトボード、チャット、アプリケーション共有などのコミュニケーション用のソフト、そし設計用にCADやCGのソフトが動いている。CADとCGなどのソフトを除いては、WINDOWSに付属してくるソフトである。必要となる追加のハードウェアはビデオ会議にはビデオカメラとキャプチャボードぐらいである。ホワイトボードは通信相手と双方向で同じ画面を共有して文字や絵の描き込みができる。また、チャットはキーボードを使って文字で会話ができる。アプリケーション共有とは、たとえば相手がCADを立ち上げればその画面を共有することができ、こちら側でも見ることができるし、こちらからその画面に描きこみすることができる。こちらでそのCADソフトを持たなくても相手のソフトを利用できる便利な機能である。ビデオ会議と同時にこれらのソフトを利用すれば、リアルタイムに図面を使った打ち合わせが可能になる。

また、東京のある大学の非常勤講師をお引き受けしているが、同じようなやり方でインターネットを通じて設計演習の指導をしている。学生たちも各自のPCを持ち、製図室に閉じこもるのでなく、どこでもいつでもインターネット上の製図室へアクセスして自分の草案をピンナップしておけばよい。私もどこに居ようと何時でもそのVDSにアクセスしてクリティークができる。規則で出勤簿に印鑑を押すために東京へ出向いているが、本来は出講しなくてもやっていける。VDSはホームページとして公開しているのでプロジェクトの参加者以外も自由に見たり書込んだりすることができる。通り掛かりの設計のプロが、どこかの主婦が、そして他大学の学生さんが意見を書込んでくれる。製図室が街角に出てしまったのである。この実験は設計現場の将来にとっても、大きな意味をもっていると考えている。場所、時間の制約が事実上なくなり、設計スタッフの構成やアドバイザの参画、市民参加の自由度が圧倒的に拡大する。情報技術によるコミュニケーションの革新が設計チームの構成、設計プロセスや意思決定の様式に極めて大きな変革をせまることを予測させる例である。

建築デザインの変革

情報技術の設計への導入は、建築のデザインそのものを変革するわけではなさそうである。情報技術は設計対象である建築の価値や技術に直接関係するのではなく、むしろ方法（設計のマネジメント、進め方やプロセス、設計の手法、設計の環境）に大きく寄与するものであると思われる。

CADが登場し始めた当初、建築の世界からは多くの(今でもあるアレルギー)反発もあった。コンピュータに設計はできない、というものである。もはや解説不要とも思えるが、得体の知れない怪物にみえたことは事実である。製図道具として大衆化されたとき、多くの人たちの不安が取り除かれ安堵してしまったようで、逆にCADの発展を阻害したのではないだろうか。

私はデザイナーとコンピュータの創造的協同には今でも3つの目標レベルがあると常々考えている。便利で高性能な設計ルーツ、つまり製図や視覚化のための道具としてのレベル。情報を集約し構造化してデザインの道筋を見つけやすくする、空間のクライテリアやルールをアルゴリズム化して解を導くといった設計手法レベルでの協同。そしてアイデアを言葉に、言葉をコンセプトに、コンセプトを空間にまで薄く知的なプロセスに参画するデザインの戦略レベルでの協同。現時点ではようやく一回りしてまだまだ最初のレベルにとどまっている。

60年代の夢はまだまだ遠い。

（やまぐち　しげゆき）

アンケート

21世紀のデザインの動向を見る

20世紀はモダニズムの時代といわれていますが、様々なデザイン思潮が現れ、実際の作品やプロジェクトとして発表されました。近年では、さらに社会性、地球環境やエコロジー、ハンディキャップのある人々への配慮、また高度情報化など、さまざまな要因への対応が求められています。世紀末の今日、やや混沌とした社会状況の中で、我々はデザインの方向性について模索しているといえます。

こうしたことを踏まえ、本誌では1998年9月号に「建築への証言'98——21世紀に向けて」と題した特集を企画し、関西で活躍されている建築設計者四十数人の方々のお考えをアンケートで求め、お答を掲載いたしました。今回は、それに引き続いて、前回と異なる諸分野で活躍されておられる関西の方々にアンケート形式で、お答をいただき、そうした御意見をもとに建築設計に携わる人々が、21世紀の都市・建築とデザインのあり方を考える一助になれば幸いと存じます。

上記のような趣旨のもと、下記のようなアンケート質問を34名の方々にお送りし、特集扉頁に記載した29名の方から御解答をいただきました。以下に、50音順に掲載いたします。

設問 1 貴方のご専門分野において、これまで影響を受けた、人物、デザイン、思潮などをお教え下さい。

設問 2 貴方のご専門分野において、20世紀とは何だったのか、貴方のお考えをお教え下さい。

設問 3 貴方のご専門分野において、21世紀に向けての、今後の流れ、めざすべき方向性について、お教え下さい。

設問 4 21世紀に向けて、貴方のご専門分野から見て、建築デザインの今後の流れ、めざすべき方向性についてお教え下さい。

※出来れば各項目ごとにキーワードをおつけください。

35歳定年を胸に

安倍浩一
総合設備コンサルタント大阪事務所副所長
設備／1942年生

1 35歳定年

20年前、アート事務所で、35歳定年と言う事務所があった。今も現存する事務所で、会社規約には、明記していなかったが、全ての所員が納得していた規則であった。その所長は、穏健で、所員に対する対応も紳士的で、所員にも慕われていました。しかし、働き盛りの35歳を首にするとは……35歳になると事務所が残って欲しいと要望しなければ、すべての所員が退職してゆきました。

なぜ35歳定年なのか、所長の意見は、“人生に悔いを残さないため、色々な可能性のある人が設計者として10数年やってみて、設計の分野で良いものが出来ていなければ、職を変えることが必要だと、この言葉が今も思い出され、誕生日の度に、35歳定年と思い良い仕事を心掛けようと、今も頑張っています。

2 エネルギー革命の時代

20世紀はエネルギー革命の時代で、人類が電気と石油を手にした。このようなエネルギーを手にすることにより、大量生産と大輸送時代の到来をもたらし、大消費文明となって先進国を貫きました。この結果、人々の暮らしは豊かさを持つこととなったが、物質文明の悪しきところは顕著になり、美しい自然を破壊し、環境汚染に悩む時代でありました。

3 思いやりと優しさ

建築設計に係る人の中に、使用している社員に思いやりと優しさを欠いている人物がときたまお目にかかる事がある……このような人と接するとき、この人が地球にやさしい設計をするとは思えない箱物設計者である。人に優しく接し出来ない設計者には良いものができない。これからの設計者は人々の意見をよく聞き己一人で作りだすものでなく、人々の意見の集約大成が必要ではないでしょうか。

4 市民の誇りとなる建物

これからの建物に求められるものは、人と我々が住むこの地球に優しいものであらねばならないと思えます。欧州に建物を緑でおおい、煙突にいたっては、展望台として利用したゴミ焼却場がある。焼却場は、周辺住民の反対を招き、嫌われる建物であるが、これからの設計者は、この緑の建物のように、市民の誇りとなるコンセプトを発揮できる知恵と、必要な経費を（自治体に）計上させる手腕が求められる時代となるでありましょう。（あべ こういち）

「構造制御」の実現

井上　豊
大阪大学大学院工学研究科教授、建築工学専攻
構造／1937年生

1 影響を受けた人物

「速度・ポテンシャル論」の棚橋諒先生

「応答スペクトラム」の G. W. Housner 先生

「制震構造」の小堀鐸二先生

2 対地震構造理論の発展

建築物の対地震構造理論が芽生え、育ち、大きく発展して来た世紀。

3 構造制御の具体的実現

「耐震」から「パッシブ制震」へ、そして「アクティブ制震」へと展開して来ており、さらに拡張された動的・静的外力に対する「構造制御」の具体的実現。

4 建築の全機能の総合化

建築デザインが独立してあるのではなく、建築の全機能の調和ある総合化として捉らえること。　（いのうえ　ゆたか）

主な著書　分担執筆した書物、若干

光の被写体

岡　幸男
株式会社ライズ代表取締役
照明／1950年生

1 光の被写体

1973年照明デザインを始めた頃、イタリアモダンや北欧デザインの機能とその美しさに、またイサム・ノグチの素材と光が融合した照明器具に刺激を受けた。大阪万博、スイス館、光のモニュメントは照明としてではなく光の造形として強烈な印象があった。コルビジェ、ロンシャンの教会では光と影の構成美に大いに影響を受けた。その他、多くの建築、建築家、造形物、自然の光景に影響を受けていると思います。なぜなら全ての物が光の被写体であるが故に。

2 明るさを求めて

20世紀の照明デザインは、エジソンが電球を発明して以来120年、蛍光灯が発明されて60年が過ぎ、電灯が照明器具の主流になりひたすら明るさを求める歴史であった。夜ならではのあかりの表現は影をひそめ無数に広がる照明が夜を浸食し、生活リズムの多様化に伴いその結果、都市は眠らなくなった。満天の星の輝きは発光する都市の光で薄れ、月夜の明るさを忘れてしまったかの様である。夜景が美しく感じ、哀愁を誘うのは、せめてもの救いなのか。快適性の基に市場経済によって活力が与えられた照明は生活観や建築・環境に即応する新しい光源・照明方法が模索されて製品となった。様式的なものから独自のデザインまで数多く出現し、目的にそった機能的なテクニカル照明器具も多種開発されてきた。

これらのもので作り出された光空間は、人間が闇と向きあう為のモデルケース、サンプルを提議したのではないだろうか。20世紀は電灯照明文化のプロローグである様に思える。

3 照明デザインの今後

先日、23年前にデザインをした照明器具を修理してほしいとの依頼があった。記憶が薄れていたが、いまでも使われている事に感慨を新たに致しました。長い時間の経過には愛着も不可欠であると。快適性、安全性、効率を求めた結果、影のない明るい空間が出現した。しかし、もうこれ以上の明るさは必要ない。空間の目的により異なるが、その場に応じた光の量、効果、性質がより細やかに求められ、また表現されるべきだと考えています。大量生産品の照明器具のゆくえ、一品製作の工芸的器具の生きる道、テクノロジーの作り出す光空間の可能性、これらは現在、工業デザインや環境デザインの複合的照明デザインの姿であり、社会状況と相まって多くの課題を含んでいます。経済性、合理性、機能性に感性豊かな人間性を加える事により光が心を癒やし、活力を与えるとすれば、21世紀に向けて一条の光がさしている様にも思います。

4 建築デザインのめざすべき方向

建築と自然環境と光環境の調和　（おか　ゆきお）

主な作品　大阪ドームシティ「パ・ドゥー広場」光のモニュメント
大阪クリスタ長堀（地下街）照明デザイン

社会環境デザインへ

加藤　晃
日建設計取締役大阪本社副代表
設備／1942年生

1　パレスサイドビル

学生時代、環境工学・建築設備の分野に進もうと決心したとき、強く影響を受けた建物がパレスサイドビルである。エネルギーを大量に消費する建築設備の設計者になることに、抵抗を感じていた私が、建築を通して、環境・エネルギー問題に積極的に参加する意志を固めた建物といえる。アルミ製の水平ルーバー、漏斗状の縦樋、円筒設備コア等の、環境を考え、骨格と装備を分ける設計は、今でも新しさを保っている。

2　省エネルギーから環境親和へ

近代建築の黎明期（1900～戦前）は、昇降機の登場・蛍光灯の実用化・暖房から空調で代表されるように、新しい機器開発・建築技術開発の時代である。戦後復興から高度成長期（1945～1972）において、高層化・都市化のなかで、建築設備は快適性・効率性を求め高機能化・システム化が進み、建築設計と設備計画の融合が図られた。オイルショックからバブル崩壊（1974～1980年代）の時代は、省エネルギー建築技術を追求した時代といえる。地球環境の時代（1990年代～）には、環境親和型の建築・技術を追求する時代に変わった。

3　建築設備設計から社会環境デザインへ

建築設備設計は、建築室内環境を設計する時代から、都市環境、資源・エネルギーの有効利用を考えて設計する地球環境の時代に変わった。そして今後は、生活者の社会環境を提案し、そのデザインコンセプトに基づき、建物に具体的に反映する時代に移っていく。例えば、夏の暑い日に、生活者の一日の冷房環境が、住宅・交通機関・建物でどうあるべきか、どういう選択があるのかをデザインし提案する事が大事になる。

4　美しい街並み、健全な建物

建築が本来持たねばならない美しさ・安全性・機能性はこれからも変わらない。美しい街並み、健全な建物は今まで以上に求められる。一方、都市の建築が巨大化し、人・環境・エネルギー・資源への影響が更に大きくなる。都市の建築を設計する際に目指す方向は、下記と考えている。

●住む人に対し
　健康で生き生きした建築／心を高め、和ませる建築
●建つ環境に対し
　環境になじむ建築／都市インフラとなる建築
●エネルギー資源に対し
　省エネルギー建築／省資源型建築　　（かとう　あきら）

主な作品　三和銀行東京本店、大阪市庁舎、大阪ワールドトレードセンター
主な著書　空気調和・衛生工学便覧〈第12版〉第5編第1章（丸善）

インテリアデザインの未来

加藤　力
京都工芸繊維大学助教授
インテリア／1946年生

1～4　インテリア及び建築デザイン

今世紀と言う時代は、はたして良き時代だったのだろうか。

一応、イデオロギーという名を装った一種の宗教も存在した。思想らしき顔を騙った民主主義という手続も、この世界の光の部分を照らしてくれた。何よりも本当のところは、どちらの側にもひっくり返ることの出来る科学的なる方法が、この世を支配し、人々の日々の生活を潤し、精神の内にまで沁み込み、価値をも変えていった。

良かれ悪しかれ、それが故にそれぞれが、それぞれの立場の姿勢で、論理や理屈を並べ立て、物語ることのできた時代であったと言える。その意味で、あるいは良き時代であったとも捉えることも出来よう。

そうした構図は、建築・デザインの分野でもあてはまり、この閉ざされた狭いコップの中ですら、主義主張が相互に奏でられて、テクノロジーのわずかな隙間につけ込むように、割り込み崩れ込んで、造形の世界は形成されていった。

多少の起伏は在ったものの、しかし所詮どちら側に落ちても、同じ世界の上に築かれた塀の上を歩いているようなもので、まして一般の人々にとっては、あまりかかわりの無い中での出来事であった。

ご多分にもれず、造形世界も次第次第に分化・分散・細分化の道を辿り、未来は統合の大きな力を持っていたはずの造形の分布は、次第に細い紐のごとくバラバラに梳きほぐされて拡がった。

インテリアデザインの分野とは、細分化の末に拡がった細い細い糸のような領域の一つであった。細いが故に、次第に人々の生活の中に入り込み、浸透して姿を現わし、今日、日の目を見ることになった。

だから、造形のこの時代の特色であり問題点は誰の目にも明らかなように、1つは分散・拡散のベクトルとは逆の、統合の為の創造の力を失ってしまった事である。もう一つは想像の源であるダイナミズムを欠いたことである。このことは帰納的に行き着く先の当然の結末なのである。

仮に、この流れを押しとどめ、変える必要があるとすれば、それは唯一過ぎてきた時代に対する深い洞察であり、その総括の仕方にかかっていよう。だが、その必然も今は薄い。

だとすれば、これから先は、それぞれ個人の腕力、それとも感性に全てを期待するしか手はないのだろうか。　　（かとう　つとむ）

主な著書　オフィスインテリアのプランニング＆デザイン（KBI出版）他

地球環境・個人の時代

片山紘一
大阪ガス株式会社エグゼクティブエンジニア
設備／1940年生

1 出会い

入社して間も無い頃、必要にせまられ本屋で同じ著者とも知らずに最初に買い求めた二冊の本、空気調和ハンドブックと建築設備ハンドブックの著者井上宇市先生。先生の直接または著書を通して間接のお弟子さんが多くいらっしゃると思います。先生とは、その後研究会・委員会などでよくご一緒させて頂くことができました。機械・エネルギーの分野では平田賢先生。熱力学の法則を交えたご講演を遠くから拝聴したのが最初でした。10数年後、ニチイ加古川店（現サティ加古川店）に、可変周波数発電タイプのコージェネレーションを見に来られ、その後委員会等でご懇意にして頂いており、光栄に思っております。井上先生は、日本の空気調和・建築設備の基盤を作られ、平田先生はエネルギー問題について、次々新しい提案・実行・啓蒙を行ってられ、お人柄と合わせて敬服しております。

2 大衆の時代

大規模集中生産・大量消費・高度経済成長によって、大衆が文明の恩恵に浴することができるようになった時代であり、組織・集団が中心の時代。でも、結果として地球の小ささに気付き始めた100年だったのでは。空調の分野ではアメリカからの直輸入や物まねに始まって、直焚き二重効用吸収冷温水機、マルチタイプ直膨ヒートポンプシステムなど、少しリードする技術も生まれました。

3 地球環境・個人の時代

地球環境問題および情報化技術の発展から見えてくるのは、やはり省エネルギー、省資源、ごみ対策（リサイクル、リユース、リダクション）。そして、温暖化が現実化してくる頃にはエネルギーシステムの、温暖化ガスへの取組みが待ったなしの状態となるのではないでしょうか。高効率コージェネレーションシステム、高効率中央発電システムの科学的なベストミックス。再生可能エネルギーの比率上昇。内藤正明先生の提唱される、里山循環共生社会の構築のような、都市構造、社会システムの再構築にまで及ぶ改革が必要になるなどの変化が現れてくるのかもしれません。そして、情報化社会が、個人の尊厳と可能性を高めることになると思います。

4 エネルギーパス

都市・建築の計画において、環境負荷の少ない都市・建築物の構造・システムが求められ、エネルギーの流れが人・物の流れと同様重要な要素となるのではないでしょうか。情報インフラの発達、社会システム・エネルギーシステムの変遷、セキュリティーシステムの変遷に対応できるような、フレキシブル性が求められるのではないでしょうか。

（かたやま　こういち）

主な作品　可変周波数制御型空調コージェネレーションシステム（サティ加古川）
主な著書　エネルギー工学概論〈共著〉（コロナ社）

使命から提案へ

金檀　勲
関西電力株式会社土木建築室社屋建築グループ課長
電力建物／1959年生

1 Design Review

約10数年前に従事した大規模電源（200m南港ＲＣ煙突〈内筒FRP製〉・10万t舞鶴石炭サイロ）の基本計画推進にあたり、最適な品質（意匠・構造他）・コストを求める過程での、新技術の導入に対する検討、関係する諸先生方との検討、当社他部門との条件調整を行ったＤＲ（Design Review）の大切さが印象に残っている。

2 使命から提案へ

20世紀とは、堅調な電力需要に対する安定供給を最大の使命として考えていた（規格大量生産）時代から、特高電力の小売自由化を受けて、お客さまにうまく電気を利用して頂けるよう提案する（多品種少量生産）時代へ移行する過程であったと思われる。特に、地球環境・高齢化社会・高度情報化等多様なニーズに対応できる会社となる基盤を作る時代であったと思われる。

3 信頼される・強い・おもしろい会社

当社では以下の３点をめざすべき方向性と考えている。まず第１には、「共生・共感経営」の理念に基づいて「信頼される会社」を、第２には、電気という商品を中心にその良さを納得して利用して頂けるような技術力を有する「強い会社」を、第３には、仕事にやり甲斐を感じて、生き生き、溌剌と働き、また社外からもよくやっていると認めてもらえる「おもしろい会社」をめざし、21世紀においても躍進を続けていこうと考えている。

4 信頼される・強い・おもしろい建築デザイン

上記と同様に、地域の人々に信頼され、強く、おもしろいと思われる建築デザインが必要になってくると思われる。例えば、建物寿命を100年単位とし、10～20年かけて、建物単体の開発というより面・群として、その地域の人々が望んでいる用途・形態をいっしょに考え、議論して、収益性・成長性等総合的に判断して、人々から信頼される計画が必要であろう。また、建物自体においても、時代のニーズ（地球環境・高齢化社会・高度情報化）や生活スタイルに即応しうるフレキシブルな空間構成や、構造的にも種々の材料の特性を活かし、コスト的にも有利なハイブリッド的な構造により、耐震性に優れ、地域の人々が安心して過ごせる強い建物が必要であろう。そうして、そこに働く人々が生き生きと働き、そこを訪れる人々がこの空間に来るとおもしろいと思ってもらえる建物となることが、建築デザインの今後のめざすべき方向性ではなかろうか？

（きんだん　いさお）

主な作品　南港発電所（煙突）、守口営業所、高齢者総合保健福祉施設「エルホーム芦屋」、須磨クラブ

多重ネットワーク社会

小林郁雄
まちづくり㈱コープラン代表
都市計画／1944年生

1 影響を受けた人、デザイン、思潮

1）関一、小林一三、賀川豊彦の1930年頃。
2）川名吉衛門、水谷穎介の実践、在野精神。
3）イギリスの田園郊外、ニュータウン、インナーシティへの都市政策。
4）アメリカのNPO、CDCとワークショップ・デザインゲーム手法。
5）もちろん、阪神大震災とその後の市民まちづくり。

2 都市計画

20世紀は、「都市計画」のはじまりであり、おしまい。もちろん19世紀の次で、21世紀の前ではある。

3 21世紀の方向

21世紀の都市が必要としている方向は、
1）都市計画からまちづくりへ。
（フューチャー・プランニングからプロセス・プログラミングへ）
2）小規模分散自律生活圏の多重ネットワーク社会という都市像を。
（コンパクトシティ、まち住区ともいう）

4 建築デザイン

1）とことん芸術文化の追求。
2）とことん経済現実への追従。
3）いづれにせよ、市民とは無関係な分野として、「建築デザイン」が行方不明となる（すでになっているかも）。それゆえ、めざすべき方向はみあたらない。 （こばやし いくお）

主な作品　神戸ハーバーランド計画、「コンパクトシティ」構想
主な著書　震災復興が教えるまちづくりの将来（編・学芸出版社）

ミニマルデザイン

駒田哲男
AD&A代表取締役
インテリア／1948年生

1 建築・インテリアにおけるヒューマニズム

レイモンド・モリヤマ設計のトロント郊外、スカボロ市庁舎（1969年竣工）を20歳代で見て感銘を受けました。中央のアトリウムを囲んで、各部署がオープンに配置され、コミュニケーションの良さが市民と行政の一体感を生むような空間。議場もアトリウムに面し、文字通りガラス張りで秘密のない共有空間。明かるく、平明で、巨きいが威圧感のないヒューマンなインテリア。

2 ミニマリズムに至る道程

アートはミニマルに行きついた。

ポール・デュルソが到達したハイテックミニマルデザインは、その後、ひとつの典型となった。倉俣史朗が到達した華のあるミニマルデザインは20世紀のひとつの結実であった。

3 ユニバーサルデザインへ

1980年代後半にブルース・ハナ他が主唱しはじめた、ユニバーサルデザインはバリヤーフリーやエコデザインを包含した、より広範で普遍的なデザイン理念で、この概念の普及、確立へ向けて様々な試みが成され、評価されていく。

4 ユニバーサルデザインをミニマルデザインで

デザインの使用者、利用者の評価に力点を置くユニバーサルデザインの考え方をいかにミニマルデザイン手法で満足させうるかの試みと検証が行われていく。 （こまだ てつお）

主な作品　ベネッセコーポレーション東京オフィス、アイプリコム本社ビル
主な著書　インテリアデザイン教科書〈寄稿〉（彰国社）



アイプリコム本社ビル
エントランスホール

「ほんもの」志向

近藤一雄
東畑建築事務所構造部長
構造／1949年生

1 オヤジ

デザインとは、自分を自分たらしめる生き方の表現でしょう。構造設計者である前に、社会人としての判断や、決断力を培ったのは、やはり両親、特にオヤジの教育と思います。物を大切にする気持ちが、きめ細かい設計につながっていると思います。

2 ウサギ

産業革命以来走り続け、ついに体の外に脳を持つようになった。これにより量の時代がいっそう加速されることとなった。体外の脳は疲れを知らず、今後も走り続けることになるだろうが、量により質を高めるには、天文学的量が必要だろう。

3 カメ

走ってばかりが20世紀とすると、一度立ち止まる時ではないだろうか。

「もの」から「こと」へ意識の改革の必要があるのでは。

4 ホンモノ

21世紀に限らないが、つねに目指すべき方向は、「ほんもの」だと思う。そう言えば東畑謙三は「ほんものだけを見なさい」と言っていたのを思い出す。（こんどう　かずお）

主な作品　大阪プール、大阪城天守閣改修、大阪市海洋博物館
主な著書　鉄筋コンクリート構造物の耐震安全性（技報堂）
空間デザインと構造フォルム〈翻訳〉（技報堂）



大阪プール

試練のあとに

佐々木恵子
アトリエ・トリフォイル室内建築設計事務所代表
インテリア／1940年生

1 西沢サン

デザインの概念が日本に入ってきて間もない、まだその黎明期ともいえる頃に教育を受けた。当時はデザインに関する書物や人物など、数少ない情報に敏感に反応し、それぞれから影響を受けていた。1970年頃から情報が増えはじめ、いまでは、重要なものさえ見逃してしまうほどである。空間と人とモノの関係を現実に、それもかなり詩的にとらえること、空を切る表現芸術が建築に他ならないことを知りえたのは、西沢サン（故西沢文隆氏）のもとですごした9年間だった。

2 試練のあとに

地に撒かれた種が、芽をだし根を張り、若木になった。しかし、土壌はやせ日光も不足し、過分の人工肥料にまみれてとまどい、あるものは腐り、あるものはねじ曲がってしまった。力をなくし主張できないでいるおおくの木々のなかから、少しずつ目覚め考える元気な枝がではじめた。その土地にあった花を咲かせ、実をつける予感に震えながら……。イメージでは、こんな感じです。デザインの、あるいはデザイナーの功罪、相半ばで世紀が変わろうとしています。

3 必要なモノを

人間の考え出した技術と人をむすぶこと、技術にカタチをあたえて、モノにするのがデザインだったが、いまや、地球環境と技術と人の間に、折り合いをつけることがデザインではないだろうか。無限にあると思っていた資源が実は、あとこれだけしかないと判ってしまった辛い時代を、ともに生きる知恵が求められる。思うまま、欲望を抑えることもなく生きてきた結果のツケを払い、ムダなものはつくらないこと、ほんとうに必要とおもうものをカタチにすること、美しく丈夫で、長持ちするモノにすることが、私たちデザイナーの仕事です。原点として、あたりまえだったこのことに立ち返ってデザインできれば、日本の人、文化、環境にふさわしい生活が約束され、デザインの重要性はいままで以上にたかまるとおもいます。やっと幹が太くなり、葉が生い茂る季節がきたようです。

4 質実すこやかな建築を

建築はそれが個人のものであっても、社会性をそなえているために、その存在の公的な責任はことさら大きい。今世紀、経済の高度成長は建築をも消費の対象にしてしまった。建て替えることで利益をうみだす構造にやすやすとのってしまったデザイナーも少なくはない。空間芸術としての生命と、経済効率の評価を同じ次元で両立させるのは困難だと逃げないで、真っ向から勝負する時ではないか。地球にあって、この風土に根ざした空間は、他のジャンルのデザインに影響をおよぼし、結果として人々にここちよさをもたらす。300年もの間、風雪にたえて人々と生きた住まいが、私たちの過去にはある。質実すこやかで美しい建築の誕生が待ち遠しい。（ささき　けいこ）

主な作品　三晃海運社宅、K氏邸、淡路島ハイウェイオアシスレストラン「ポンメテール」、喫茶店「ローズマリー」他

「そだてる」デザイン

佐々木葉二
鳳コンサルタント㈱・環境デザイン研究所取締役所長
ランドスケープ／1947年生

1　「見えない」自然を発見

ルイス・バラガン、ピーター・ウォーカー、ダン・カイリー、リチャード・ロングなど、米国近代ランドスケープ・デザイン思想に大きな影響を与えた彼らに共通しているものは、「眼に見える」形態や様式ではなく、「見えない」自然を発見することによって「場所」を創出するデザイン姿勢にあった。

2　3つの新しい視点

20世紀は、3つの点でランドスケープ・デザインに新しい視点をもたらした時代であった。

第1に、プライベートな楽園から、パブリック（公共）としてのオープンスペースの価値を認知したこと。

第2に、様式ではなく人間の知覚や行動にもとづく空間デザインへの変換を試みたこと。

第3に、自然環境が有限だと気づいたこと。

3　「つくる」から「そだてる」へ

①　「かたち」から現象へ……ランドスケープの本質からの再出発。風景の「風」は見えない現象。「景」は見えるモノ、これからの課題は前者にある。これらは、デザイン目標を自然現象や場所の性格を顕在化させることによって手に入れることが出来る。

②　パブリック（公共）からコモン（共有）へ……有限である自然との共生環境は、個人として私的体験を豊かに享受できる空間として獲得されるべきであろう。手垢の付いた誰のものでもない「公共概念」から脱出し、パブリックとプライベートの両面を持つコモンスペースを、土地所有の領域を越えて拡げてゆくことによって、住み手の顔が見える生活環境が生み出される。

③「つくる」から「そだてる」へ……今世紀は未来のみに期待した造り手達が、過ぎ去る瞬間や現実を見過ごしてきた時代であった。これからのデザインは、「今」を永遠化する行為に当てるべき。それは作る側だけでなく、利用する側にも立ったデザインとして、「そだてる」デザインを問い直すことからはじまる。

4　瞬間の詩

建築を中心とせずに、「場」を生み出すこと。

壁なしに「場」を生み出すこと。

そこから瞬間の詩（言葉）が生み出されること。

（ささき　ようじ）

主な作品　NTT基町クレド、けやき広場（空の森）、神戸東部新都心（HAT神戸）
主な著書　ベーシックスタディ・ランドスケープデザイン（昭和堂）、都市環境デザイン（学芸出版社）、見えない庭〈訳書〉（鹿島出版会）、庭の意味論〈訳書〉（鹿島出版会）他

コラボレーション

清水柾博
株式会社キヨロク代表取締役、陶芸家
アート／1954年生

1　コンテンポラリー・アートの影響

陶芸の分野においても自由な表現が認知され、アメリカの抽象表現主義をはじめとするコンテンポラリー・アートの影響は大なる物がある。造形素材としての土という概念もでてくる一方、八木一夫をはじめとする前衛的陶芸集団であった走泥社の土からの造形という考え方の影響は大きい。

2　素材の再認識の時代

各種造形素材を無批判に受け入れるのではなく、もう一度再認識する事により、その素材から生まれる新たなる可能性を発見した。土に関して言えばその物理的、化学的特性あるいは焼成の可能性などから単に器だけでなく造形表現としての道を開いた。

3　異種素材間でのコラボレーション

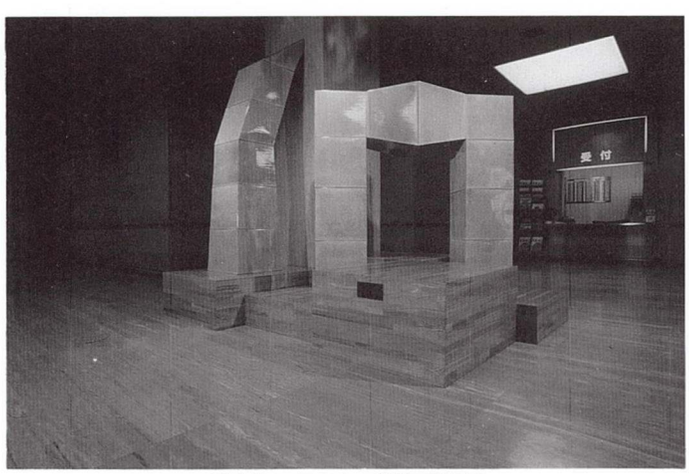
設問2の素材の問題と共に新しい機械道具の開発による制作方法の変化などにより制作プロセスの多様化も起こるであろうし、それによって表現も多様化するであろう。また異種素材間でのコラボレーションも活発化するのではないだろうか。以前からあるただ違う素材を組み合わせるという物ではなく、各素材の特性及び制作プロセスを生かしたコラボレーションでなければならないであろう。

4　環境への配慮

環境問題はより大きな位置を占めるであろうし、とにかく人をはじめ、あらゆる生命に優しいだけでなくエネルギー問題をはじめとした地球環境に対しても配慮された建築や都市が求められるのではないだろうか。

（きよみず　まさひろ）

主な作品　近畿コカコーラボトリング㈱綾部工場モニュメント
老人福祉施設「紫雲苑」モニュメント



紫雲苑モニュメント　撮影　畠山崇

環境に調和する器

瀬川輝夫
竹中工務店大阪本店設計部 プリンシパルエンジニア
構造／1943年生

1 ピーター・ライスの言葉

建築家は敷地の条件、施主のニーズ、仕様と一枚の白紙から始める「創造者」である。建築家はまず第一にどんな空間や形態が造り得るかを主観的に判断し、無から何かを造りだす。これに対してエンジニアは「発明者」であり、建築家によって設定されたゴールに到達すべく、考え得る様々な手段の中から、何が実際的で機能的であるかを客観的に判断する。

2 機械としての建築

技術のもつ客観的法則性を武器に、人間が意識的な計画と目的に沿って世界を変革しようとする合理主義の時代であり、「機械としての建築」に向かって、生産面では工業化が、建築表現ではモダニズムからハイテク・イメージ化が、建築構造では制御システム化が推し進められた時代であった。

3 「生産」から「維持」へ

20世紀を支配した合理主義の矛盾が顕在化したとはいえ、建築の構造設計者に求められるものは何が実際的で機能的であるかを判断する客観性にあることは変わりがない。ただし、ストックからフローの時代への流れのなかで、これまで主に「生産」に向けられていた技術は「維持」に向けられ、要求される技術の幅はこれまでの材料・力学の分野から防災・環境を含めた総合的な技術に広がるものと考える。

4 環境に調和する器

世界に地理的なフロンティアはなくなり、自然・環境は無限ではなく有限であるという認識が世界的になされた現在、建築もこの基調に沿った流れに乗るものと考える。ただこの基調に対する我が国の認識が、相変わらず西洋型合理主義による経済的枠組のなかでなされてはいないか危惧する。東洋と西洋の狭間にある日本固有の地域文化を加味したなかで、「世界を変革する機械としての建築」から「環境に調和する器としての建築」を指向するとき、そのデザインの方向が見えてくるのではないかと考える。

（せがわ　てるお）

主な作品　関西電力原子力発電所高浜３・４号機

ポストユニバーサルデザイン

田中直人
摂南大学教授・工博、都市環境デザインネットワーク代表
都市計画・環境デザイン・福祉のまちづくり／1948年生

1 システム的環境デザイン

池辺陽先生（元東京大学教授・建築家）空間と人間の基本的な関係性について、システムとして論理構成する姿勢や考え方。対象とすべき人間を健常者にとどめず、障害者や高齢者など広く、人間工学的視点から、また建築という建物に限らず、環境としての空間レベルについてあるべきデザインのあり方を模索された。

2 進歩と不調和

科学技術の発展を背景に、地域環境の都市的環境への変貌はそれまでの空間構造だけではなく多くの生活様式を変えた。自動車や飛行機をはじめ近代の交通手段も大きな影響を与えた。これらの近代化が都市や地域の計画に反映されてきた。しかし様々な公害や環境問題が顕在化したことも見逃せない。20世紀は環境破壊のデザインが潜在的にしろ、顕在的にしろ多かった。一方、わが国では北欧等の諸国に遅れながらも、高齢者や障害者をはじめ、様々な人間を大切に考えたデザインが展開され始めた。「バリアフリー」は福祉のまちづくりの大きな柱となった。また阪神大震災は忘れたころにやってくる震災の恐ろしさを再認識させるとともに、これまでの都市や建築のあり方を問い直す契機を与えた。1970年に開催された大阪万博のテーマに「人類の進歩と調和」というのがあったが、20世紀はこの答をきっちり出さずに終えようとしているようだ。

3 ポストユニバーサルデザインの可能性

21世紀は超高齢化社会と言われている。現在、これに対する社会基盤整備が重要課題となっている。デザイン領域では世紀末に登場した「ユニバーサルデザイン」がこれまでの福祉のイメージを変える役割を果たす。しかし「７つの原則」の提唱された背景を超えて社会が進展していくのであれば、ポストユニバーサルデザインともいうべき新たなデザインのパラダイムの構築が必要になる。個と全体、内と外、自立と参加・交流、新と旧など相対する概念を両立させる環境への調和と都市の再生が重要である。

4 人や環境にやさしいデザインを

建築デザインはより面的に広がった環境を意識する必要がある。地域の歴史・風土を尊重し、地域性をいかしたデザインで誇りと愛着を育むべきである。さらに、建築をつくることとあわせて、建築を息づかせていく人や地域コミュニケーションでのしかけづくりも重要になる。「人や環境にやさしいデザインを」というのは耳あたりのよい言葉である。本当に「やさしいデザイン」と言うのは難しいものである。21世紀の建築デザインはこれまでの科学技術の進歩や社会規範をそのまま形にすることではなく今一度「人間と環境」のあり方を考えて行くことからスタートしなければならない。

（たなか　なおと）

主な作品　奄美海洋展示館、神戸博ポートピア'81、西神ニュータウン
主な著書　サイン環境のユニバーサルデザイン（学芸出版社）
福祉のまちづくりデザイン―阪神大震災からの検証（学芸出版社）
図解バリアフリーの建築設計（彰国社）

人・自然・建築と共生する光

田村利夫
AZU 設計工房代表
照明／1950年生

[1] 生活の場として、現存する町家

置き去りにされてきた“あかり”の在り方の様なものを感じることが出来る。

[2] 発展のカゲに消された“陰影（かげ）”

20世紀後半の光学技術の発展はめざましいものがあり、特に多くの人工光源が開発され、改良が加えられてきた、器具も含め大量生産が行われ、同時に照明そのものが数値化され判断される様になった結果、数値で表わせないもの、測定出来ないものは排除され、置き去りにされ、高照度・高均一化が進み今や闇を制するまでになったと云っても過言ではない。元来、“照明”は、数値に置きかえられない人に与える情緒的、感覚的な面を持っていたはずである。それらを否定することにより、光によるいろいろな問題が発生してきていることも20世紀末の現状かもしれない。

[3][4] 人・自然・建築と共生する光“ゆうこう”

照明は、周知の様に始めに建物ありきである、つまり照明と建築は共生するものであり、照明独自に成り立ち得ないものである。そうとらえた時、建築においても照明同様、20世紀に機能性を重視し、それ以外のものは排除されてきた様に思う。

これからの照明や建築の方向性を考えた時、これまでに排除してきたものを再構築していかなければいけないわけだが、その中でも特に、照明においては、“影”であり、建築においては“間”と言えるかもしれない、現時点では、ムダと称されるかもしれないその僅かな、“影”や“間”が、人に与える精神的効果は計り知れないものがある。

このようなことを踏まえ、“ゆうこう”をキーワードに照明をとらえると、優光・友光・誘光・融光・有光・遊光などが考えられる。

これらにより、人や自然・建築にとって、“有効”、かつ共生する光環境を創り出すことだと考える。

“人間は、闇の子どもなのだ。火をつくりだした生きものである人間は、明るい火のむこうに闇を発見した生きものでもある。”

長田弘著「記憶のつくり方」より　（たむら　としお）

主な作品　アシックス・スポーツ工学研究所、神戸改革派神学校
主な著書　インテリア・アイデンティティー〈共著〉（学芸出版社）

自然と市民のパワー

高田　昇
立命館大学教授、COM 計画研究所代表
都市計画／1943年生

[1] 影響を受けた人、デザイン、思潮

フランク・ロイド・ライトの自然と共生する建築。

アメリカの文明批評家ルイス・マンフォードの地域主義と歴史都市の再評価。

大谷幸夫氏が鋭く提起し続けてきた建築の社会性。

[2] 輝やける市民

ハワードの「田園都市（Garden City）」で幕あけし、都市の時代を多くの優れた建築家、都市計画家が切り拓いてきたものの、「輝やける都市」を追求することに大きく流れがかわり、「輝やける市民」の姿が見えにくい状況で世紀末を迎える結果となった。不幸な世紀であった。

[3] 自然と市民のパワー

自然と市民のパワーで都市を再生させることが最大の課題。

実際の都市建設のシーンにおいては二つの方向で展開していくだろう。

一つはストックの活用、リニューアル。即ちオールドタウン（20世紀の「ニュータウン」も含めて）の活性化。もう一つは20世紀が成しとげられなかったエコロジーとコーポラティブを基調とする新都市づくり。

[4] 年月とともに成長する建築

「変わったもの」「目立つもの」「自己主張するもの」という発想を脱し、風雪に耐え、年月とともに成長する建築。

（たかだ　すすむ）

主な作品　庄内地域住環境整備、富田林寺内町保存、茶屋町周辺再開発
主な著書　まちづくり実践講座（学芸出版社）
水と共に生きる都市（かもがわ出版）

良質のデザイン

辻　英一
安井建築設計事務所取締役構造部長
構造／1942年生

1　影響を受けた、人物、デザイン、思潮

今までに見聞したものが、現在の自分のすべてにかかわっており、特定できません。

2　構造設計手法での20世紀

主に耐震設計についていえば、濃尾地震、サンフランシスコ大地震、関東大震災などから個人レベルでの震災経験や考察、構造設計の科学的な手法の導入、実験、理論的考察が精力的にはじまった。多くの研究者の参入と後半にコンピュータの出現があったこともあり、細分化のため全体として複雑でわかりにくく、研究としては建築や設計と乖離してしまい、実設計上はブラックボックスとオペレーショナルレベルでの作業となってしまって、遂に完成をみなかった100年間であったと考えます。

3　構造設計の今後

21世紀の構造設計は今までの蓄積を総合し、精度やばらつきを考慮して取捨選択を行い、再びヒューマンスケールの設計法にまとめなおすことになるのではないかと思います。

4　良質のデザイン

21世紀の半ばまでに、環境・資源・人口（グローバルにみれば急激な増加と少子高齢化の同時進行）の問題が切実に顕在化してくると考えます。もはや、アーキテクトの奇を衒った一過性のファッション・ショーや安いだけの建物を追求している余裕はないと思います。

高耐久性をもつとともにエコロジー的にも優れ、デザインとしては永年にわたる人々の鑑賞に耐え、飽きられず、機能の変化にも対応しつづけられることが重要な条件（良質のデザイン）となってくると思います。トリレンマの厳しい状況のなかで既存の建築を全方位的にみて優れた建築に建て替え、良質のストックとして蓄積していくために経済的な公的支援システムのしくみを創設する必要があると考えます。

（つじ　ひでいち）

主な作品　さくら銀行関西本部ビル、ORC200など

設備は建築の殻を超える

中北英孝
NTTファシリティーズ関西事業本部都市建築設計部設備設計室長
設備／1963年生

1　インテリジェントビル

日本のインテリジェントビル（以下ＩＢ）の初期の物件という点からNTT品川TWINSが強く記憶に残っています。ＩＢとしてはアメリカのシティプレイスビルが一番最初と言われていますが、日本ではＩＢという言葉がまだなじみのない時代に各種の通信・ＯＡシステムが導入されている点で非常に興味を持ち、入社の動機の一つにもなりました。結局、当ビルでは勤務したことがありませんが、その流れを踏まえて現在のＩＢあるいはマルチメディアに沿った設備設計を実施しています。

2　建築設備

特に戦後においては、何事においても急激に成長、発展した時期で、建築設備の分野においても当初のボイラーを中心としたセントラル方式（冷房は扇風機）から入居者の快適性、パーソナル性に則した個別空調システムや温水洗浄ができる便座等、社会が豊かに発展するとともに発生した様々なニーズに対応する技術が産まれた時代だと考えます。生活レベルも非常に高くなり、今では前記のような技術は一般的、標準的になってきました。

3　情報通信

情報通信のめざましい進歩により、あらゆる場面でのボーダレス化が進み、現在の生活様式が一変するのではないでしょうか。在宅勤務が多くなると同時に海外との取引きもレストランでの食事中に出来るなど、あらゆる場所が執務空間になり、対応する設備技術は建築の殻を超えたものになると思われます。一方ではこれらを支える基盤設備としての信頼性の高い設備技術も必要とされ、より多様化、高機能化が求められると考えます。

4　建築ストック／機能性／コミュニケーション

建物の建設、撤去の及ぼす地球環境への影響が大きいことを考えると、今後の建物は将来に対し有効な建築ストックとする必要があり、長期間使用できるよう、飽きのこない、かつ情報通信に柔軟に対応する機能性を備えたデザインが要求されるだろうと思います。一方では息つく間のない「社会」に対し、一服の清涼剤を求めるような空間を演出し、コミュニケーションの場として、街作りへ寄与するようなデザインとなっていけばと考えます。

（なかきた　ひでたか）

望まれるエンジニア育成

中原達夫
新日本設備計画相談役
設備／1935年生

1 和の精神

私が影響を受けたと申し上げるよりも、建築設備を教えていただいたのは、今までにお付き合いを頂いた数多くの建築家の先生方であり、大変感謝致しております。設備設計事務所に入社当時、桜井省吾先生より技術的な指導はもとより、「和敬」の額を座右の銘とされ、常に「和」の精神を教わったものです。また、特に記憶に残っているのは、私が設備設計を始めたころ渡辺節建築事務所の仕事でスタッフの方々の設計に対する情熱、ディテール全てに対する飽くなき追究など、建築を創造する場を目にして、建築設計の基本的な心を勉強させて頂きました。

2 建築設備士の制度

大阪万博が引き金となり、建築技術の急速な進歩にともない、設備分野においても高度な専門知識をもったスタッフが不可欠となり、この時期に多くの設備設計を専業とする設備設計事務所が誕生しました。その後、建築士法の改正で建築設備士の制度が定められ、高度化、複雑化した建築設備の設計・監理に関する建築士のパートナーとして、またシステムプランナーとして建築設備技術者が根付いて来た時代ではなかったでしょうか。

3 望まれる大学での電気設備講座

建築設計資格の国際化の動きが進み、異なる二国間で互いに認証しようとする「国際相互認証」が検討されています。一方、近年建築物への社会的要求が高度化、多様化され、特に高齢化社会への対応、地球環境への配慮、社会環境の高度情報化等、これら建築設計上的確に対応して行くことが強くもとめられています。なかでも建築設備の果たす役割がますます重要性を増しています。これらを踏まえて、21世紀に向け国際レベルの建築設備設計のエンジニアの育成が急務と考えられます。特に電気設備部門については、現在4年制理工学系大学での教育は皆無であり、実社会に入って始めてゼロからのスタートであり、建築の基礎を含めた教育講座の創設が強く望まれます。

4 調和、長寿命化

○ より調和の取れた都市建築を望む。：インフラの整備、建物の色彩、広告塔・看板等の規制など建築物の集合による都市景観を配慮した都市建築でありたい。

○ より生命力のある建物（長寿命化）を望む。：建築物を快適で効率的に利用する上で、地球環境のための省エネルギー化、温暖化防止を計り、建物のリニューアル、設備のライフサイクルを視野にいれた建物でありたい。

（なかはら　たつお）

主な作品　徳島県立文化の森

時間の中で美を構築

長谷川弘直
都市環境計画研究所所長
ランドスケープ／1945年生

1 子供の成長から学ぶ

20数年前、初めてアメリカはサンフランシスコの街の古い倉庫を改造したローレンス・ハルプリンのオフィスを訪ねた時、髭にジーンズのいでたちのカッコ良さとダイナミックな「ルーズベルトメモリアルパーク」のプランを見て、これがランドスケープデザインかと心が躍り、大変刺激的であったが、影響を受けるには距離がありすぎたことを覚えている。

旅が好きで、時間を見つけては国内外、方々の街や人、風景と出合い、そこで体感したところからランドスケープデザインを学んできた。また、3人の子供達の成長から学ぶことが大きかった。何気なく楽しく遊ぶことの行為と行動や純でたくましい想像力を10数年の時間を通して触れ、共有し、そこから得たものは大きい。人々にとって安らぎと刺激的で楽しい場所、美しい風景をつくるランドスケープデザインは難解な理屈理論の展開からは生まれない世界である。

2 ヴァナキュラーの喪失

戦後の経済成長と共に都市は量をつくることで質を置き去りにしてきた。地方は都市のもつ刺激的な建築や街や景観を都会風のデザインに仕立て、地域のもつ伝統・文化や作法を捨て、安易に受容してきた。独自のヴァナキュラーの喪失が今、過去の反省として21世紀に目を向ける。

3 時間の中で美を構築

景観10年、風景100年、風土は1000年の時間でつくられるものと教えられた。建築は造られた時が最高の美を持ち、ランドスケープは時間の中で美を構築していく。21世紀だから新しい思想や創造でなく、置き去りにしてきた「人間らしさと誇り」、「作法」をもって、「さりげなく」つくること、「自然」に学ぶこと。

4 建築家の不幸

多くの建築家は何事について全てが出来るものと想い込んできたことが不幸であった。つくることにおいて人と場の「状況」と「関係」を大切にする。建築と自然（宇宙）・建築と地域風土・建築と都市と中間領域が呼応する詩的な景観・他人との「関係」を知的に受容し共有・創出できる建築家。

（はせがわ　ひろなお）

主な作品　大阪大学附属病院景観・外構、ＪＲ兵庫キャナルタウン、安濃中央公園
主な著書　都市環境デザイン13人が語る理論と実践〈共編〉（学芸出版社）他

まちづくりとコミュニティーアート

畑　弘行
株式会社B・プレイス代表取締役、NHK造形デザイン講師
アート／1947年生

1　ジャン・コクトウ、ピカソ

ジャン・コクトウの数奇な人生と、20世紀最高峰の芸術家ピカソの関係。

2　環境アートの誕生と出発

旧東ドイツ、ハレの芸術大学の招待で、環境アーティストと建築家との協同作業によるエコロジー住宅（約100㎡）を見る機会があった。一言で言えば、無人島に漂流してしか創り得ない建築物に思えた。エコロジー＝原始社会の住居が答ということなのであろう。そこには物質的な人間社会の欲望を切り離さないといけないという教えもありそうだ。私にはとうてい住めない建物に思われたのだが。

3　コミュニティーアート

阪神大震災後、一人の芸術家としてではなく、物づくりとしてコミュニティーアーティストとつき合うことが多くなった。ヨーロッパで私は、芸術家がまちづくりに大きな役割を果たしている姿をまのあたりにした。住民参加型のアート（コミュニティーアート）の誕生はヨーロッパのまちづくりには不可欠である。住民にとって住んでいる街が一体どうなるのか、想像できないということは決して受け入れられることではない。いかなる開発においても第一段階にコミュニティーと協力することが重要ではないだろうか。建物のデザイン・景観デザインは当然ながら、まちづくりはその地域の人々と会話を持つことから始めなければならない。それらのコミュニティーは地域の人々に参加をもたらせ、知らせ、理解させるための最高の情報手段となるだろう。コミュニティーアートが生み出す住民参加型のまちづくりは素晴らしいことなのである。私はコミュニティーアートを用いて、神戸震災復興に関するアートをデザイン・制作する機会がある。現在も森南地区（震災復興事業）の駅前広場や高架下連絡通路等のアートアドバイザーとして参加している。街が新しく生まれ変わると同時に人々の心の中にまちづくりに対する不安が生まれている現状を知り、より一層、コミュニティアートの必要性を感じた。コミュニティアートの制作参加で、共に物を創ることによって心をつなげ、癒される。今後のまちづくりには芸術が不可欠であると確信した。

4　建築家とコミュニティーアート

芸術家が自分の感性で作品を創る、公共機関が求める作品を創る、住民参加型による地域住民の求めるコミュニティーアートを創るということは変わらないであろう。一人のコミュニティアーティストとして、あえて21世紀・未来を想うとき、エブラハム・リンカーンの独立宣言にあやかって表現すると、「住民の、住民参加による、住民のためのアート」が21世紀のまちづくりのコミュニティーではないだろうか。

（はた　ひろゆき）

主な作品　近鉄難波駅構内ミラーアート設置、ＪＲ住吉駅東地区ストリートギャラリー陶板アート、市民広場スチールアート設置

感動を与えるデザインの共有

福岡喜久雄
大阪芸術大学教授、福岡研究室デザイナー
インテリア／1930年生

1　影響を受けた作品

専門分野がインテリアなので、公開された情報量が少なく回答が困難だが、

a．隈　研吾氏の亀老山展望台／まだ現地は拝見していないが、コンセプトに共鳴。

b．ヘイッキ・シレンのヘルシンキ郊外のオタニエミの学生のための礼拝堂／コンペのルール違反で受賞しなかったが、具現化された背景に共感。

c．邑事務所のいわき市の草野心平記念文化館／根拠は自作デザインＩ社のサークルロビーチェアをパソコンで貼付けると、調和度が最適であった。

2　四角な容器

戦後の復興期・デザインの啓蒙期、そして地価の高騰からバブル期、ここで見てきた建築技術は建築だけの目的に終始し、インテリアデザインを置き去りにした。エモーションを欠いた建築内部は、単にオフホワイトだけの四角な容器であり、基礎的なデザイン理論と、有彩色が使えない――デザイン音痴の疑問が残った。特にターミナル地下のモールのアクセス空間にこの傾向が顕著、コンセプトの訴求性が読めない。

3　人に感動を与えるデザインの共有

インテリアデザインの初期の形態は、ラスコーやアルタミラで解かるように、シェルターそのものである。人が建築術〈学〉を必要とする根拠は、インテリアを構築する手段として必要だからである。建築技術の革新は、『より高度なインテリアの可能性を充実すること』であり、人に感動を与える次元の高いデザインを共有すべきと考える。生態系の共生を叫ぶなら、また本気で考えるなら、地上に突出するすべての建造物は、環境破壊を指標する。

人は、地下に潜るべきか？

4　環境共生

建築造型の発想を、第三者に見せる――誇示――する発想から、環境共生に納得できる建築学と建築倫理を次世代に引き継ぐムーブメントを期待する。

（ふくおか　きくお）

主な作品　住宅・都市整備公団尼崎特化型住宅（働く女性の住まいの提案）、大北耳鼻咽喉科梅田診療所（第一生命ビルアネックス４Ｆ）、NKK箱根保養所他

主な著書　住宅設計とインテリア（学芸出版社）
パースペクティブ（学芸出版社・日本建築協会企画）

安心都市の創造

室崎益輝
神戸大学都市安全研究センター教授
都市計画／1944年生

1 災難進化論

都市防災に方向転換をする過程では、ジェーンジェイコブスの「大都市の死と生」、西山夘三の「地域空間論」に大きな刺激をうけた。都市防災の深奥を極める過程では、寺田寅彦の「災難雑考」などの無数の小論に大きな影響を受けた。ジェイコブス、西山、寺田に共通するものは、都市の進化論的な理解である。とりわけ、寺田の「災難進化論」は、今もなお私の思想的バックボーンになっている。

2 効率優先安全軽視

機能的なもの、人工的なものの勝利の時代。その結果として、機械のようにシステム化された都市、彫刻のように造形化された建築が出現し、物質的な豊かさを享受することが可能となった。その反面、人間的なもの、有機的なものが片隅に押しやられ、時間的にも空間的にも「ゆとり」のない生活のなかで、精神的な豊かさを見失っていく世紀であった、とみなすことができる。さらに付け加えれば、その精神的な危機は生命の危機につながり、地球滅亡の崖っぷちに私たちを追いつめてきた。

3 安心都市の創造

21世紀は、物質文明から精神文明に回帰する時代。地球環境の危機からの脱皮をはかりつつ、真に豊かな社会の形成に努めることが求められよう。そのなかで、安全と安心は極めて重要な価値として再認識され、都市形成の目標あるいは規範となる。心の安らぎをキーテーマとして、都市の形成とその管理をはかることが求められる。防災や防犯だけではなく、高齢社会問題や地球環境問題の解決をはかる、ヒューマンな都市計画的アプローチが欠かせない。

4 キーワード共生と共創のデザイン

心やすらぐ安全で安心できる空間の創造をいかにはかるか。そのためには第1に、人間と自然が共生する環境共生型の建築の創造に努めること。第2に、多様で異質な主体が共存する渾然融合型の建築の創造に努めること。第3に、造り手と住み手が共働してうみだす共創合作型の建築の創造につとめること。アメニティがありコミュニティのある空間は自ずからセキュリティのある空間となる。

（むろさき　よしてる）

主な作品　神戸ベイシェラトンホテル＆タワーズ（防災計画担当）
主な著書　建築防災・安全（鹿島出版会）

有限な生存圏

八木大児
平田建築構造研究所代表取締役
構造／1937年生

1 構造物の実例や提案

基本的には、有史以来形作られてきた構造物、殊に事故例を含めての影響があります。これ等はその時代の自然、社会環境、材料、技術等の総合体として生まれたものです。

身近なところでは、私が建築構造を自分の仕事として意識し始めた若い頃に、感動を受けた次の人達の影響があげられます。

エーロ・サーリネン、アントニン・レーモンド、丹下健三とこの人達を支えた構造家の方々です。前の三氏には建築を構想される折の構造のとらえ方に、後者には、それを実現するための技術や方策に。

2 地球規模

急激な人口増と大量生産・消費によって、良くも悪くも色んな事柄が地球規模に拡大してきた。従って私達の分野も有限な地球内が活動範囲で、自ずと将来への影響を意識させられている。

一方、今世紀が宇宙開発の幕開けとも重なり、今後のそう遠くない世紀には、人類の生活圏が地球外へ広がるとの予測も現実味を帯びてきている。戦争や公害が克服出来たとして、その時期迄どうつなげてゆくかである。

私達の計算手段が計算尺からコンピューターへ移り替わった世紀、弊害にも留意要。

3 有限な生存圏

1972年、ローマ・クラブのレポート「成長の限界」の題名が示すものは、私達の分野にとって今世紀以上に切実な課題となる。具体的には、既存建物の選択保存・改修、新築に際して建築計画上の自由度を上げ、ライフサイクルを通して省資源、低公害、高耐久性の軀体を造り、有限な生存圏の有効利用、長寿命化に取組むことになる。

4 一つの方向

生活領域は、従来に加えて、山地、海上や、地中、海中さらには宇宙へ広がる。その際、建築はあるまとまった群が対象となり、それは平面、または高さ方向に広がりのある組織だった軀体構造に、所要の機能をもった多様な殻の取付いたものがイメージされる。これ等は交換や増殖が可能で耐久性にも差がつけられよう。

（やぎ　だいじ）

主な作品　箕面観光ホテルエレベータータワー、ＪＲ山陰線京都二条駅上屋、大阪市中央公会堂保存・再生事業耐震改修

新しいジャポニズム

山岸　豊
株式会社 大龍堂書店代表取締役
文化／1948年生

1　ドキュメント作成のすすめ

偶然必然　僕が“生とは？”と自問自答していた頃、小林秀雄の「考えるヒント」に出会いました。それは、「複眼的洞察力」でした。また、父のメッセージ「末は大川となる水もしばしの間は木の葉の下を潜る」を心し、僕は「人は偶然の積み重ねを必然と考えそこに自分なりの道を見つけ喜び悲しむのでしょうか」という言葉を子に遺します。そして子は孫へ何を遺してくれるのでしょうか……。

2　こころの不在

20世紀はあらゆる事象に対し「人は人に対し何をなすべきか」を忘れた時代です。哲学者達は「我思う故に我あり」「人間は考える葦である」と説き、「考える力」「知を愛するこころ＝哲学」を薦めます。人間形成は「真の対話」から生まれます。しかし20世紀は「利己主義的世界」、「無関心」が横行しました。一体こんな日本に誰がしたのでしょうか。それは我々と物事を単眼的にしか考えることのできない日本の文化人「専門家」だったのです。真の文化人とは孔子の説く六芸（礼・楽・射・御・書・数）を備えた人間です。

3　「風土・町衆文化の検証からの実践」

大切なのは文化の成立過程です。文化はその地域の土着思考形態や風土と結合し、悠久の流れの中で幾多の変遷を繰り返し、洗練され日本文化が生まれました。風土と異文化との対話の必然性は、ル・コルビジェのスケッチ集「東方への旅」や若き日の原広司の「集落への旅」、司馬遼太郎の「街道を行く」、和辻哲郎の「風土」等で実証されました。すなわち、行動の方向性に方程式が必要なのです。それは、

3P (process, policy, phirosophy) ＋3w (whose, what, why) & one I (if) ＝人間」、

相対主義的シミュレーションの実践です。

4　新しいジャポニズム／「生きた」哲学の実践

吉村篤一は「伝統とは新しいスパイスを加味創作するもので作品は自分自身である」と言い、白井晟一は「本当の建築は50歳からだ」と説き、河野通祐は「建築家とはプロフェッショナル作家の人格に与えられる称号である」と人格形成に警告を発しています。

再生が基盤にある日本建築は部材を取りかえることにより数百年の風雨天災に耐えます。建築家は単にヨーロッパを模倣するのではなく、遺伝子の叫びに耳を傾け、こころ時代の〈日本特有の美学〉を再生させ、上記の方程式を基にデザインすべきです。また建築家は建築情報を子供達に発信し、マクロな〈楽しい〉議論を深めるべきです。建築家ではない我々も自分の職業において「新町衆文化の創作」を実践する使命感を持たなければなりません。感謝合掌

（やまぎし　ゆたか）

一寸先は闇

吉田和央
YOSHIDA KAZUO ATELIER 代表、彫刻家
アート／1949年生

1　心の片隅に

レオナルド・ダ・ビンチ

子供の頃、学校の教科書でみたレオナルド・ダ・ビンチのデッサン。最初に私の心に語りかけてきた芸術作品だと思う。科学者であり、芸術家でもあるレオナルドは、まるで、幼年期の、父、母、姉たちの私への語りかけ。学生時代の夜を徹して語り合った友人たち。苦楽を分かちあってくれる仕事の仲間達。そして人生をともに歩む妻や子供達のように、常に私の精神の片隅で存在している。

2　バブル経済の崩壊とともに

ニューヨーク、マンハッタンの超高層ビル群。実に絢爛豪華なデザインを施している。20世紀始め、アメリカの富の象徴である。このロックフェラーや、グッゲンハイムなどに代表される巨大な経済力を背景に、それまでのヨーロッパから引き寄せられるように、モダニズム美術はニューヨークを舞台に台頭する。

いわゆる現代美術の始まりである。

日本においても、1960年代より、“もの派”であるとか“ミニマルアート”等の概念的な芸術が、丁度、学生であった私の目にはセンセーショナルに出現してきたが、戦後の急速な高度経済成長のまっただ中であったことは否定できない。そして世紀末の今、バブル経済の崩壊と共に今世紀始めに出現した現代美術も行方を定めないまま低迷している状態である。

3　一寸先は闇

“歴史は繰り返す”と言うが、本当に繰り返すのであれば、我々は安心して未来を見つめ、設計する事が出来るだろう。しかし、“一寸先は闇”と言う格言もある。

4　文化の発展とは

20世紀は、アメリカ、日本を中心とした世界的な経済力が、スクラップ&ビルドを繰り返してきた。随分大切なものも失ってしまったと思う。今世紀の遺産と言えるものが、どれほどあるのだろうか。

成金パワーに応えるべく、建設現場では合理的、経済的なシステムが出現し、すべてをそのシステムにあてはめることで、スムーズに、かつスピーディに、実に美しいと錯覚する建物を作り出してゆく。建築は、工業製品のように合理性や経済性だけで解決できるものでは無いことは明らかである。しかし文化の発展が、経済によって裏付けられていることが、実に皮肉な結果を生み出しそうだ。

（よしだ　かずお）

主な作品　大阪市中央卸売市場業務管理棟モニュメント
今治市立図書館モニュメント、他

性能と質の時代

吉田治典
京都大学大学院工学研究科教授、環境地球工学専攻
設備／1945年

1 前田敏男とF.L.ライト

研究では、前田敏男・元京都大学総長。私の恩師である。世界に先駆けて計画原論を建築環境工学として成熟させた方であると捉えている。「建築に環境あり」という主張と共に、幅広く奥深い探求精神には大いに刺激を受けた。一方、建築家では、F.L.ライト。常にその時代における最新の建築設備をしっかりデザインに採り入れながらも、人間味のある環境を創出している作品は「環境共生建築」の原点のように思われる。昔から、外国を旅するとき、時間があれば氏の作品を訪れることを趣味にしている。設備とデザインの融合においてはI.M.ペイも巧いが、ライトには設備との融合ではなく環境を造る思想を感じる。

2 ハードシステムとの葛藤

建築が、今世紀初頭に発明された空調システム、近年の情報システムなど、機械や電気における数々の新しいハードシステムの台頭に直面し、その恩恵を受けると共に、一方ではその処理に悩み抜いた時代と捉える。

3 環境共生のための新技術

地球環境問題の解決には機械力ではなく自然の力が有用という主張から、特に建築では伝統建築への回帰や自然の利用が叫ばれる。しかし、伝統建築に住むには辛抱が不可欠であるし、それがいかに辛いことかは住む者がよく知っている。自然の利用は素晴らしいが、建築家が辛抱を強要するような独善的な自然観でも、自然を無視あるいは抑さえつける強面の技術でもない。自然環境と共生するためのソフトで新しい技術開発を目指すパラダイムシフトが期待される。道具を作る技術を得て人間が生存し続けてきたことからして、技術を捨てては人間は破滅する運命にあるように思う。

4 性能と質の時代

21世紀には情報の共有と公開の速さが更に増す。その結果、建築の形態的な質の差は縮まって、形態以外の性能や質の差が徹底して問われる時代が始まると予想する。私の専門分野で言えば、環境負荷低減、省エネルギー、運用保全設計が考え通りに全うされているか、それは他の建物と比べて適切か、が問われ始めるであろう。車や電気製品において今世紀の末に突きつけられた性能保証への要求が建築にいよいよ適用され、美しく堅牢で、かつ、地球への環境負荷が少ないことが実際に示せる建築が正当に評価されることになろう。

（よしだ　はるのり）

主な作品　山口県庁舎、滋賀県立図書館、日本エッセクス滋賀工場（全て日建設計在職中）
主な著書　環境工学教科書（彰国社）、空気調和・衛生工学便覧、記録史料の保存と修復（アグネ技術センター）

ゼロエミッション住宅

吉村元男
環境事業計画研究所所長
ランドスケープ／1937年生

1 影響を受けた人

梅棹忠夫（文化人類学者）
ルイス・バラガン（建築家）

2 自然征服型文明

自然征服型文明が横行した時代。

3 資源循環型文明

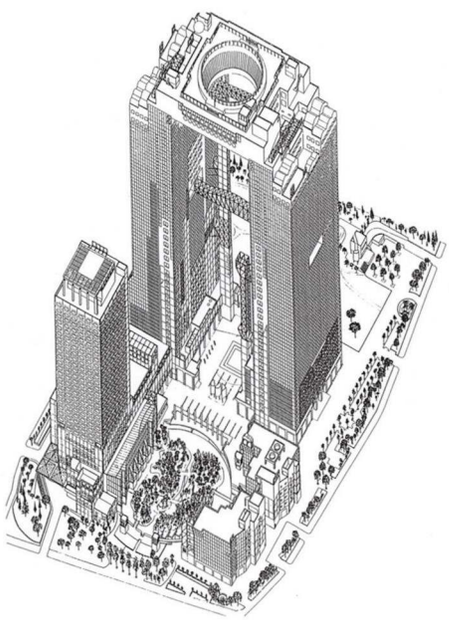
資源循環型文明を目指す。

4 ゼロエミッション住宅

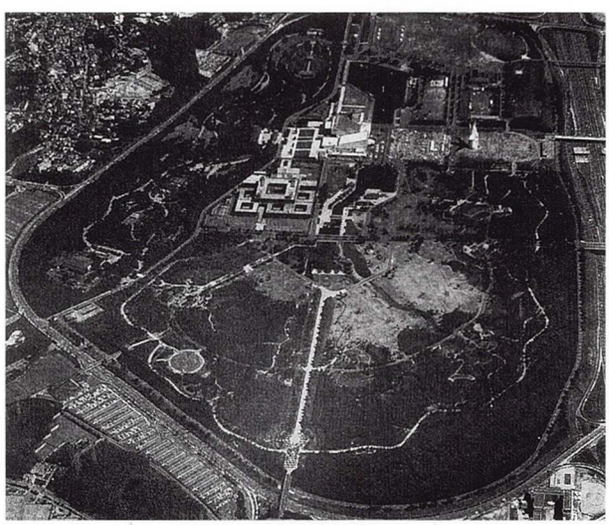
地球環境への負荷をゼロに近づける「ゼロエミッション住宅」のデザインが、21世紀の主流になる。

（よしむら　もとお）

主な作品　万国博記念公園自然文化園設計
主な著書　エコハビタ（学芸出版社）、ランドスケープデザイン（鹿島出版会）



新梅田シティ全体アイソメ



万博記念公園

「建築と社会」誌

特集一覧●1978〜1999

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

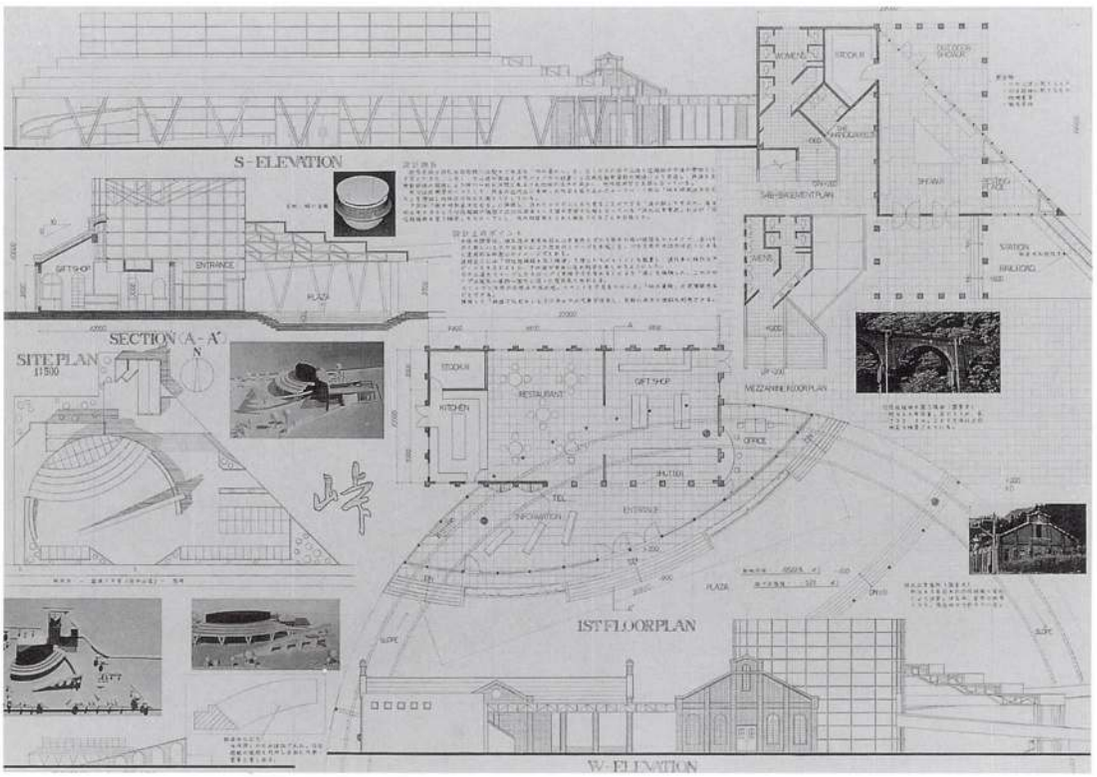
号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水*	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文―北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法―安全な環境をめざして*	●都市住宅―住まい手からの発想*	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設―地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観―まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザインポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営縮	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営縮の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と提言* ●第38回青年技術者	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくりーI―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーII― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界―	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営縮	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営縮	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品―	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江―その地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害!非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―住・都市の連関と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料*	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 Vol. 80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綴じる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバン・インテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者

*は欠号

第45回 工高生デザインコンクール

設計課題／道の駅

応募校数●32校　応募作品数●121点
締切日●平成11年9月30日　審査会●平成11年10月16日　表彰式●平成11年11月13日



入選・最優秀賞　**南雲智則**
（群馬県立前橋工業高等学校３年）

この作品は、横川という地域の直面している衰退という危機を、「道の駅」により脱しようという意図のもとに制作しました。日本の近代化を支えた鉄道の歴史が強烈に伝わるとともに、物語性のあるものとなるように心がけました。

予想していなかった結果で、言葉にならないほどうれしいです。苦しくつらかった日々をしみじみと思い出します。プレゼンテーションが満足な出来ではなかったので、内容が評価されたのだとうれしい反面、少し反省の気持ちもあります。いずれにしても努力で勝ち取った結果であり、喜びでいっぱいです。

審査総評

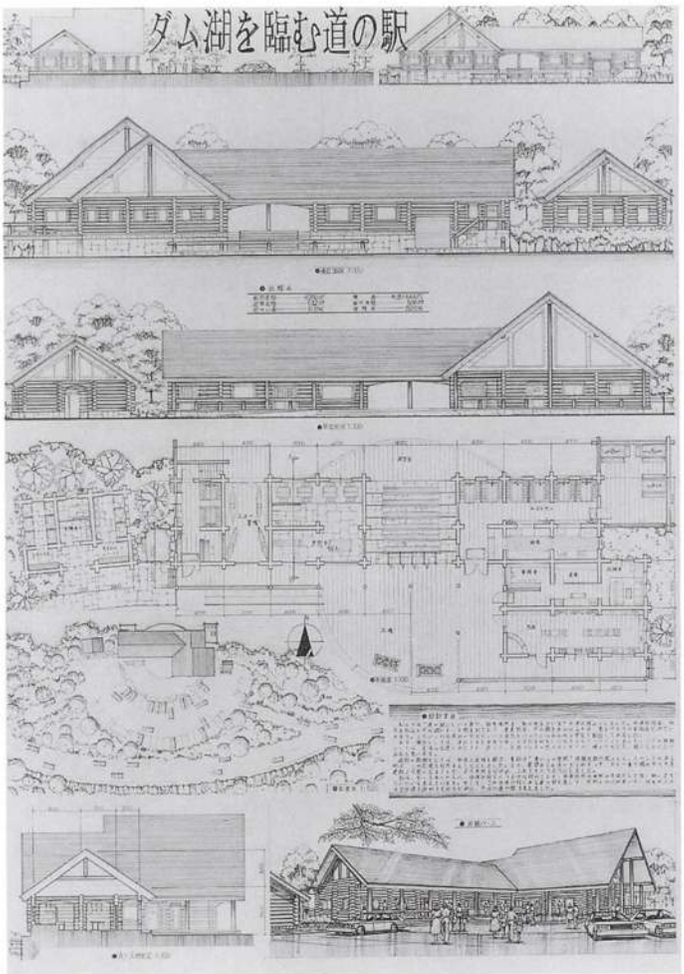
審査委員長　石川康介

プロトタイプもなく、いまだ確立されているとは言えない新しい課題に対して、若い工高生から多くの応募があり、求められるべき建築的な「解答」とは？という基本的な問題について審査員も共に考えてゆく過程の中で審査は進められました。今の時代の雰囲気、社会的背景を反映しているためか、あるいは休憩、安息を得るための施設としての性格のためか、地域とのかかわりを持ち、環境や風景に溶け込んだような自己主張的でない作品が審査員の共感を呼んだようです。建築を意欲的に創造することへの評価があると同時に、メガストラクチャー的なもの、暴力的とでも言えそうな建築物を道端におくことは敬遠されました。

最優秀賞となった**南雲君**の作品は歴史的遺産を取り込んだ敷地に、過去との連続性を考慮しながら破綻のない計画、可能性を秘めた構成力に評価が集まりました。積極的に収集した資料、模型写真などを駆使したバランスよいプレゼンテーションによる図面効果も好ましいものです。前提とされた既存の「文化村」、博物館、駅との関係が表現されていたならもっと良い作品になったと思われます。優秀賞となった**川津さん**の案はあまりにも完成されすぎて、創造性の点から考えて審査の最終段階まで賛否両論に意見が分かれましたが、完ぺきなまでの鉛筆仕上げによる表現力がより評価された作品です。同じく優秀賞、**小林君**の案は車を利用する人に対してよりも、むしろ歩行者からの視点や、靴を脱いで畳部屋で休憩するアイディアが新鮮でした。建物の高さを抑え、地域性を考慮しながら現在と過去との関係性をも表現しています。

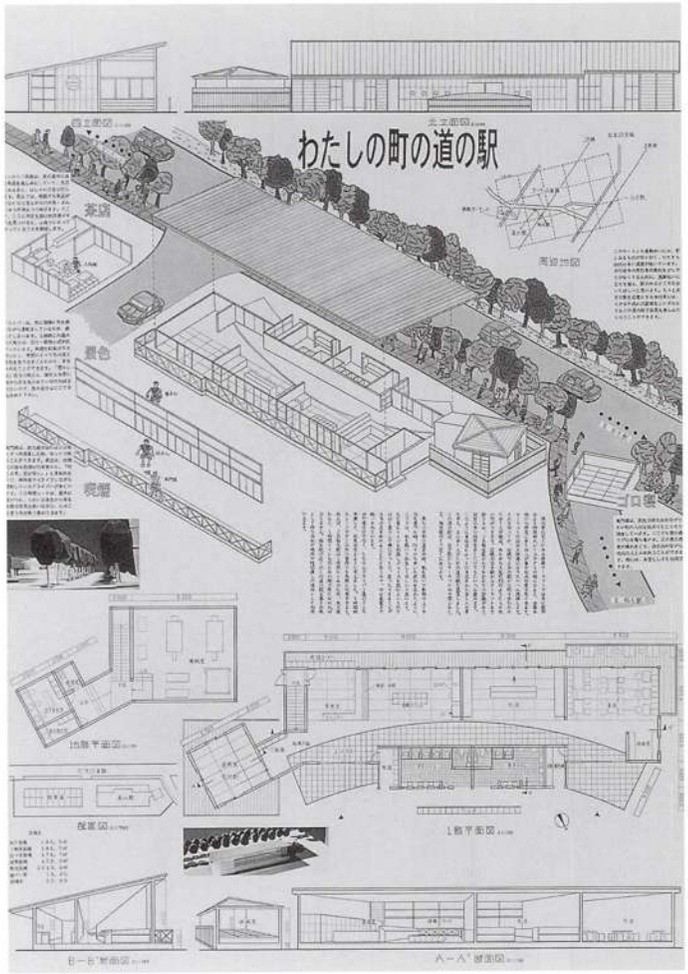
優秀賞にはなりませんでしたが、以下の入選作品はそれぞれユニークな特徴を持っています。**北原君**の案は屋根に取り付けられた二つのお面からの印象ほどではありませんが、近年見られなくなった特異な空間の深みが感じられる作品です。**和田さん**の案は既存のものの借用であるかも知れませんが、それを建築作品に仕立て上げたアイディアの新鮮さが、いわば審査員の意表を突いたかたちとなりました。**蜂須賀君**の案は常套的なスケルトンによる造形ですが、日頃の問題意識がコンペの答えにつながって、このようなバス停があっても良いかも知れない作品です。**佐藤さん**の案は条件の厳しい敷地に対してあえて挑戦し、建築創造の面白さを実感させる意欲的、大胆な造形が共感を得ました。**前田君**の案は水に関連する様々な装置が集められ、作者の思い入れがよく理解できる作品ですが、盛りたくさん過ぎて建築的には焦点がぼやけた感があります。**尾形君**の案は他の案にはないスケール感のある優れたコンセプトを持った作品ですが、図面表現がそれを表現しきっていない点が惜しまれます。**福岡君**の案は情報社会に正面から向かい合う作品ですが、形態がやや安易な上、情報過多の時代に立ち寄った人々にさらに情報を与えることへの疑問が残ります。

121点から入選10作品に絞り込んでいく過程では、各審査員の思い入れ、評価の尺度の違いが錯綜しながら、それぞれの作品が持つ特質部分が膨らんだり、しぼんだりします。実力が伯仲した作品を前に長時間にわたって熱心な議論がなされた結果は、以上の通りです。



入選・優秀賞　**川津かおり**（大分県立日田林工高等学校３年）

この作品で構造をログハウスにした理由は、小さい頃から父のログハウスの設計をそばで見てきて、いつか自分も設計したいと考えていたからです。また、場所設定を大分県中津江村にしたのも、自分の育った土地の自然の豊かさや環境を多くの人々に知ってもらいたいと思ったからです。
私は、この作品には2カ月間取り組みました。その間、やめたいと何度も思いましたが頑張り、仕上がった時は感動しました。今回、入選のことを知ったときはそれ以上にうれしく、また、大変だったけれど努力して本当によかったと思いました。



入選・優秀賞　**小林義人**（三重県立四日市工業高等学校２年）

自宅近くにある鈴鹿サーキット場付近は、レースのたびに道路が渋滞し、大変混雑します。それを避けるために近鉄やJRの駅から長時間歩く人が続出しますが、この車社会によって引き出された歩く人のために何かできないかと考え、特に徒歩旅行者の疲れを癒す「道の駅」を提案しました。
高校在学中だけに与えられた特権だと思い、参加するなら入選できるようにがんばろうと作品を仕上げました。入選を知り、喜びと達成感でいっぱいです。夏休みも毎日のように登校した日々を思い出し、指導下さった先生方、友人、両親に感謝しています。

●審査記録

９月30日　応募作品受理
10月７日　予備審査―応募作品について応募規定との検討
（教育委員会・工高生教育小委員会）
10月16日　審査会――審査委員14名
（審査時間　13：50～19：40）

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校、応募数の報告と、大きな違反がなかった旨の予備審査の結果の報告があった。続いて審査委員長より、審査方針の確認があり、審査に入る。

■１次審査（審査委員14名）

全応募作品について、審査委員１名が10作品以内を選び、投票する。

得　票	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
作品数	1	0	1	2	5	0	1	1	1	4	7	17

＊得票２以上の作品を１次審査通過とし、得票１の作品17点について、投票した審査委員の意見と議論により１作品を１次審査通過とした。（審査時間13：50～15：05）

■２次審査（審査委員14名）

１次審査通過作品24作品について、審査委員１名が８作品以内を選び、投票する。

得　票	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
作品数	1	0	2	1	4	0	0	1	4	1	4	4

＊得票１の４作品について議論の後に、３次審査の対象作品をいかにするか、全作品について議論を行う。その結果、得票１以上の作品を２次審査通過とした。
（審査時間15：30～17：35）

■３次審査（審査委員14名）

２次審査通過作品22点について、審査委員１名が10作品以内を選び、投票する。

得　票	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
作品数	1	0	1	1	2	0	2	1	4	3	2	3

＊得票０の２作品を対象外とし、残り20点について議論、得票５以上の８作品を入選とし得票４の４作品より２作品を（この時点の審査委員は13名）、審査委員１名２回以内の挙手によって２作品を入選と決定する。
（審査時間17：35～18：50）

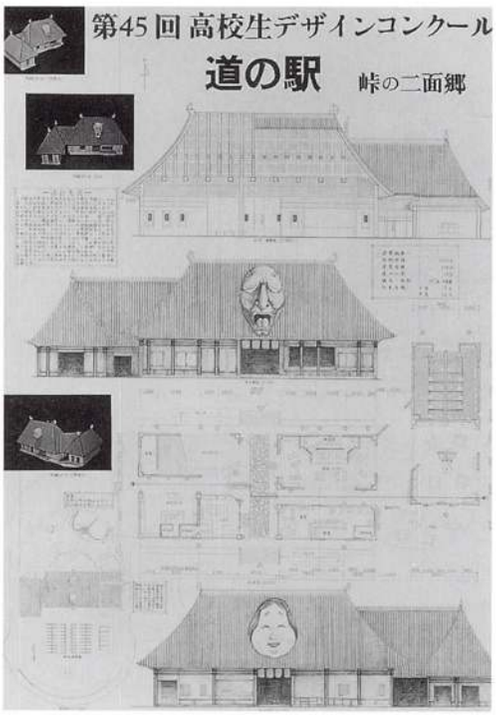
■４次審査（審査委員13名）

入選作品10点を対象に、最優秀、優秀作品について議論を行い、３次審査の最高得票の１点を最優秀とし、得票８以上の４作品から優秀作品２点を選ぶことを議論。
前次審査と同様の方法によって優秀作品２点を決定し、審査会を終了する。（審査時間18：50～19：40）

■審査員（50音順）

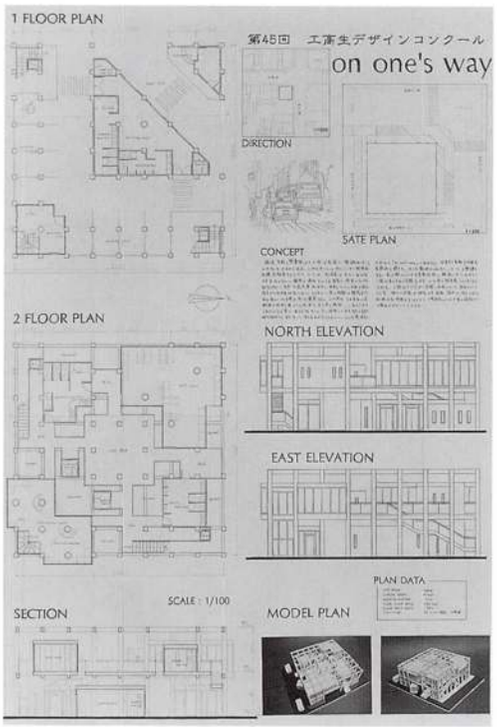
石川　康介／近畿大学理工学部建築学科助教授―委員長―
柏木　浩一／㈱竹中工務店大阪本店設計部プリンシパルアーキテクト
貴志　雅樹／㈱貴志雅樹環境企画室代表
北村　　潤／㈱東畑建築事務所設計部設計課長
栗原　幸二／㈱大林組本店建築設計第４部副部長
黒田　智子／武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科講師
設楽　貞樹／㈱安井建築設計事務所設計部専門部長
島崎　昭彦／建設省近畿地方建設局営繕部建築課建築課長
遠松　展弘／㈱日建設計取締役大阪本社副代表兼設計室長
長坂　　大／京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科助手
松本　　明／松本明建築研究所代表
安原　盛彦／秋田県立大学建築環境システム学科教授
山本　光良／㈱昭和設計企画設計部部長
吉羽　裕子／㈱アイ・エフ建築設計研究所代表取締役
吉村　英祐／大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻助教授

＊審査員の所属は募集時のものです。

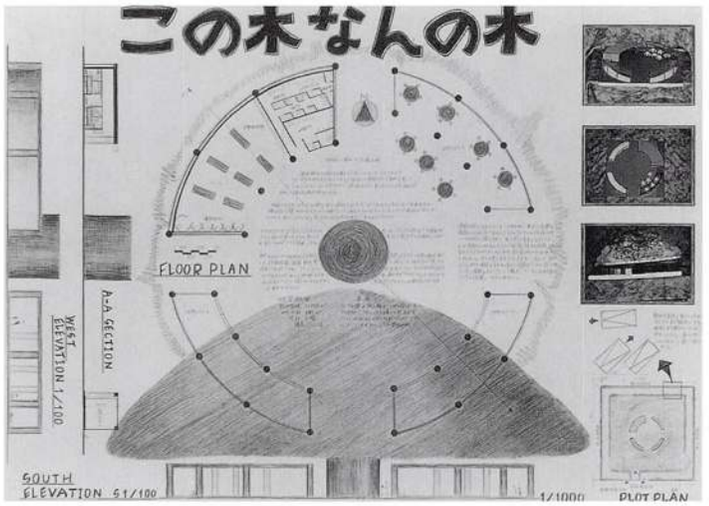


入選　北原慎也
（大阪市立工芸高等学校３年）

僕は京都という町が好きで、将来はそこに住みたいと思っていますが、この作品は京都という町のすばらしさやその文化などをより多くの人々に知ってもらいたいと思い制作しました。自分が利用するにあたってこういうのがあればいいなと思うことを作品制作に生かしました。
入選の知らせを聞いた時、やったあと思った反面、あれだけ力を入れて頑張ったのだからとも思いました。大変すばらしい賞をいただき名誉なことです。これを人生の誇りとして今後も頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

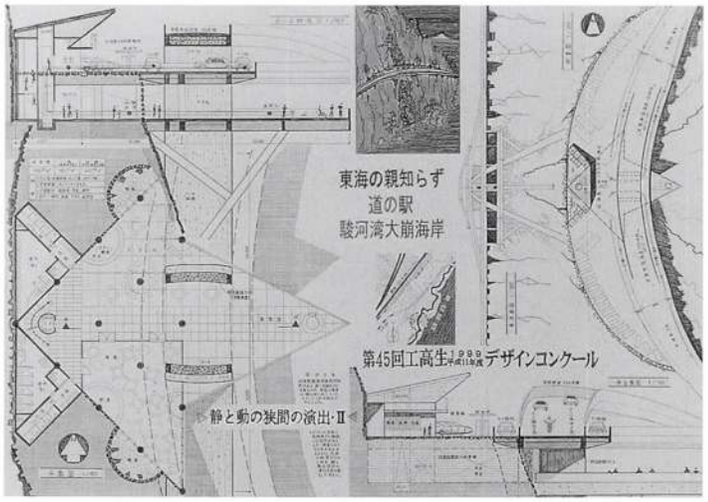


入選　蜂須賀啓泰
（京都市立伏見工業高等学校３年）



入選　和田千早（大阪市立都島工業高等学校３年）

通りすがりの地域の老若男女みんなが落ちつけ安らげるところをめざし、その結果行きついたのが「自然・みどり」という言葉です。このキーワードをもとに、中途半端なみどりではつまらないという思いから、この樹を使うことを考えつきました。ここを利用した人が、この小さな自然から何らかの情報を得られればいい。もしくは心が癒されればいい。これはそんな私の思いがたくさん詰まった作品です。
締め切り直前まで学校に居残ってやっと仕上げた作品だったので、まさか入選するとは夢にも思っていなかっただけに、うれしさでいっぱいです。

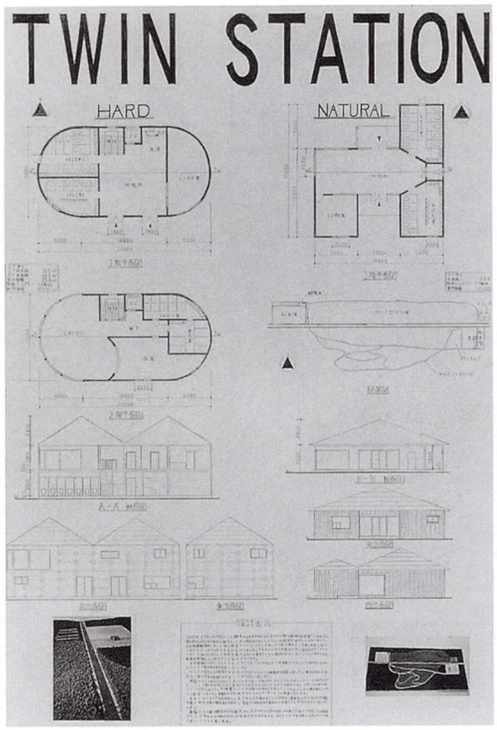


入選　佐藤智子（静岡県立静岡工業高等学校定時制４年）

道の駅が、どこにあったらいいのか？どんな内容にしたらいいのか？を考えてみて、静岡から見る富士山を他県の人にも見てもらいたいと思い、大崩海岸を選びました。ところが地形が厳しく、敷地は？構造は？などいろいろ悩みましたが、結局、国道を崖からはね出してつけかえることで解決しました。2年連続の入選で本当に驚きました。設計には答えがないといわれますが、自分で考えたことが認められると、考える方法や方向性が見えてきます。この経験と気持ちをこれからも忘れずに勉強して卒業設計に生かし、有終の美を飾りたいと思います。

通学途中の道路で交通渋滞がおき、イライラしているドライバーやバス停で待ちくたびれている人々を見かけますが、高齢者や子どもがバスに乗降するとき「危ないなー」と思ったことが都市の中に道の駅をつくろうと思ったきっかけです。都市生活の拠点として利用でき、渋滞の原因となる違法な路上駐車を減らすことができます。
入選したと聞いたとき、初めは半信半疑でしたが、通知書が届き、やっと実感できました。まさか入選できるとは思っていなかっただけに、とてもうれしく思います。

■応募校（順不同）
北海道
函館工業高等学校
秋田県立
秋田工業高等学校
秋田県立
横手工業高等学校
山形県立
山形工業高等学校
茨城県立
土浦工業高等学校
群馬県立
前橋工業高等学校
長野県立
飯田長姫高等学校
長野県立
池田工業高等学校
静岡県立
静岡工業高等学校定時制
静岡県立
天竜林業高等学校
静岡県立
浜松工業高等学校
私立
名古屋工業高等学校
岐阜県立
大垣工業高等学校
三重県立
四日市工業高等学校
富山県立
高岡工芸高等学校
大阪府立
今宮工業高等学校
大阪市立
工芸高等学校
大阪市立
都島工業高等学校
京都市立
伏見工業高等学校
兵庫県立
尼崎工業高等学校
兵庫県立
龍野実業高等学校
兵庫県立
東播工業高等学校
兵庫県立
豊岡実業高等学校
兵庫県立
兵庫工業高等学校
岡山県立
岡山工業高等学校
福岡県立
浮羽工業高等学校
福岡県立
福岡工業高等学校
長崎県立
島原工業高等学校
長崎県立
長崎工業高等学校
長崎県立
大村工業高等学校
熊本県立
熊本工業高等学校
大分県立
日田林工高等学校



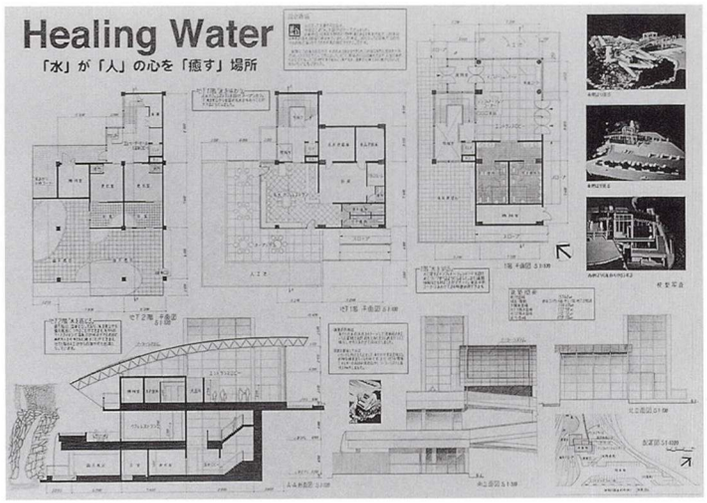
入選　**尾形　亮**（北海道函館工業高等学校３年）

広大な北海道でも「道の駅」は年々増加してきており、以前よりも身近な存在となってきました。今回「道の駅」を設計するにあたり、敷地条件の「敷地の大きさ自由」に注目し、敷地を大きくとることによって「行き」と「帰り」で二通りの体験ができないだろうかと考え「TWIN STATION」を設計しました。
完成したのが締め切り間際で、入選するとは思っていなかっただけに、入選の通知を受けたときは本当に驚きました。最後まで諦めずに努力すれば結果が出ることを忘れずに、これからも頑張っていきたいです。



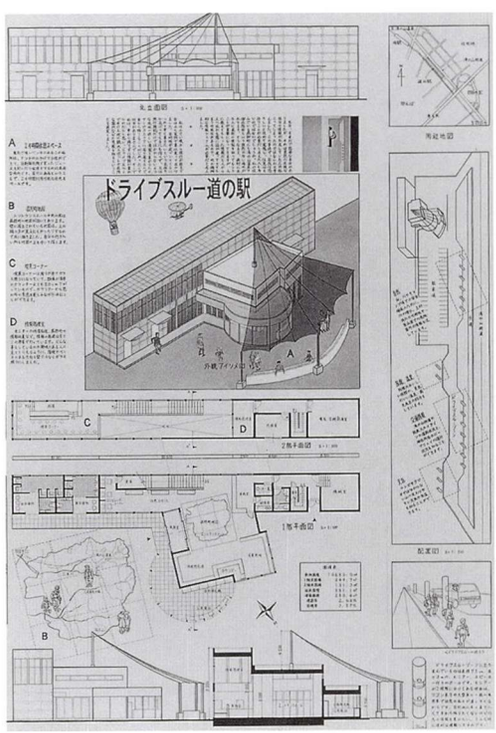
入選賞牌

子供の頃家族で旅行したとき、父親が情報を集めるためによくサービスエリアなどに寄り道するのがじれったかった記憶があります。そんな経験から、今回の道の駅は、わざわざ車を降りなくても情報が得られるよう、ドライブスルーにしました。ドライバーは車種に合わせてポールに付いているモニターを選べるようにしています。
参加するなら入選できるようにと頑張りました。アイデアがなかなか出ず苦しんだので、入選の知らせを聞いたときはとてもうれしくホッとしました。毎日のように登校した夏休みも、よい思い出になりました。指導下さった先生方、友人、両親に感謝しています。



入選　**前田洋輔**（私立名古屋工業高等学校３年）

「道の駅」というテーマを聞いて思いついたのが、温泉のある道の駅でした。「水が人の心を癒す」をコンセプトとし、敷地を滝のそばと決め、実際に現地に行き測量をして調べました。自然採光を考え１階をガラス張りとしたほか、環境の面からソーラーシステムを 取り入れました。また、各階の段差をなくしたり、車椅子の方でも自然が感じられるように屋外スロープを設けました。
まさか入選するとは思っていなかっただけに、入選通知を受けとてもうれしかったです。指導して下さった先生方に感謝しています。高校生活のよい思い出になり、本当にありがとうございました。



入選
福岡　学
（三重県立四日市工業高等学校３年）

入選者の感想文は、誌面の関係上、委員会にて要約の上掲載しました。
（文責・出雄　隆／教育委員会）

■課題の趣旨

近年、道路網の充実にともなって、長距離や夜間のドライブをする人のほか、高齢者や女性の中にもドライブを楽しむ人も増え、快適で安心して立ち寄れる休憩施設が一般道路にも求められています。
道の駅は、このような背景から、主要な幹線道路沿いに整備が進められている公共の施設です。これは、単なる休息の場としてだけではなく、地域の活性化を図る目的で、地域に関わるさまざまな情報を提供する場としての利用も期待されています。
本課題では、ドライブを楽しむ人やそこを訪れるさまざまな人がわくわくするような使い方のできる「道の駅」の提案を求めます。車社会と地域のよりよい関係がそこに築かれるような、既存のかたちにこだわらないアイデアあふれる作品を期待します。

■設計条件

1．敷地／敷地の大きさ、形状ともに自由。
2．規模／延べ面積は自由とする（ただし、500㎡程度）。構造・階数は自由。
3．所要室／休憩スペース・情報スペース・その他必要なスペースを適宜設ける。
4．その他／24時間利用できる駐車場、便所、電話を設ける。

■所要図面

1．配置図／縮尺自由（敷地・道路・建築物・駐車場の関係を示し、植栽などを記入する）
2．各階平面図／縮尺１：100
3．立面図／縮尺１：100（２面以上）
4．断面図／縮尺１：100（１面以上）
5．透視図／設計意図を示すところ（アイソメも可）。着彩仕上げ。模型写真に替えてもよい。
6．設計説明／設計趣旨（立地・周囲の状況などについての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。設計意図を表すサブタイトルをつけてもよい。
7．その他／平面図・断面図には、室名・寸法を記入する。その他必要と思われる図面を描いてもよい。

48 芳野大樹



being

being

バードハウスプロジェクト実行委員会

総括プロデューサー



THE BIRDHOUSE PROJECT

芳野（よしの） 大樹（ひろき）
1950年 4月生まれ
1972年 小泉産業株式会社入社
現在　同社経営企画・人事統括部所属

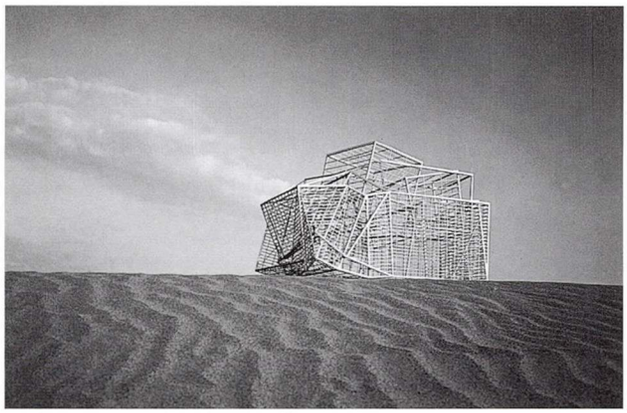
バードハウスプロジェクト実行委員会
〒559-0034
大阪市住之江区南港北 2－1－10
ＡＴＣビルＩＴＭ棟 10階
大阪デザイン振興プラザ事務局内
TEL 090－8527－3243
FAX 06－6615－5173

近年、水・空気・土が汚染され、そこに住んでいる多くの生物がさまざまなよくない変化を起こしています。車や電気などがもたらした快適で豊かな生活が、地球環境を危険な状況に招いています。環境保護は大切、何かしなければ。環境を守るために何かしようと常々考えていた一人のサラリーマンがいました。ものを使い捨てない、ゴミにしない、リサイクル……、身近かにも多くの手段や方法、活動があります。しかし彼が考えた事は、世界のトップアーチストやクリエイターに地球環境や地球の未来への思いを込めて、巣箱を創ってもらいその作品を展示すれば環境問題を広くアピールできるのではということでした。

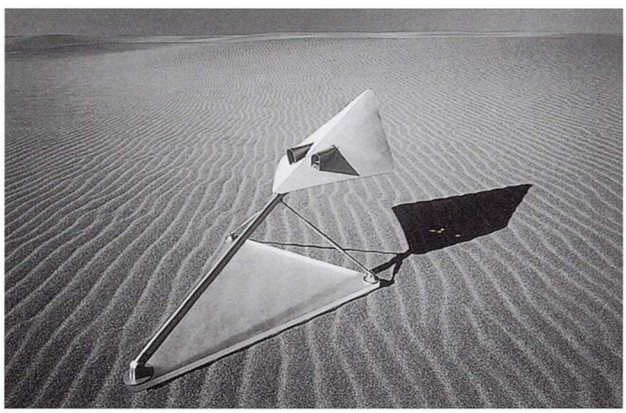
そのきっかけになったのは、8年前の会社設立50周年記念のイベント。住環境をテーマに企画案を会社で募集。その時、「未来－夢－環境－住－人の手による構造物－もっとも小さな住空間－巣箱」とたくさんのキーワードが浮かび上がり、次第に形となり、バードハウス展示会のアイデアがまとまったのです。この案が会社に採用され、第1回の展示会が93年 6月に開催されました。

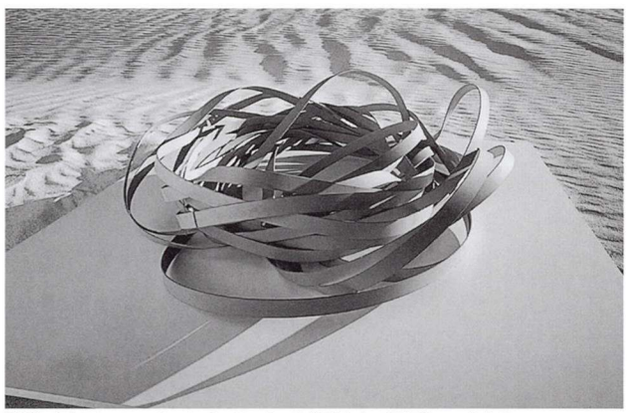
バードハウスは、はじめは害虫の駆除に使われていたものですが、やがて森林の保護と鳥の繁殖を両立する為に使われるようになりました。つまり、人の手による構造物（バードハウス）と自然（鳥）を共存させる知恵だったのです。

第1回目のバードハウス展には、安藤忠雄、ピーター・アイゼンマン、ダニエル・リベスキンド、ニール・デナリ、4人の建築家がバードハウスの力作を出展・参加してくれました。それぞれの作品は哲学的で難しいものでしたが、自然や環境への提言にあふれ、ユニークな発想が光っていました。そして、この年10月に第2回目の展示会には内外の産業デザイナー9人のバードハウス展が開かれました。1・2回を通し参加してくださった人々の巣箱創りにかける


「建築家のつくったバードハウス」ピーター・アイゼンマン


「宇宙デザイナーのつくったバードハウス」フィル・ハーズ


「空港デザイナーのつくったバードハウス」ニコラス・T・グリムショー


「空港デザイナーのつくったバードハウス」佐野吉彦・阿部紘三・安東孝一

熱意が、バードハウス展のスケールを大きく、テーマを深くしてくれました。

1・2回のバードハウス展終了とともにこの企画は幕を閉じるはずでした。しかしこの展示会に出品してくださった人々、観てくれた人々の継続を求める声が高くなってきて、会社もこの展示会の重要さを認識するようになりました。ここで会社は一つの決断をします。1社で独占するのではなく、もっとこの運動を広く人々のものにしたい。そこで、企業と市民と自治体が同列の資格で参加する「バードハウスプロジェクト」を設けることになったのです。会社の名刺のほかに『バードハウスプロジェクト実行委員会総括プロデューサー』というもう1枚の名刺が加わり、サラリーマンとプロデューサーという二足のわらじの奮闘がスタートしました。

バードハウスプロジェクトとして、最初に取り組んだ仕事がＮＡＳＡ（米航空宇宙局）のスタッフ達の作品を集めることだった。人や鳥が住む地球だって、大きな巣箱なのだと確信するようになっていた。ＮＡＳＡには個人的なつながりがあった。その人はマイケル・カリンさん、ＮＡＳＡの技術陣の大御所。宇宙ステーションを手がけていた。カリンさんは亡くなったが、後輩達がＮＡＳＡを支えている。彼らに手紙を書いたら、君のために協力したいと返事が返ってきた。当時は信じられなかったが実現した。2年の準備期間を経て1996年春、第3回目のバードハウス展が開かれた。スペース（宇宙）デザイナーと呼ぶ7人の作品もユニークな力作ぞろいで好評だった。

世界の有名な人たちに出展をお願いすると、驚くほど素直に心を動かしてくれる。わずかなつてを探して手紙を書く、通訳といっしょに恐る恐る会いに行くが、話が弾んで昔から友人のように仲良くなることが多い。ぜひ参加したい、有意義な試みだと、名もない任意団体のプロジェクトに賛同してくれる。

1998年4月第4回目の空港デザイナーの創ったバードハウス展を開催した。レンゾ・ピアノさんら内外8人・グループが参加してくれた。第5回目2000年には『移動するバードハウス』カー＆ヨットデザイナーが創った巣箱が登場する。

各地で地元の自治体や企業の協賛を得て巡回展も展開してきた。特に子供たちに見てほしいと思う気持ちが大である。子供のころ、夢中で読んだ故手塚治虫さんの『鉄腕アトム』は未来や夢を具体的な映像として目に焼き付けてくれた。バードハウス展もそうありたいと思う。イメージがわかりやすく、生き生きとした形であれば子供たちにも老人にも訴えることができるのではと思っている。

プロジェクトはようやく軌道に乗ってきたが、準備には本当に骨が折れる。資金集め、協賛企業探し、協力スタッフ募集など難事業が多く、金がない、時間がない、スタッフが足らない、というないない尽くしもまだ続いている。

経営企画・人事統括部に所属するサラリーマンである芳野氏は会社でも多忙な日々を送っています。それでもバードハウスプロジェクトの為に休日や有給休暇を使って全国を飛び回っている。ただ、会社が忙しい時期にバードハウスの準備に駆け回るのは心苦しいとおっしゃっていました。しかし展示会を重ねるにつれて、社内に理解者が少しずつ増えてきていることがうれしいそうです。

地球へのメッセージを満載して、世界のアーチスト達の力作群、それに触発されて心動かされる人が増え、子供たちも未来に夢を持って受け入れてくれることを望んでやまない。

（インタビュー　高橋麗子）

中間検査制度－大阪府、神戸市、堺市の概要－

亀谷周二
大阪府建築都市部建築指導課審査第一係主査

改正建築基準法が平成11年５月に施行されたが、建築規制の実効性を確保する上で重要な要素の一つに中間検査制度がある。

建築基準法（以下「法」という）第７条の３に、特定行政庁は必要に応じ一定の規模・構造・用途等の建築物について、施工中に検査を受けるべき特定工程を指定するとなっており、特定工程が指定されると、中間検査を受け合格しなければその後の工事を続けることができないと規定されている。

因みに法第７条の３に規定されている主な内容は、

- 特定行政庁が特定工程を指定
- 建築主は、特定工程到達日から４日以内に建築主事に到達するように中間検査申請
- 建築主事は、中間検査申請を受理した日から４日以内に検査
- 建築主事は、検査の結果、適合していると認めたときは中間検査合格書を交付
- 中間検査合格書交付後でなければ後続工程の工事は施工できない
- 特定行政庁は、特定工程の指定の必要がなくなった場合は、速やかに指定解除

となっている。

いずれにしても、特定行政庁が特定工程を指定してはじめて中間検査制度がスタートするわけであるが、大阪府近辺の行政庁ですで

特定工程等の概要

項目	大阪府	神戸市	堺市
区域	府内特定行政庁の区域を除く大阪府全域	神戸市全域	堺市全域
期間	平成11年7月1日から5年間	平成11年8月1日から5年間	平成11年7月1日～平成14年6月30日
用途 規模	(1)戸建て、兼用住宅、長屋又は共同住宅で確認申請部分の床面積の合計が50㎡超 (2)定期報告対象建築物（劇場・病院等の特殊建築物） ※内容は省略	(1)戸建て、兼用住宅、長屋又は共同住宅で地階を除く階数３かつ確認申請部分の床面積の合計が50㎡超（地階を除く部分が木造であるものに限る） (2)定期報告対象建築物（劇場・病院等の特殊建築物） ※内容は省略	住宅の用途を含む建築物（長屋、共同住宅を除く）で階数２または３以上

①特定工程（表1）

	大阪府	神戸市		堺市	
		基礎	建て方		
(1)木造	屋根の小屋組の工事	基礎の配筋工事（杭基礎除く）	木造の軸組を金物等により接合する工事	階数2	建て方工事（筋交い、接合金物が目視で確認できる壁下地下工事）
				階数3以上	・基礎工事（配筋工事） ・建て方工事（内容は階数２に同じ）
(2)RC造	２階の床（平屋にあっては屋根床版）の配筋工事	基礎の配筋工事	３階の床版の配筋工事		
(3)鉄骨造	２階の床版取付け工事（平屋にあっては建て方工事）	基礎の配筋工事	３階の床版の取り付け工事		
(4)SRC造	２階の床の配筋工事	基礎の配筋工事	３階の床版の配筋工事		
(5)その他	屋根の工事	基礎の配筋工事			
(6)混構造	該当する構造の区分に応じた特定工程のうち、最も早く施工する工事（主要構造の一部を木造とした場合は、最も遅く施工する工事）			階数3以上	・基礎工事（配筋工事） ・建て方工事（内容は階数２に同じ）

②特定工程後の工程（表2）

	大阪府	神戸市		堺市	
		基礎	建て方		
(1)木造	壁の外装工事又は内装工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事	木造の軸組を覆う床、壁又は天井を設ける工事等	階数2	壁の外装工事又は内装工事（下地工事を含む）
				階数3以上	・基礎コンクリート打設工事 ・壁の外装工事又は内装工事（下地工事を含む）
(2)RC造	２階の床（平屋にあっては屋根床版）のコンクリート打ち込み工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事	3階の床版のコンクリート打設工事等		
(3)鉄骨造	壁の外装工事又は内装工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事	壁の外装工事又は内装工事		
(4)SRC造	２階の床及び梁のコンクリート打ち込み工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事	３階の床版のコンクリート打設工事等		
(5)その他	壁の外装工事又は内装工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事			
(6)混構造	表1の(6)の項に掲げる工事に係る構造に対応する(1)の項から(5)の項までの構造の区分に応じて、それぞれ右欄に掲げる特定工程後の工程の工事	基礎の配筋を覆うコンクリートの打設工事	３階部分の構造形式による	階数3以上	・基礎コンクリート打設工事 ・壁の外装工事又は内装工事（下地工事を含む）

※内容等については、一部省略した部分もあり、詳細は各行政庁の告示等参照のこと。

に特定工程を指定のうえ実施している３行政庁（大阪府、神戸市、堺市）の制度の概要等について、以下に報告する。

特定工程等の概要

3行政の特定工程等の概要は、前頁の表に示す。

検査実施等について

３行政庁においては、７月１日または８月１日確認申請受け付け分から中間検査を実施しているが、中間検査にかかる周知方法、督促状況、検査の状況等については以下のとおりである。

(1)周知の方法

・建築指導課の窓口で文書配布（大阪府、堺市、神戸市）
・広報誌に掲載（堺市）
・各種団体に対する説明会（大阪府、堺市）

(2)督促の方法

・特定工程予定物件（全数）をリストアップのうえ、電話、文書による督促（大阪府）
・現場調査をもって督促に代える（堺市）
・建築主、代理人、工事監理者の三者に文書で通知（神戸市）

(3)検査の状況（実績等）

①大阪府（箕面分室、門真分室含む）
（平成11年７月１日～11月15日）

●中間検査の工程に達した建築物	542 件
・中間検査を受けたもの	400 件
・工事延期等で検査未実施のもの	91 件
・現在、検査指導しているもの	46 件
・現在の検査率（400／542－91）	88.7 %

※指定確認検査機関の（財）大阪建築防災センター建築確認検査機構においても中間検査を行っているが、その件数は除く。
※特定工程到達予定日が10月８日以前のもの。

②神戸市（平成11年８月１日～11月18日）

●中間検査対象件数		126 件
・中間検査件数　木造３階	基礎	48 件
	建方	30 件
特殊建築物	基礎	3 件

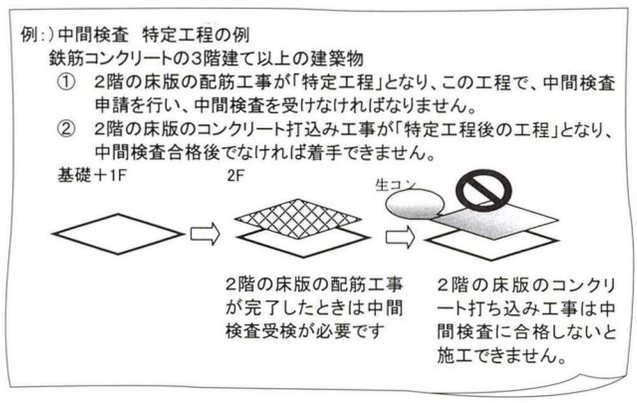
③堺市（平成11年７月１日～10月31日）

●中間検査の工程に達した件数	314 件
・中間検査件数	314 件
・検査率	100 %
・指導物件数	2 件
・合格証を交付できない旨の通知件数	4 件

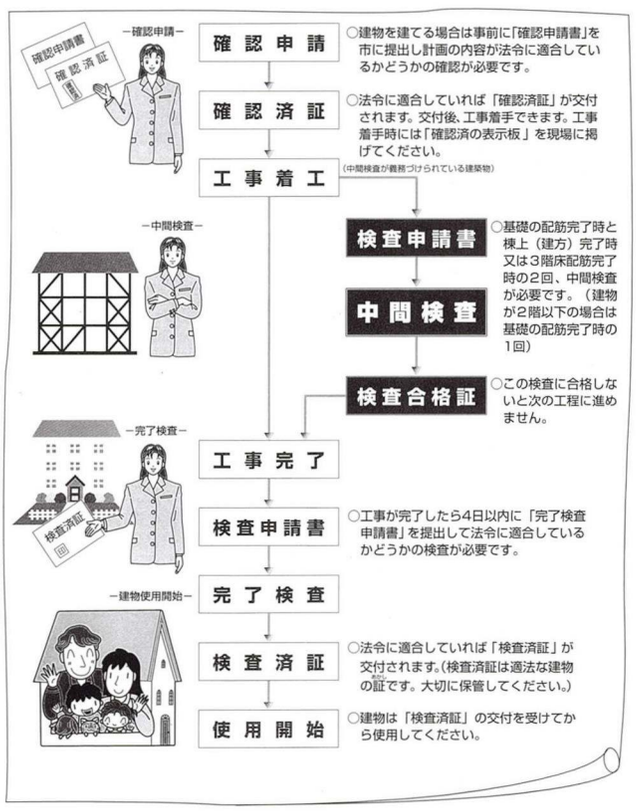
おわりに

中間検査制度についてはまだ緒についたばかりであるが、今後、消費者、関係団体等に対して、本制度の趣旨について広く周知徹底を図り、本制度の目的でもある建築物の安全性等の確保に向けて強力に指導していきたいと考えている。

（かめたに　しゅうじ）



大阪府のリーフレットより一部抜すい



神戸市のリーフレットより

鉄骨梁のウェブに孔をあける

福知保長
名古屋工業大学教授・工学博士

有効梁の耐力

■円形孔の場合

建築構造において、階高節減のため、設備用の配管を梁に孔をあけて通す手法は、もはや一般的なものである。特に、ビル物の軀体では鉄骨、ＲＣ、SRC等の構造種別を問わず、多用されている。ほとんどの場合、応力集中等、力学的見地から円形の孔をあけているが、孔の大きさ、ピッチ等は設計者が自主的な規制を設けて制限し、過大とならないよう努めている。

昔、アンケート調査を行ったが、開口率（孔径／梁せい）は0.3倍以下、ピッチは孔径の３倍以上というのが多かった。

梁に孔をあけると、有孔部で梁はちょうどフィーレンディールトラスのような性状を示し、全体的な曲げに加えて、上下部分が独立に曲がる二次曲げが生じ、剛性、耐力が孔による断面減少以上に低下する。

無補強円形孔の場合のせん断耐力Q_{hu}を(1)式のように表現する。

$$Q_{hu}=\alpha\cdot A_{wh}\cdot\tau_y \quad \cdots\cdots(1)$$

α：フィーレンディール作用によるせん断耐力の低減係数
A_{wh}：有孔部の残りのウェブ断面積
τ_y：ウェブ鋼材のせん断降伏応力度

純曲げを受ける場合の曲げ耐力は、有孔部の全塑性モーメントは、

$$M_{hp}=(Z_{po}-t_w\cdot D_h^2/4)\,\sigma_y \quad \cdots\cdots(2)$$

Z_{po}：梁無孔断面の塑性断面係数
t_w：ウェブ厚
D_h：孔径
σ_y：使用鋼材の降伏応力度

であるが、上記Q_{hu}を受ける場合の曲げ耐力M_{hu}はフィーレンディール作用の曲げによりフランジの断面の一部が食われることから、フランジのみの全塑性モーメントより多少小さくなり、(3)式となる。[1)]

$$M_{hu}=\beta\cdot A_f\cdot h_f\cdot\sigma_y \quad \cdots\cdots(3)$$

β：フィーレンディール作用による曲げ耐力の低減係数
A_f：フランジ断面積
h_f：上下フランジの重心間距離

αは開口率が0.6を超えると急激に小さくなるが、0.6以下で0.85以上、βはどの開口率でも0.93以上となるので、開口率の制限を無補強円形孔の場合、0.6として$\alpha=0.85$、$\beta=0.93$とすればよい。

図１のように縦軸にM、横軸にQをとり、上記Q_{hu}、M_{hp}、M_{hu}を計算して、３点（Q_{hu}，０）（Q_{hu}，M_{hu}）（０，M_{hp}）を結ぶ直線及び縦横軸による四角形をつくる。これをM～Q相関図という。孔部断面でのせん断力Q_hと曲げモーメントM_hを同時に受ける有孔梁は、座標（Q_h，M_h）がこの四角形の中に収まれば、耐力に達していないことになり、M_h/Q_hの勾配で原点より直線を引き、相関図との交点を求めれば、孔部での最大耐力となる。一方、無孔部でもその断面での諸係数を用いて、全塑性モーメントM_{po}、せん断耐力Q_{uo}とフランジのみの全塑性モーメントM_{fp}を用いて、破線のようにM～Q相関図を描くことができる。梁の受けるモーメントM_oのせん断力Q_oに対する比M_o/Q_oの勾配で原点より直線を引き、相関図との交点を求めれば、無孔部での最大耐力となる。最大耐力時のせん断力をQ_{hm}，Q_{om}とし、Q_{hm}/Q_h，Q_{om}/Q_oのうち、小さい方で耐力が決まる。

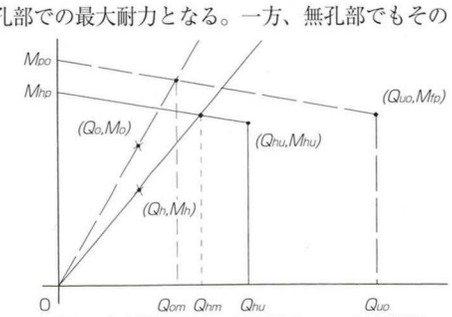


図1　無補強円形孔有孔梁のM～Q相関図

■長方形孔の場合

力学的に考えれば、円形孔の方が応力集中が少なく有利であるが、ダクト類の断面形状から考えると、矩形孔の方が効率的である。

矩形孔の場合、フィーレンディール作用による二次モーメントは孔両端部で一番大きく、孔上下部分の断面は孔部で一定であるので、耐力は孔両端部断面の最大曲げ耐力で決まることとなる。図２のような孔部の応力を考えると、孔上下のＴ形断面材は全体曲げによる軸力N_T、フィーレンディール作用による曲げモーメントM_T及びせん断力Q_Tを受ける。N_T，M_T，Q_Tはそれぞれ、(4)式の通りである。

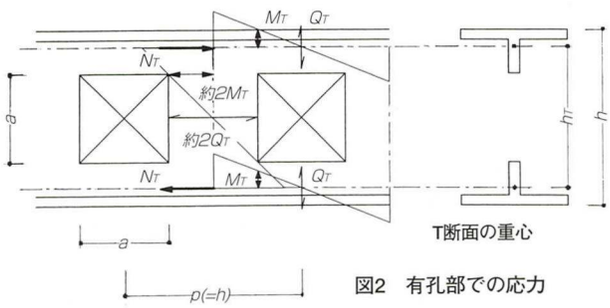


図2　有孔部での応力

$$N_T=M_h/e,\ M_T=a\cdot Q_T/2,\ Q_T=Q_h/2 \quad \cdots\cdots(4)$$

M_h：孔中心位置での全体曲げモーメント
e：孔上下のＴ形断面の重心間距離
a：孔長
Q_h：孔位置での全体せん断力

この応力により上下Ｔ形断面材が耐力に達したときが、孔部の耐力となる。円形孔と異なり、耐力に達するのは孔両端部断面であるから、シヤスパンが大きく、せん断力の影響を余り受けないので、軸力と曲げを受ける断面の軸力～曲げモーメント相関図により耐力を求めることとする。図３がその一例である。直線が弾性限耐力に基づくもの、曲線が全塑性耐力に基づくものである。孔部での全体曲げM_h、せん断力Q_hから上式でM_T，N_Tを求め、原点からの勾配M_T/N_Tの直線と相関線との交点が耐力を示す。N_{To}～M_{Ty}直線との交点が弾性限耐力、N_{To}～M_{Tp}曲線との交点が終局耐力である。この例でも分かるように、Ｈ形梁の終局曲げ耐力と弾性限曲げ耐力の比が1.1程度になるのに比べ、断面形が形のため弾性限耐力と終局耐力の差は非常に大きく、弾性限耐力を基に設計をするのはかなり不経済である。

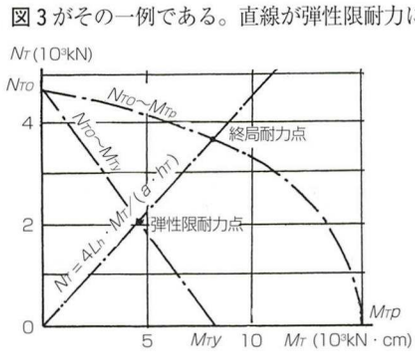


図3　矩形孔のN_T～M_T相関図の一例

著者らは、終局耐力を基に設計式を提案している。[3)] 図４は、種々のH形断面に開口率（孔せいの梁せいに対する比）を45～55%とした場合の、全塑性耐力に基づくN_T～M_T相関曲線の計算値をプロッ

トしたものである。これを近似した2直線（図中の破線）で表し、これに無孔梁の終局耐力／弾性限耐力＝1.1程度の安全率を持たせた値を許容耐力とみなすものである。すなわち、純曲げ時の許容モーメントはM_{ao}及び純せん断時の許容せん断力Q_{ao}を(5)式のように定める。

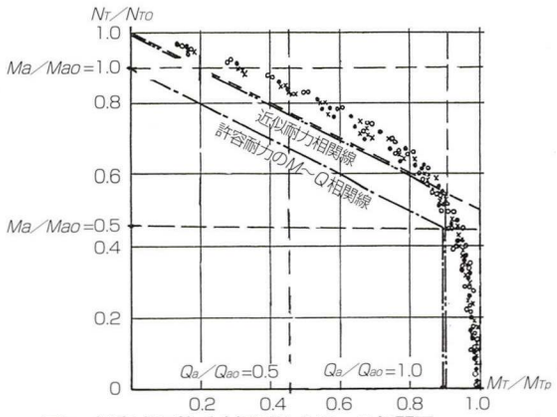


図4　提案式に基づく矩形孔のM～Q相関図

$$M_{ao}=Z_h\cdot f_b,\quad Q_{ao}=4\,Z_{eT}\cdot f_{bT}/a \qquad (5)$$

Z_h：孔部での全体の断面係数
f_b：梁の許容曲げ応力度で、日本建築学会鋼構造設計規準による
Z_{eT}：孔上下のT形断面の有効断面係数で、塑性断面係数の1/1.1
f_{bT}：孔上下のT形断面梁の許容曲げ応力度で、鋼材の許容引張応力度同じとする
a：孔長

曲げモーメントMの加わる場合の許容せん断力Q_aは(6)式となる。

$M\leqq 0.5M_{ao}$で、$Q_a=Q_{ao}$ ……（6 a）

$M>0.5M_{ao}$で、$Q_a=2\,Q_{ao}\,(1-M/M_{ao})$ ……（6 b）

孔部の補強

■円形孔の補強と耐力

ウェブに孔をあけることによって、耐力が不足したり、フランジ局部座屈等への拘束効果の減少が懸念される場合は、補強を行う。円形孔の場合は、当て板かスリーブ管またはその併用によることが多い。当て板の場合には、ウェブがそれを均した板厚になったと考えて、耐力を算定すればよい。スリーブ管補強の場合は、筆者らが提案した算定式に従って、耐力評価を行えばよい。詳細は文献2）を参照されたい。

■矩形孔の補強と耐力

矩形孔の場合は、当て板か孔上下縁への水平リブまたはその併用による。当て板の場合には、円形孔と同様に考えて耐力評価を行う。水平リブの場合は、上下部分をフランジ、ウェブ及びリブによって構成されるH形断面材として曲げ耐力を算定し、(5)，(6)式によって耐力評価すればよい（純曲げ耐力M_{ao}を算定する際のZ_hにはリブの断面積を算入してよい）。

リブには(7)式のような余長L_aが必要である。

$$L_a=A_R\cdot\sigma_y/(a_w\cdot w_{fs}) \qquad (7)$$

A_R：リブ片側の断面積
σ_y：リブの降伏応力度
a_w：リブ～ウェブ間の溶接部ののど厚
w_{fs}：その許容せん断応力度

■補強のその他の役割

ウェブはせん断耐力の確保のほかに、フランジ局部座屈の際の拘束とそれ以降の変形能力の確保、引張側フランジが拘束されている場合の圧縮側フランジ横座屈に対する拘束という重要な役割を持っている。梁の耐力が孔部で決まり、ウェブ厚が所定の梁ランクぎりぎりのときは、ウェブに孔をあけることによって、面外剛性が小さくなり、それらの役割に対する効果が小さくなると懸念される場合にも補強が必要となる。当て板、スリーブ管、水平リブとも、ウェブ面外剛性を飛躍的に上昇させるので、補強が行われている場合、無孔のものより拘束効果が劣るということはほとんどないと思ってよい。

孔の位置、ピッチ

設計者の自主的な規制では、孔の位置は梁端からスパンの1/4を避けた位置に設け、ピッチは孔径の3倍とするものが多い。梁の塑性化領域に設けることによる変形能力の低下を避け、むやみに多い孔を規制しようとした主旨であると推察されるが、よって来るゆえんははっきりしない。スリーブ管補強円形孔の場合、十分な補強量が確保されていれば、孔位置が梁端に近づいても変形能力がさほど落ちないという実験、解析結果がある。[4)]

ピッチの制限については、ボルト孔等を参照として設定されたものと推察しているが、ボルト孔と本質的に違うのは、ボルトは径が大きくなればなるほど、耐力が上昇し、孔と孔の間の強度もそれに応じて大きくならなければならないのに対し、ウェブ孔の場合は径が大きくなればなるほど、ウェブせん断耐力は減少することである。したがって、孔径の何倍という規制は合理的ではない。円形、正方形の場合、孔径にかかわらずピッチの最小値は梁せいでよいと考えている。図2のように、孔と孔の間の束部に生じる曲げモーメントとせん断力は孔上下部の約2倍となるから、束部の断面係数が上下部T断面の2倍、断面積が孔上下部T断面ウェブの2倍となるようにするには、ほぼ梁せい以上のピッチでよいことになる。実験でも梁せいのピッチであれば、束部が破壊することはなかった。

横長の長方形の場合は、束部の幅が$(h_w-d)\,d/a$以上になるようにする。

h_w：ウェブせい　d：孔せい　a：孔長

有孔梁の剛性

ウェブに孔をあけると、ウェブ断面積の減少のほかに、フィーレンディール作用によりせん断剛性が低下する。有効ウェブ断面積A_{we}を(8)式のようにして、せん断剛性をGA_{we}と評価すればよい。

$$A_{we}=\gamma\cdot h_w\cdot t_w\cdot a_h/a_0 \qquad (8)$$

G：せん断弾性係数
γ：低減係数で無補強円形孔で0.8、矩形孔で0.7、補強ありで1.0
t_w：ウェブ厚
a_h：有孔梁のウェブ側面面積
a_0：無孔の場合のウェブ側面面積

まとめ

以上、円形、長方形有孔梁の耐力算定法と補強法等について述べた。孔の径、ピッチ、位置等に対する制限を主体的に決めることは、むやみに大きなまたは多くの孔をあけ、耐力、変形能力を損なってしまうことを避ける手段として有効であることはいうまでもない。しかし、現在行われている制限が必ずしも合理的とは考えられない。筆者は、本質的には制限の必要はなく、適切な耐力評価と補強がなされていればよいと考えているが、ここで紹介した耐力評価法は円形孔で開口率60%、正方形孔で55%までのものに対しての検討がなされており、これを超えると補強も効果的にできないので、開口率の制限は上記の値を目処とするのがよいと思われる。

〈参考文献〉
1）福知保長、土井康生、細川裕司「円形孔を有するはりの耐力と設計法　1．無補強の場合の耐力」日本建築学会論文報告集、296号　1980.10　pp.27～361
2）土井康生、福知保長「円形孔を有するはりの耐力と設計法　3．実用的耐力算定式の提案」日本建築学会論文報告集、357号　1985.11　pp.44～51
3）福知保長、土井康生、木村衛、岡田忠義「矩形孔を有する鉄骨梁の実大実験と設計式の提案」鋼構造論文集Vol.1　No.1　1994.3　pp.155～164
4）田中秋水、福知保長、土井康生「スリーブ管補強鉄骨有孔梁の開口位置と破壊性状・変形能力に関する研究」日本建築学会構造系論文集、530号　2000.4（予定）
（ふくち　やすなが）

超微細発泡光反射板

株本　昭
古河電気工業㈱ 平塚研究所MCチーム

超微細発泡光反射板とは、10μm以下の超微細気泡を有するプラスチックの発泡体でできた厚さ1mmの光反射シート（商品名：ＭＣＰＥＴ）のことである。一般的にプラスチック発泡体は古くから緩衝材、断熱材、包装材あるいは軽量材として幅広く利用されてきたが、発泡体中の気泡の大きさが小さいものでも100μm以上あり、例えばスポンジのような形態のものがほとんどであるため、機械的強度が要求されるような用途には不向きであった。

今回紹介する超微細発泡光反射板は気泡のサイズが10μm以下と非常に小さいため（**写真1**）、機械的強度が高く、しかも微細な気泡によって光が散乱されるため、光の反射率が高いものとなっている。この特徴により、従来は金属の鏡面鋼板や白色鋼板が用いられていた光反射板の分野への適用が期待され、実際に電飾看板や光学表示機器、照明機器などへの応用が始まっている。

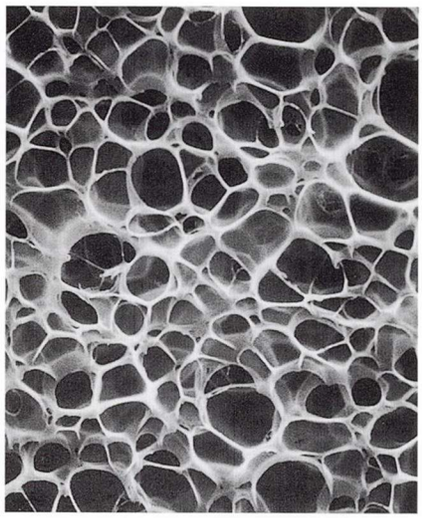


写真1　発泡シート断面の電子顕微鏡写真

超微細発泡光反射板の特徴

超微細発泡光反射板については以下のような特徴が挙げられる。

1）光学特性に優れる→光反射率99%以上
2）表面平滑性に優れる→表面凹凸がほとんどない
3）気泡が独立している→液体が進入しない
4）衝撃に強い→落下衝撃強度が高い
5）熱に強い→熱変形温度177℃
6）二次成形加工できる→真空成形が可能

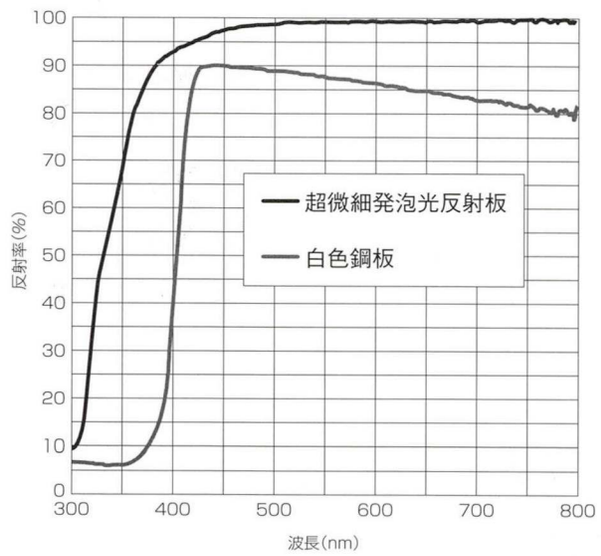


図1　発泡シートの分光反射率（硫酸バリウム標準白色板との相対値）

特に光学特性については、**図1**に示したように硫酸バリウム白色板（標準白色板）に対して反射率99%以上と、白色鋼板の80～90%に比べて非常に優れた反射特性を示し、しかも可視光領域において白色鋼板に見られるような光の波長によって反射率が変化するといった現象も見られない。したがって、蛍光灯などの光源の色がそのまま反射光として再現されるため、微妙な色合いが要求されるような機器において、非常に有効となっている。

超微細発泡光反射板の適用例

●シャーカステン

写真2は、シャーカステン外観（左図）と内部に発泡シートを施工した場合（右図）を示す。15Wの蛍光ランプ4本が縦に配置されたタイプのもので、白色鋼鈑の上に発泡シートを貼り付けたものである。**図2**はその際の表面照度分布を示したものである。従来品で平均6600ルクスであったものが、発泡シート施工により平均10690ルクスと62%もの照度増大効果が認められた。この場合、ランプを3本に減らしても平均7700ルクスとなり、4本の従来品よりも明るくなっている。

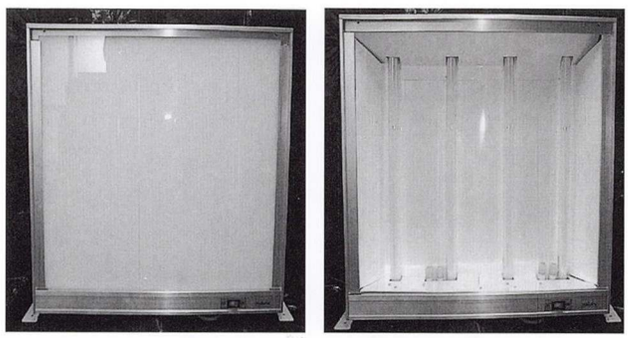


写真2　シャーカステン外観（左図）および内部に発泡シートを施工したもの（右図）

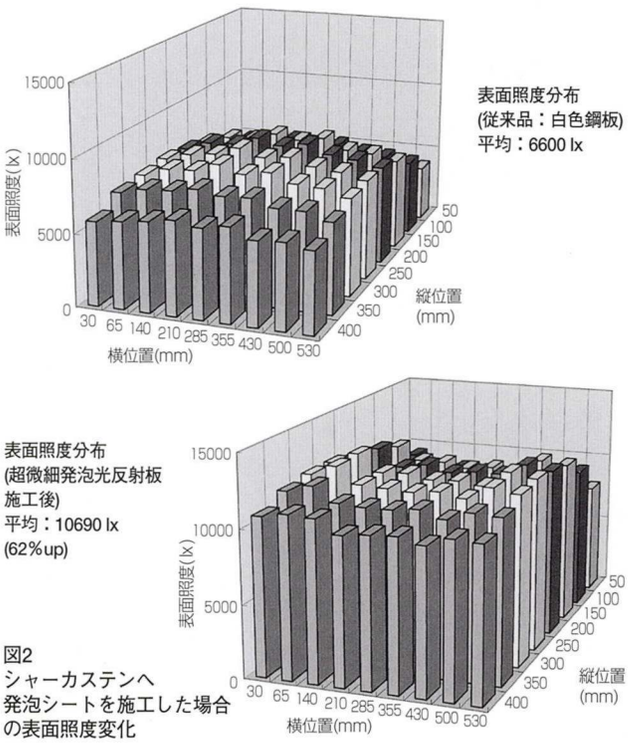


図2
シャーカステンへ発泡シートを施工した場合の表面照度変化

●電飾看板

写真3は、ランプ間隔200mmピッチの電飾看板の右半分に発泡シートを施工した様子を示したものである。左半分の表面照度は平均3650ルクスであったが、右半分は平均6210ルクスとなり、70%の照度増大効果が得られた。この看板よりもひとまわり大型の看板（蛍光灯13本使用：ランプピッチ200mm）を用いた実験では、ランプピッチを300mmに変更し、ランプを4本削減して9本にしても同じ平均照度が得られることがわかった。これは、ランプ代および電気代について約30%の省エネ効果となっている。

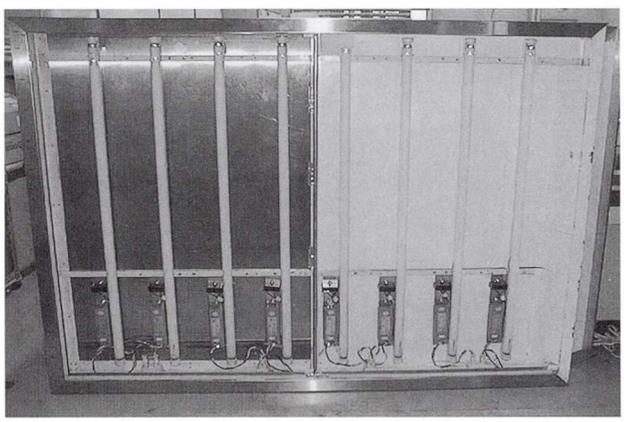


写真3　電飾看板へ発泡シートを施工（右半分）した様子
〈高さ1350mm　幅1800mm　厚さ150mm〉

●照明機器

この発泡シートは、真空成形加工が可能であり、しかも耐熱性に優れるため、**写真4**（左：従来品　右：超微細発泡光反射板成形品）のような照明機器への展開も期待できる。

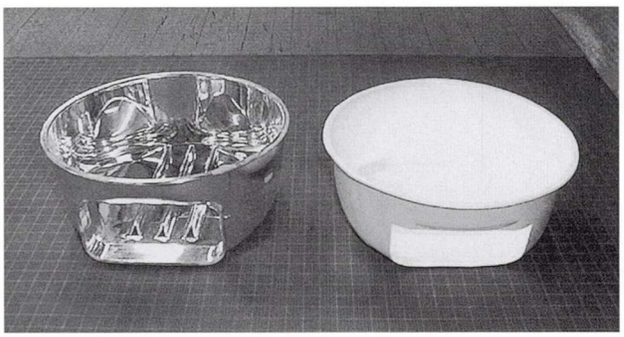


写真4　超微細発泡光反射板成形品（左は従来の鏡面メッキ仕上げ品）

今後の展開

今回、気泡の大きさが超微細であるがゆえの新規機能（光反射性能）を生かした用途についての応用例を紹介した。従来は金属材料が用いられていた分野であったが、光反射性能に加えて軽量性や取り扱い性の良さが評価され、徐々に適用範囲が広まってきている。また光反射性能以外にも、軽量高剛性や表面性などの機能が注目されており、今後様々な新分野への展開を考えていきたい。

（かぶもと　あきら）

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

（2000年1月号）

「建築と社会では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

送付先：
㈳日本建築協会
「建築と社会」
FAX06-6348-0634

お名前 _____

勤務先 _____　TEL _____

発泡スチロール型枠

下前則夫
南九州イワタ産業㈱ 環境建材事業部常務取締役

はじめに

ここで紹介する発泡スチロール型枠『HMパネル』は躯体工事において、型枠工事の熟練工の不足及び高齢化に対してもっと楽に、そして簡単にできないだろうか？またかぎりある資源（熱帯材を使用した型枠材など）を大量に廃棄しないで　さらにリサイクル利用のできる製品はできないだろうかという問題意識の中から開発された。

用途について

基本的には、型枠工事から仕上げ工事までの工程を極力省き、より施工を簡単にできないかということで、型枠材を解体せずに、断熱材及び内装下地材（胴縁材）を兼用。さらにこの縦下地材が縦鋼管の役割を果たしている。

建て込みを楽にすることで、歩掛りをアップさせ、断熱材の取付け、型枠材の解体がなく、片づけがない事、仕上げ下地施工がない事等により、工程を大きく省く事によって、工期を短縮し、コストダウンを図っている。主に内断熱用として打込みタイプの型枠材として考え出された製品である。

素材について

パネルに使用している発泡スチロール材は、ビース法ポリスチレンフォーム2号を使用（40倍　発泡の難燃仕様）。現在、発泡スチロール（EPS）は、業界団体である「発泡スチロール　再資源協会」が中心となってリサイクルシステムの確立に取り組んでいる。

また、この素材は、高熱では完全に焼却された場合は、わずかな灰と炭酸ガスと一酸化炭素に分解される。協会の燃焼実験ではダイオキシンも検出されていない。さらに回収されたEPS材は、熱エネルギーとして利用されたり、プラスチック製品にも再生されている。

さらに、産業廃棄物が自由に処分出来ない時代を考え、当社工場にて全て加工し、現場でゴミを発生させないことを目標に生産している。

パネルの補強材及び構成材として、植林可能な針葉樹をベースにした集成材（LVL材）に安全な防腐防蟻処理を施したものを使用している。

用途と効用

全体として断熱性能が良く、木下地付きでの熱抵抗値が1.65㎡h℃kcal（＊発泡厚50tで次世代省エネルギー基準のⅢ地域まで対応）あり、室内の結露を防止してくれる他に、多少の遮音性もあり、実際、この製品を打ち込んだRC造の住宅、マンション、病院、商業ビル等の居住者より、夏涼しく、冬暖かいとおおむね好評である。

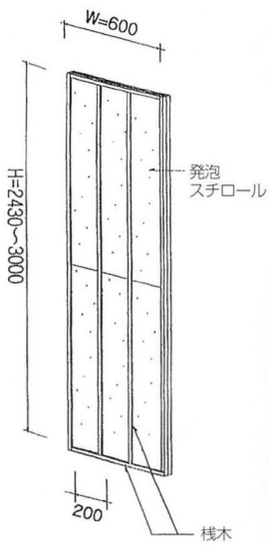
また、このことを裏付ける資料として、当社依頼による鹿児島大学建築学科環境工学研究室の集合住宅における熱負荷計算報告書では、冷房負荷が10～30%の減少、暖房負荷が20～40%の減少を見込むことが試算できた。

さらに、電力費削減ができることと共に年間を通じて、CO2も同様に最大30～40%削減できると試算。この断熱建材としての効果と品質を含め、㈳日本建材産業協会の『優良断熱建材』の認定を受けることができた。

今後は、循環型社会に生きる企業として、地球に優しい建材『HMパネル』をおおいに供給していきたいと思う次第である。

①熱貫流抵抗：1.85㎡h℃／kcal
　R（㎡K／w）
②熱抵抗：1.65㎡h℃／kcal
　Rc（㎡K／w）
③見掛けの熱伝導率：0.0303kcal／mh℃
　λ（w／mK）

62×600×2430～3000（平パネル）





●従来コンパネ型枠工法　●HMパネル型枠工法

片壁型枠建て込み	
配　筋	
断熱材取り付け	
	片壁型枠建て込み
	コンクリート打設
	支保工解体（バタ、桟木）
型枠材の解体（コンパネ）	
	支保材の片づけ
型枠材の片づけ	
仕上げ下地施工	
	内装仕上げ工事
再利用（クギ仕舞・補修）	
廃材処理	

各工法の工程比較ポイント

文章は一目瞭然に書く

山田　修
修　建築事務所

1）はじめに

1997年は12回にわたり拙文「建築文章作法」を記しました．今回は，その応用篇を記し，読者の軽い読物としてご笑覧くだされば光栄です．

わたしは，初級技術者向きに38冊（構造・法規・韓国・新入社員）の著書を出版してきました．基本は「むずかしい技術を，いかにやさしく表現するか」です．それには，①むずかしいことはやさしく書く，②やさしいことは深く書く，③深いことは面白く書く，を守ることです．

とくに，②が大切です．そのために，建築以外の歴史の話・人生の処世話・小説の話を語り，筋道の通る理論をいれます．わたしは小説が好きです．ひまを見つけては建築の技術書以外に小説を読んでいます．好きな作家は，立原正秋・司馬遼太郎・城山三郎です．夏樹静子の推理モノも好きです．好きな人の小説からは，みずみずしい表現と新しい発見が得られます．

「技術書を小説のように書きたい」は，わたしの念願です．が，現実はとってもそのようになっていません．しかし，その気持だけは捨てずに技術書を制作してきました．

本作りは苦しいです．が，苦しさのなかに楽しさを作らないと，筆者の体力・活力・情熱は続きません．

「筆者が楽しみながら仕事をしないことには，第三者の読者に楽しさは伝わらない」がわたしの信念です．

楽しさの作り方は，人それぞれによって異なりますから，モノ造りに励む人は独自の楽しみ方を創意工夫してみましょう．楽しくなかったら仕事とはいいません．

2）「建築フレッシュマン講座」を点検する

写1は拙著「建築フレッシュマン講座：1985年，学芸出版社刊」の事例である．

当本は，読者対象を建築新入社員にしぼり，今までのわたしの体験（当時，大阪府建築士会二泊三日の新入社員研修会責任者として，10数年間おこなっていた．それは今も続き，'99年で27年間になる）を基礎にして写真・イラストを挿入した．おかげさまで再販を重ね，いまも元気に生きている．

わたしは，一目瞭然を表すために“ていねいなイラストを数多くいれたのが成功した”と判断する．原案はわたしが作り，イラストは教え子の木村芳子さん（当人のデビュー作品．彼女は最初の作品に命をかけた．木村さんはこれを機にイラストを主にした建築関係の著書を次つぎと出版，そのなかの一冊は韓国で翻訳出版された）に依頼した．

彼女は二級建築士でA建築構造設計事務所に8年間勤務したのち，木村アートオフィスを構えて自営，建築の分かるイラストレーターとして活躍中である．

写1の平面図は，わたしの設計した最初の自邸を原形にして示し，酒を酌みかわす事務所風景は取材したM建築設計事務所のメンバーと雰囲気を表している．

このイラスト群が効いた．さらに，若き日の「安藤忠雄氏の生きざまを探る」が読者を引きつけた．延命湯の設計で大阪府建築コンクールに入賞した竹原義二氏の取材記事もよかった，と思う．

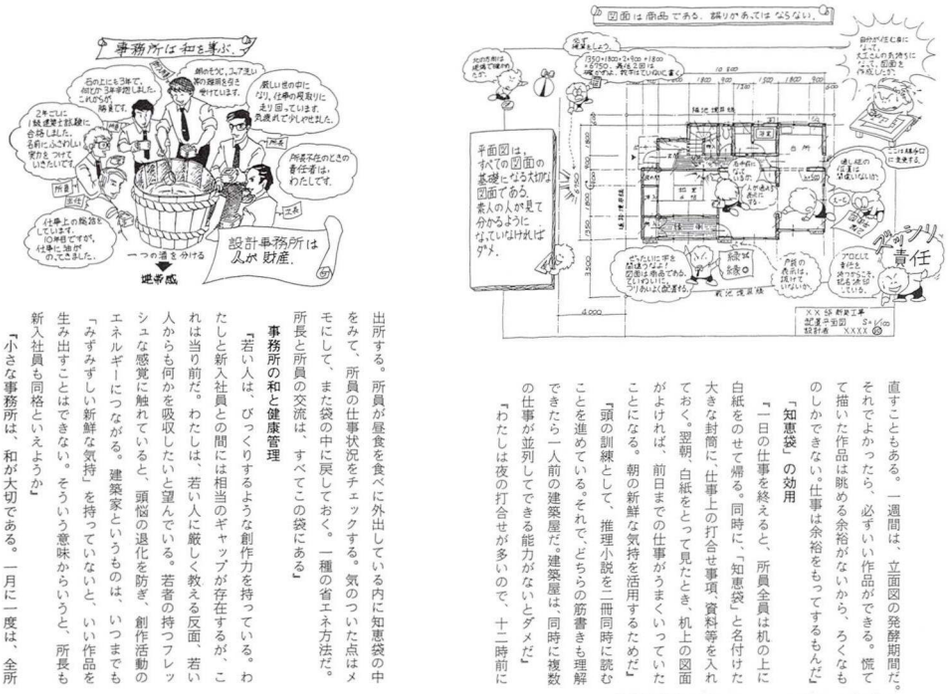
当時わたしは，地下鉄本町駅近くにあった旧安藤忠雄建築研究所を暇あるごとに訪れ，安藤忠雄氏を取材していた．安藤氏とわたしの出会いも劇的だった．が，その話は誌面の制約もあって割愛する．また，竹原氏はもちろん，延命湯のご夫妻にも会い，入浴を体験して「庶民から見た風呂屋風景」を記した．

また，報告書の書き方の事例は，実際の新入社員研修会の5例を示し，それにわたしのコメントをつけた．ここの章の〔結〕は，次のように記述している．（当本の158頁）．

『簡潔な文章にするためには，一度フルスピードで下書きしたものを数度推敲し，清書するようにします．

ダブっている語句は消し，不必要な説明は思いきって省略します．文章を縮められるギリギリの範囲まで濃縮するのです．

文章の推敲とは「不必要な熟語を削りとっていく作業」ともいえます．読みやすい文章をつくるには，①短文にする，②漢字を少なくする，③むずかしい文章を書かない，ことです．』いまなら，もう少しうまく表現できるが，15年前の作品としては止むをえなかった．前記の①～③は，文章作りの基本として今も大切に守っている．　（やまだ　おさむ）



写1「建築フレッシュマン講座」の一部

屋外消火栓、消防用水、連結散水設備

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

屋外消火栓(一般建築物)

■屋外消火栓はどういう建物に必要か

消防法施行令第19条に規定されています。

●建物区分と設置必要面積

1階または1階及び2階の部分の合計床面積が耐火建築物の場合は9000㎡以上。準耐火建築物の場合は6000㎡以上、その他の建築物の場合は3000㎡以上。

●屋外消火栓の配置等技術基準

1）建物の各部分から1のホース接続口までの水平距離が40m以下となるように設置

2）放水用器具格納箱は、屋外消火栓からの歩行距離が5m以下となるように設置

3）屋外消火栓箱内またはその直近に、加圧送水装置の始動を明示する赤色の表示灯を設置

4）水源水量は7㎥×N個（ただし、設置個数が2個を超えるときは2個とする）

5）放水能力はすべての屋外消火栓（設置個数が2個を超えるときは2個）を同時使用した場合に、それぞれの屋外消火栓のノズル先端において、放水圧力2.5 kgf／㎠、かつ、350ℓ/分。

6）ノズル先端の放水圧力が6 kgf／㎠を超えない措置を講じる。

消防用水(一般建築物)

■消防用水はどういう建物に必要か

消防法施行令第27条に規定されています。

●建物区分と設置必要面積

敷地面積が20000㎡以上でかつ、建築物の地上1階及び2階の床面積の合計（平屋建の場合は1階の床面積）が耐火建築の場合15000㎡以上、準耐火建築の場合10000㎡以上、その他の建築物の場合5000㎡以上。建築物の高さ31m以上かつ、建築物の延面積が（ただし地階を除く）25000㎡以上。

●消防用水の水量

消防用水を必要とする建築物		必要とされる有効水量
敷地面積≧20000㎡	●耐火建築物 1、2階の合計床面積≧15000㎡ ●準耐火建築物 1、2階の合計床面積≧10000㎡ ●その他の建築物 1、2階の合計床面積≧5000㎡	床面積7500㎡またはその端数ごとに……20㎥ 床面積5000㎡またはその端数ごとに……20㎥ 床面積2500㎡またはその端数ごとに……20㎥
高さ31m、かつ延面積（地階を除く部分）≧25000㎡		床面積12500㎡またはその端数ごとに……20㎥

注）・1個の消防用水の有効水量は、最低20㎥以上必要。
・流水にあっては、毎分0.8㎥の流量を20㎥の水量に換算する。
・防火地域及び準防火地域に設置される建築物は耐火構造・準耐火構造・防火構造等で、延焼防止にも考慮がよくなされているので、これらの地域内にある高層建築物で、必要とする消防用水が80㎥を超える場合は、運用上80㎥をもって足りるとされている。

●消防用水の設置位置

消防用水を中心とした水平距離100mの半径内に、建築物の各部分をおおうことができるように設置すること。かつ、消防ポンプ自動車が2m以内に接近できる場所であること。

連結散水設備(一般建築物)

■連結散水設備はどういう建物に必要か

消防法施行令第28条の2に規定されています。

●設置必要面積

地階の床面積合計が700㎡以上。

●散水ヘッドを設置することを要しない部分

・浴室、便所その他これらに類する場所

・エレベーターの昇降路、リネンシュート、パイプダクト、その他これらに類する場所

・発電機、変圧器その他これらに類する電気設備が設置されている場所

・主要構造部を耐火構造とした防火対象物のうち、耐火構造の壁・床または自動閉鎖の甲（または乙）種防火戸で区画された床面積50㎡以下の部分

・主要構造部を耐火構造とした防火対象物のうち、耐火構造の壁・床または自動閉鎖の甲種防火戸で区画された部分で、エレベーター機械室・機械換気設備の機械室その他これらに類する室または通信機器・電子計算機室その他これらに類する室の用途に供される部分

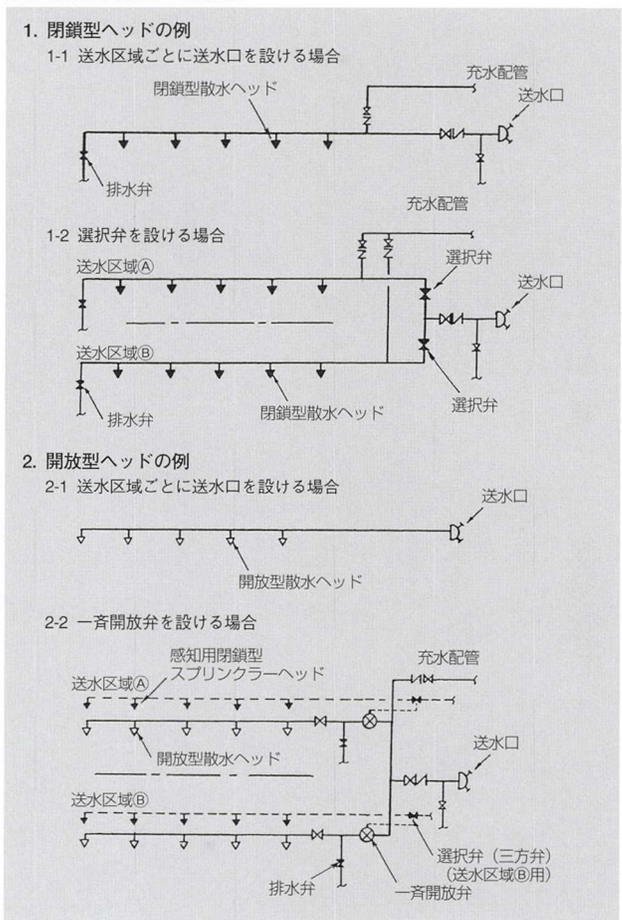
●散水ヘッドの配置

ヘッドの種類	水平距離（m）	1の送水区画のヘッド数
閉鎖型散水ヘッド	耐火構造 2・3	20個以下
	地下街 2・1	
開放型散水ヘッド	3・7	10個以下

●開放型ヘッドの管口径

散水ヘッドの個数	1	2	3	4・5	6〜10
管の呼径	32	40	50	65	80

●連結散水設備の系統図



近代建築講座開講

日本インテリアクリエイタ交流協会（JICX）の主催で開かれる近代建築講座の今回のテーマは「近代建築の保存と破壊」。参加者を募っている。

保存された学校、遊廓、警察署など、また破壊された市役所、裁判所などのスライド100枚を上映しながら保存の意味、破壊の現況が、旧琉球政府立法院議事堂の保存の意味を含めて報告される。

日時　2000年1月14日（金）18：00〜
会場　日本インテリアクリエイタ交流協会
　　大阪市中央区伏見町3　芝川ビル2階
　　TEL06-4706-6400
講師　柴田正己氏（明治建築研究会代表）

「環境共生住宅－河内長野木戸住宅を対象として－」フォーラム

関西の第一号の「環境共生型集合住宅―河内長野木戸住宅―」について、設計者の林史朗氏と研究者による勉強会が、日本マンション学会関西支部の主催で開かれる。広く参加者を募っている。

講　師　林　　史朗氏（イーアンドエー設計）
　　檜谷美恵子氏（大阪市立大学助教授）
日　時　2000年1月29日（土）13:30〜16:30
会　場　大阪市立大学文化交流センター
　　大阪市北区梅田1　大阪駅前第3ビル16階
定　員　先着100名（参加費1000円予定）
問合先　日本マンション学会関西支部事務局
　　けやき法律事務所内　TEL075-211-4643

第4回「震災対策技術展2000」〜震災対策技術の向上と対策設備の推進〜

震災の経験と教訓を伝えていくために、神戸市は「震災対策技術展2000」を開催する。今回は、アジア防災センターと震災対策技術展のホームページをリンクさせて見本市出展製品の情報をアジア各国から照会できるよう新たな工夫も凝らしている。入場料1000円。

また、同時開催事業（事前登録制・有料あり）として、都市防災シンポジウム、危機管理セミナー、ボランティアワークショップなど11の催しも予定されている。

問い合わせと招待状請求は、（財）神戸国際観光コンベンション協会（TEL078-303-0029）へ。

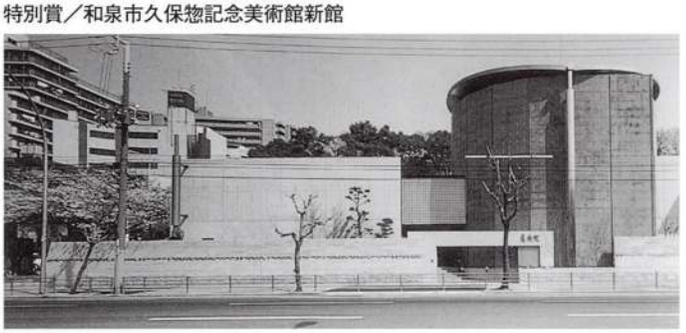
会　期　2000年1月27日（木）、28日（金）
　　10：00〜17：00（28日は16：30まで）
会　場　神戸国際展示場2号館―神戸市中央区港島中町（神戸ポートアイランド）―

第19回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）入賞作品

●くずはローズ幼稚園
設計／竹中建築設計
施工／藤木工務店
●扇町キッズパーク
設計／安井建築設計事務所
施工／竹中・大林・住友・鴻池建設共同体
●大阪芸術大学総合体育館
設計／大成建設
施工／大成建設・前田建設共同企業体
●和泉市久保惣記念美術館新館
設計施工／竹中工務店
●應典院
設計／高口恭行・造家建築研究所
施工／戸田建設
●S・T・MUANA
設計／田中啓文総合建築研究所
施工／辻本工務店
●門真市立市民交流会館中塚荘
設計／浦辺設計
施工／中道組
●阪急ヒルズコート高槻
設計施工／大林組


大阪府知事賞／くずはローズ幼稚園（枚方市）


特別賞／和泉市久保惣記念美術館新館


奨励賞／應典院（大阪市天王寺区）


大阪市長賞／扇町キッズパーク（大阪市北区）


奨励賞／S・T・MUANA（大阪市平野区）


奨励賞／門真市立市民交流会館中塚荘


奨励賞／阪急ヒルズコート高槻


大阪府建築士会長賞／大阪芸術大学総合体育館（大阪府河南町）

日本建築協会

月間の動き

【平成11年10月分】

理事会

第4回定例理事会
27日　4時～5時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか17名
議　事　(1)台湾大地震の被害会員の件
(2)入退会者承認の件
(3)後援・協賛名義の使用承認の件
(4)経過事業報告

編集委員会

第7回拡大編集委員会
4日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか9名
議　事　(1)11月号「会員作品」特集経過報告
(2)12月号「第46回青年技術者」特集経過報告
(3)12年1月号「21世紀のデザインの動向」
「安井建築設計事務所創業75周年」特集経過報告
(4)2月号「こころを癒す環境デザイン」
「中国支部」特集・「九州作品集」経過報告
(5)シリーズ頁経過報告
(6)「建築と社会」作品顕彰について
第6回広告企画小委員会
4日　5時～6時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか5名
議　事　(1)11月号、12月号広告経過報告
(2)1月号「安井建築設計事務所」特集広告経過報告
(3)2月号「中国支部」特集・「九州作品集」広告経過報告
(4)作品作風関係報告
(5)独自特集経過報告
第6回計画分科会―建築系―
5日　7時～9時30分・於本会会議室
出席者　荻窪幹事ほか5名
1月号特集原稿及びアンケート依頼先の検討
第3回計画分科会―計画系―
6日　6時30分～9時15分・於本会会議室
出席者　鈴木幹事ほか4名
議　事　2月号「こころを癒す環境デザイン」特集の企画
第7回構造分科会
8日　6時～7時45分・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか2名
議　事　(1)次の構造特集に向けて
(2)「構造の頁」の企画
第7回「素材と技術が生み出すデザイン」幹事会
13日　6時30分～9時・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか2名
議　事　'98.1月号～'99.12月号までの経過と今後の予定
第7回作品作風小委員会
14日　7時～9時30分・於本会会議室
出席者　赤木委員ほか4名
(1)作品の選定
(2)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(4)「Sketch Book欄」の掲載予定
(5)11月号会員作品特集号について
第5回法令分科会
20日　2時～4時・於本会会議室
出席者　浜野幹事ほか5名
議　事　(1)来年の法令特集の件
(2)「法令コーナー」の企画
第7回設備分科会
20日　6時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　谷津幹事ほか7名　ゲスト／西尾勇氏
(1)基礎講座シリーズの企画
(2)「設備の頁」の企画
(3)来年度の設備特集の企画
第4回計画分科会―計画系―
26日　6時30分～9時・於本会会議室
出席者　鈴木幹事ほか2名
議　事　2月号「こころを癒す環境デザイン」特集の企画
第8回会員企画小委員会
26日　7時～8時30分・於本会会議室
出席者　塚口副委員長ほか2名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定
第7回施工材料分科会
28日　4時～6時
出席者　小椎八重幹事ほか5名
議　事　(1)平成12年度施工材料特集について
(2)「施工材料の頁」の企画

事業委員会

第6回若い会員の集い小委員会
5日　7時～9時10分・於本会会議室
出席者　米井幹事ほか2名　ゲスト／藤谷充代氏
議　事　実施報告と今後の予定
30'sEYE出版打合
20日　7時～9時・於本会ロビー
出席者　米井主査ほか9名
議　事　30'sEYE出版について
第2回近代建築分科会
25日　6時～9時・於本会会議室
出席者　小林主査ほか4名　特別幹事／山形政昭氏
議　事　「旧平賀邸を訪ねる」について
第2回淡路夢舞台見学分科会
27日　6時30分～9時・於本会会議室
出席者　森田主査ほか6名
議　事　「淡路夢舞台を訪ねる」について

教育委員会

第1回工高生教育小委員会
7日　6時～8時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか9名
議　事　第45回工高生デザインコンクール応募作品の予備審査・その他

出版委員会

第6回出版委員会
21日　5時30分～6時45分・於本会会議室告
出席者　上原副委員長ほか6名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)第21回〈プロのノウハウ〉講座経過報告
第8回「(仮称)汚れにくい建物を目指して」小委員会
26日　6時～8時20分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか7名
議　事　原稿の検討および確認
第21回〈プロのノウハウ〉講座「木造住宅監理の話」
講師　山田修氏／修建築事務所長
29日　6時～8時・於本会会議室　参加者24名

建材委員会

13日　3時30分～5時30分・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか5名
説明会　超耐候性・防汚性フッ素塗料ワニス／担当：菅委員
議　事　今後の予定

80年史編纂委員会

「80年史」編纂委員会懇親会
12日　6時～7時30分・於中国大飯店
出席者　長谷部委員長ほか5名

青年技術者選考委員会

第46回青年技術者選考委員会
2日　12時～3時30分・於本会会議室
出席者　宮田選考委員長ほか10名

審査会

第45回工高生デザインコンクール審査会
16日　1時30分～7時15分・於本会会議室
出席者　審査会：石川審査委員長ほか審査委員13名
委員会：片倉教育委員長ほか教育委員9名
議　事　工高生デザインコンクール応募作品の審査

講演会

「オールディーズ・デザイン・メモリーズ」
―古建築の謎解き―
澤　良雄／アトリエサワ
22日　6時30～8時30分・於本会会議室　参加者37名

建築クラブ

第330回朝食会
12日　8時30分～10時・於大阪全日空ホテル
演題「有酸素運動で心身のリフレッシュ」
講師　山本美木子氏／㈲Feel Fit
参加者 37名
役員会
19日　12時～1時30分・於本会会議室
出席者　金田委員長ほか5名
(1)新年宴会について
(2)第331回以降の例会の講師について
(3)平成11年度収支予算執行状況

特集

安井建築設計事務所
創業75周年

秋日歓談

21世紀へ語りつぐ—安井事務所の軌跡

安井建築設計事務所会長　佐野正一
神戸大学名誉教授　向井正也



佐野正一



向井正也

創業者 安井武雄のこと

佐野　私共の事務所は今年でちょうど創業75年。建築協会が３年前に80周年を迎えましてね、このほうは大正６年創設で80年。ほとんど一緒なんです。

向井　大阪で一番の立派な事務所になりましたね。

佐野　古い点ではそうですね。

向井　トップでしょう。日建さんはまあ別として。

佐野　戦前の事務所は多くは個人的な事務所で、たとえば渡辺節さんにしましてもね、その前の宗兵蔵さんの事務所にしても、みんなもう代替わりで、私共の事務所は奇跡的に存続することができました。安井武雄が創設して一代で終わってもおかしくはないんですが。

向井　普通の事務所だったら、村野さんところみたいに芸術でゆくか、または単に仕事でゆくかいずれかですが、それをおたくは両方やってますね。それでね、えらいもんやと思うとるんですわ。ちょっとないですわ、そういう事務所は日本に。

佐野　安井が亡くなった昭和30年に、私が鉄道に勤めていたのを辞めましてね、事務所の後始末をするつもりでやってきたのです。そうしたらちょうど証券ブームが始まり、野村徳七さんとのご縁で野村證券の支店網の全国整備の仕事が入ってきました。２階建位の小さな店舗ばっかりなんだけれども、ともかく次から次へと土地を買われる。よしきたと、すぐそこへ設計して工事をやるというような状態で、これでまあ大いにわれわれは救われたんですね。

そのうちに大阪ガスが戦後にやはり、ガス事業というものの拡張から大きな発展がありまして、それの支店、あるいは営業所とういうようなものを拵えようというので、その仕事もまた頂戴したわけです。君のところは安井武雄さんは亡くなったけれども、何人か優れた技術者がいるからそれでやれるんじゃないかというんでね、それを買ってもらったんですよ。

向井　そういうやっぱりパトロネージュというか、それがあったんですな。

佐野　そうです。それははっきりありました。野村證券と大阪ガスの２社ですね。

向井　安井先生という方は営業の方は全然だめだったんでしょう？

佐野　全然だめでしたね。（笑い）。

向井　戦争中ほんとうに弱っておられたんですね。

佐野　はい。軍の仕事はやらなかったですからね。軍の仕事をやろ

うにもスタッフが出征したりなんかして、ほんとうに弱体になってましたし、第一本人がリベラリストでしたから戦争はあまり好きではない。おやじは軍人ですのにね。

向井　面白いですね。ほんとうに芸術家タイプの人だったんですね。

佐野　そうですね。そう思います。

向井　だから、ええものを創らはりましたな。

佐野　渡辺節さんとね、非常によくにているんですよ。

向井　渡辺さんは、そやけど営業もできましたね。

佐野　ええ、それはなかなか達者なひとでしたね。財界人とのつながりもあったし、ゴルフなんかも非常にお上手だったから、そういうものも営業に役立ったのでしょう。大阪商船とのつながりが非常に強かったですね。大正時代、第一次大戦で大阪の景気が非常に良くなりましたでしょう。あのときの景気で一番成長したのが紡績会社、それから船会社です。この分野の事業が物凄く伸びて、渡辺さんの事務所もビルものの仕事が次から次へとあったんです。それをこなしていくのに設計のチーフだった村野藤吾さんが奮闘した。渡辺先生が今度のこの建物はイギリス風でなくてオランダ風でやろうといったような指示を出す。

向井　なんでもやるんでしょう、村野さんは。

佐野　なんでもやる。私は何でもやれるように仕向けられたから非常な勉強をして、渡辺先生の要求に応えたと村野さんは言っておられましたね。安井事務所は戦争中にさっきお話ししましたような格好で、ほとんど消滅に近いような経営状態になりましてね、それで戦後いろいろ家庭の問題もあったものですから、急に年を取ったような感じになりましてね。事務所を再開して亡くなる30年までに2、3の物件を大阪でやっているんです。その一つは日綿実業の本社で、もう一つは大和紡績の本社ですが、やはりどこか昔のガスビルをやった当時の壮年らしい覇気のようなものがちょっとなくなりましてね、少しディテールにこだわり過ぎているようなところがあります。ガスビルをやったときは30代の一番元気のいいころですね。そのときの覇気と知恵であれができたんだと思いますね。

向井　あれと大阪倶楽部がいいですな。安井先生は仕事のほうは嫌いなものはせんというような調子だったらしいですね。商売なんかそっちのけで――。

佐野　さすがに周りは困ったようです（笑）。

向井　そうですか。やっぱりそういうところがあったんですな。

佐野　ええ。

向井　どういう方だったんですか。人間的には。

佐野　いや、特別気難しいところはなくて、明治の人に共通した狷介な、ごつごつとした感じは多少ありますが、割合に柔軟性のある考え方でした。しかし自分の主張だけは正確に通したいというところがありました。



大阪倶楽部
大阪市中央区　大正13年（1924）



野村證券本社（旧日本橋野村ビル）
東京都中央区　昭和5年（1930）



大阪ガスビル
大阪市中央区　昭和8年（1933）



大和紡績本社
大阪市中央区　昭和27年（1952）

向井「あの卒業設計もそうでしょう？勝手なことをしはって、それで日本におられへんと満州に出たという話。

佐野　西本願寺の飛雲閣に感心したんですな。それであれを参考にして木造住宅を卒業設計に描いて出した。その時の指導教官は佐野利器さんです。この人は構造の方の少壮の助教授で、これはけしからんと――。

向井　そのために内地で就職できん、というようなことが起こるんですか。

佐野　まあ巷間伝えられているほどのことではなかったと思います。そうでもなくて、あの頃の日本の社会状況、特に大学生の就職のことを考えますとね、内地よりは満州へ――非常に晴れ晴れとした希望に満ちた新天地へ出かけようじゃないかという時代でしょうね。それに乗ったんだという気がしますね。東大では内田祥三さんなどが新生満州国の都市計画などを設計演習の課題に出した頃ですから、特に元気がいいのは向こうへ行こうとしたんでしょうな。そう不思議な話ではないと思いますね。満州に行ってみて、これはもうヨーロッパの続きみたいなものですね。建物はみんな煉瓦造のがっちり

したものばかり。

向井　向こうでは何か作品が残っていますか。

佐野　大連税関長舎宅や満鉄中央研究所などが残っており、昔のまま使われているんです。安井は満州では中国の昔の建築物や彫刻などいろいろ観る機会があったようですから、そちらのほうに勉強の方向が向いていたように思いますね。

大阪ガスビル

向井　ガスビルはいいですな、あれは。

佐野　私は安井武雄という人はガスビルだけをやってきたような感じがします（笑）。それまでの経過は、要するに全部精算して新しいやり方をガスビルに結集した。

向井　そやけど、あれ、増築されてからよけいようなりましたね、半分だけのときに比べて。

佐野　当時の大阪ガスの会長片岡直方さんが大阪市長の関一さんに、建設中の御堂筋に地下鉄を入れて大阪最大のストリートにするから、そこへ本社を出しなさいと言われた。

向井　ええ場所ですわね。

佐野　ガス会社の方々は即座にそれを承知したんだけど、いかんせん、会社はそれほどの力がなかったから、そんなところへいきなり出ていっても困るんじゃないかと――。それまでは工場内のガスタンクのそばに本社があるのがいいというのが通説でしたが、アメリカのガス会社の先例なども調べられてね、これからは本社はビジネス街の中心につくるのが一番いいことがわかった。それもそうやなとなったが、資金がそれほどなかったから、ワンブロックを一つのビルにしたいと会長が言ったら、役員一同反対した。そんな力がないのに無理したらいかんと。それで半分になったんです。

それで半分でもガス会社の専用部分は1階から4階までしかないんですね。あとの5階から上は料理講習室や貸室、レストランなどでやっと8階建てになったということです。ですから北側に増築してワンブロックいっぱいのビルにするのには、やっぱりそれから20年以上かかっているんですよ。まあその頃になるとガス会社は、神戸、京都地区の小規模ガス会社を全部吸収合併して関西一円の供給力を持つ会社への成長があったわけですね。

ガスビルの建設が本決まりとなり、その設計者は社外重役だった野村徳七さんの、安井にやらしたらどうだという推薦で決定したようです。片岡さんとの関係がその時に始まったんですね。片岡さんという人は、関市長の要望だけで本社の御堂筋進出を決定されたわけじゃないでしょうけども、なかなか決断力のある、大きな構想を持った方だったと思いますね。

向井　結局予算もゆったりとした予算で。

佐野　ええ。これはまあ安井がお願いして、必要なだけ計上してもらったようですね。

向井　あの建物を見てもわかりますわな。

佐野　なかなか贅沢です。地階から2階までが営業的性格のフロアですね。ショールームです。それをエスカレーターで結んでいるのです。エスカレーターというのは、その当時極めて珍しい、それに乗ってお客が自由に上下するのです。とにかく考えられるだけの新しい構想を盛込んであります。

安井武雄はご存知のように、大正の末期から昭和の初めまでは、満州の風物や中国のデザインなどから発想した傾向の仕事が多いんですけれどね、もうそれはガスビルのときにはほとんど消えてしまった。それで先生がどうおっしゃるか是非伺いたいところなんですが、大正から昭和にかけてのいわゆる日本でのモダニズムがありますね。アール・ヌーボーから始まって、セセッションの時代を経てそのモダニズムが始まるのですが、その時代とガスビルの設計の時期とがちょうど一致しているんです。

向井　そうですわね。

佐野　しかしモダニズムの動きが戦争で終息してしまう。世界的に建築活動自体が止まってしまって、新しい建築運動も同時に停止期間に入ってしまうんですね。戦争がもう10年ほど後であれば、日本のモダニズムももう少し定着をして、いい仕事が現れたかもしれません。

向井　それでも安井先生は独自で思い切ったことをされてますね。あのエレベーションね。あれだけの美しいものはちょっと他にないですわね。

佐野　安井が渡米した折に見たサリヴァンなどシカゴ派のビジネスライクな事務所建築の影響はあるんだろうと思いますね。その頃の日本の建築屋さんはみんなシカゴ派の建築を勉強に行ったものです。非常に経済性を考えて工程管理も含めた設計をきっちりやらないといかんというので、それを勉強に行ったんです。安井が行ったのもそれだと思います。

それからモダニズムの中で安井に影響を与えたと思われるのは、ドイツの表現派、少し国際主義になりかけたグロピウス、オランダのスティル派などです。

向井　ガスビルにもそろそろヨーロッパの影響がでてますね。

佐野　たとえば、正面隅角部の大きく湾曲した壁面とか、庇の水平線などの扱いにショッケン百貨店を設計した表現派のメンデルゾーンの影響を感じます。

向井　いやあ、窓と窓の間のあの間柱ね、あれは断面が放物線になっているんですね。一遍私、実際に確かめようと思うとるんですけれどね。

佐野　このことは村野先生にも私は訊かれました。単純な円カーブじゃないんです。直線部分をくっつけましてね、それで少し放物線に近いものに――。

向井　手の込んだことをしはったんですね。

佐野　あそこら辺はもう一生懸命自分でやったんですね。模型も作ったでしょうし。私が増築設計をやりましたときにも、そういうディテールはそのまま使わしてもらいました。

向井　常識ではできませんわな（笑）。しかし増築はあのまま延ばすより、あんなやり方のほうが良かったでしょう。

佐野　あのまま延ばしたら、ちょっと小うるさいというか、全体として間延びするでしょうね。

向井　そうですね。あの窓割りでやった方が良かったですね。

佐野　安井のやった建物の増築は、その他に東京で日本橋の野村證券の本社もやりました。

向井　佐野さんは増築の名人やと聞いてますよ。

佐野　有名建築の増築は大変苦労が要りますね。

向井　難しいでしょうな。

佐野　最初からぽんと建てるほうが、ずっと楽ですよ。

向井　やっぱり能のないものはできないでしょうな、増築は。

佐野　だから、面白くもあるし、苦しくもある仕事ですね。

佐野正一の時代

向井　佐野さんが安井事務所にこられてから間もなく安井先生は亡くなられてますね。

佐野　私とはもう点ですね、接触は。だからもちろん建築のデザインについての論議を二人でやったことはありませんし、それから安井事務所の後を頼む、なんて言われたこともありません。やっぱり安井は渡辺さんと同じように、設計事務所は一代限りのものだと考えていたと思いますね。

だから、私は安井と同じやり方でやれるわけでもありませんし、いろいろ考えてみて、安井武雄のそのままの亜流になろうとは私自身思いませんでした。

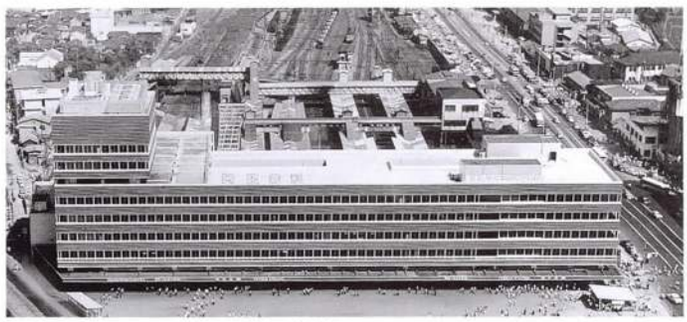
向井　事務所を主宰している建築家で、代表作のない人が案外多いんですな。

佐野　それは言えますね。

向井　大阪でも佐野さんみたいに、ちゃんと学会賞を２つも取られ



サントリー山崎蒸溜所（旧寿屋山崎工場）
大阪府島本町　昭和33年（1958）　日本建築学会賞・大阪府知事賞



天王寺ステーションビル（旧天王寺民衆駅）
大阪市天王寺区　昭和37年（1942）大阪府知事賞



大阪ガスビル
大阪市中央区　旧館　昭和8年（1933）・新館　昭和41年（1966）



大阪国際空港ターミナルビル
大阪府豊中市　昭和44年（1969）　大阪府知事賞・建築業協会賞

たような人はいませんな。

佐野　位置づけしてもらってますからね（笑）。ただ私が受賞したのは昭和30年代からですから、それから40年たってますからね。だからその間に出来上がった建物の数はすこぶる多いですよ。野村證券さん、大阪ガスさんの仕事ではそれぞれおやじの仕事の増築にかかわっています。

その他に私自身の安井事務所に入ってからの繋がりは、一つはサントリーさんの仕事ですね。

向井　そのサントリーの山崎工場の建物が最初の学会賞ですね。

佐野　そうです。同じ学校友達という関係で、どうだやってみるか、という話でやった仕事ですけれどね。

向井　それから鉄道関係でも学会賞をもらっておられますね。

佐野　鉄道は前の勤め先でしたから、辞めてから民衆駅という種類の建物をつくりましたね。駅舎ですけれど、民間の店舗などを複合した施設です。それから交通関係では空港の方へもまた広がるわけです。

向井　大阪駅ビルも賞をもらわれたでしょう。

佐野　はいもらいました。

向井　大阪駅ビルはよろしいな、四代目京都駅と比べたら（笑）。

佐野　その四代目京都駅も賞を貰いましたね（笑）。

私は鉄道駅の設計に加わることが望みで鉄道省に就職しましたが、戦後は戦災復旧に追われ、在職中に火災事故に遭った三代目京都駅の復旧を担当することになったのが思わぬ機会となりました。

その数年後退職してから「民衆駅方式」で天王寺、広島、姫路など民間が協力して駅舎再建がはじまり、その設計を担当しました。その後「駅ビル方式」という民間資本参加で大阪、浜松、横浜東、大井橋上など駅ビル設計の機会を持ちました。駅舎の設計は実に楽しく心躍る仕事です。

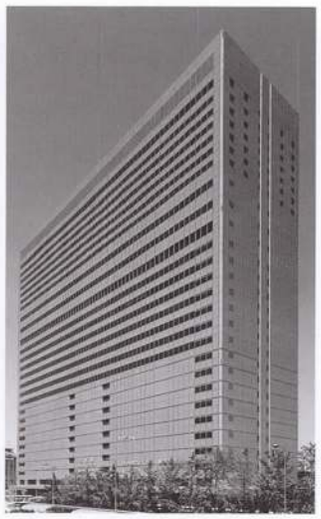
空港ターミナルの設計も少し事情は違いますが、私にとっては同質の興味とまとめあげる喜びがあります。大阪国際空港、鹿児島空港、今度完成した沖縄の那覇空港など。

向井　話は変わりますが、先日NHKのテレビで東博平成館を見ました。あの建物は佐野さんの設計でしたね。また変わった、思い切ったデザインですね。

佐野　前の帝室博物館がもうすっかりせまくなりましてね、それで展示をする度に大変なんです。展覧会を大がかりにやるときに、スペースが非常に少ないものですからね。それで、もう一つこしらえることになりました。前のものは昭和天皇のご成婚記念に昭和の初めに出来上がってますから、今度の建物は皇太子さんのご成婚記念に建設されました。



新宿野村ビル
東京都新宿区　昭和53年（1978）



大阪ターミナルビル「アクティ大阪」
大阪市北区　昭和58年（1983）
大阪府知事賞・建築業協会賞



サントリーホール
東京都港区　昭和61年（1986）



さくら銀行関西本部ビル
（旧太陽神戸銀行本部ビル）
神戸市中央区　昭和62年（1987）



勤労者リフレッシュセンター　スパウザ小田原
神奈川県小田原市　平成10年（1998）

向井　あれはやっぱり佐野さんのアイデアですか。

佐野　いや、あれはね、建設省自身がやるという建前ですが、宮内庁を初め関係各機関の意向を反映してやらねばなりませんから、なかなか難しいんです。私らはそれに対して協力するという格好で参画しました。

向井　基本設計はよそがやったんですか。

佐野　関東地方建設局がやりました。

こういう面積の、こういうプランのものをやりたいというところまでは建設局から指示がありまして、それに私が色々注文をつけて実施案をまとめました。随分時間もかかりました。しかしやっぱり問題はエレベーションですよ。

前の建物はいわゆる帝冠様式で、極めて日本風の鉄筋コンクリート造の瓦屋根の建物ですわね。平成館は大きさからいくと同じくらいの高さと長さがあるんですね。しかし同じような瓦屋根をかけるわけにはいきませんよと。結局前の建物の持っている非常におおらかな和風の感じというものを平成館に持ち込むというのを立面デザインの基本方針としました。ですから全体の形は、和風の感覚もあるといえば、あるわけですよ。たとえば、奈良の正倉院の建物、あれも非常に大きな建物ですね。素朴だけれども、またモダンな感覚の建物と思いますけれど、あの建物が持っているプロポーションや屋根と足もとのしっかりしたバランスなどを参考にしながらこさえていったというわけです。

向井　おおまかなところは、佐野さんが決めはったんですか。

佐野　そうです。昭和時代に完成した技術でやろうと、いろいろ提案したんです。しかし基本的にはモダニズムですね。それで全体としては機能主義の性格に合ったものを求め、外観デザインは、瓦屋根ではないが木造の手法を感じさせるプロポーションにしようと、ファサードは殆ど壁で上端に連窓を設けました。それで屋根はチタン製の前例のない大きな板材で全面を葺きました。壁面の仕上は前の建物はテラコッタでやっていますが、今回は80センチ角という非常に大きな陶板を開発し、コンクリート躯体に特殊な懸垂型工法で取付けました。この陶板仕上の施工は大変立派にできたという気がしますね。

向井　あの建物はよろしいな。

佐野　上野の山というのは、私は明治の先君達が立派なものを残してくれたことについてほんとうに感謝しなければならんと思いますね。あれだけの場所に、現在美術館や博物館、芸術大学などがみんな集まっているんですよ。これは壮観ですね。しかし遺憾ながらこれらの施設を連携した総合的展示展観というのは、全然だれも考えてくれないんですよ。今まで全部クローズでしょう。おのおのの美術館、



東京国立博物館　平成館
東京都台東区　平成11年（1999）



広島市庁舎
広島市中央区　昭和60年（1985）



戸塚カントリー倶楽部クラブハウス
横浜市戸塚区　平成9年（1997）



日本中央競馬会京都競馬場
京都市伏見区　平成11年（1999）



那覇空港国内線旅客ターミナルビル
那覇市　平成11年（1999）

博物館が収蔵するだけの話で、見たければ見せてやるという、それが上野の実態ですね。

そもそも平成館ができたのも、日本経済のバブル期に文教予算がどっさりついたからですよ。これによって上野の山の美術館、文化会館、科学博物館なども一斉に展示スペースの大拡張をやっています。これらが全部今年できあがりました。こんなことは博物館の歴史の上では初めてですね。明治以来の大進出の予算です。京都や奈良の国立博物館も拡張工事をやりましたよ。全国的に大変な文教予算がついたわけです。珍しいことです。

今私どもは、折角そこまでいったんだから、もうちょっと総合的な利用まで意識を高めてほしいと考えています。上野の山はいろいろと複雑でしてね、山全体は建設省の管理下にありますが、地上の分は東京都が管理しているんです。それをまた台東区が管轄をしているために、一つ事業をやろうと思えばこれらの機関を全部総合的に調整しなければなりません。だからこれはなかなか複雑ですよ。しかし折角の機会を何とかしたいですね。

向井　芸術と建築のかかわりでは、佐野さんは平成館以外にもう一つサントリーホールという名作をつくられましたね。

佐野　サントリーホールは私の一番の代表作と自認しているんですよ。先日惜しくも亡くなったサントリーの佐治敬三会長は、私の学生時代からの親友で、前にもお話ししたように、私が安井事務所に入って以来、山崎工場を手始めにサントリーさんの主要な建築はほとんど設計を担当させてもらっています。佐治さんは生来の音楽好きで、まだ当時日本には無かったクラシック音楽専用ホールを、自らの手で建設する事が長年の念願でした。昭和57年にサントリーは、東京の赤坂六本木地区で進行中の市街地再開発事業に文化機能の一環を担って参加し、この地区に2006席と400席の２つのホールを持つ本格的なクラシック音楽専用ホールの建設を決定し、その設計を私に依頼してきたのです。

向井　佐治さんは佐野さんの建築家としての力量を信頼してはったんですな。

佐野　私も学生時代から無類のクラシック音楽ファンでして、佐治さんもそのことはよく知っているものですから、佐野君に頼めば多分良いものを拵えてくれるだろうと考えたのでしょう。私は期待に応えて世界一響きのよいホールをつくろうと、技術上の難問を解明するために佐治さんと一緒に欧米のめぼしいホールを見て歩いたり、ベルリンフィル・コンサートホールに巨匠カラヤンさんを訪ねて貴重な助言を貰ったりして、何とかヨーロッパの一流ホールに引けを取らないものをつくり上げることができました。このホールは外観はほとんど無くて、内観だけの建物です。

それでも私は敢えてライフワークと言っています。この仕事では実際それだけのことをやってきました。この建物には私自身の哲学があります。

向井　サントリーホールには、佐野さんの建築家としての真骨頂がうかがえます。佐野さんは建築創造と事務所経営、芸術家とセールスマンの二足のわらじを巧みに履きこなす達人ですね。

どう動くか建築思潮

佐野　建築の思想について、私はもうちょっとモダニズムの時代を続けさせたかったなと思います。モダニズムの影が薄くなって、それで変なローカリズムが出てきたでしょう。前川國男さんの設計などもその戦列に加わってきたんだけれども、どちらかというと不十分のままでね。そういう民族主義的な匂いの非常に強いものがパット出てきた。ジャーナリズムにもそれでもてはやされた時代がありましたが。

安井武雄の場合もサーリネンやアールトなどの仕事を興味をもって眺めてましてね、自分なりのローカリズムをもう少しやりたかったんだろうという気がします。だけどやる時間がなかった。そういう意味で戦後のモダニズムからローカリズムが出てきた時のいろんな手応えというのが十分ないままに終わってしまったというようなところがありますね。それは非常に残念な気がします。大阪でいえば村野さんもかなりそういうローカリズムについては関心をもっていましたけれどもね、十分咀嚼する前にやめられてしまったという感じですね。現在はどうかというと、そういう様式論的な話は全部消えてしまった。私にとってはほとんど最後の仕事といえる東博平成館などがモダニズムの最後かも知れませんね（笑）。公共的な建物もモダニズムでは無くなりつつあるし。

向井　どうなるかわかりませんね。一旦あんなポスト・モダンなんかになってきてね。それがまた変に崩れてきて――。

佐野　だからやっぱり戦後に、ローカリズムのようなことに対してもう少し突っ込んだ検討を重ねて、日本はこういうやり方でやっていくのだというようなものが出てくれば、それが一つの答えになったんでしょうけれど、それをしないで、そのまま前へ行ったものですからね。今は無様式時代ですよ。混乱時代です。

向井　いや、私も以前周りにね、ご存じと思うけど、いわゆるポスト・モダン的な連中がいっぱいおりましてね、アンビバレントな悩みを味わって参りました。

佐野　渡辺豊和君などは重要な働き手ですね。

向井　口八丁手八丁でよくやる人ですね。

佐野　私は渡辺君なんか東大のデザインの先生になるんじゃないかと思っていたんです。ところが安藤忠雄君がなってしまいました。

向井　東大でなかなかよくやっているようですな。

佐野　しかし学校も人気商売みたいなところがありましてね。安藤先生の就任なども、工学部の全体教授会の投票で決めたんですよ。それも特に建築学科の香山寿夫先生や鈴木博之先生あたりが熱心に安藤君を推した。

向井　指名ですか。

佐野　そうです。安藤先生もしかしいろいろ勉強して、新しい本を書いてそれが今ベストセラーですよ（笑）。

向井　単に建築のことだけでなく、もっと他のことを書くでしょう、あの人は。

佐野　いや、それが不思議なことに、安藤先生が書いた最近の「安藤忠雄建築を語る」は、アメリカの設計の連中などのことを引き合いに出して本人のことをいろいろ言ってるんですが、それが非常に面白いんです。建築屋だけでなくて、一般の人が沢山読んでいるんです。それでベストセラーですよ。

向井　以前から彼がアメリカで講義をしても、大入りでいっぱい聞きにくるらしいですね。

佐野　それが不思議なんですよ（笑）。

向井　面白い人やしね。

佐野　安藤君は先生の教室にこられたんですってね。

向井　私ね、神戸大学へ行く前は京都の芸大におったんですわ。その時彼は私の講義をもぐりで聞いとった。後で本人が実は聞いていましたという話です。こっちも何をしゃべったかわかりませんねんけどね。渡辺君は神戸大で私の助手をしていた毛綱毅曠君を頼って入ってきたのです。彼らはばーっと出たり入ったりしましてね、一時にぎやかな事でした。そやけどどっちも学会賞を貰いましたからな。よくがんばったと思います。この頃はちょっと鳴りをひそめてますね。

佐野　高松伸さんにしても変わっている点では同様で、京都大学にようあんな人がでてきたなと思います。

向井　彼も母校へ帰りましたな。

佐野　そうですね、いま教授です。

向井　あそうですか、川崎さんのあとですね。あの人ね、はじめ川崎さんの事務所におったんですよ。

ポスト・モダンの連中はモダンは機能主義一辺倒のような言い方をするでしょう。そうじゃないんですわ。どんどん変わってきとるんですわ。モダニズムかてどんどん変わって来たのですわ。コルビュジェにしてもどんどん変わっています。そんなことは横に置いといて、ポスト・モダンの連中って、結局好きなことをしようとしたんですね。思いきり自由にやろうとしたんですね。誰かが書いてましたけれど、禁制の完全解除みたいな。モダンの一番のタブーは様式なんです。それを解除に踏み切ったわけですね。そこで日本の様式もやるし、西洋の様式も——。磯崎さんがつくばでやったでしょ、あの頃が一番頂上でしたね。

佐野　新しい様式論を創りだすような有望な建築家はなかなかいませんね。案外磯崎さんあたりは、またやる気を起こすかもしれないが、ちょっともう年を取り過ぎましたかな。渡辺さんは私は非常に有望な人だと思っているんですけどね。しかし彼の気まぐれを大いに手伝う連中が周りに沢山いるから、それから抜け出して、翻然として行く道を変えることはできないでしょうね。

向井　この間、赤瀬川原平さんが「老人力」というのを書いたでしょう。あれを読むと老人力が評価できるのは日本とヨーロッパで、アメリカはあかんと書いてある。

佐野　あれは老人を大いに力づけるものですよ。

向井　アメリカの使い捨てはひどいですね。新しくつくるときに、もう潰すことを考えているんでしょう。

佐野　私は阪大の足立孝先生に、戦後、アメリカから聞いてきた話で「建築装置論」というのをやりだされてね、あれには往生しました。もう足立先生あんまり言うなと。

要するに装置ということは、極めて一時的な仮設で、そういうもので用がおわればまた取替えるというような、そういうのが建築の一番の基本ではないかという意見をだされましてね。これには私らはもう参りました。そんなことやられたら建築というのは成り立たんですからね（笑）。

向井　全部どうか知らんけど、赤瀬川氏にようるとアメリカはツルピカ式というのですが、そういうものばっかりつくって、ちょっと古うなったら捨てよると。そういう線がやっぱり強いんですかな。古いものはあかんという。ところがこっちは侘びとか寂とかを大切に考える。そういうものは残しとかんと惜しいですわね。ヨーロッパ人はそれがわかるんですね。

佐野　古いものを復元しようというような考え方は、ヨーロッパはいまだに末端に至る施工の技術を残してでもやろうとしてますでしょう。

向井　アメリカでも建築となると、そないに簡単に潰しますかな。かなり古い建物も残ってますわね。

佐野　実際にアメリカも経済が一時のようでなくなり、古いものをリフレッシュして使っていこうというふうに変わってきているんだろうと思いますがね。

（終）



大阪倶楽部



野村證券本社



大阪ガスビル



サントリー山崎蒸溜所



奈良市庁舎



熊本県立図書館

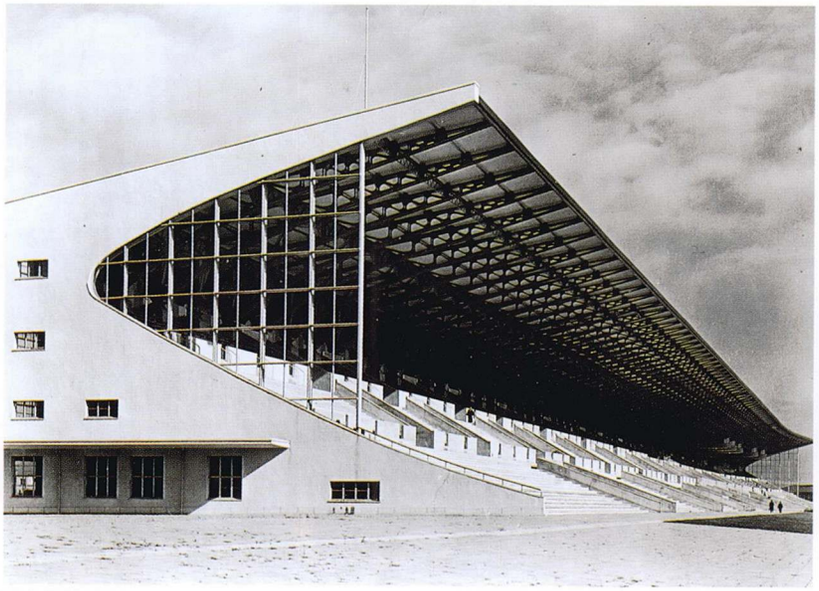


あいち健康の森健康科学総合センター「あいち健康プラザ」



勤労者リフレッシュセンター「スパウザ小田原」





旧京都競馬場





京都競馬場スタンド



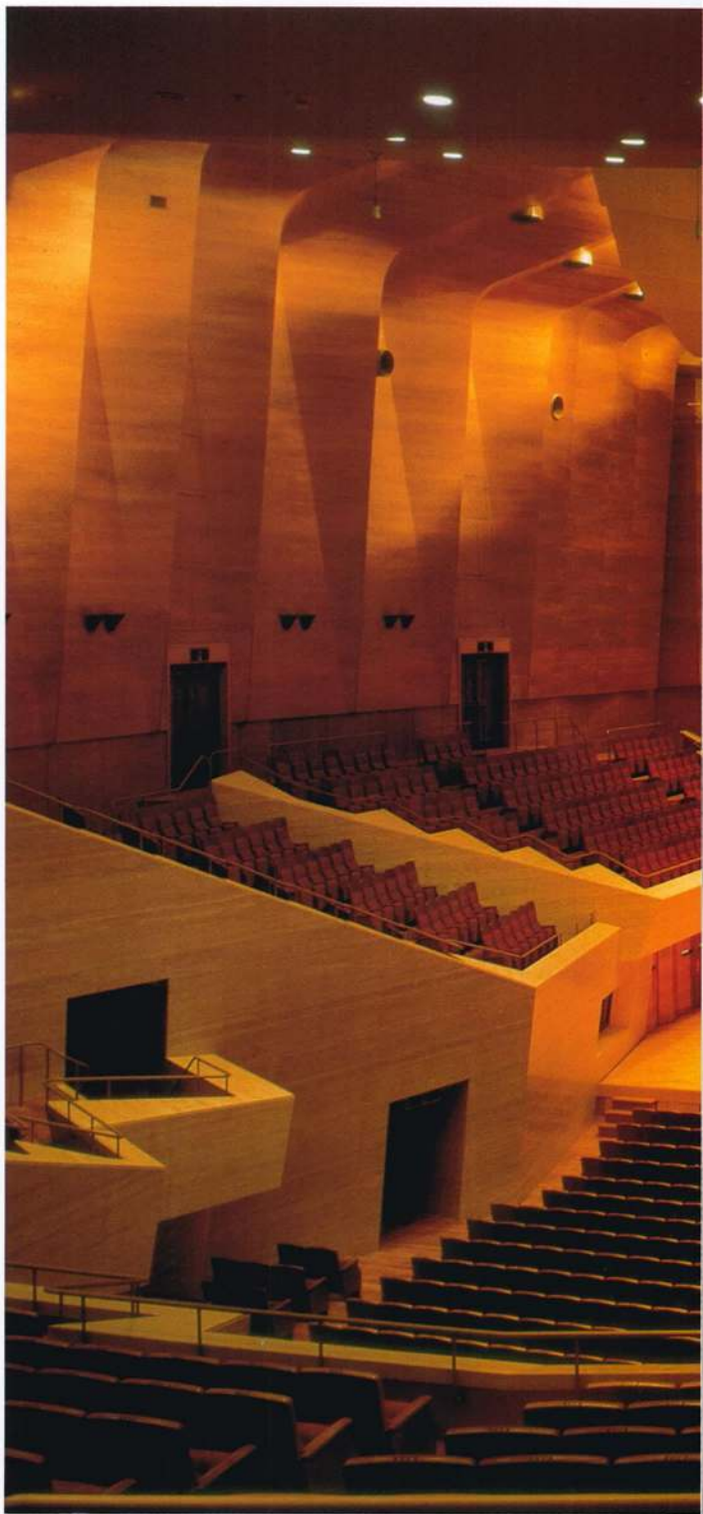


大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」



国立病院九州医療センター







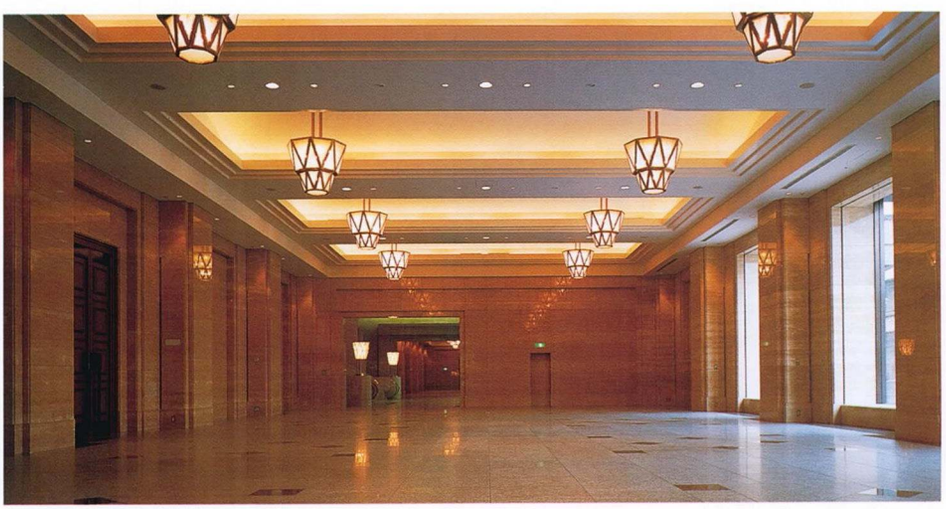
サントリーホール





東京国立博物館　平成館









天王寺ステーションビル・天王寺ターミナルビル「MiO」



大阪ターミナルビル「アクティ大阪」



大阪国際空港ターミナルビル　再整備













那覇空港国内線旅客ターミナルビル



東京国際空港庁舎・管制塔



新宿野村ビル



さくら銀行関西本部ビル



大和銀行本店ビル



アーバネックス御池ビル



明海ビル



日本アイ・ビー・エム大阪南港ビル



国税庁醸造研究所



リゾートトラスト　エクシブ鳥羽



有明パークビル・東京ベイ有明ワシントンホテル



弁天町駅前開発土地信託事業「ORC200」

建築概要

大阪倶楽部
①大阪市中央区
②RC　4F/B1F　3,256㎡
③1924年
④大林組

野村證券本社
①東京都中央区
②SRC·S　9F/B4F　36,000㎡
③1930年　1959年
④大林組

大阪ガスビル
①大阪市中央区
②SRC　8F/B3F　47,000㎡
③1933年　1966年
④大林組

サントリー山崎蒸溜所
①大阪府島本町
②RC　4F　71,8000㎡
③1958年
④三和建設

奈良市庁舎
①奈良市
②RC　6F/B1F　32,854㎡
③1977年　1991年
④淺沼組

熊本県立図書館
①熊本市
②SRC·RC　4F　9,410㎡
③1985年
④清水·戸田·建吉·勝本JV

あいち健康の森健康科学総合センター「あいち健康プラザ」
①愛知県東浦町
②S·SRC　11F/B1F　40,433㎡
③1997年
④佐藤·西松·大明·七番JV
⑤愛知県建築部営繕課と共同設計

勤労者リフレッシュセンター「スパウザ小田原」
①神奈川県小田原市
②SRC　12F/B1F　52,553㎡
③1997年
④大成·清水·鹿島·青木·不動·三菱JV
⑤教育施設研究所と共同設計

京都競馬場スタンド
①京都市伏見区
②S·SRC　7F/B1F　121,139㎡
③1938年、1971年、1980年、1999年
④（1980年）竹中·大林·鹿島·戸田·フジタJV
（1999年）Ⅰ工区 大林·鹿島·新井JV
Ⅱ工区 竹中·戸田·大本JV
エネルギーセンター棟 大林·鹿島·青木JV
⑤日本競馬施設と共同設計

大阪大学医学部学友会館「銀杏会館」
①吹田市
②RC·S　4F　3,856㎡
③1995年
④森組

国立病院九州医療センター
①福岡市中央区
②SRC　10F/B2F　58,317㎡
③1994年
④鹿島·西松·三井·佐藤JV
⑤厚生省保健医療局国立病院部と共同設計

サントリーホール
①東京都港区
②SRC　3F/B2F　12,149㎡
③1986年
④鹿島建設

東京国立博物館 平成館
①東京都台東区
②RC　4F/B1F　17,997㎡
③1999年
④鴻池·安藤·ナカノ特定JV
⑤建設省関東地方建設局営繕部と共同設計

天王寺ステーションビル
①大阪市天王寺区
②SRC　11F/B4F　48,812㎡
③1962年 1968年 1995年
④（1962・1968）奥村組
（1995）奥村組・大鉄工業JV

天王寺ターミナルビル「MiO」
①大阪市天王寺区
②S　12F/B2F　58,781㎡
③1995年
④奥林·大鉄·村本·南海JV

大阪ターミナルビル「アクティ大阪」
①大阪市北区
②SRC·S　27F/B4F　138,537㎡
③1983年
④大林·鹿島·清水·竹中·間JV

大阪国際空港ターミナルビル 再整備
①豊中市、池田市、伊丹市
②SRC　8F/B2F　122,622㎡
③1969年　1999年
④（1969）大林·清水·フジタ·竹中·間·熊谷
（1999）清水·松村·榎並JV·フジタ·大林·森本
⑤（1999）空港エンジニアリングと共同設計

那覇空港国内線旅客ターミナルビル
①那覇市
②RC·PCa　5F/B1F　77,025㎡
③1999年
④（北工区）國場·大成·大米·仲本·善太郎JV
（南工区）大城·三井·日航·大普·東開発JV
⑤宮平建築設計事務所と共同設計

東京国際空港庁舎·管制塔
①東京都大田区
②SRC·S　14F/B2F　31,514㎡
③1992年
④（庁舎）清水·戸田·東洋JV
（管制塔）大成·住友·大木JV

新宿野村ビル
①東京都新宿区
②SRC·S　50F/B5F　119,156㎡
③1978年
④熊谷組

さくら銀行関西本部ビル
①神戸市中央区
②S·SRC　18F/B2F　38,777㎡
③1987年
④竹中·大林·清水·大成·新井JV

大和銀行本店ビル
①大阪市中央区
②S·SRC　24F/B4F　60,136㎡
③1991年
④大成·竹中·鴻池·奥村·野村JV
⑤東畑建築事務所と共同設計

アーバネックス御池ビル
①京都市中京区
②RC·S　8F/B2F　14,732㎡
③1995年
④大林組

明海ビル
①神戸市中央区
②S·SRC　10F/B1F　14,242㎡
③1998年
④鴻池·鹿島·清水·三井造船JV

日本アイ·ビー·エム大阪南港ビル
①大阪市住之江区
②SRC　7F　28,268㎡
③1990年
④大林·前田JV

国税庁醸造研究所
①東広島市
②RC·SRC　5F/B1F　16,145㎡
③1995年
④（Ⅰ工区）フジタ·大日本·大本JV
（Ⅱ工区）大林·安藤·新井JV
⑤建設省中国地方建設局営繕部と共同設計

リゾートトラスト エクシブ鳥羽
①鳥羽市
②S·SRC　17F/B1F　35,778㎡
③1987年、1991年、1999年
④（Ⅰ期）大林·清水JV
（Ⅱ期）大林組

有明パークビル·東京ベイ有明ワシントンホテル
①東京都江東区
②S·SRC　22F/B3F　70,113㎡
③1999年
④竹中·三井·佐藤·日本国土·東亜·日本JV

弁天町駅前開発土地信託事業「ORC200」
①大阪市港区
②S·SRC　50F/B2F　252,964㎡
③1990年、1993年
④（第1期）竹中·奥村JV
（第2期）清水·長谷工·鴻池JV
⑤アール·アイ·エー、昭和設計と共同設計

凡例
①所在地
②構造・規模
③竣工年
④施工者
⑤共同設計 等

●写真撮影者
荒井政夫
エスエス
河野博之
川澄明男
島　修一
つねなりスタジオ
名執一雄
西日本写房
東出清彦
三輪写真事務所
村井　修

座談会

21世紀へ語り継ぐ激動の昭和

－戦中戦後の協会活動をふり返って－

座談会　21世紀へ語り継ぐ激動の昭和
―戦中戦後の協会活動をふり返って―



三品（司会）　今日は、協会の大先輩の皆様に集まっていただきました。戦前、あるいは戦後まもなくご入会になり、いろいろな波を乗り越えてこられた功労のある方ばかりであります。80年史は、ワーキンググループ代表で、ここにご同席の坂本（勝比古）先生にご苦労をいただき、まとめにかかっておりますが、そこに、この座談会が掲載される予定です。もうすぐ来るであろう100周年に向かって、協会の歴史を今の段階で引き継いでおかねばならないということで、とりかかった編纂でありますが、この座談会も、内容を会員の方々にご覧になっていただき、思いを新たにしていただきたいという気持ちで開催いたしました。

今日は市川（宏）会長がご挨拶を申し上げる予定でしたが、風邪で残念ながらご欠席であります。くれぐれもよろしくとのご伝言がありました。

今まで、協会の創立15周年、25周年、35周年、50周年に当たって、その当時の重鎮の方々に座談をしていただいた記録があり、創立当時の意気盛んなころの懐古、その時点での将来の展望について、貴重なご意見をいただいておりますので、できれば、本日は主として昭和42年の50周年以降のいろいろなことについて、お話をいただきたいと思います。

その間の協会の歴史を簡単に申し上げますと、昭和39年から会長が東畑（謙三）先生、46年から塚本（猛次）先生、57年から福田（朝生）先生、59年から佐野（正一）先生、平成６年から現在の市川会長という経緯であります。また、会員の数の一番のピークは、昭和45年の個人会員6600人、団体会員660。現況から思えば夢のような隆盛でありました。

事務所は、昭和31年から北浜の近畿建築会館に、昭和58年から現在の大阪駅前第三ビルに移っております。

市川会長が去年の「建築と社会」の80周年特集号の巻頭で、昭和初期の黄金時代を第一の節目とすれば、第二期が戦後まもなくの定款改正などがあった新体制のころ、そして現

出席者（50音順、敬称略）

尾亀清四郎　（㈱三晃空調相談役、協会監事）
大林芳郎　（㈱大林組会長、協会元副会長）
小西岬　（㈱小西設計会長、協会元理事）
佐野正一　（㈱安井建築設計事務所会長、協会名誉会長）
横尾義貫　（京都大学名誉教授、協会元副会長）
三品哲夫　（元大阪市局長、協会副会長）―司会―

日時　平成11年１月21日　午後２時～午後４時
場所　（社）日本綿業倶楽部本館３階・中会場

在が第三の節目、ある意味では大切な時期ではないかと言っておられますが、今の時点での協会のあり方については、新しい認識が必要ではないか、あるいは100周年に向かってしっかりと展望を見据えての協会活動の活発化が必要ではないか。そういう意味で私も第三の節目ではないかと思います。これからの協会活動について大きな指針となるご意見を頂戴できたらと思います。

建築諸団体誕生のきっかけ

―― 佐野名誉会長は永年協会の要職にあり、高い視点から協会をご覧いただいていると思いますが、協会の活動をどのようにとらえてこられたでしょうか。

佐野 会長で一番重要なのは片岡（安）先生で、大正６年から昭和21年に竹腰（健造）先生に替わられるまで会長をやっておられた。その間に、新しい関係団体をつくられ、関西の建築界が非常に盛んな時代に、何かをやろう何かをやらなければならないと声をあげた、その一人が片岡先生でした。

片岡先生は名門の出で、日銀の大阪支店の設計を担当し、京都大学の大ボスの武田（五一）先生とも同窓のつながりがあって、関西には関係が深かった。そういう眼で見て、関西の建築界のあり方を具体的に実践していかれた。

忘れてはいけないのは、昭和20年、戦争末期に建築学会と日本建築協会の合併の話が出てきた。これは途方もない話です。その時代の人たちからすると、統制経済下で行政を簡素化しなければならない、学会も協会も同じことをやっているではないかという程度の認識。戦時体制の中ではその程度に見られても仕方がなかったでしょうが、歴史の古い学会から話があって、片岡さんはもてあました感じで、竹腰さんが折衝役になっておられた。

竹腰さんには合併の気持ちはなかった。表向きには合併を前提にいろいろな話もやっておられたが、実際にはのらりくらりと、片岡さんの意見も聞かなければならないということで逃げていて、昭和20年になって、片岡さんと東京の佐野利器さんとの間で最終の話が出て、やろうと、そのときはほとんど合併に近い答えは出ておったが、戦局が悪くなり、世話役および建設省もそれどころではなくなってしまって、しばらく待とうではないかということで、そのままずるずるときてしまった。しかし僕はそれでよかったと思います。

厳密にいえば、学会は学術的な団体として発足した、それがベースになっていた。建築協会は片岡さんの方針、竹腰さんの示唆もあって、最初から民間活動にふれて、建築の社会的啓蒙をはかるのが活動方針であり、ちょっと両者のニュアンスが違う。会員の構成も、学会は主として設計事務所、協会はゼネコンも建築材料屋さんも引き受けて会員にして、ちょっと違う。もともと合併しにくい条件があった。それをむりやり合併しようとした。無理のある話はやめとこうと、僕はそれでよかったと思います。

第一の創設の苦労は片岡さん、協会としてのベースをつくられた。社会的活動をやって、いろいろ新しい事業をやらなければならないと、住宅関係の博覧会をやったり、熱心に講演会や説明会や討論会をやられた。その時期は、明治の技術輸入時代が終わって、新しいヨーロッパの新建築運動を入れなければならないという時代で、急速に日本でも進行した。代表は武田先生だったと思います。デザイン的にもかなり新しい構想が目立つようになったが、戦争になった。そこでモダニズムをかかげた新建築運動は終わってしまって、いわば戦後空白時代に入る。約10年ぐらい空白時代があって、ポストモダン時代を迎えるわけです。



佐野正一

戦後、竹腰さんが昭和22年から会長になられて、新しい復興をおやりになったんですが、実質的には仕事をやろうという条件は整っていなかったので、ずいぶん苦労があったと思います。

その後、日建の尾崎（久助）さんが第三代目の会長になられた。期間的には短く６年で、実質的には副会長の東畑さんが随分支えとしておやりになった。東畑さんが第四代会長に就任されるのは、そのあとです。

昭和25年に建築士法、建築基準法の制定があり、これは革命的な出来事であった。それ以後は建築士会ができるし、建築家協会もできる。明治時代からの建設業協会も近代的な姿で名乗りをあげるのは戦争末期になってからで、いよいよ活躍を始めるのは戦後です。戦後に顔触れが全部揃って、いろいろなことが始まった。そういうものと全部関係がある建築協会を今後どうするか、非常に問題になっていた。

その辺は竹腰先生も東畑先生も非常に苦心された。塚本さんが東畑さんの後を継いで会長をやられますが、このころに僕が聞いたのは、各団体が独立した会をつくってしまえば、建築協会は貸し座敷業みたいになってしまう、雑誌を出すこと以外はやめたらどうかと言われた。それは極論で、あまり現実的ではない。世話役の団体としての建築協会は総合性を持った団体として、各団体は仲良くやって、新しい発展をしていかなければならない。雑誌もちゃんと出さなければいけません。

塚本さんの時代には、いろいろとやられたことがあります。まず、事務所の確保の問題。北浜に近畿建築会館があった。これは宗事務所の大倉三郎さんの設計です。竹腰さんの時代は、朝日ビル時代まで事務所を転々として苦労をしておりましたので、そこに早く移ろう。そのためには金が必要で、会員の間でお金を集めた。これを何年かして償還するのですが、割合にうまく金が集まりました。実行委員長は東畑先生で、改修工事をして4階を増設しました。その段階で、各団体で自分の財産の事務所を持っているのは日本建築協会だけだったんです。

学会も困っておりまして、学会の事務所も入り、新しくできた建築士会へも、建築家協会へも、事務所としてお貸しするということで、建築会館にみんなが集まった時代があった。これが昭和30年代です。

この土地はもともと大阪府の河川敷だったと思われるんですが、昭和55年なって、大阪府の財政の都合でしょうが、大阪府から敷地の買い取りを言ってきまして、協会もお金がないので借入金で買いました。お金を集めるのに、情勢があまりよくなかったので苦労がありましたが、土地つきの財産を持ったわけです。数年後にお隣のヒサヤ大黒堂が事業拡張のために土地建物一切を買い取りたいと、錢高さんの仲介で話がありました。これは条件がよかったので、塚本さんの会長の代になっておりましたが、まだ東畑先生もおられて、思い切って駅前で再開発工事が進行していた大阪駅前第三ビルに移りました。これは買い取りですが、そのときの市の開発担当者が三品さんでした。このときは、ヒサヤ大黒堂の金で内装まで一切をまかなって、借り入れはなかった。

戦後、こういう団体が一斉に勢揃いするということでは、総合試験所を吹田につくろうと建設省から話があり、もっぱら東畑先生が担当してこれを推進された。5年ぐらい大変な苦労で、早く早くということで大阪の各団体の協力でやりました。家協会、士会ともに新しい団体でしたから、建築協会が中心になってやってくれるからということで、協力し合った、そういうことの最後です。

横尾　東畑先生が建築協会の立場から、大きな努力を払って実現されたのが、財団法人日本建築総合試験所です。当時建築基準法関連の認定、建築材料の試験などの業務機関を東京および大阪に設立したいとする建設省の勧奨に従って、大阪では建築協会が関係建築諸団体と連絡しながら、具体化の調査検討が始められました。東畑先生が推進役となり、塚本猛次さんが補佐役となって、建設省の三宅俊治指導課長、松谷蒼一郎技官らと接触し、また大阪府建築部が山本康雄指導課長、日本建材協会等と連絡して官民の出資、土地建物機材の手配、人材確保等重要事項が逐一具体化されていきました。その間には、通産省担当の建材試験センターとの調整など、曲折した経過もありました。資金は公共的補助金が国約1億円、大阪府、大阪市各1億円、計3億円、民間寄付が3億2千万円、計約6億2千万円として、土地を千里丘陵に取得、建物2億2千万円、機械器具など3億円の施設を整備するという計画を立て、昭和39年4月、建設省の認可が下り、日本建築総合試験所は、まず大淀分室で業務を開始しました。土地は大阪府の斡旋で千里の現在地に確保することができ、昭和42年12月には本館等が完成し構造、材料、耐火、防火等の試験ができるようになりました。資金については必ずしも計画通りには進まず、補助金は結局昭和39年～47年度合計で、国が485万円、大阪府が1億1千万円、大阪市が5千5百万円、合計約1億7千万円でしたが、その後、日本小型自動車振興会と兵庫県から計約1億1千7百万円の投資を受け、ほぼ計画額に達しています。これに対し民間寄付は当初の計画をはるかに超えて、4億9百万余円が寄せられていますが、民間の期待の大きさを語るものでしょう。

初代理事長には建材協会会長の中村文雄氏、専務理事には元防衛施設局長の錦田直一氏、試験所長には京大名誉教授坂静雄先生が就任されました。昭和47年には、建設・通産の共管となり、関西でかねて必要とされていた公的試験研究機関が誕生しました。その意義はすこぶる大きいものがあり、関西建築界戦後の画期的な出来事と思います。

佐野　もう一つ覚えておいた方がいいと思うのは万博で、この会場で第2回の日本建築祭がありました。第1回は東京オリンピックのときにやったので、第2回はここでお祭りとして少し賑やかにやろうと各団体申し合わせをして、その世話役をやったのが建築協会で、東畑さんが会長としての最後の年でした。各団体の長がそれぞれ役をもらい、指導役が東畑先生で、式次第を読みあげたり、意気軒昂たる日本の建築界の復興ぶりを大いに宣伝いたしました。

ちょうど日本の戦後体制から復興をしてモダニズムの声を上げた最後の段階が万博のころで、この後はポストモダンの

時代に変わってゆく。経済体制も、社会体制も大阪は万博が終わったとたんに不景気のどん底に陥って、全然違う大阪がそこからまた始まるわけですが、建築の歴史から言えば、昭和45年は大きい分かれ道になった。

その後は建築の各業務関係は、それぞれ独立した姿で活躍する。何となく全体が集まっている建築協会はきわめて珍しいのではないか、それなりの行き方を見つけないといかんという気がします。

建築会館をつくろう

―― 今、建築会館のお話や学会と協会の合併話も出ましたが、横尾先生いかがですか。

横尾 学会と協会の合併については、僕はもう少し違った印象を持っている。戦争末期にはあらゆる団体、学・協会も似たような統合へのプレッシャーを受けたのではないか、そんな印象を持っている。僕は当時、戦時体制の大学にいましたが、そういうことが行われていたことはいささかも知らなかった。

協会と私が関連を持つようになったのは戦後で、僕の印象深いのは昭和29年、30年に浦辺鎭太郎さんが編集委員長であったころ、編集委員をやっていて、非常に面白かった。「建築と社会」で今も続いている「建築の眼」という頁は、僕らの提案です。総合雑誌に何々の眼というのがあって、それを真似した。僕も匿名でかなり書いた記憶があります。

その前にちょっと学会の話を申し上げますと、建築学会は明治19年設立の古い歴史を持っておりますが、大阪で大正６年に関西建築協会ができた、これに対し東京は非常に関心を持っていた。その一つの資料として「日本建築学会百年史」が1990年に出ておりますが、日本建築協会についての記事があります。執筆者の村松貞次郎さんは、「関西建築協会は大正８年に日本建築協会と改称し、大正９年に機関誌名を『建築と社会』に改めた。私は日本建築学会の委員会にときどき顔をだしているが、何か関西はいつも気にかかる」と述べておられます。何となく関西が気にかかるというのは、片岡安先生がつくられた日本建築協会を中心にした一つの建築界のかたまりだろうと思います。大正３年に東京大学で佐野利器先生が構造の講座を持ちますと、そのショックで建築家協会の前身の全国建築士会ができた。面白いことに、それと同時に土木学会ができている。土木には、土木工学は母なる工学という意識がありますが、明治10年、工部大学校ができ、その第１回卒業生が集まって、明治12年に「工学会」を設立します。やがて工学会からいろいろな工学会が独立して参ります。もちろん建築学会もできておりますが、大正３年に建築学会が、もとは土木工学の分野である構造をやることを鮮明にした。

佐野利器先生は本来デザインが好きではなく、ああいう婦女子のやるようなことはしたくないと…。辰野金吾先生が、そうではない、日本には地震があるから君は地震の勉強をしたらどうかということで、一念発起して勉強をされた。佐野さんは、「日本の建築はエンジニアリングである。スクールオブアーキテクチャーのような考えはいけない。ストラクチュラル・エンジニアリングである」という思想の持ち主で、この先生が東京大学で講座を持たれるということは大変なショックであろう。佐野先生がドイツから帰ってこられて講座ができるんですが、プロフェッショナルアーキテクトを目指していた中條（精一郎）さんらが中心になって、家協会の前身、全国建築士会ができた。

一方、土木学会がその年にできるんですが、創立時の記事を見ますと、建築学会が構造をやるようになったからとは書いていない。しかし、おそらく建築屋が構造をやるようになれば、土木の構造工学の重要な部分が削られてしまうので、土木学会が独立したんではないかと想像しています。

ちなみに京都大学の土木教室には土木出身の建築構造学者、日比忠彦先生がおられ、武田五一先生と京大建築教室をつくられた。しかし、創設後まもなく逝去されます。なお、佐野利器先生の弟子である建築構造学者の三浦耀先生、坂静雄先生が日比先生の後を継がれます。全国建築士会ができたとき、関西の片岡先生も顔を出されている。同会は、建築家協会は今でもそうだと思うんですがプロフェッショナル・アーキテクチャーの団体ですから、ゼネコンや材料業分野に属する建築家を除く、純粋の自分のオフィスを持ってやっている建築家の集団を目指した。

しかし、それは日本の現実に合わない。日本の建築学は、建築業の支えでできてきた。第一、佐野先生はむしろ清水建設にも近い方で反対、お弟子さんの内田（祥三）先生も反対、東京大学の先生方もおそらく反対、片岡先生も現実的でないというお考えだったようだ。そういうことがあって今日の建築の流れが出来上がっていったようです。

それはそれとして、関西の建築協会は何か凄い団体であるという意識が東京にはあったと思います。建築学会が関東にあり、支部ができるとすれば関西にできるのが順当であるのに、関西に対して何かを感じているものですから、最初の支部は戦争前に名古屋にできた、次は九州、新京（満州）、広島にできています。ようやく終戦になって、関東支部と近畿支部ができたのは昭和22年です。関西にできたのは京都大

学の旧本館の地下室に学会用の本箱が一つあっただけです。最初の支部長は坂先生、それから森田慶一先生、村田治郎先生がおやりになって、棚橋諒先生に順番が回ってきたのは昭和29年、30年です。私はそのころ「建築と社会」の編集委員であった関係で、よく大阪の協会に出かけました。佐野さんがおっしゃっていたように、協会でも家を持ちたいという気運があつた。朝日ビルでは手狭になったので、大林組から木造の三階建ての分室を借りてやっておったんですが、朝日ビルは通うのが大変だという状況にあったとき、学会支部長の棚橋先生が僕に言われたのは「学会のために建築会館をつくろう」ということでした。

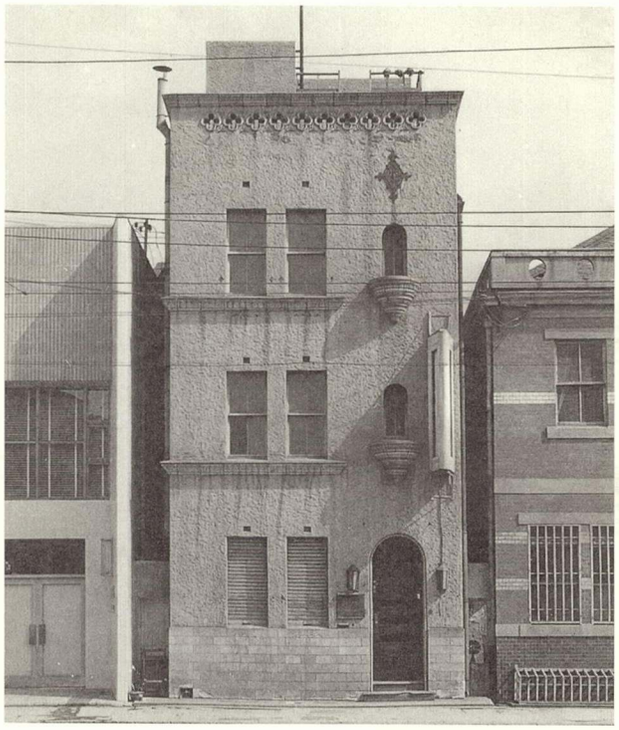
たぶん学会が何がしか金を出すと言ったんでしょうね。そして募金でもしようという考えだったと思います。僕は、協会も同じ意向があるので竹腰先生に会ってくださるようお勧めした。

昭和29年の１月３日に夙川の竹腰邸にお伺いした。年賀の席でお歴々がおられまして、棚橋君の言うことはよくわかった、一緒にやろうではないかということで、協会がお考えになっていたものを学会と合体して建築会館をつくることになったと僕は思っています。そのあとはどうなったかよくわからなかった。ところが先月、協会のOB職員の吉田悦二君、編集をやっていた松井昭光君、三木ちえ子さんの三人に集まってもらって懐古談をやったら、お金の手帳が出てきた、これは吉田君が管理しておりまして様子がわかりました。概略申し上げますと、学会が５百万円、協会が１千２百万円を集めた（約２百社弱）。お金は後でみんな返した、学会にも何年かのちに返したらしい。ところが返したと言いながら、業界の方々にはご寄付を願っているものが相当あるようでした。

近畿建築会館の思い出

横尾　近畿建築会館の絵が今の協会の事務所に飾られていますが、協会のOB諸君は第三ビルに移るまで近畿建築会館でけっこう長いこと働いたものだから、凄い愛着を持っている。あれは、三木さんが友達に建物の絵をかかせて、協会に寄付したものだそうです。これはなかなかいい絵です。松井君も壊してしまうのはもったいないと、階段親柱のふくろうの彫刻をもってきている。もう一つ銘板も持ってきたかったんだけれども外れなかったそうです。

銘板の写真をよくよく見ますと、“日本建築協會、大阪府建築士會、日本建築家協會關西支部、關西建材協會、そして学会は日本建築學會近畿事務所”とあり、近畿支部とはなっていません。これは学会本部が500万円、金を出して動きだして集まったものですから、そこにこんな名前をつけたんではないかと思っています。会館の企画は棚橋支部長のときですが、ここであらためて強力な支部長ということで坂先生にもう一度お願いをしている。学会を大阪にも移したことを強く受け止めてたのでしょう。



増築前の近畿建築会館

もう一つ申し上げたいのは、大林組から来られた手島さん、その頃常務理事になって事務局長をやられた。その下で学会を沖田（誠一）君がやり、ということで、みんないろんな団体の仕事を手分けしてやっている。あそこで７、８年ぐらいみな一緒だった時期がある。僕は外から見ていて、手島学校ではないかと。そこでいろんな団体の事務の人が育って、それぞれの事務局長クラスになっていった。例えば中村（昌作）君もあそこにおりましたが、二代目の士会の事務局長になっています。

僕は協会の副会長もやっていますが、学園紛争と重なって、ときどき出席していたと思うんです。ただ雑談をしていたということで、さしたる貢献もしていない。しかし、そのころは会員もピークだったし、何か盛んだった、みな意気軒昂たるものがあったという気がします。

OB職員の松井君の描いた建物の絵をお配りします。松井君をして言わしむれば、大正11年の「住宅改造博覧会」は非常に大きい事業ではなかったかと。10年前の70周年のときにこれの詳しいレポート『住宅近代化への歩みと日本建築協会』が出ていますが、松井君がなぜこの建物のスケッチを

したかというと、建物の前に箕面市が立てた看板が立っており、それに住宅改造博覧会のことが、建築協会が主になってやったことが書かれているからです。きちっと文言をお調べになって、この際、記録しておいた方がいいかと思います。

―― ある意味ではよき時代の建築協会だったなと…、建築会館も懐かしいですね。ただ4階は継ぎ足しで、会議には階段をあがらなければならないので、事務的には不便でしたね。

横尾 あの階段が僕は懐かしい。50周年記念号で、第Ⅲ回座談会のとき昭和後期が語られますが、僕は名古屋大学におり座談会には参加していません。が、学会と協会の協力時代についての記述は弱いように思います。

戦中戦後の建築界

横尾 手島さんは非常に功績があったと思います。大林組は近くにありますから、大林組には何とかお世話になった。切っても切れない関係があるような気がします。

―― 戦時中の統制時代は、いろんな面でご苦労なさったと思うんですが…。

大林 ハワイの攻撃の直前に私は学校を出ました。昭和16年の春ですから、ほとんど戦争に必要な軍の仕事を民間でやらせてもらうという仕事ばかりで、協会も大変だったと思います。われわれの業者の組合も勝手に変えられて、戦時建設団などと、政府の言うとおりでしたね。なかなか思うようにできなかったと思います。

私も学校を出たばかりですから、細かなことはあまり記憶にはないんですが、とにかく軍というか政府に振り回されていた…建設業者にとってはそういう時代でしたね。

戦前は建築関係の管轄は内務省で、建築協会も内務省から正式に許可をもらっているんです。戦後は割合に早く建設省ができましたから、建設省の肝入りで関係の法律ができてから、だいぶん様子が変わって参りました。完全な自由とは言えませんが、かなり自由に仕事ができた。それでも昭和40年近くまで高層建築は許されなかった。地震もときどきあって、福井地震は大きかったですね。



大林芳郎

日本建築協会は学会とはちょっと違って、もう少し幅の広い考え方をしておられたんではないかと思います。私は戦後の昭和25年の占領中にはじめてアメリカに行きました。パスポートをもらったのが外務省ではなくマッカーサー司令部で、10、11、12の3カ月でアメリカ中をずっと回ったんですが、何でこんな国と戦争をしたんだろうというのが感想でした。アメリカは機械化が進んでおり、とくに日本ではまだ土木は現場でコンクリートを練っている時代でしたが、向こうは生コンでした。建設関係も技術に力を入れないといかん、それ以外に手はないと私は確信しました。

帰国してからは、やかましく言って、割合に早く技術研究所もつくりましたし、昭和30年代には留学生をアメリカに随分送り込みました。ハーバードにも何人か送りましたが、一番多く出したのがスタンフォード大学で、現在までに30人以上の留学生を行かせておりますが、相当いい勉強をしてきたと思います。

―― 戦争直後の建築関係法制の整備が、今までの建築各部門の発展をもたらしたわけですが、現在は第三の節目になると考えられます。その一番大きいモメントは、この度の建築基準法の新改正ではないか。その意味では、戦争直後と同じような運命を現在は担っているのではないかと思うんです。建築界にとって今は非常に大事な時期ではないか。設計事務所の方も建築関係の方も、材料関係の方も、それから建築界をトータルして、どうしたらいいかということを考えたら、私はそういう感じを受けるんです。そういう意味も含めて、戦後の設備関係の発展に関連して、お考えがありましたら…。

尾亀 私は須賀工業におりまして、戦争中は鉄鋼工作物規定で建築と同じように設備も鉄管や非鉄金属が要りましたので、その配給をするために団体をつくらされたわけです。次々に名前が変わって、今は社団法人日本空調衛生工事業協会として全国的な活動を続けています。

戦争中は軍関係、軍需工場、徴用工員関係は、ボイラーを据えて厨房、浴槽に蒸気を送って風呂を沸かしたり、飯を炊いたりしておったんですが、こんなことを海軍の施設部で沢山やりました。

戦争がすんで、焼け跡の鉛管でも拾って整理しないとしようがないと思っていたら、駐留軍がやってきて市内の各建物の接収が始まり、その設備をする。私は上六の赤十字病院にちょっと来いと言われて、これをすっかり改修した。便所は

腰掛け式で仕切りがない、彼らは新聞を見ながら座ってやっている。建築の改修は清水建設でしたが、アメリカ軍曰く、設備の方に金がかかるんやから、おまえのところが元請けになったらいいんやと。日本ではそんなことはできないと、清水建設の下請けとして膨大な突貫工事をやりました。

そうこうしているうちに、沖縄で工事が始まる。私のところは昭和21年に三晃空調をつくりました。新店ですから、従来の会社の得意先を荒らしてはいかんと沖縄に参りました。



尾亀清四郎

バッチャープラントは軍が持っておりまして、ゼネコンから注文をしますと、時間をきめて何㎥と運んでくる。そんなことで、昭和25年から５年間ほど沖縄で仕事をしましたが、ここで新しい空調工事の勉強ができました。

昭和30年には住宅公団ができて、業界あげて協力せよということで随分仕事がきまして、団地をやらせていただきました。

―― 設計事務所関係も、戦中戦後にいろいろご苦労があったと思いますが…。

小西　私が協会に入ったのは昭和13年の４月でした。私は長谷部・竹腰建築事務所に就職したんですが、当時大阪でできていたビルは宇治電ビル、中之島３丁目の大ビルの新館、北浜の株式取引所、日本橋３丁目の松坂屋（今は高島屋になっている）ぐらいです。２、３年後には工事中の建物は戦争のためストップさせられ、丸紅の本社ビルは１階の鉄骨が立ちかけたところでストップして、戦後長い間そのままになっておりました。

当時は軍需工場の仕事ばかりで、住友金属、日本製鉄株式会社広畑製鉄所の設計などでした。

私は昭和14年から軍隊に入り、幸いに京都の師団司令部勤務になり、建築に携わっておりました。しかし、戦争が激しくなってきますと資材がない。鉄、セメント、木材、トラック用のガソリンなどは支給で、民間でも軍需工場でないと一切支給がないという状態でした。

京都府の祝園で、山のどてっ腹に洞窟を掘り、弾薬庫をつくることになり、それも鉄筋をなるべく使わないようにということで、無筋コンクリートのアーチで設計しました。これは京都師団、大阪師団を全部総括する中部軍司令部で、その工事を担当しました。あるいは三重県の四日市で軍服をつくる工場の工事などの仕事をしておったんですが、戦争が激しくなると、はじめのうちは日本が攻めていく方でしたが、だんだん受け身になり、アメリカ軍が上陸してくるかもわからないから、山のどてっ腹に洞窟を掘ってそこにこもってアメリカ軍の上陸に備えようと、19年の秋から20年の春にかけて兵隊を連れていって志摩半島全域で工事をやりました。

引き続き20年５月ごろまで鳥取から福井の間の日本海沿岸で、そういう施設をやりました。穴を掘るとき、鑿の材料となる鋼がないので非常に困った思い出があります。その他高射砲陣地を枢要なところにつくる、例えば伊勢の内宮、外宮、あるいは交通の重要な拠点である米原、桑名の近鉄とJRの鉄橋などへ参謀と視察に行ったりしましたが、実際は高射砲がなかったので、伊勢の内宮と外宮を守るための高射砲陣地をつくったにとどまりました。

民間では召集でどんどん人が減ってくる、ゼネコンでも人手不足で仕事ができなくなってくるので、師団ではいろいろな職種の者を100人ほど徴用して、それで何とか要望を賄っておったという次第です。

20年12月に復員して参りました。長谷部・竹腰事務所は日本建設産業という名前になっておったんですが、仕事がありませんでした。しばらくして住友銀行の支店の復旧に２階建ての木造の店舗の設計をしました。その後、米軍関係の仕事が出てきて、伊丹の米空軍の設計業務をしたり、奈良の黒髪山の136戸の将校用住宅の設計をして現場に行ったりしました。ここは一つの村で、住宅以外に劇場、診療所、PXなどをすべて整えるために、１年ほどかかって建築に携わりました。

まだ若く建築協会の動きもあまり知らなかったのですが、この間の記録を見せていただきますと、昭和19年に建築協会も住宅委員会以外の活動を停止しています。「建築と社会」は22年に復刊しています。私が建築協会とつながりができましたのは昭和24年11月からで、戦争中は鉄がなかったので民間で構造計算をやる人は少なく、「すぐに役に立つ鋼構造」の講習会を、竹中工務店の小泉昇さん、大阪建築事務所の高橋慶夫さんと私と３人でやりました。これは建築協会の主催です。小泉さんが部材力の算定についての講義、高橋さんが断面決定の講義、私は細部設計の講義をやったの

です。記録では大阪で１回やったということしか残っていませんが、確か大阪で２回やりました。続いて昭和25年にかけて名古屋、京都、神戸、広島、福岡でやったと記憶しております。これがはじめて私が建築協会のためにお役に立てたことだと思っております。

―― 昭和22年に「建築と社会」が復刊し、現在はかなり自慢できる雑誌になっていると思います。昭和22年といえば新体制ができ、定款の改正もなり、22年から25年にかけて支部も６支部できました。当時、新しく評議員制ができ、尾亀さんは評議員第１号とうかがっております。協会が定款改正とか、支部をつくったとかいうことで、大きく背伸びをしようという時期の協会の動きについて、何かご記憶はありませんか。

尾亀　私の入会は昭和10年12月ですが、会社が学費を出してくれましたので、須賀工業に勤めながら夜学で大阪工業大学（当時は関西高等工学校）で建築の勉強をしました。当時、大阪市から見えていた元良（勲）先生と新名（種夫）先生のお二方に卒業設計を見ていただきましたが、そのとき新名先生が協会に入れと勧めてくださったんです。卒業設計は昭和10年12月、卒業は11年３月で、12年にすぐ編集幹事会に引っ張り出され末席をけがしておりました。そういえば評議員に当選した覚えがありますが、池田（實）先生が副会長を長いことやっておられたでしょう。あの先生からいろいろと建築法規などをならったんですが、大阪府の建築課長をしておられた時分に、北の大火のあとで、大阪府建築取締規則を、それまでに用意しておったがなかなか出せなかったものを、出したといった話を聞かせていただきました。それが市街地建築物法になり、建築基準法に変わっていくわけです。

池田先生が戦争中に都市武装論を盛んに言われ、「建築と社会」で随分特集をやりました。先生は建材も設備もみな一緒にやらないかんのやと、あらゆる機会に言っておられた。そういうのが定款改正になったんだろうと思います。

支部ができて、和歌山に行ったり、名古屋に行ったりしましたが、現地で交歓会をやったり、見学をしたり、いろいろ思い出があります。

―― 昭和22年に定款改正をしたり、団体会員をつくったり、新体制は竹腰先生のかねがねの持論だったんでしょうか。

佐野　団体会員は竹腰先生ですね。新体制はどうでしょうかね。定款改正はやられたかも分かりませんね。

「建築と社会」の発行をふり返って

―― 定款改正以後、建築協会の事業活動も活発化して諸先輩もいろいろ各方面でご苦労いただきました。その中で、とくに編集関係、雑誌その他の出版関係で、それぞれご苦労いただいていると思うんですが、昭和24年に編集委員長をお願いしていました大林会長、その辺のご記憶は…。

大林　ほとんどないんです。ただいろいろ過去のものを見ますと「建築と社会」に「時の言葉」というページ、タイミングのよい題目を取り上げて、約800字ほどの文章にまとめて毎月載せるという、簡単なようでなかなか難しいことですが、２年ほど続いています。編集委員長は24年、25年とやらされているんですが、ほとんど事務局でやっていただいたと思います。

―― 編集関係でとくに力を入れられたことはありますか。

佐野　一つは大判に切り替えた。42年からです。写真が組みやすくなるからいいんだが、写真や原稿が集まるかとだいぶ心配をした。広告を集める体制も変えないと維持できなくなる。大判になってもぺらぺらの雑誌になっては困るから、重さのあるぐらいの本にしなくちゃいけない。これは僕が委員長をやりましてからの、最大の仕事です。休刊をしないこと、必ずその月のうちに出版する。放っとくと次の月の半ばぐらいまで遅れる、それを毎号合わせるようになりました。

尾亀　私が編集をやらせてもらったときは広告集めが大変で、小林清さんの広告企画小委員会をつくらなあかんという意見でできました。特集記事に合わせて広告をとるため、いろいろな工夫をした。そのうち私に広告小委員長が回ってきました。毎年12月末には１月号は出ていたんですが、その調子でいけと事務局になんぼ言うてもあきません。原稿の遅い先生がある、そんな者に頼むなと言うんですが、遅れてきて３月にならな２月号が出ん、何をしているんやといつも言っておったんですが、平成８年度から與謝野さんが編集委員長になってえらい一生懸命になって、月の初めに出るようになっています。

―― お金の心配もしないといかん、委員長の中で一番エライ委員長ですよ。

尾亀　一番の目玉は「建築と社会」ですね。

佐野　会員層が大阪だけではなく、京都もおれば兵庫もいる。そういう会員にサービスするのは雑誌だけですからね、どうしても雑誌を続けないといかん。非常に重要だと思います。

横尾　戦争から10年ぐらいは、ある意味ではブランクの時代だったでしょう。しかし米軍の仕事で、もの凄い勉強をしているんです。向こうのマニュアルを翻訳したり、米軍の仕事とくに沖縄の工事は勉強の場だった。コンクリート工学、土質工学などいろいろな方向の技術を吸収している。

僕が編集委員当時企画した地盤特集が読者に受けました。



横尾義貫

新しいことを入れてやったものですから…。そういう勉強の時代で、僕は早耳学と称していました。

尾亀　一番会員の多かったのは昭和45年の6600名。データーシートを出して、あれで会員が凄く増えたんですよ。データーシートは会員の一番のピークの２、３年前から出しております。

事業委員会でそれをはかったわけで、金をとって頒布するというから、ぼくは建築協会で金をとったらあかん、広告をもらったらできると…。内容によって広告をもらって、かつ権威をもたせるために坂（静雄）先生に見てもらおうということになって、坂先生のところへ毎月持っていったんです。克明にチェックされまして、毎月なかなか原稿が返ってこない、資料のないときですから、会員がわっとふえたんです。

佐野　昔は京都大学でも、先生は学生に会員になれと勧めたもんです。

尾亀　「建築と社会」で朝日ビルができた、瓦斯ビルができた、新大阪ホテルができたというと、特集をやるんですよ。貴重な資料でした。

建築協会の対社会活動

尾亀　いま一つ、協会の歴史として記録しておいて欲しいのは、創立70周年記念を契機に創設した「日本建築協会賞」のことです。建築界の総合団体として団体活動70年の古稀を祝える団体は、他に例がない。しかも建築を通じて社会に貢献しようという理想を掲げて70年。そこで、このような本会の特性を生かして、学術や技術の業績（建築作品は対象ではない）に光を当てるような賞を出してはどうかという意見が盛り上がり、当時としては一応注目されるような賞金（総額200万円）と賞牌を出そうということになった。

はじめは、果たして対象となる業績についてどのぐらい推薦が出てくるか心配する向きもありましたが、黙々と努力をしている建築関係者はどこかで必ずいるはずであり、むしろ、そういった方たちを顕彰して励ますことにより、一層頑張って社会にさらに貢献する働きをしてくれると思う。そのような業績は必ず見いだせると思うという会長の意向が伝わったのか、ふたを開けてみるとやはり手応えはあった。

短い期間ではありましたが、22件（団体18件、個人４件）の応募があり、東畑謙三先生が選考委員長で委員13人が大いに議論して選考の結果、７件の業績がみごとに受賞することになった。以来、先般の80周年には、その第４回目の募集選考が行われているが、すでに18件の協会賞と５件の特別賞がでている。

聞くところによると、最近では、次の協会賞の募集はいつ予定されているか、というような問い合わせもしばしばあるようで、日本建築協会賞も建築界の名誉ある賞として定着してきたように思います。

―― 住宅委員会では、非常にご苦労なさったとうかがっていますが…。

小西　委員会は昭和４年の発足で、はじめのうちは、婦人と住宅に関する展覧会、神戸の改善住宅展、住みよい家の展覧会とかいろいろやっていました。

私が委員長を仰せつかりましたのは昭和45年で、それから10年間、これは私が住宅委員長になる３年前ぐらいからやっておったんですが、よろず相談住宅展を阪神百貨店やそごう百貨店でやりました。当時は戦争で住宅が壊されたり、焼かれたりしていたのが、人の気持ちも平常に戻って、だんだん建築資材も出回るようになり、加えて核家族の風潮から、住宅に関する関心が深くなってきました。また住宅専門のナショナル住宅、大和ハウス、小堀住建などいろいろ住宅会社もできてきました。住宅展は阪神百貨店で600㎡の面積を無料で提供していただき、そごうでも同じ程度の提供を受け、住宅委員会としては非常に力を入れて１年に１回やってきました。

この事業の主催は日本建築協会ですが、後援が大阪府、大阪市、住宅金融公庫、住宅公団などで、委員が出て設計上のいろいろな相談に答えたり、資金面、契約面等の相談は会計士とか司法書士の方に出ていただき相談にのっていただきました。展覧会は６日間で5000名を超える人が訪れて、７～800件の建築に関する相談を受けました。

非常に好評で、私たち委員も力を入れてやりました。委員会で新しいことをやろうと、太陽熱を使って冷暖房をする建物をつくりました。くずはの住宅の展示場の200坪のセンターハウスにソーラーによって冷暖房をやり、朝日新聞社と矢崎総業の協力を得ました。



小西　岬

これはガス、水道の約60〜70％の節約になりましたが、残念ながら雨の日や曇りの日は用をなさないので、従来の空調設備プラスソーラーの設備を二重にしなければならず、ランニングコストでいうと10年ぐらいで元を取り返して、以後はソーラーの方が得という結果が出るんですが、はじめに二重の設備をしないといけないので、今はあまり普及していません。やがてツーバイフォーが日本に入ってきましたので、この研究もやりました。

―― 当時としては一般市民への啓蒙ということがあったようですが、協会の唯一の対外的活動で、貴重な経験だったと思うのです。現在では他の団体でも取り上げておられますが、現在の住宅の課題というものが非常に大きいと思いますので、協会としての新しい事業活動の一つの例になるのではないかと、私は思っております。

小西　住宅は女性に関係が深く、建築士会でも女性部会でいろいろと住宅を研究しておられます、身障者、老人問題もありますから。

―― 住宅委員会を復活せよという声も上がってきております。

小西　士会では私が会長のときに力を入れて女性会員をふやして、現在、会員7250名のうち女性会員は550名おります。協会のこれからの行き方として、女性会員に活動してもらえるようにもっていくことがいいのではないかと思います。

建設各部門の交流を協会の柱に！

―― 戦前は関係団体といっても４団体ぐらいしかなかったが、現在は友好団体と称する団体が14もあり、設備、構造、材料などの専門化した団体ができております。建築協会の目的をみると、関係各部門の連携協力による建築の進歩発展とありますが、各部門の連携協力は10いくつある団体との連携協力ということだけなのか、私ちょっと疑念を感じます。もう少し新しい各部門の連携協力のあり方を考えてみる必要があるのではないか。また、建築協会は職能団体ではなく、トータルな団体だけれども独自性がないというか、そういう弱みがあるように思います。魅力がないということもよく聞くわけですが、諸先輩の方々はそれぞれの立場でそういう問題、あるいは東と西の関係、東の学会か西の協会かというとらえ方をされておりますが、諸団体等の関係で協会をどう位置づけをするかということについて、お話をうかがいたいのですが…。

佐野　戦前は、新しい建物が出来上がるとみんな見たがる。単に紹介だけでなく批判も出る、言われる方はそれに対抗して、そうじゃないんだ設計の主旨はこういうことだという説明をしなくてはならない。各部門の交流が自然にできるのですね。今はそういうことをやっても人は集まらない。建てている方は、そんなことで無責任な悪口を言われたら迷惑だ、そうなるとあまり悪口を言う会合になるものは、会としてはやれない、考える必要があるかもしれませんね。

交流とは何をやるかといえば、現物によるのが一番手っ取り早いんですが、そういうやり方が今後できないとすると、テーブルの上の交流というやり方になるのではないか。われわれは交流、交流といっているが、どうやって交流するのか、それを見いだしていかなければならない。

もう一つは、この協会に入った独自の専門分野の人が、いろいろな立場の人…いわゆる世間でいう偉い人も偉くない人も、対等にいろいろ話ができる機会になる。しかしそういうシステムをこしらえないと、放っておいては、なかなかそうはいかない。それぞれの分野の人はそれぞれに自信があるから、それをひっくり返すようなことに関しては反発する、感情論になってしまう。それをなんとか交流にまでもってきたのが戦前の状態ではなかったかと思います。だから、もう少し具体的な方策を研究していただいたらどうか。建物はふえていますし、関係する技術屋さんもふえています。仕事はうんとふえているので、今は話題には困らないはずなのに、みんな批判をしない。うっかり批判すると問題が起こるから見逃してしまう。明らかに欠陥だと思うことも、誰もが批判しない。それでは名建築が一人歩きすることを許すようなことになる。おかしいことを直すべきだということは、あっても当然だと思います。私は設計と施工と設備の三者の交流はやり得ると思います。

―― 私は何のためらいもなく上司、先輩のご指示で協会に入りました。平の会員なんですが、ところが委員会に行きますと、偉い先生がおられるんですが、空気として自由にもの

が言えたという経験をさせていただきました。協会のああいう雰囲気はよかったなという印象があります。

いささか話が外れるかも知れませんが、今年２月号の「建築と社会」の大阪市都市整備局特集号で、ある大学の先生のご寄稿を読ませていただいて、ショックを受けたんです。建築作品という表現がよくない、建築物は社会的財産ではないか。それを一建築雑誌が建築作品という次元の取り上げ方をするのはまちがっている。いやしくも建築協会が建築物を紹介するのならば、市民財産であるという観点に立った紹介があってもしかるべきではないかというご意見なのですが、私は聞くに値するご意見ではないかと思うんです。



三品哲夫

横尾　作品という言い方がいつから登場したか、戦前はあったのか、丹下（健三）先生の設計でも作品という言い方はしましたか。

佐野　私は国鉄の出身ですが、私がいたころの国鉄の駅の建物は作品と言わなかった。京都ではじめて作品になった。あれは完全に作品という扱いですね。その職場での建物について、固有の呼び方でははなくて、出来上がる過程で誰の手によってやったかによって作品に変わるんです。僕らプロの立場から言えば、作品に値しないものまで作品と言っているということに、むしろ反発をしたい。

共々に生きる

―― 最後に、建築協会の現状に対するご意見、将来どうあるべきかということについてお聞かせいただきたいと思います。

横尾　雑誌に評論を書きたいときがある。大判になる以前は割に文章が多かった。僕も「建築と社会」にいくつか投稿させてもらった。適当にフリーに書けた気持ちがしますね。

尾亀　昔、「建築と社会」に紫烟室というコーナーがあって、私が編集をやっているころ、私もだいぶ書きましたが、メンバーが決まってきてね、みな書いてくれるといいんですが。戦争中です。

横尾　歴史的なことで、どこか活字にしておいて記録したいので、「建築と社会」にそんなスペースがあればいいなと思います。昔は関西のオピニオン雑誌みたいなところがあったでしょう。

―― 自由投稿はあるんではないですか。

佐野　自由投稿をつくっても、投稿が継続しない。一、二回はいいんですが、だんだん指名しないと書いていただけなくなる。

小西　建築士法や基準法の改正で、士会、建築士事務所協会、日本建築家協会とかで会合する機会はたびたびあるんですが、その点、建築協会はないわけですね。私は国際交流を考えたらどうかと考えます。例えば建築士会連合会は中国及び韓国の建築士会と交流をやっているんですよ。大阪府建築士会も釜山建築士会と交流していますが、同じ性格の建築士会と交流を深めているかというとそうではない。韓国で建築士会といっても、昔の日本の建築家協会に近い専業の設計事務所の会です。それでもお互いに毎年総会のときに交替で行き来して、そのうち青年ばかりでディスカッションをやろうということで、集まったときに会合を持って韓国と日本で議論をやっているんです。また、向こうの新しい建物を見学に行くことをやっています。

建築協会も建築事務所、建設業者、設備業者とかがおられますので、そういう機会があればお互いに親しくなりますし、交流しているうちに何か一緒にやろうじゃないかということも出てきます。今後、国際的な事業をおやりになるのも、建築協会の一つの道かと存じます。向こうに行くことでいろいろ勉強しますし、若い人で向こうに行く機会のない人も協会のお世話で行けます。

もう一つは、建築士会は45名の理事のうち、女性理事が５名います。協会の女性会員は100人ぐらいいると思うんですが、女性が中心となり、活躍してもらいたいと思います。介護のことも問題になっていますから、それに伴う住宅の研究なども必要になってきます。

横尾　共々に生きるということを考えなくちゃいかんと思います。ソサエティ・オブ・ソサエティズという感覚でね。

尾亀　大阪には学会は別にして、技術者団体はなかった。建築士法ができてから、建築士会ができ、事務所協会も独立するし、家協会もできる。昔の協会は盛んなものでしたが、今はどこでもやりますから、その辺は難しい。

三品　いろいろありがとうございました。

特集：安井建築設計事務所創業75周年

協賛

建設業

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-6768-5222

株式会社新井組　兵庫県西宮市池田町12-20　TEL0798-26-3111

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-6946-4578

株式会社奥村組　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-6621-1101

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-6536-3311

株式会社神崎組　兵庫県姫路市北条口3-22　TEL0792-23-2021

株式会社鴻池組　大阪市中央区北久宝寺町3-6-1　TEL06-6244-3500

五洋建設株式会社大阪支店　大阪市北区梅田2-5-25　ハービス大阪17F　TEL06-6345-0631

三和建設株式会社　大阪市淀川区加島1-55-6　TEL06-6301-6636

清水建設株式会社関西事業本部　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-6263-2800

株式会社錢高組　大阪市西区西本町2-2-11　なにわ筋ツインズウエスト　TEL06-6531-6431

大成建設株式会社関西支店　大阪市中央区南船場1-14-10　TEL06-6268-8500

株式会社竹中工務店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-6252-1201

戸田建設株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-13-47　TEL06-6531-6095

飛島建設株式会社大阪支店　大阪市中央区島町2-2-21　TEL06-6942-2481

野村建設工業株式会社　大阪市中央区高麗橋2-1-2　TEL06-6226-9525

株式会社フジタ大阪支店　大阪市北区堂島2-1-16　TEL06-6348-4510

前田建設工業株式会社関西支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　TEL06-6446-9511

三井建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-4-25　TEL06-6243-3411

株式会社森本組　大阪市天王寺区夕陽丘町4-11　TEL06-6779-1409

空調・衛生・電気・各種工事業・建材・設備メーカー・その他

株式会社アート大阪営業所　大阪市天王寺区真田山町2-2　東興ビル　TEL06-6768-8280

アールディエス株式会社　大阪市北区芝田2-2-17　TEL06-6372-2824

株式会社アーレスティ大阪営業所　大阪府吹田市垂水町3-23-10　TEL06-6386-7575

アイカ工業株式会社大阪支店　大阪市西区靭本町2-3-2　大鐙・住友生命なにわ筋本町ビル6F　TEL06-6447-7652

株式会社アイソテック　東京都品川区南大井1-13-5　TEL03-5763-3251

アキレス株式会社床材販売部　大阪市西区西本町1-14-15　TEL06-6534-2059

株式会社アスク大阪支店　大阪市北区太融寺町2-9　TEL06-6312-8526

アロカ株式会社　東京都三鷹市牟礼6-22-1　TEL0422-45-5131

株式会社朝日工業社大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　TEL06-6302-2273

朝日スチール工業株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-1-7　第2有楽ビル3F　TEL06-6261-3555

朝日木材工業株式会社　京都市中京区西ノ京南原町51　TEL075-802-2311

旭化成建材株式会社　東京都千代田区内幸町1-1-1　インペリアルタワー15F　TEL03-3507-7729

旭硝子ビルウォール株式会社西日本支社　大阪市淀川区西中島5-3-10　タナカイトーピア新大阪ビル4F　TEL06-6885-7875

有限会社イズカワ　神戸市東灘区住吉山手9-4-10　TEL078-841-5336

株式会社イナリサーチ　長野県伊那市西箕輪8047　TEL0265-72-6616

五十鈴工業株式会社　大阪府岸和田市加守町3-11-19　TEL0724-39-3990

株式会社INAX関西統括支社　大阪市西区新町1-34-15　TEL06-6539-3510

エアコンスター株式会社　東京都渋谷区渋谷3-10-14　長崎堂ビル　TEL03-3406-5321

株式会社エービーシー商会　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル8F　TEL06-6944-4900

エヌ・ジェイ・アクシベイン株式会社　大阪府枚方市伊加賀緑町3-24　TEL0720-41-5939

株式会社荏原製作所大阪支社　大阪市北区堂島1-6-20　堂島アバンザ　TEL06-6452-6611

オーシー建材工業株式会社　大阪市大正区南恩加島7-1-55　TEL06-6556-2040

株式会社オクジュー　大阪市北区西天満5-3-7　TEL06-6312-4131

オリエンタル建設株式会社　大阪市北区芝田2-6-23　全日空ビル　TEL06-6372-0101

特集：安井建築設計事務所創業75周年

協賛

大阪ガス株式会社都市圏営業部　大阪市中央区平野町4-2-18　TEL06-6205-4679

株式会社大阪造船所　大阪市港区福崎3-1-201　TEL06-6577-2503

大島応用化学工業株式会社　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL06-6954-6521

株式会社大向商会　大阪府東大阪市荒本西3-6　TEL06-6788-0301

応用計測工業株式会社　大阪府吹田市広芝町10-14　TEL06-6380-0121

カヤバ工業株式会社大阪支店　大阪府吹田市江坂町1-23-20　TEK第2ビル3階　TEL06-6387-3221

株式会社カンダン　大阪市住吉区万代6-1-1　TEL06-6676-2104

片山ストラテック株式会社　大阪市大正区南恩加島6-2-21　TEL06-6552-1233

川崎重工業株式会社　大阪市北区堂島浜2-1-29　古河大阪ビル7F　TEL06-6348-8271

川崎製鉄株式会社　大阪市北区芝田1-1-4　阪急ターミナルビル11F　TEL06-6315-4653

川崎設備工業株式会社大阪支店　大阪市都島区中野町4-3-9　TEL06-6352-5371

株式会社川島織物　京都市上京区東堀川通一条上ル堅富田町432　TEL075-414-9700

川商ジェコス株式会社　大阪市福島区福島6-8-10　クリスビル　TEL06-6455-2411

川鉄商事株式会社　大阪市北区小松原町2-4　TEL06-6315-4370

川鉄テクノワイヤ株式会社大阪営業所　大阪市北区芝田1-1-4　TEL06-6315-4750

瓦寅工業株式会社　大阪市生野区林寺1-5-14　TEL06-6715-0201

関西電力株式会社お客さま本部　大阪市北区堂島浜1-4-4　アクア堂島東館18F　TEL06-7501-0217

株式会社関電工　東京都港区芝浦4-8-33　TEL03-4431-2111

元旦ビューティ工業株式会社大阪支店　大阪市中央区高麗橋2-6-10　新高麗橋ビル6F　TEL06-6223-1841

株式会社キッツ大阪支社　大阪市西区新町4-32-11　TEL06-6541-1081

株式会社機器製造岡本　大阪市東淀川区東中島1-18-31　TEL06-6323-6000

株式会社協和エクシオ関西支店　大阪市西区京町堀3-6-13　TEL06-6459-2811

近畿コンクリート工業株式会社　大阪市北区西天満5-14-10　梅田UNビル　TEL06-6361-8007

東陶機器株式会社　大阪市北区曽根崎1-2-9　梅新ファーストビル5F　TEL06-6364-1624

近畿工業株式会社大阪支店　大阪市中央区谷町2-9-3　近鉄大手前ビル　TEL06-6943-4978

近畿車輛株式会社大阪支店　大阪市中央区谷町2-9-3　近鉄大手前ビル　TEL06-6943-4843

近畿物産株式会社　大阪府東大阪市西堤本通西1-111　TEL06-6787-2158

クマリフト株式会社　大阪市西区京町堀1-12-20　TEL06-6445-1011

ケイコン株式会社　京都市伏見区淀本町225　TEL075-631-3231

郡リース株式会社大阪支店　大阪市西区江戸堀3-3-2　コーリ江戸堀ビル　TEL06-6444-2161

駒井鉄工株式会社　大阪市港区磯路2-20-21　TEL06-6573-7351

金剛株式会社大阪支店　大阪府豊中市原田中1-14-50　TEL06-6841-4634

株式会社ササクラ　大阪市西淀川区竹島4-7-32　TEL06-6473-2130

株式会社サン・ウェイ　大阪市北区東天満1-11-2　TEL06-6353-4732

株式会社サンケン・エンジニアリング大阪支店　大阪市淀川区西中島5-13-12　TEL06-6390-8531

三機工業株式会社関西支店　大阪市中央区北浜2-2-21　TEL06-6202-7555

三建設備工業株式会社大阪支店　大阪市北区紅梅町3-5　TEL06-6355-2301

三精輸送機株式会社　大阪府吹田市江坂町1-13-18　TEL06-6385-5624

三洋電機空調株式会社　大阪府吹田市江坂町1-16-17　TEL06-6339-5764

株式会社三冷社関西支社　大阪市西区京町堀2-9-8　TEL06-6446-0901

昭和鉄工株式会社大阪営業所　大阪市中央区南本町3-1-11　カネセ中央ビル　TEL06-6241-5001

新晃工業株式会社　大阪市北区南森町1-4-5　TEL06-6367-1801

新日軽株式会社大阪支店　大阪市淀川区西中島7-1-5　辰野新大阪ビル3F　TEL06-6390-1309

新菱冷熱工業株式会社大阪支社　大阪市北区堂島1-1-5　梅田新道ビル　TEL06-6344-7102

神鋼建材工業株式会社　大阪市中央区北浜2-6-17　TEL06-6206-7435

伸和工業株式会社　大阪府堺市出島西町2　TEL0722-45-1521

株式会社スズオカ　東京都大田区西六郷3-31-13　TEL03-3733-5551

株式会社西部技研大阪営業所　大阪市淀川区西中島3-7-13　新大阪サクセスビルEAST702号　TEL06-6305-9251

特集：安井建築設計事務所創業75周年

協賛

須賀工業株式会社大阪支社　大阪市西区土佐堀1-2-30　TEL06-6441-5171

鈴木シャッター工業株式会社大阪支店　大阪市旭区新森1-7-47　TEL06-6956-6221

セイコー化工機株式会社　兵庫県尼崎市水堂町4-1-31　TEL06-6438-0841

セントラル硝子株式会社大阪支店　大阪府堺市築港南町6　TEL0722-24-8462

株式会社セントラル建装　大阪市西区北堀江1-5-2　四ツ橋新興産ビル　TEL06-6538-0005

精研医科工業株式会社　大阪府摂津市鳥飼上3-1-28　TEL0726-53-6161

成幸工業株式会社　大阪市西区阿波座1-13-13　TEL06-6531-8802

関ヶ原石材株式会社大阪支店　大阪市都島区都島本通4-20-26　TEL06-6922-7661

積水化学工業株式会社大阪管工機材営業所　大阪市北区西天満2-4-4　堂島関電ビル　TEL06-6365-4503

株式会社タジマ　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-6441-5951

ダイコー株式会社　東京都港区芝大門1-1-1　TEL03-3436-5111

ダイダン株式会社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-6441-8231

株式会社ダイフレックス大阪支店　大阪市中央区徳井町2-1-10　TEL06-6946-6633

株式会社ダイヘン　大阪市淀川区田川2-1-11　TEL06-6390-5554

株式会社ダイワ　大阪市西区立売堀1-3-13　第3富士ビル7F　TEL06-6539-0200

株式会社大氣社大阪支社　大阪市北区中之島3-2-18　住友中之島ビル7F　TEL06-6448-5851

大洋基礎株式会社大阪支店　大阪市中央区北久宝寺町2-1-10　船場吉兆ビル　TEL06-6267-5311

太陽工業株式会社　大阪市淀川区木川東4-8-4　TEL06-6306-3078

株式会社髙島屋建装事業本部　東京都中央区日本橋茅場町2-12-7　髙島屋茅場町別館　TEL03-3668-7093

高田機工株式会社　大阪市浪速区敷津西2-1-12　TEL06-6649-5189

立山アルミニウム工業株式会社　大阪府守口市菊水通4-13-11　TEL06-6994-8633

田中工業株式会社　神戸市中央区元町通1-1-8　TEL078-391-3341

第一工業株式会社大阪支店　大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-6364-6661

株式会社大丸装工　大阪市西区南堀江1-18-4　住友生命湊町MTビル　TEL06-6538-5800

大和鋼板工業株式会社　大阪府四条畷市下田原1510-3　TEL0743-78-1171

中央電設株式会社　大阪市福島区海老江1-1-31　TEL06-6453-8711

都築電気株式会社大阪支店　大阪市北区堂島浜2-1-29　古河大阪ビル　TEL06-6344-1258

テクノ・ナミケン株式会社　大阪市西区新町1-4-26　TEL06-6533-3855

株式会社テクノ菱和大阪支店　大阪市北区天満2-7-3　TEL06-6352-4881

株式会社テノックス大阪営業所　大阪市西区京町堀2-2-1　TEL06-6441-2150

株式会社傳來工房　京都市南区吉祥院新田弐の段町45　TEL075-681-7321

株式会社トキメックビルシステム大阪営業所　大阪市中央区北浜1-3-14　西川三井ビル　TEL06-6231-2538

トステム株式会社ビル建材本部関西統轄支店　大阪市住之江区南港北1-7-62　TEL06-6615-2770

株式会社トップコン　神戸市中央区栄町通4-1-11　TEL078-366-5397

東光電気工事株式会社関西支社　大阪市中央区高麗橋4-3-7　TEL06-6202-0325

東テク株式会社大阪支店　大阪市中央区平野町3-5-12　TEL06-6203-4871

東洋ゴム工業株式会社　大阪市西区江戸堀1-17-18　TEL06-6441-8803

株式会社東洋製作所関西支社　大阪市淀川区野中北1-5-21　TEL06-6391-6542

東洋テクノ株式会社大阪支店　大阪市西区靭本町1-5-15　第2富士ビル　TEL06-6441-6678

東洋紡エンジニアリング株式会社　大阪市北区堂島2-1-16　TEL06-6348-3357

東洋マルチベント株式会社　大阪市中央区南船場2-4-12　ユアサ大阪ビル　TEL06-6266-4725

東リ株式会社西日本営業開発部　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル　TEL06-6943-1645

株式会社東和エンジニアリング　東京都台東区秋葉原1-8　TEL03-3253-3131

株式会社内外テクノス　大阪府大東市谷川2-7-1　TEL0720-72-2161

株式会社中西製作所　大阪市生野区巽南5-4-14　TEL06-6792-1111

ニチエス工業株式会社　大阪市西区立売堀1-12-14　TEL06-4390-0200

株式会社ニチベイ　大阪市中央区北浜東1-8　北浜東森田ビル　TEL06-6949-2806

株式会社ニッカナ　大阪府茨木市田中町12-34　TEL0726-21-7064

特集：安井建築設計事務所創業75周年

協賛

日学株式会社大阪支店　大阪市東淀川区豊新1-21-12　TEL06-6329-0546

西日本電気システム株式会社　大阪市淀川区宮原3-5-24　TEL06-6397-0186

西日本電信電話株式会社法人営業本部　大阪市北区中之島6-2-27　NCB　TEL06-4803-3540

株式会社西原衛生工業所大阪店　大阪市北区中津6-8-4　TEL06-6458-3628

株式会社日新工営　大阪市北区堂島2-3-27　東洋紡エルユービル　TEL06-6342-5151

日新工業株式会社大阪支店　大阪市西区新町1-12-22　TEL06-6533-3191

日本鋳鍛鋼株式会社　東京都千代田区神田駿河台2-1-20　お茶の水ユニオンビル4F　TEL03-5281-8001

日本ディプラント株式会社　大阪市北区神山町2-1　若杉ビル　TEL06-6362-8399

日本電設工業株式会社　大阪市北区豊崎3-17-15　TEL06-6372-3533

日本電池株式会社関西支店　大阪市北区梅田2-6-20　スノークリスタル13階　TEL06-6344-6531

日本バンデックス株式会社大阪営業所　大阪市淀川区西中島1-11-4　TEL06-6304-3395

日本ピーマック株式会社　大阪市北区南森町1-4-19　TEL06-6362-6655

日本フネン株式会社　徳島県麻植郡川島町三ツ島新田179-1　TEL0883-25-4660

バンドー化学株式会社　大阪市北区梅田2-5-25　梅田阪神第一ビル9階ハービスOSAKA　TEL06-6345-2639

株式会社春本鐵工　大阪市大正区南恩加島6-20-34　TEL06-6552-1465

日立造船株式会社　大阪市住之江区南港北1-7-89　TEL06-6569-0067

日立プラント建設株式会社　東京都千代田区内神田1-1-14　TEL03-3292-8111

フジクリーン工業株式会社大阪支店　大阪市淀川区宮原3-5-24　新大阪第一生命ビルディング2階　TEL06-6396-6166

フジテック株式会社大阪支社　大阪市西区靭本町1-7-4　TEL06-6441-8521

フタバ興業株式会社　大阪府吹田市南金田1-10-18　TEL06-6385-2781

株式会社ブリヂストンIPO　大阪市中央区南船場4-12-8　関西心斎橋ビル9階　TEL06-6245-5944

不二熱学工業株式会社　大阪市中央区南船場2-1-1　TEL06-6261-2436

不二窯業株式会社大阪営業所　大阪府吹田市江坂町1-3-5　TEL06-6339-0638

株式会社富士通ネットワーク営業本部　東京都千代田区九段南2-3-14　靖国九段南ビル　TEL03-5210-5279

富士電機株式会社関西支社　大阪市福島区鷺洲1-11-19　TEL06-6455-3801

富士電機総設株式会社西設備支社　大阪市福島区鷺洲1-11-19　TEL06-6458-5041

文化シヤッター株式会社　東京都板橋区板橋1-53-2　TM21ビル　TEL03-5375-0044

ホーチキ株式会社大阪支店　大阪府東大阪市水走3-6-41　TEL0729-66-8181

前田屋外美術株式会社　東京都渋谷区大山町45-18　TEL03-3468-5401

松尾橋梁株式会社　大阪市大正区鶴町3-4-18　TEL06-6551-1551

松下電器産業株式会社建設システム営業本部関西支店　大阪市中央区城見2-1-61　TEL06-6949-1187

松下電工株式会社　大阪府門真市大字門真1048　TEL06-6908-1438

株式会社ミック大阪支店　大阪市西淀川区中島2-9-41　TEL06-6475-0541

ミリケン・ジャパン株式会社大阪営業部　大阪市西区京町堀1-3-3　肥後橋パークビル6F　TEL06-6441-2251

森井電業株式会社大阪支店　大阪府大東市諸福8-1-21　TEL0720-75-5500

森永エンジニアリング株式会社大阪営業所　大阪市中央区東高麗橋4-3　北浜アーバンライフビル3F　TEL06-6945-5644

ヤマトヨ産業株式会社　大阪府東大阪市高井田本通7-7-19　TEL06-6788-1581

株式会社ヤンテス　大阪市中央区道修町3-1-14　ドウシバビル3F　TEL06-6231-5585

矢橋大理石株式会社大阪支店　大阪市中央区高麗橋2-2-7　東栄ビル2階　TEL06-6202-4905

山武ビルシステム株式会社　大阪市北区堂島2-4-27　新藤田ビル　TEL06-6347-1217

山田照明株式会社大阪支社　大阪府東大阪市楠根2-2-6　TEL06-6745-6811

山本窯業化工株式会社　大阪府吹田市豊津町41-20　TEL06-6338-8601

株式会社ユニオン　大阪市西区南堀江2-13-22　TEL06-6532-3188

ユニバース電装工業株式会社　大阪市福島区玉川4-2-22　TEL06-6445-0970

ヨーコン株式会社大阪支店　大阪市北区大淀中1-7-19　TEL06-6458-5761

横河ジョンソンコントロールズ株式会社大阪支店　大阪府吹田市江坂町1-23-101　大同生命江坂ビル　TEL06-6368-7761

リリカラ株式会社　大阪市西区京町堀2-14-28　TEL06-6444-5250

六興電気株式会社神戸支店　神戸市中央区中山手通1-22-26　TEL078-241-5358



▲グローリー工業㈱東京本部ビル 設計・監理：安井建築設計事務所 グランデタイルパネルをご採用

旭化成からの提案

様々なニーズに対応する旭化成の建材製品。

鉄骨造建築のベストセラー
ヘーベル

超軽量PC版
グランデ

露出型弾性固定柱脚工法
ベースパック

高支持力新基礎システム
DYNABIG
ダイナビック

クリーン・サイレント・コンパクトスクリューパイル
EAZET®

狭い敷地で活躍・全自動化基礎工法
CITY GUY

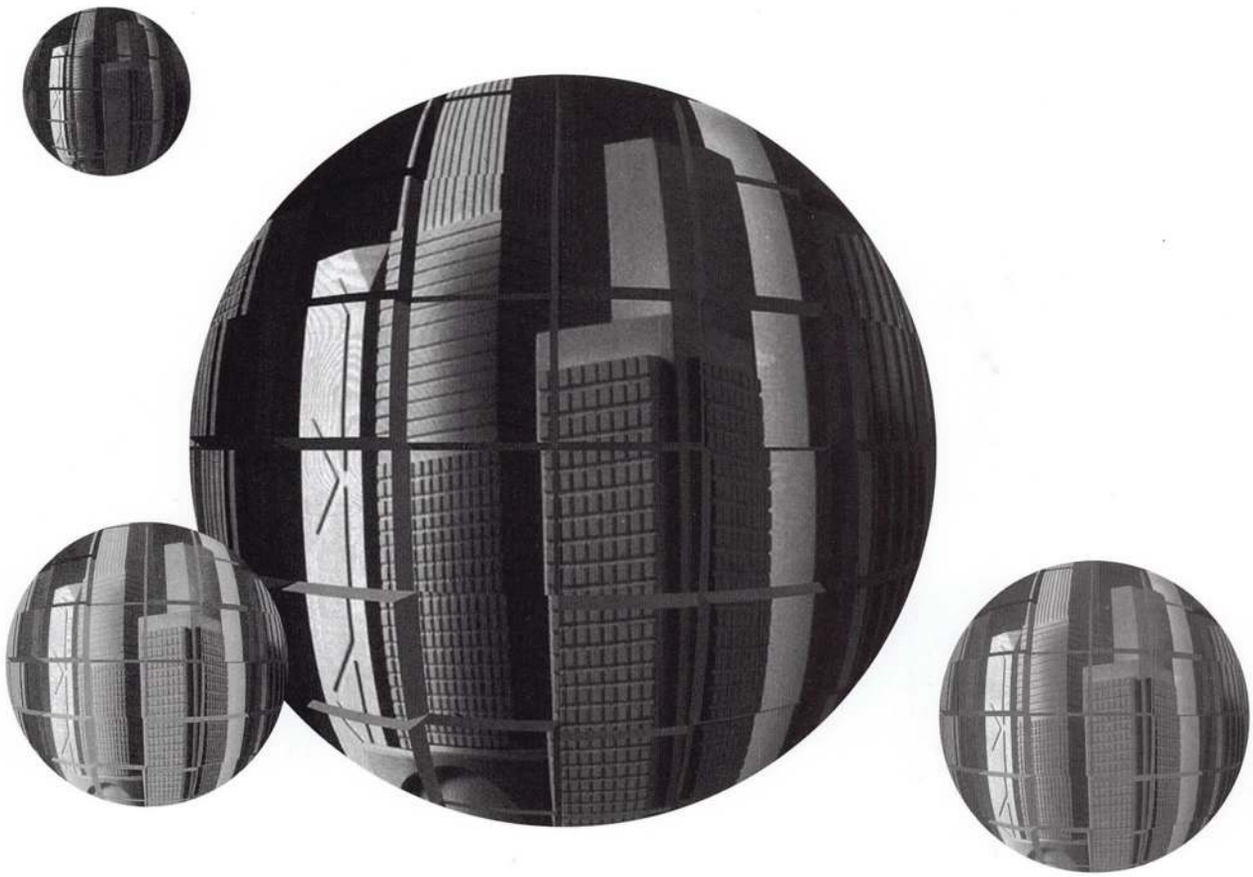
環境親和を考える
旭化成建材株式会社
〒100-8550 東京都千代田区内幸町1-1-1 インペリアルタワー15F

東 京／03-3507-7551　大 阪／06-6347-3846　札 幌／011-261-5443
仙 台／022-223-5155　名古屋／052-212-2233　金 沢／076-231-7188
高 松／087-822-0305　広 島／082-247-6131　福 岡／092-752-3974

夢をかたちに
信頼と創造の富士通

FUJITSU

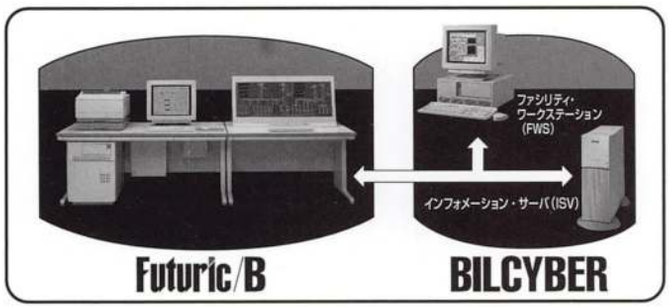
ビルづくりのスタンダード。富士通から。



情報ネットワーク時代のビルづくりを支援する富士通の最先端テクノロジー。

これからのビルづくりには、省エネルギーや資源保護のためのビルのロングライフ化、情報ネットワークを活用したビルサービスの高度化など、社会の変化やニーズを予見し、事前にその対策を講じることが重要になります。 Futuric/Bシリーズは、電力・空調・防災などの現場設備主体のBAシステム。BILCYBERは、モバイル・コンピューティング、Webコンピューティング、大型電子表示デバイスなど、情報通信分野の最先端テクノロジーを駆使したビル情報のマネージメントシステムです。

富士通は、この二つのシステムをオンラインで連携することでハイクオリティのビル運用管理を実現し、新世紀のビルづくりを強力にサポートします。



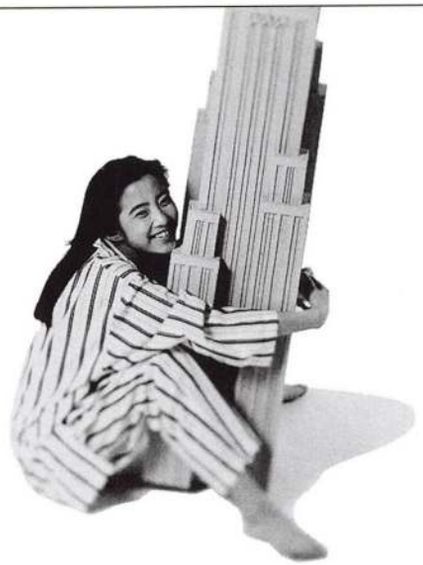
アドバンストBAシステム
フューチャーリック
Futuric/Bシリーズ

ビル情報マネジメントシステム
フューチャーリック ビルサイバー
Futuric/BILCYBER

■お問い合わせは
富士通株式会社　ネットワーク営業本部　〒102-8255 東京都千代田区九段南2-3-14（靖国九段南ビル） TEL.03-5210-5279

株式会社 淺沼組

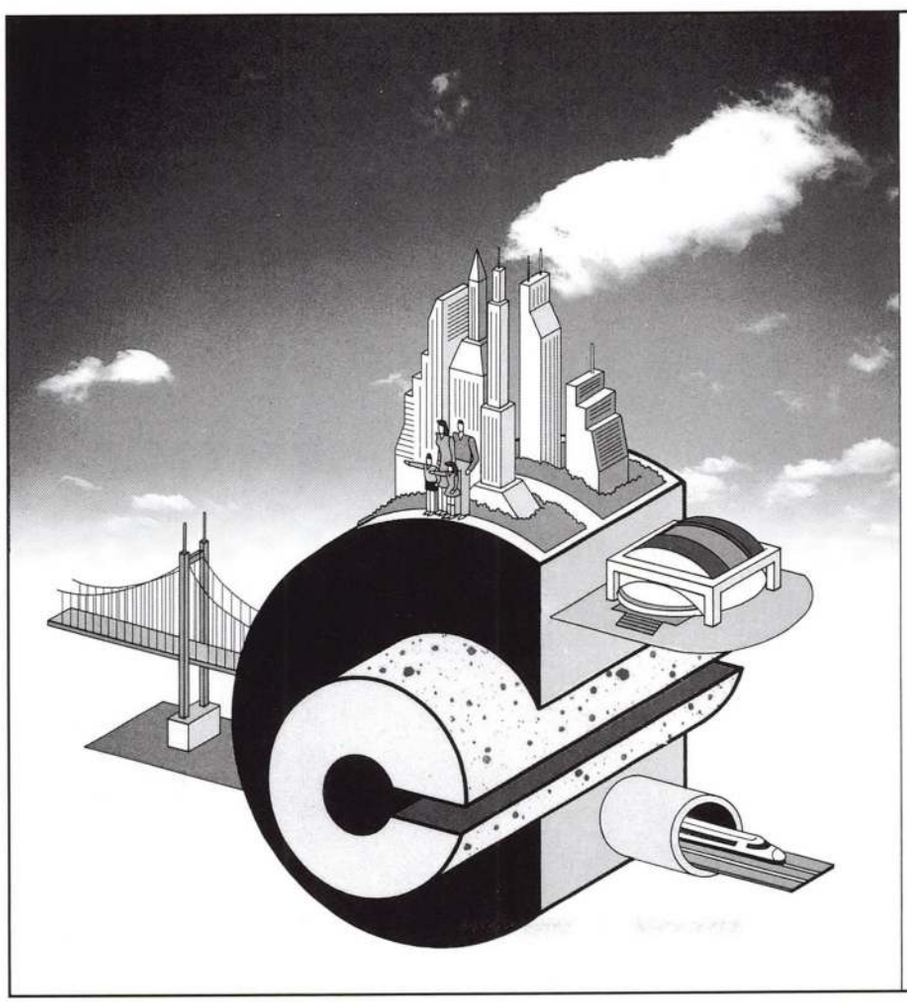
あなたが好きだから、
あなたの好きな街をつくりたい。



人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

本社・大阪本店　〒543-8688 大阪市天王寺区東高津町12番6号　TEL.06-6768-5222(代表)
東京本店　〒160-0007 東京都新宿区荒木町5番地　TEL.03-5269-3111(代表)



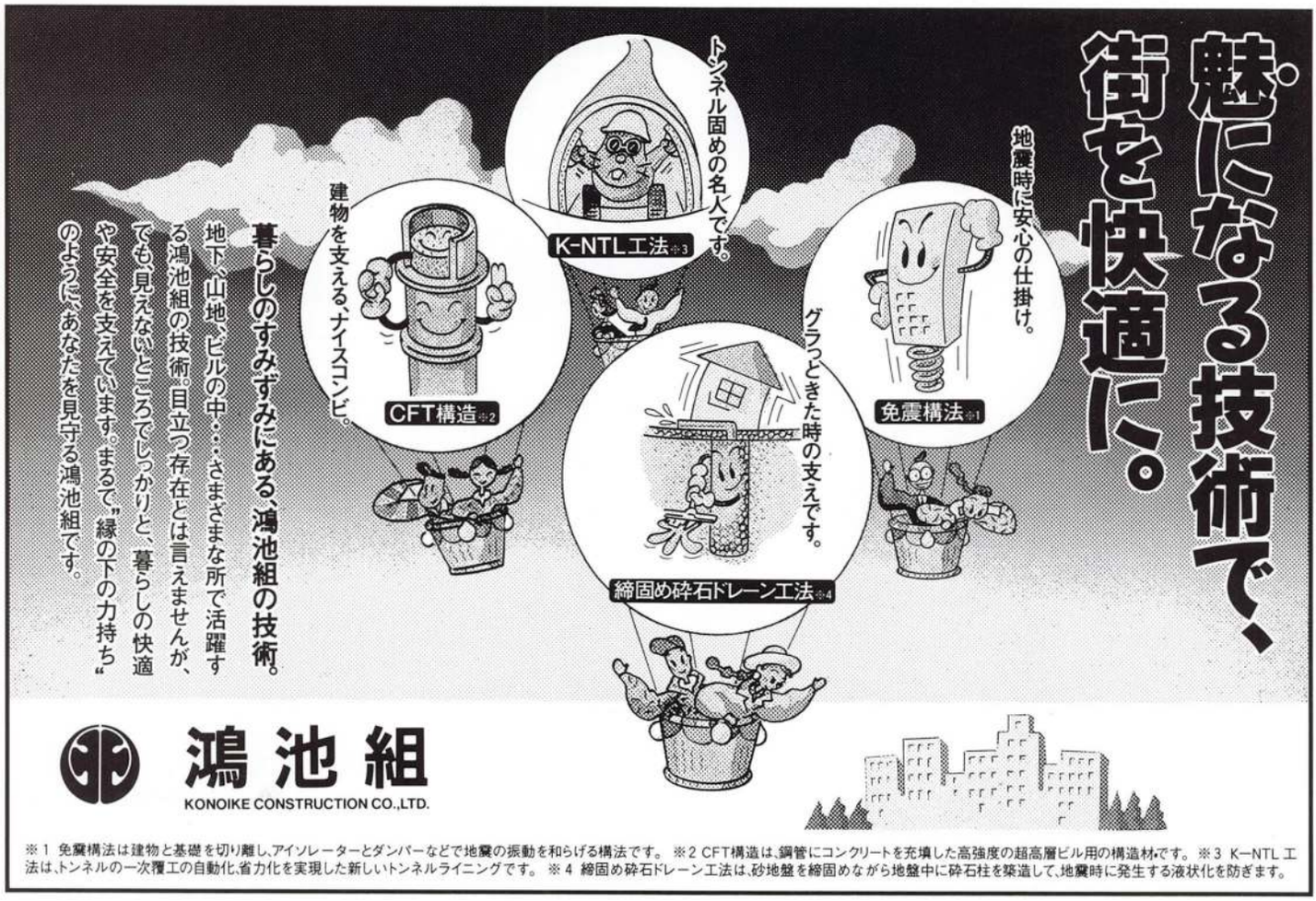
自然のチカラと
人のワザの融合エネルギー。

先端技術を生かした快適で安全な街づくりをベースとして、さらに、心が満たされ、気がかりのない「安心」できる生活空間が求められています。その実現をめざし、自然の換気、自然光の導入、自然エネルギーの活用、木々や植物の採用など自然と共存する、斬新なコンセプトでコミュニティづくりを提案…それが、人と地球にやさしい環境を創造する奥村組のエネルギーです。

好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

奥村組
OKUMURA CORPORATION

本　社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL.06(6621)1101
東京本社：東京都港区元赤坂1-3-10 TEL.03(3404)8111



※1 免震構法は建物と基礎を切り離し、アイソレーターとダンパーなどで地震の振動を和らげる構法です。 ※2 CFT構造は、鋼管にコンクリートを充填した高強度の超高層ビル用の構造材です。※3 K-NTL工法は、トンネルの一次覆工の自動化、省力化を実現した新しいトンネルライニングです。 ※4 締固め砕石ドレーン工法は、砂地盤を締固めながら地盤中に砕石柱を築造して、地震時に発生する液状化を防ぎます。



Zenitaka

それは人が集まる場所。



存在感、魅力あるスペース、独創……　いい建造物には、そんな表現が当てはまります。
でも、人が何故集まってくるのかと言えば、そこにある優しさや信頼感からではないでしょうか。
我々は人に優しい空間を目指し、これからも期待に応えて行きます。

錢高組
URL http://www. zenitaka. co. jp



地球環境と人間活動を体系的にとらえ、自然のサイクルと一体となった社会システムづくりをめざして、私たちは努力しています。これからも、人と環境のいい関係をつくるために。ヒューマンデザイニングで考える、戸田建設です。

for the Best Quality

最良の品質をみなさんに

戸田建設大阪支店
〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47
TEL 06(6531)6095　FAX 06(6531)2160

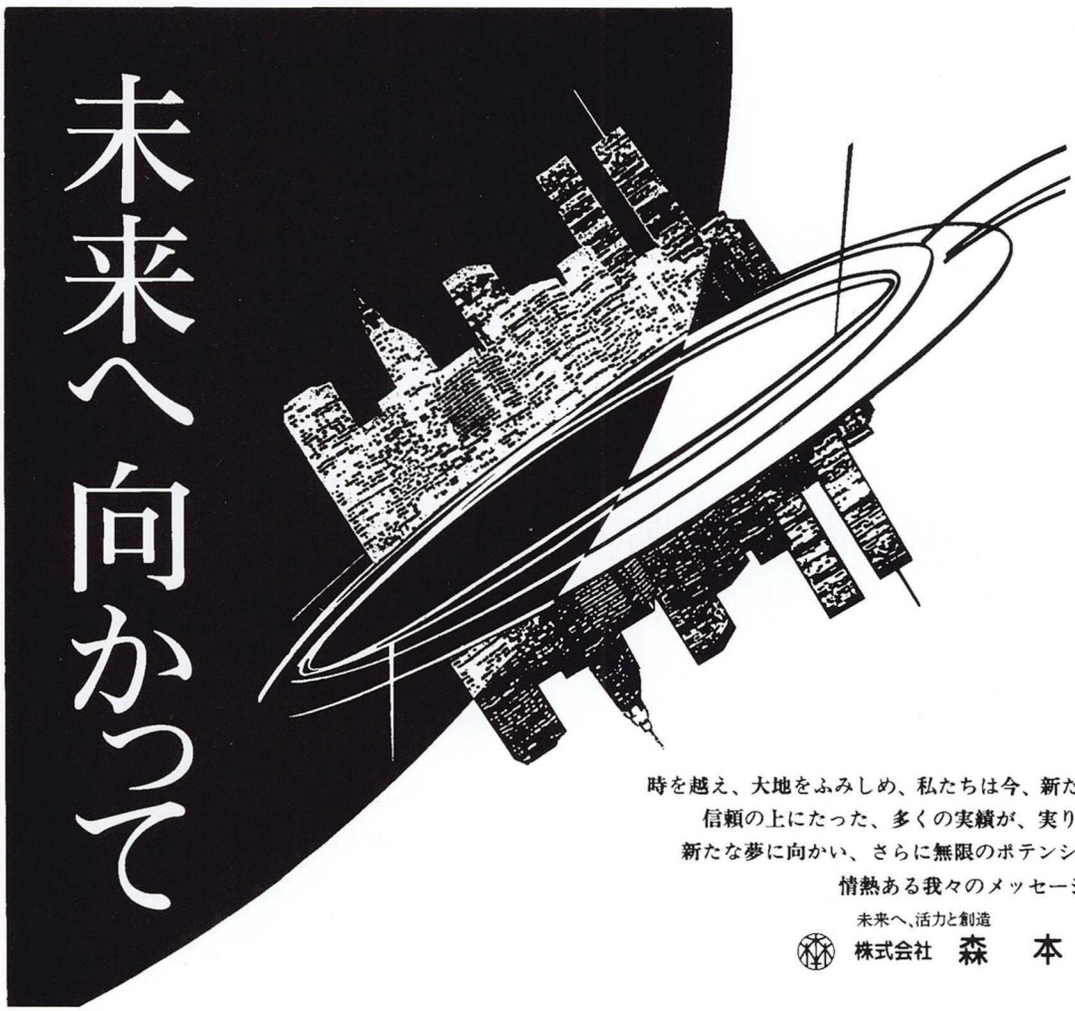
私たちは

快適な空間提案をめざします。

野村建設工業株式会社
NOMURA CONSTRUCTION & ENGINEERING CO.,LTD.

取締役会長　野　村　文　英　　取締役社長　石　川　芳　夫

本　　社／〒541-0043　大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号　　TEL06－6226－9500
東京本店／〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町2丁目1番3号　TEL03－3249－3131



広がる夢空間、

時を越え、大地をふみしめ、私たちは今、新たな一歩を歩み始めます。
信頼の上にたった、多くの実績が、実りある環境を開き、
新たな夢に向かい、さらに無限のポテンシャルを創造します。
情熱ある我々のメッセージ。

未来へ、活力と創造
株式会社　森　本　組

磁気カード/非接触式ICカード/指紋照合、3種のリーダにマルチ対応。
パソコンネットワークで最大30台、60ゲート・5000名の管理が可能。

V-LINE
出入管理装置
NETWORK SECURITY SYSTEM



1台2ゲートの出入管理を行い、
ホストコンピュータとのシステムアップで
最大30台接続可能。
ほぼA3のコンパクトサイズ。
出入管理装置・**VA-10**
◀300×430×80mm

（場所をとらないドアホンサイズの小型設計。
用途に応じて3種のリーダが選べます。）



経済的なシステム構築が可能な
汎用性の高いJISⅡ型対応。
磁気カードリーダ
VR-10
◀98×135×30mm



近づけるだけでOK。
薄型・非接触式ICカード採用。
非接触式ICカードリーダ
VM-10
◀98×135×30mm



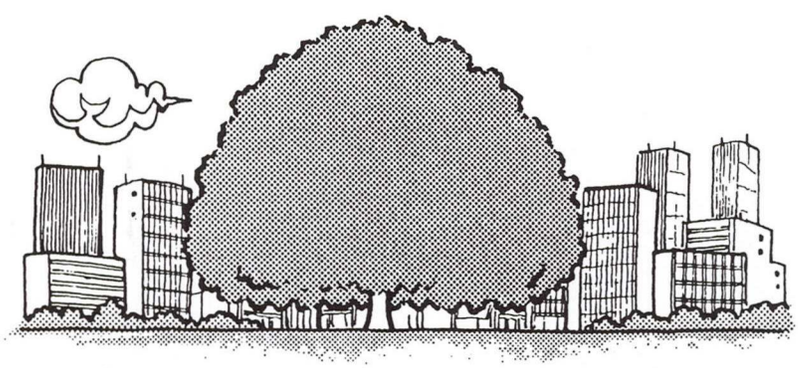
指紋による高度な個人識別により、
時代の先端を行く出入管理を実現。
指紋照合リーダ
VF-10
◀98×135×50mm

※パソコンから登録の場合のみ、別売の指紋登録用
リーダ(FIU-500-F01:ソニー製)が必要となります。

出入管理システム
株式会社アート
ART

東京本社営業部 〒141-0022 東京都品川区東五反田1-25-11(五反田東邦生命ビル) ☎(03)3447-6601(代)
大阪営業所 〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2(東興ビル) ☎(06)6768-8280(代)
名古屋営業所 〒461-0022 名古屋市東区東大曽根町29-11(新星和大曽根ビル) ☎(052)937-7061(代)
札幌☎(011)814-8867(代)・広島☎(082)261-1122(代)・福岡☎(092)472-3160(代)
●資料・カタログのご請求は、お近くの各営業所へ。

深呼吸できる環境づくり



よりよい人間・生産環境の創造を

朝日工業社

本社・本店 〒105-8543 東京都港区浜松町1-25-7 TEL 03-3432-5821
大阪支社 〒532-0031 大阪市淀川区加島1-58-59 TEL 06-6302-2273
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/神戸/中国/九州

INAX

健・康・建・材
エコカラット

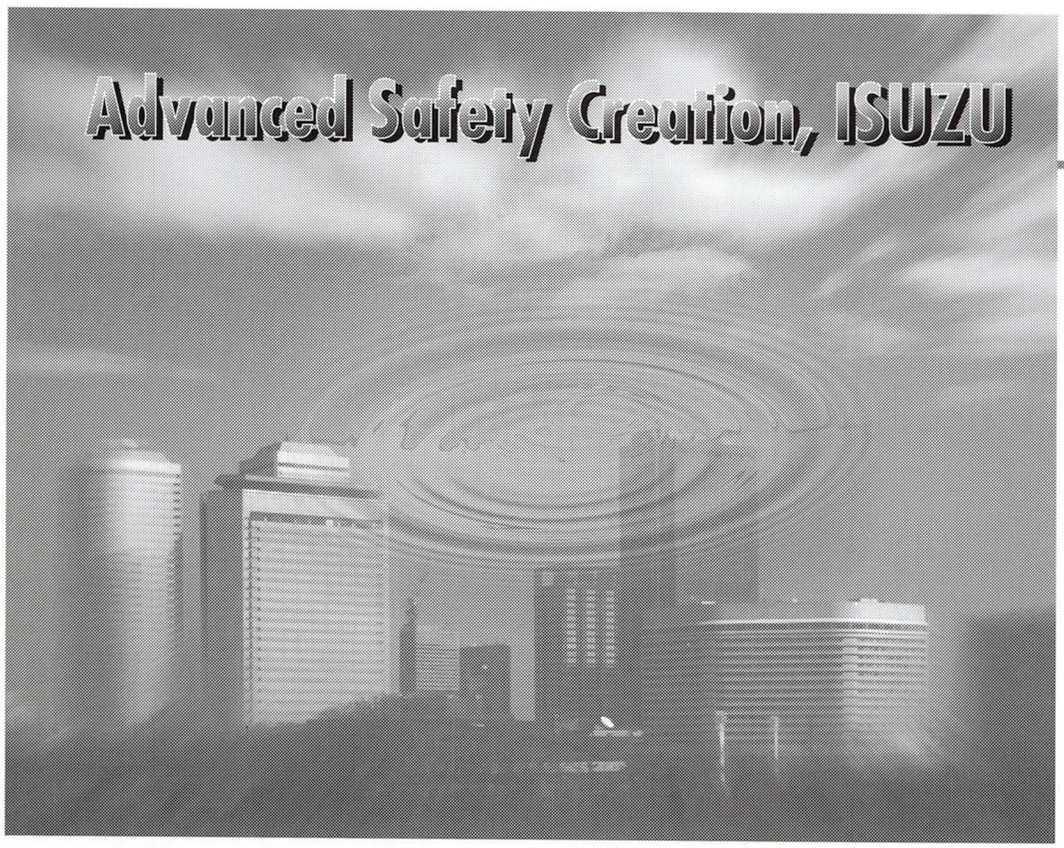
キャンペーン
実施中！

水アカ汚れを寄せつけないトイレ
プロガード

システムバスルーム
i bath あいばす i-bath

◎お近くのINAXショールームにてご覧いただけます。
◎ INAXホームページ　http://www.inax.co.jp/

株式会社INAX
関西統括支社　大阪市西区新町一丁目34番15号大阪グレンチェックビル2F　TEL.06-6539-3510



Our equipments
to save your life.

21世紀に向かって、ビルは巨大化し、
もっと複雑になってきます。
これらの価値ある財産を守るために、
高い技術と最新の品質による
消火設備は不可欠です。
ISUZUは長年の実績と、
最新テクノロジーによって、
高品質な製品を提供します。
私たちの製品は、
ビル火災のダメージを
最小限にとどめる信頼性を得るため、
厳しい品質管理テストに
合格しなければなりません。
ISUZUの発想は、
技術を発展させます。
ISUZUの発想は、
新しい未来の可能性への扉を、
開きます。

ISUZU
FIRE PROTECTION EQUIPMENTS

建物と人命を守る独創技術
五十鈴工業株式会社
本社・工場　〒596-0042 大阪府岸和田市加守町3丁目11番19号　TEL (0724) 39-3990㈹　FAX (0724) 37-1877
東京支社　〒110-0005 東京都台東区上野1丁目11番6号 竹野ビル　TEL (03) 3884-6606　FAX (03) 3835-0227



車イスでも
底が邪魔にならない
浅めの設計です。

それは、すぐれた加工性をもつ建築素材、デュポン コーリアン®の一体成形型洗面カウンターだからです。美しい曲面フォルムや、ボウルの取り付け費用が不要という特長も、一体成形ならでは。もちろん、病院や高齢者施設での使用を前提に開発されています。さらに、継ぎ目が目立たない清潔な方法でのカウンター連結も自由自在。人にやさしく、安全で、清潔な洗面ブースを実現します。


深絞り丸型（RHS-F）


浅絞り丸型（RHS-A）



デュポン コーリアン®製 一体成形型洗面カウンター
ラピード ホスピタリティーカウンター

いちばん身近な、環境づくり。
ABC shokai
大阪営業所
〒540-6591大阪市中央区大手町1-7-31 OMMビル8F
TEL 06-6944-4900
<総合建材ホームページでもご覧いただけます。>
http://www.abc-t.co.jp

ガスが暮らしを変えていく
大阪ガス

エネルギーを大切に使いましょう

ひと・まち・地球に、
クリーンなエネルギー、
天然ガス。

大阪ガスがあなたにお届けしている
天然ガスは、二酸化炭素（CO_2）の排出が
少ないクリーンなエネルギーです。
ゆたかで美しい未来のために——
私たちは天然ガスの供給を通じて、
環境保全への努力をつづけます。



TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



ＪＲ西日本尼崎駅

「耐酸被覆鋼板」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「フッ素樹脂積層被覆鋼板」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
　ＴＯＦ（タフフロール）
■ 耐酸被覆鋼板
　ＣＯＭ（ケミカラーオーシマメタル）
　Ｔ　Ｍ（トイメタル）
■ 責任施工
　ルーフ、サイディング
　大島式ベンチレーター、モニター
　エアームーバー他

OSHÍMA OHYO

大島応用化学工業株式会社

本社　大阪市旭区太子橋1-15-22　Tel.06(6954)6521　Fax.06(6954)6480
●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

Milliken Carpet

カーペットの水準を高めた、ミリケンの技術。comfor+plus（コンフォートプラス）



クッションとカーペットを一体化。コンフォートプラスが優れた歩行感を実現します。

●最良の歩行感を提供する、コンフォートプラス・バッキング・システム。
ミリケン社とダウ・ケミカル社の共同開発によるコンフォートプラス技術により、耐久性・耐水性・形状安定性はもちろん、かつてない優れた歩行感を実現。従来の広幅カーペット・カーペットタイル等のもつ様々な欠点を改善し、快適さと使いやすさを極めたバッキング・システムです。

●施工時間・コストを大幅に削減。91×91㎝のモジュラータイプ。
どんなスペースにもフィット。シワやふくらみ、継ぎ目の破れ等の心配がありません。

●デザイン思いのまま。ミリトロン・ジェットプリンティング・システム。
ホテル関係者を驚かせるほどの美しいデザインがそろったラインアップ。
「噴射染色システム」により、お客様独自のデザインにも対応できます。

コンフォートプラスから生まれたブランド



GRAND PLAZA



ECLIPSE



PINNACLE



MOVEMENTS

●カタログとサンプル帳は、弊社までご請求ください。

MILLIKEN ミリケン・ジャパン株式会社 Milliken Japan k.k.
東京本社　〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-21虎ノ門33森ビル　☎03-3434-3600(代)
大阪営業所　〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀1-3-3肥後橋パークビル6F　☎06-6441-2251(代)

株式会社 川島織物
本社事務所　〒602-8255 京都府京都市上京区東堀川通一条上ル堅富田町432
☎(075)414-9680

関西電力

空調は「蓄熱」が主流。

◎夜の電気で氷やお湯をつくって昼間の冷暖房に利用するので、省エネ・省コストを実現できます。

エコノミー&エコロジー
エコ・アイス
氷蓄熱式空調システム

◎イニシャルコストの増分も約3年で回収。長く使うほど、ますますおトクになります。

5馬力 6馬力 7馬力
小型氷蓄熱式パッケージエアコン
エコ・アイス mini
※蓄熱調整契約の申し出が必要です。



空調コストと環境を
考えたら、
だんぜん「蓄熱」、
やっぱり「電気」。

EXEパック 蓄熱受託制度のごあんない

関西電力が蓄熱空調の設計・施工から運転・メンテナンスまでトータルでお手伝い。ビルの新築やリニューアル時に是非ご検討下さい。

◎お問い合わせ・資料のご請求は 関西電力 へ

ハイ エコアイス
0120・81・8514

又は、TEL(OMP) 06・7501・0216 直通 (平日… 9:00~17:30)

関西電力株式会社 お客さま本部 設備設計営業グループ
〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目4番4号アクア堂島東館18階

元旦

新「高断熱2重防水システム工法」の高機能屋根です。

マッタラールーフ®7型 PAT

特許第2139398号等登録済・その他特許多数出願中

最大吹き上げ荷重※1000kg/m²・省施工の定尺工法パネル屋根。

■特長・性能

- ●「高断熱2重防水システム工法」により、防水15年保証。
- ●外断熱工法で結露防止。躯体の耐久性を高める。
- ●定尺工法。工場一貫生産により、製品精度が高い。
- ●定尺工法。熱伸縮を吸収し、屋根のアバレを防止。
- ●屋根30分耐火構造　個別指定R 0379・R 0380。
- ●耐風圧性能・静圧:113.1[m/s]
- ●耐雪性能(正圧):十600kgf/m²
- ●水密性能(n脈動平均圧力):最大十325kgf/m²
- ●断熱性能(熱貫流率):0.554kcal/m² h℃

※強風仕様


スパウザ小田原(勤労者リフレッシュセンター)
神奈川県小田原市　設計/(株)安井建築設計事務所

製造発売元 元旦ビューティ工業株式会社
●本　社　神奈川県藤沢市湘南台1-1-2　TEL(0466)45-8771

大阪支店　大阪市中央区高麗橋2-6-10
TEL 06-6223-1841

Kinki

明日を創る、ライフステージの交差点。

毎日のスタートに開くドア。ドアを開く瞬間の人の心地よさとともに、
Kinkiはスチールドアのパイオニアとして、いつも未来を見つめています。

いってらっしゃいの光がある。
おかえりなさいの灯りがある。

採光窓付甲種防火戸
V-ビトレ



JIS表示許可工場・BL認定部品製造工場

近畿車輛株式会社 建材事業本部 東大阪市稲田新町3-9-60

東京支店 TEL.03-5957-3150 大阪支店 TEL.06-6943-4843 福岡支店 TEL.092-411-9371
名古屋支店 TEL.052-563-5183 広島支店 TEL.082-263-7848



騒音防止のササクラです。

音圧レベルに係る計量証明事業登録 大阪府知事登録第10205号

「水を造り、熱を活かし、音を究め、よりよい環境をつくる」 ■お問合せ先……音響エンジニアリング部

株式会社ササクラ

本 社／〒555-0011 大阪市西淀川区竹島4丁目7番32号 TEL:06-6473-4531 FAX:06-6473-4558
東京支社／〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目10番4号 白鋼第一ビル6階 TEL:03-5566-1212 FAX:03-5566-1233
九州営業所／〒810-0074 福岡市中央区大手門3丁目4番3号 東ビル402号 TEL:092-711-1734 FAX:092-711-1412
ホームページアドレス／ http://www.sasakura.co.jp

サインで創る
21世紀

本　社
〒530-0044　大阪市北区東天満1丁目11番2号
TEL 06-6353-4732　　FAX 06-6353-4820
E-mail　sunwayco@apricot.ocn.ne.jp
東京営業所　TEL 06-3718-6137
広島営業所　TEL 082-291-5300
九州営業所　TEL 092-504-6246

代表取締役　今田 忠義

株式会社 サン.ウエイ



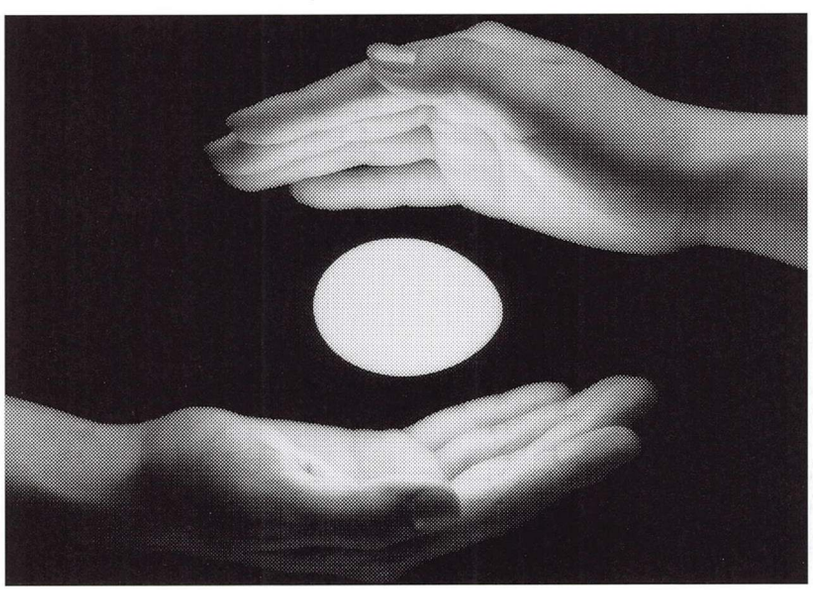
三木山ふれあいの森乗馬センター

建物のサインを中心に企画から施工まで

SUN WAY

SANKEN
ENVIRONMENTAL ENGINEERING

設備は手にとって選べません。
だから……



大切なのは、技術の信頼性。
豊富な実績と、
そのなかで培われた
確かなノウハウです。
私たち三建設備工業は、
求められる環境を
信頼の技術で創りだします。

望まれる環境を、信頼の技術で。

三建設備工業株式會社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-35-8 TEL03-3667-3431
〒530-0038 大阪市北区紅梅町3-5 TEL06-6352-1131

人と文化のふれあいをつくる

人々に喜びの場を提供する舞台機構や
遊戯施設そして生活空間をより豊かに
する昇降機や特殊機構。
三精輸送機は柔軟な発想と高度な技術
によって夢を文化につなげる企業です。

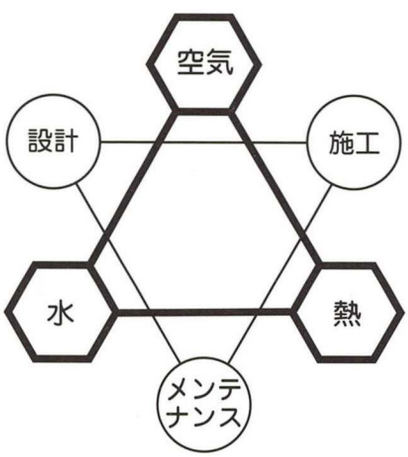
—営業品目—

●舞台機構 ●エレベーター ●エスカレーター ●遊戯施設

SANSEI YUSOKI sansei 三精輸送機株式会社

本　　社：〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-13-18　　TEL.06-6385-5621
東京支店：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-29-11　　TEL.03-3356-5651
営業所：札幌・青森・秋田・仙台・金沢・名古屋・神戸・広島・九州（福岡）

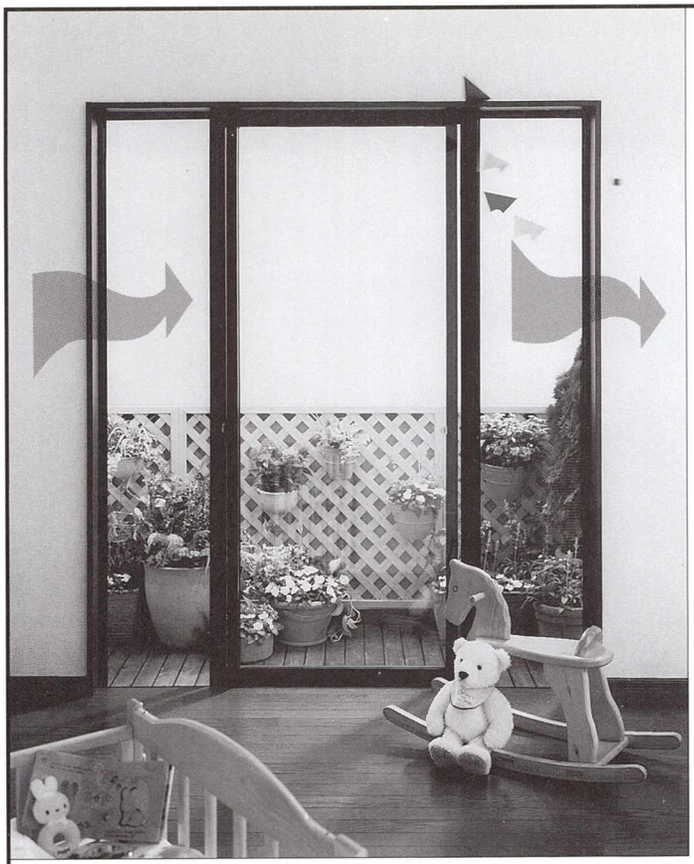
人・水・空気の調和をめざす
総合エンジニアリング企業



多様化するニーズに対応した技術力をもって、つねにお客様の立場で考え、ベストコーディネートした「空気」「水」「熱」の設備を提案しています。

株式会社 三冷社

本　　社	〒104-0061　東京都中央区銀座1丁目7番3号（京橋三菱ビル）	TEL（03）3567-0451
東京支社	〒104-0061　東京都中央区銀座1丁目7番3号（京橋三菱ビル）	TEL（03）3567-0455
関西支社	〒550-0003　大阪府大阪市西区京町堀2丁目9番8号（野澤ビル）	TEL（06）6446-6101
中国支社	〒733-0032　広島県広島市西区東観音町6番18号	TEL（082）291-8111
支　　店	北海道・北関東・東関東・横浜・京都・神戸・四国・福山・山口・九州	
営　業　所	東北・宇都宮・静岡・大阪・松山・高砂・三原・山陰	
サービスセンター	全国13ヶ所	



新日軽

必要な時だけ、網戸を引き出して使える
「ロール網戸一体サッシ」。

使わない時は、枠側に収納。
操作が簡単で通風（換気）効率に優れています。

ロール網戸一体サッシ
ウインドエース

新日軽株式会社 大阪支店/大阪市淀川区西中島7-1-5（辰野新大阪ビル3F） ビル建材営業二部　TEL06-63901309

新菱冷熱
SHINRYO CORPORATION

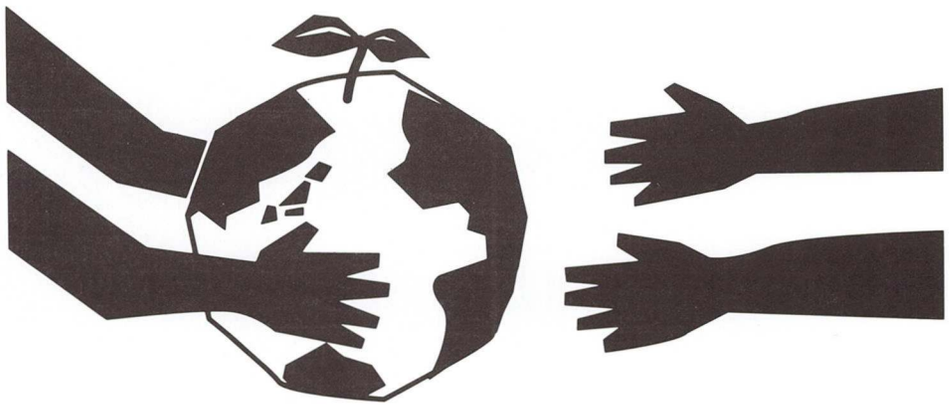
空気にも、
メニューがあります。

オフィス、工場、学校、病院・・・。それぞれの建物には、
もっとも適した空調システムがあります。
新菱冷熱は「さわやかな世界を創る」という
思想のもとに、用途に合わせたオーダーメイドの
空調システムを、設計・施工しています。
バリエーション豊かな私たちの空気のメニューから、
21世紀の新しい都市環境が始まります。



大阪支社：〒530-0003 大阪市北区堂島1-1-5（梅田新道ビル） ☎06-6344-7102（代）

空気と水のエンジニア
SUGA
須賀工業株式会社
本　　社 03-3434-7111
大阪支社 06-6441-5171

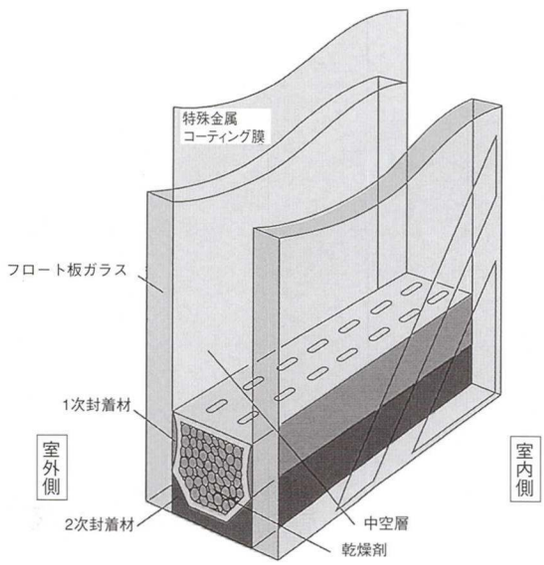


環境と未来の世代のために。

よりよい環境を受け継ぐ世代に、子供たちのために。
わたしたちは、その理想の姿を、未来の世代の視点で捉え、
幅広い分野でSUGAの技術を活かしています。
空気調和設備、給排水衛生設備、防災設備……、
地球の環境を守りながら、人びとに快適な空間を提供する。
英知を集めた＜空気と水のエンジニアリング＞は、
世代を超えて、未来へ向かいます。

遮熱断熱複層ガラス
ペアレックス ツインガードS／ツインガードE

夏涼しく、冬暖かい。特殊金属コーティング膜板
ガラス使用の遮熱断熱複層ガラス。



セントラル硝子株式会社

本　　社	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-7-1（興和一橋ビル）硝子営業部	
札幌支店	〒004-0841	札幌市清田区清田一条4丁目5番12号	☎(011) 886-8411
仙台支店	〒980-0811	仙台市青葉区一番町1-3-1（日本生命仙台ビル）	☎(022) 227-9191
硝子営業部	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-7-1（興和一橋ビル）	☎(03) 3259-7416
名古屋支店	〒450-0002	名古屋市中村区名駅4-27-23（名古屋三井ビル東館）	☎(052) 582-8551
大阪支店	〒590-0987	堺市築港南町6番地	☎(0722) 24-8461
広島営業所	〒730-0013	広島市中区八丁堀15-10（セントラルビル）	☎(082) 228-0531
福岡支店	〒810-0001	福岡市中央区天神1-11-17（福岡ビル）	☎(092) 721-7555

創業75周年を
お祝い申し上げます。

オリンピックを大阪に——



舞州アリーナ
設計・監理■大阪市港湾局・安井建築設計事務所
施工■鹿島・不動・東洋特定建設工事共同企業体
当社施工■アルミカーテンウォール

株式会社 セントラル建装

〒550-0014　大阪市西区北堀江1—5—2四ツ橋新興産ビル
TEL.06-6538-0005（代表）　FAX.06-6543-0425

高品質、標準化、多用途。
この考え方がSMW工法を
大きく発展させました。

SMW協会会員
ソイルセメント連続壁
SMW工法®

SMW工法
（遮水性山留め壁、止水壁）

SMW工法（Soil Mixing Wall）は、多軸混練オーガー機により原地盤の土と、スクリュー先端より吐出されるセメントミルクを原位置で削孔混練して造成する成幸工業が開発したソイルセメント連続壁工法です。

※SMW工法は登録商標です。



Venture

特長と用途

①SMW工法工法は、一工程の削孔混練で造成できる合理的な工法であり、工事の安全性が高く、工期も短くなっています。
②エレメントの削孔は、各エレメントをラップさせる「完全ラップ方式」により連続一体となった遮水性の高い山留め壁を造成することができます。
③原位置土混練方式のため掘削残土が少なく、掘削中はソイルセメントが安定液となるため孔壁の緩みや地盤沈下が極めて少なく、周辺地盤に影響を与えません。そのため、崩壊防止養生壁やRC連壁のガイドウォールに適しています。
④軟弱地盤においてはソイルセメントによる地盤改良の役目を果たします。
⑤SMW壁を不透水層まで根入れすることにより、環境汚染対策遮断壁、地下ダム止水壁となります。
⑥玉石混じりの土質、岩盤等においても削孔できるほか（場合により先行削孔併用）、大深度掘削を可能とします。もちろん低騒音、低振動の無公害工法です。

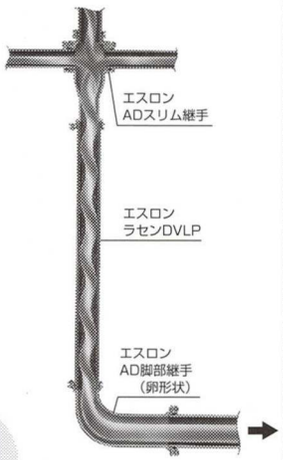
街をつなぐ、心をむすぶ
京阪グループ
成幸工業株式会社
本　　社　大阪市西区阿波座1丁目13番13号
東京支店　東京都千代田区岩本町3丁目1番2号

SEKISUI

コンパクトで施工性抜群。
高層ビルの配管にベストマッチの
コンビネーション。

エスロンADスリム・ADミニ継手&ラセンDVLP
一管式排水配管システム

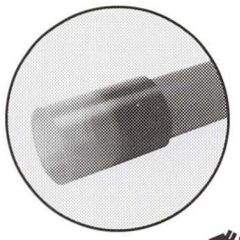
排水に旋回を与え、高い排水性能を発揮するADスリム&ラセンDVLP。コンパクトなADミニ継手もラインアップし、建築コストの低減にもつながる、一管式排水配管システムの決定版です。



ADミニ継手
台所専用 80×50



耐火性と自己消火性を有するとともに、軽量で持ち運びがラクな「エスロンHTSP」。半透明継手とブルーの接着剤の採用により塗り忘れのチェックが簡単にでき、確実で安全な施工ができます。



確実・簡単施工のスプリンクラー配管、登場。



（財）日本消防設備安全センター評定品
評8-083-1号 評10-027号 評11-008号

湿式スプリンクラー配管用耐熱性硬質塩化ビニル管
エスロン®HTSP

積水化学工業株式会社
東京管工機材営業所 〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17（虎ノ門2丁目タワー） TEL.03(5521)0641
大阪管工機材営業所 〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4（堂島関電ビル） TEL.06(6365)4502



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

—光と空気と水を生かす—
ダイダン

新技術で 新時代に
DAIHEN

ダイヘン コンパートメントキュービクル

'99電設工業展製品コンクール
(社)日本電設工業協会会長奨励賞
受賞

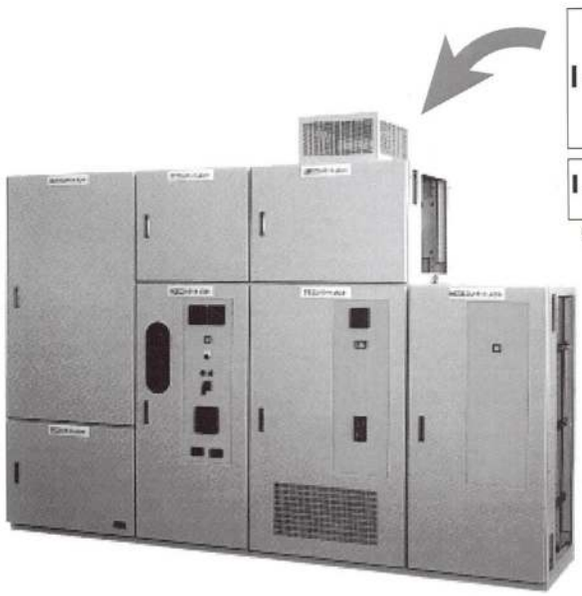
**コンパートメントキュービクルは、ユニット構成による
自由な組み合わせ・手軽な工事を実現、リニューアルを応援!**

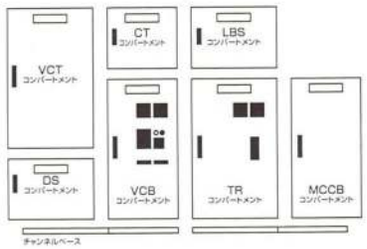
〈DCCシリーズ〉
リニューアル対応タイプ

特 長

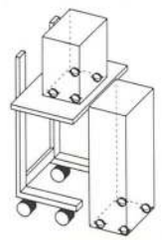
【既設ビルのリニューアル計画では】
- ビルに設置された通常のエレベータ（耐荷重1000kg）にて、簡単に据付場所に搬入できます。
- 搬入移動はパレッターにて運搬が可能です。（クレーン不要）
- 標準的な電気室の扉から搬入可能です。

【新築ビルの計画でも】
- 搬入経路を選ばず、搬入用マシンハッチが不要です。
- 上層階設置の場合でもタワークレーンは不要です。
- 上記の様に搬入制限がないため、十分な使用負荷検討の後、搬入ができます。





上段コンパートメントの設置方法
- 各コンパートメントの底には車輪があり、簡単に移動できます。
- また、設置後は車輪を取り外すことが可能です。



DAIHEN 株式会社ダイヘン
電機システム事業部
〒532-8512 大阪市淀川区田川2丁目1番11号
TEL(06)6390-5554 FAX(06)6390-9253

ダイヘン電機システム株式会社
〒530-0054 大阪市北区南森町2丁目1番29号(住友銀行南森町ビル) TEL(06)6363-5160 FAX(06)6363-5169
東部営業部 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番10号(ステップ六本木ビル2F) TEL(03)3475-1261 FAX(03)3475-1193
西部営業部 〒530-0054 大阪市北区南森町2丁目1番29号(住友銀行南森町ビル) TEL(06)6363-5160 FAX(06)6363-5169
中部営業課 〒464-0057 名古屋市千種区法王町1丁目13番 TEL(052)752-3172 FAX(052)752-2661
中国営業課 〒733-0035 広島市西区南観音2丁目3番3号 TEL(082)294-5951 FAX(082)294-6280
九州営業課 〒810-0022 福岡県中央区薬院1丁目13番8号(九電不動産ビル5F) TEL(092)741-5931 FAX(092)741-5935

空間づくりは、
快適から成熟へ。

Maturity Design

マチュリティデザイン

［Maturity（マチュリティ）＝成熟、円熟、完成されたもの］
それは時代の空間を創造するタカシマヤ建装事業本部のテーマです。
「快適」を超えて様々な面で「充足」をもたらす空間づくり。
私たちは、これからの成熟社会にふさわしい事業を推進してゆきます。

Takashimaya
建装事業本部

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 TEL(06)6632-3190
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 TEL(03)3668-8202

NAV-Window-21

風 Wind がつくる快適空間。

私たちは、いつも考えています。

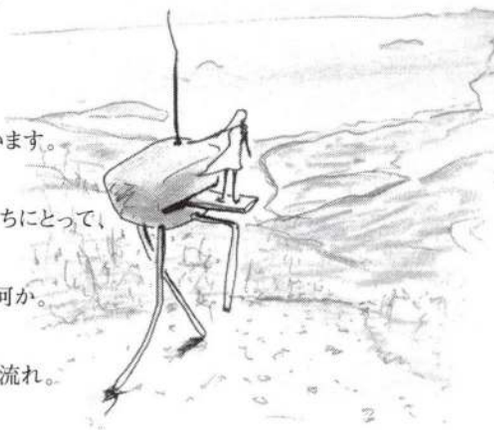
自然の生命体である私たちにとって、

本当に快適な空間とは、何か。

自然の空気、自然の風の流れ。

それは、生きた快適を探る手法。

私たちは、「風」に未来への示唆を見ました。



イメージスケッチ/石山修武

風の道をつくる。

きれいな空気を取り入れ、不要なもの、害のあるものを出す。換気は、人のいる空間に欠かせません。
それも、ただ窓を開けて空気を入れるだけでは、人を包み込んでいる温度成層が乱れ、不快を感じてしまいます。温度成層を乱さず、自然の風を入れる。しかも、自然のエネルギーを使って。それが、立山アルミが考える21世紀の自然換気システム「NAV(ナブ)-Window(ウィンドウ)-21」です。
その回答のひとつが、「Swindow(スウィンドウ)」。 風というクリーンなエネルギーを利用して、人に快適な自然換気を行うシステムです。





施工例PHOTO:
東邦大学習志野キャンパス
学生食堂(千葉県)

新世代の自然換気システム
Swindow
スウィンドウ

立山アルミニウム工業株式会社
本社/〒933-8602 富山県高岡市早川550〈ビル建材事業部〉TEL(0766)20-3321 〈環境システム統轄部〉TEL(0766)20-3773
立山アルミ ホームページ http://www.tateyama.co.jp/

Daiwa inc.

大和鋼板工業株式会社

本社・工場
□住所 大阪府四条畷市下田原1510-3
□TEL 0743-78-1171 □FAX 0743-78-0388
□Mail daiwa_inc@msn.com(営業)
daiwa_inc@mth.biglobe.ne.jp(技術)
□URL http://www.daiwa-inc.co.jp

営業品目
□ステンレス・ブロンズ・スチール製建具
□ステンレス・アルミニウム・スチール製内外装パネル
□ステンレス・アルミニウム・スチール製装飾金物
□金属アートワーク製品

機器販売から工事まで。

TAS

Total Amenity Systemizer

空調機電機器の専門商社

東テク株式会社
Totech Corporation

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-14 TEL.03-3242-3222～9(代) FAX.03-3270-5093
〒541-0046 大阪市中央区平野町3-5-12東海ビル TEL.06-6203-9120～9 FAX.06-6222-6205

●主要取扱製品

パッケージ型エアコン、ビル用マルチエアコン、ヒートポンプチラー、ファンコイルユニット、エアハンドリングユニット、鋼板製ボイラー、炉筒煙管ボイラー、セクショナルボイラー、吸収式冷凍機、スクリュー冷凍機、ターボ冷凍機、送風機、ポンプ類

中央監視装置、空調制御機器、燃焼制御装置、防災・防犯用機器及び装置、各種産業用プラント・ＦＡシステムのコンサルティング、システム設計、システム開発、技術サービス、設計、施工及びメンテナンス

ISO 14001 認証取得
兵庫事業所(登録番号ＪＳＡＥ０４４)

トンネル・下水道



ビル・マンション・病院

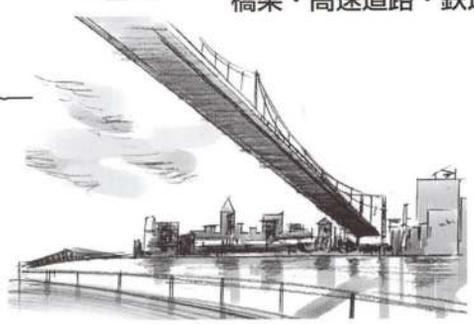


TOYO
Mobility & Amenity

地震は襲う相手を選ばない。



橋梁・高速道路・鉄道



地震が社会に与える被害の大きさは、はかりしれません。
***TOYO**は永年にわたるゴム技術の研究、豊富な知識、*
そしてチャレンジする精神で、耐振・免震に役立つ
さまざまな部材とノウハウを開発・蓄積しています。

耐振・免震はTOYO「得意の分野」です。



橋梁用高減衰免震ゴム支承



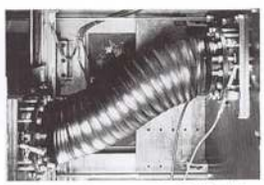
建築基礎免震ゴム



トンネル用弾性ワッシャー



ＳＴ免震フレキ



地震対応可とう伸縮継ぎ手

東洋ゴム工業 http://www.toyo-rubber.co.jp/

工業用品販売部 本社 〒550-8661 大阪市西区江戸堀1-17-18 TEL 06-6441-8701 東京本社 〒171-8544 東京都豊島区高田2-17-22 TEL 03-5955-1240

干渉型防音装置フェンス PAT.

マルチカームゾン防音フェンス

マルチカームゾンの特長

1 低い防音壁で十分な効果

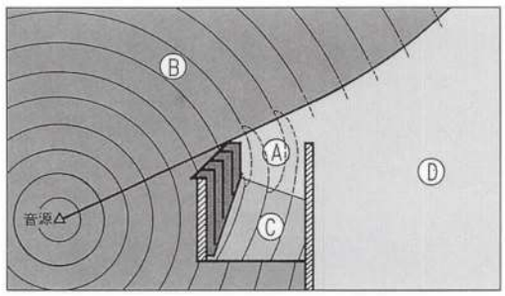
2 回析現象がなく遠くまで効果

3 密閉できない騒音源に威力を発揮

マルチカームゾン防音システムの原理

カームゾンエレメントを通らない直接波Ⓑと、エレメントを通過した屈折遅延波Ⓒの間に干渉を起こし、減音領域Ⓐが生じる。さらに吸遮音パネルによる回析減衰により、Ⓓの領域に音の回り込みの全くない減音領域が生まれる。

（第38回科学技術庁の注目発明に選定）



マルチカームゾン防音フェンスに代表されるマルチベントの騒音防止システムは、音の特性を良く理解した経済的なシステムです。密閉できない音源にも低予算で効果を発揮し、振動を押さえます。また防振・防災設備機器も充実しています。

東洋マルチベント株式会社
ORIENT MULTI-VENT CO., LTD.

本　社　〒103-8570 東京都中央区日本橋大伝馬町16-1　ユアサ商事別館
TEL 03-3249-2321　FAX 03-3249-2325

大阪支店　〒542-8660 大阪市中央区南船場2丁目4番12号　ユアサ大阪ビル
TEL 06-6266-4725　FAX 06-6266-1477

環境問題を考慮した世界初のケナフ壁紙「ケナフウォール」が、暮らしをいっそう快適に包み込みます。



人にやさしい

- RAL（ドイツ商品安全・表示協会）基準適合商品。
- 低ホルムアルデヒド。
- 化学材料は不使用（水性インクを使用）。

地球にやさしい

- 非木材紙（ケナフ原料）を使用。
- 水質汚染を避ける製法採用。
- 水性インクを使用。
- 焼却時に塩素水素ガス不発生。

［非木材紙普及協会認定第1号］

東リ ケナフウォール

※東リ ケナフウォールは商標登録出願中・特許申請中です。

おかげさまで80周年

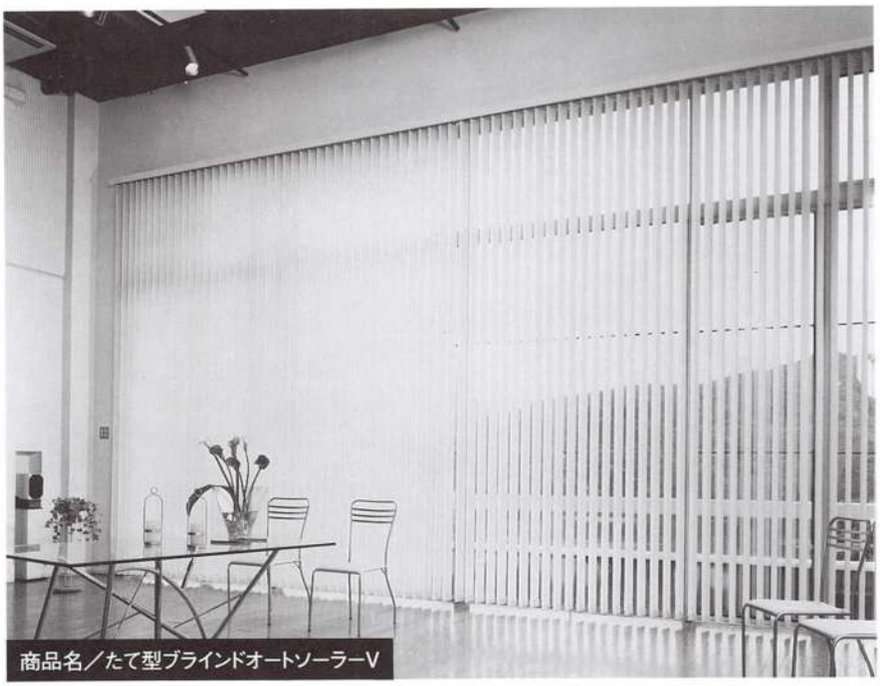
東リ株式会社

【URL】http://www.toli.co.jp

■西日本営業開発部　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-13 OMMビル　TEL.06（6943）1645
■大阪ショールーム　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-13 OMMビル　TEL.06（6943）1649

祝　安井建築設計事務所創業75周年

ニチベイは、快適な光空間の創造を目指します。

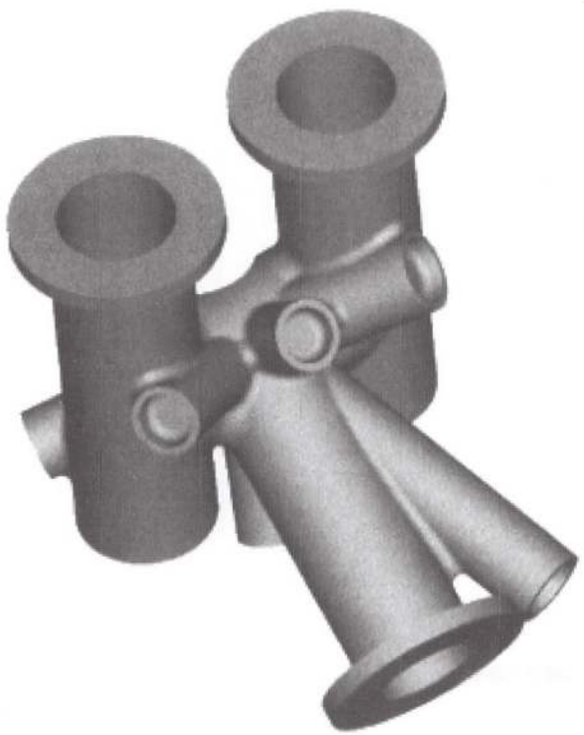

商品名／たて型ブラインドオートソーラーV

窓装飾と間仕切りの専門メーカーとして、
つねにマーケットニーズを見つめ、
ホームユースからコントラクトユースまで、
幅広い商品づくりを心がけてきました。
これからも、ニチベイは、
機能性とデザイン性に富んだ、
さまざまな商品を通じて
快適空間の創造を目指します。

株式会社ニチベイ
本社/〒103-0027東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部営業推進室/〒103-0027東京都中央区日本橋3-15-4　TEL.(03)3272-2233
〒540-0031大阪市中央区北浜東1-8　TEL.(06)6949-2806
ニチベイホームページ・アドレス http://www.nichi-bei.co.jp

日本鋳鍛鋼(株) の建築構造鋳鋼品

3次元の曲面を自由に、
溶接線が少なく、
優れた美観

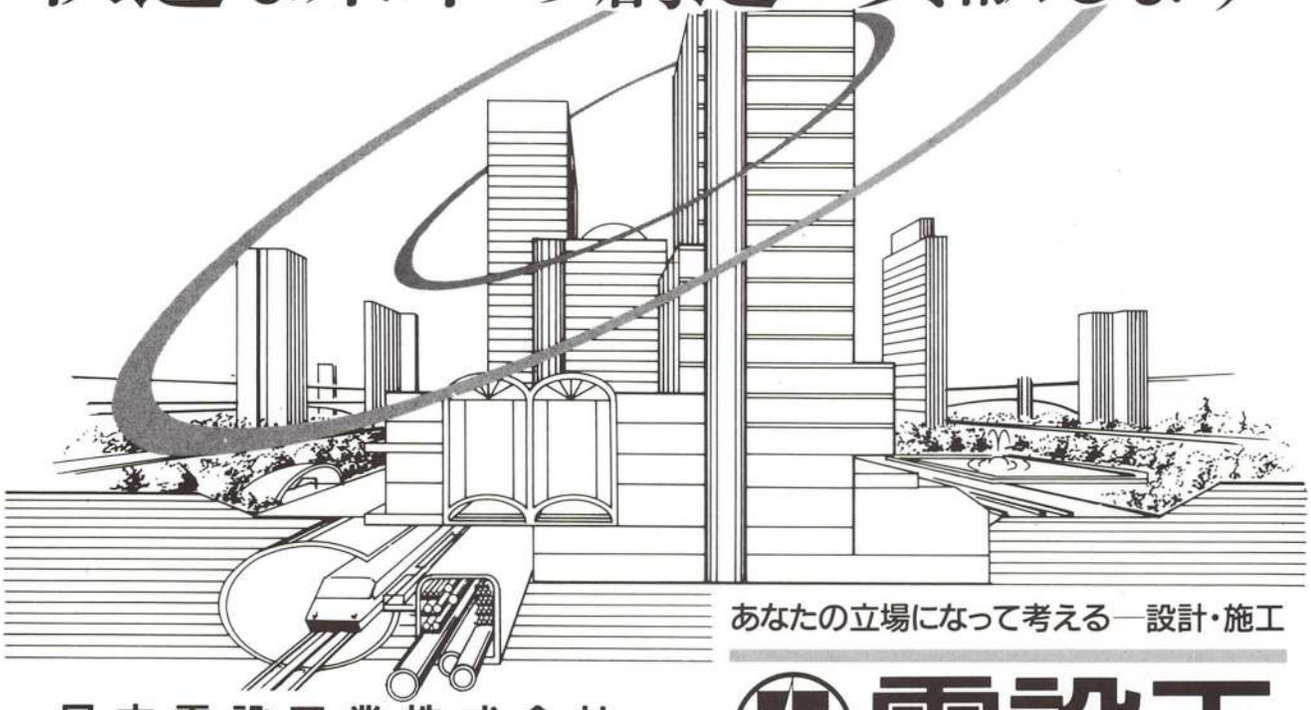


3D-CADで理想を実現します！

日本鋳鍛鋼株式会社

東京都千代田区神田駿河台２-１-20
お茶の水ユニオンビル４F
TEL：03-5281-8001　FAX：03-5281-8005
神戸市中央区元町通６-１-６
協栄生命神戸元町ビル８F
TEL：078-366-6450　FAX：078-366-6452

快適な未来の創造に貢献します



あなたの立場になって考える―設計・施工

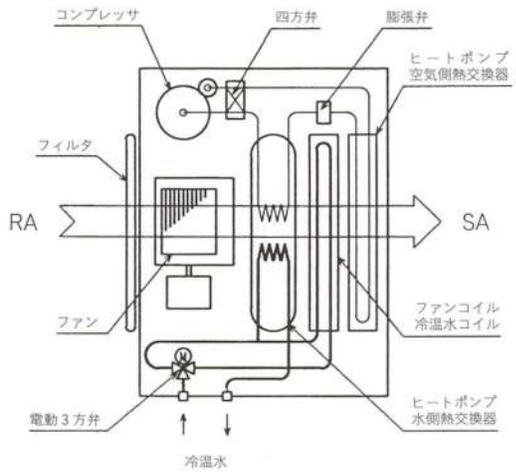
電設工

日本電設工業株式会社

本　店　東京都台東区池之端１－２－23
ＴＥＬ（03）３８２２－８８１１（大代表）
大阪支店　大阪市北区豊崎３丁目17－15
ＴＥＬ（06）６３７２－３５３３

冷暖自在・ホテル向け空調ユニット

リニューアルに最適　FB−230L



ユニット基本構造図

特長

●既存の冷温水２管式システムで、自動冷暖房が可能です。
●冷水・温水に関らず、設定した室温に対し、冷房・暖房・送風の自動運転を行なうので、体感温度の違うお客様の微妙なニーズにきめ細かく対応できます。
●小容量コンプレッサー（300W）搭載ですので、低騒音です。
●４管式への改修工事がいらず、既存のファンコイルユニットからＦＢ−230Ｌに更新するだけなので、リニューアル工事の工期短縮および工事費の低減がはかれます。

運転例

・ファンコイル回路
通常負荷安定時、冷水／温水によりファンコイル冷房／暖房運転。
・ヒートポンプ回路
負荷が大きい場合はファンコイル回路で使用した冷水／温水をヒートポンプ回路水側熱交換器に直列接続して、コンプレッサの運転により、冷房／暖房能力（ファンコイル５deg＋ヒートポンプ５deg＝水温差10deg利用）を倍増させます。
また、中間期等で温水通水時の冷房、冷水通水時の暖房などの逆モード運転が可能です。

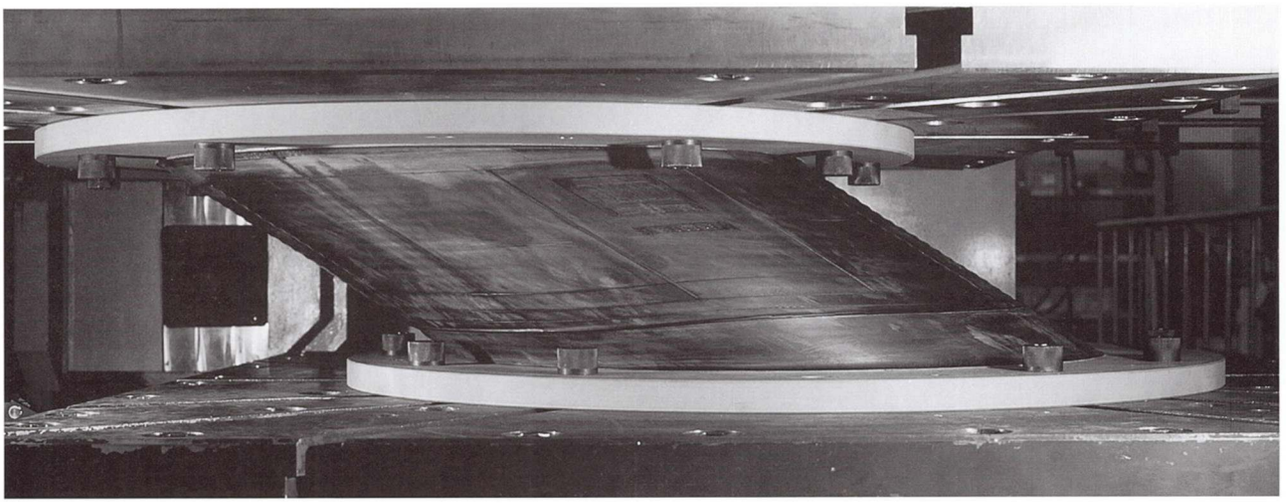
日本ピーマック株式会社

本社・工場　〒243-02 神奈川県厚木市飯山3150　☎(0462)47-1611　FAX(0462)47-5660

大阪支店 ☎(06)6362-6655　札幌営業所 ☎(011)232-1151
東京営業部 ☎(03)5473-7781　東北営業所 ☎(022)225-0820
東京サービス部 ☎(03)5473-7791　広島営業所 ☎(082)227-5155
名古屋支店 ☎(052)243-1521　九州営業所 ☎(092)712-1760

調和と誠実を心に歩む

BANDO 建築免震用積層ゴム



バンドー化学株式会社 建設資材事業部

■東京販売部
東京都港区芝4丁目1番23号（三田NNビル5階）
〒108-0014 TEL.03−5484−9105 FAX.03−5484−9113
■大阪販売部
大阪市北区梅田2丁目5番25号（梅田阪神第一ビル9階ハービスOSAKA）
〒530-0001 TEL.06−6345−2639 FAX.06−6345−7750
■技術部 技術開発グループ
加古川市平岡町土山字コモ池の内648
〒675-0104 TEL.078−942−6840 FAX.078−942−6896
■北海道連絡事務所
札幌市豊平区月寒中央通2丁目2番22号 北海道バンドー（株）内
〒062-0020 TEL.011−851−2146 FAX.011−852−6992
※詳しくは、各部署までお尋ね下さい。

Hitachi Zosen HEX

新しい街、潤いある都市空間を創造する、日立造船の先進のパーキングシステム。

都市部における駐車場の用地不足。その解決策として注目されるのがHEXカーステーションです。過密化した都市空間にあって、その空間を有効活用することで、大容量の駐車スペースを確保でき、しかも、人と車とを安全かつスムーズに分離するとともに、効率良く保管。いつでもすぐに利用できるターミナル機能を備えた画期的な駐車場設備です。

エール・エールA館
681台収容
（広島駅前）





■平面往復方式立駐駐車室（複列・コンベヤ方式）

ゆったりとした入・出庫ステージを設け
従来の駐車場のイメージを一新。

車を玄関横に停めるような感覚で入庫ステージへ。あとは、自動的に駐車室へ移送します。人と車との動線を完全分離した安全システムです。



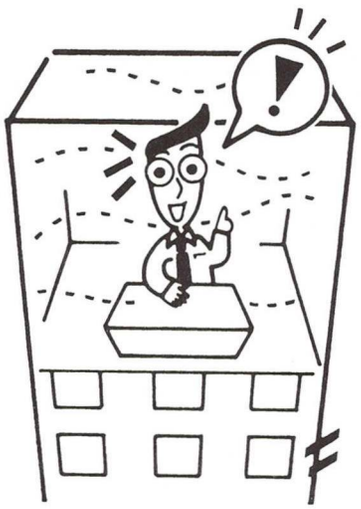
■入庫ステージ



■出庫ステージ

日立造船 建機・パーキングシステム営業部
東京営業部 東京都千代田区一ツ橋1丁目1番1号（〒100−8121） 電話03（3217）8518（ダイヤルイン） ファックス03（3217）8544
大阪営業部 大阪市住之江区南港北1丁目7番89号（〒559−8559）電話06（6569）0067（ダイヤルイン） ファックス06（6569）0080

ゆとりと潤いがいっぱいのビル



日立プラント建設は、数多くの空調システムの研究・開発を通じて、ますます複雑化・多様化する環境ニーズにお応えし、ゆとりと潤いのある環境づくりを追求していきたいと考えています。

日立プラント建設

本　　社／　東京都千代田区内神田1−1−14（〒101-0047）☎03−3292−8111
●札幌　011−737−1330　●仙台　022−263−3261　●東京　03−5281−0121
●横浜　045−451−1551　●名古屋　052−261−9331　●大阪　06−6266−1931
●広島　082−249−2460　●福岡　092−262−7600
ホームページ アドレス　http: // www. hitachiplant.hbi.ne.jp

世界で活躍するフジテックの
エレベータ・エスカレータ・立体駐車設備

FUJITEC



フジテック株式会社
ホームページアドレス　http://www.fujitec.co.jp

■本　　社／〒567-8510　大阪府茨木市庄1丁目28-10　TEL（0726）22−8151
■東京支社／〒141-8562　東京都品川区大崎1丁目11-2　TEL（03）5740−6002
■大阪支社／〒550-0004　大阪市西区靭本町1丁目7-4　TEL（06）6441−8521

北海道（011）281-1070／東　北（022）222-0271／東関東（043）224-2271／北関東（048）645-0480／横　浜（045）314-5231／名古屋（052）261-6851
北　陸（076）261-5108／京　都（075）231-7144／神　戸（078）391-4795／広　島（082）223-6733／四　国（087）831-0015／九　州（092）281-0045

祝：安井建築設計事務所創業75周年

シビアな徹底施工が建築物をがっちり守る

総合防水工事業

フタバ興業株式会社

本　　社　〒564-0044 大阪府吹田市南金田1丁目10番18号
TEL.06(6385)2781㈹　FAX.06(6385)2794
東京営業所　〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目2番3号 西新橋ビル
TEL.03(3591)2491㈹　FAX.03(3591)9282

FUJI ELECTRIC

快適な環境をつくる
確かな技術



”確かな技術で快適な環境づくり”
を使命に、新しい時代の要望に
お応えするために努力を続けております。

富士電機総設株式会社

本　社：〒104-8521 東京都中央区八丁堀2-20-8八丁堀東急ビル　☎(03)3206-4601㈹
支　社：〒553-0002 大阪市福島区鷺洲1-11-19富士電機大阪ビル　☎(06)6458-5041㈹

事業内容
空気調和・給排水衛生・電算機室空調　設計施工

文化シヤッター　夢を動かす技術がある。

先進の機構で省エネ性能向上
諸経費低減を実現!

NEW MODEL



高気密設計・高速自動開閉で、空調効果を維持。安全性を追求した設計で、働く環境をベストに保ちます。本体にパイプを使用していないため安全性が高く、また車両が衝突してシートがレールからはずれても自動に復帰するセルフリペアリング方式のため、修理等の経費削減ができます。

大きな間口も迅速に！
開口部の守護神
〈ダイマジン〉
高速シートシャッター
エア・キーパー 大間迅

文化シヤッター株式会社
本　　社 〒174-8733 東京都板橋区志村3-26-4 TEL 03-3968-6666
URL http://www.bunka-s.co.jp/

National 松下電工

'99電設工業展 製品コンクール 受賞 建設大臣賞

高効率インバータにタイマーを内蔵。初期の余分な明るさを自動で抑えて、オフィス・工場・店舗など、ベース照明を省エネします。

35%省エネ※

累積点灯時間に応じて照度補正。余分な明るさをカットします。

一般に照明器具では、ランプ交換後約12,000時間（ランプ寿命）で照度が約30%低下した際に、設計照度となるように設計されるので、交換直後は、設計照度よりも過剰な明るさとなっています。タイマーセルコンは、余分な初期照度を自動補正するタイマーを内蔵。電気代を節約しながら、快適な設計照度が保てます。さらに、高効率インバータ採用で、いっそう省エネできます。



タイマーセルコンFHS42580PF2
標準価格29,900円（税別）

Hf

センサ機能付照明器具 タイマーセルコン

◎資料のご請求は、〒571-8686 大阪府門真市門真1048 松下電工 電材分社・電機営業企画部マーケティングG TEL.06-6908-1131

※試算条件　当社ラピッドタイプ（85W×162台×3000時間×23円/kWh÷1000）とタイマーセルコン（98W×108台×0.85×3000時間×23円/kWh÷1000）との比較。24m×24m H=3m、床上1m平均照度800lx、年間点灯時間:3000時間、電気代:23円/kWh、初期照度による省エネ15%。



島耕作「タイマーセルコンで、たちまち省エネ」の巻

A&i 快適を科学します

新登場

なぜか流れにくい　あのいやなニオイ　気になるゴボゴボ音

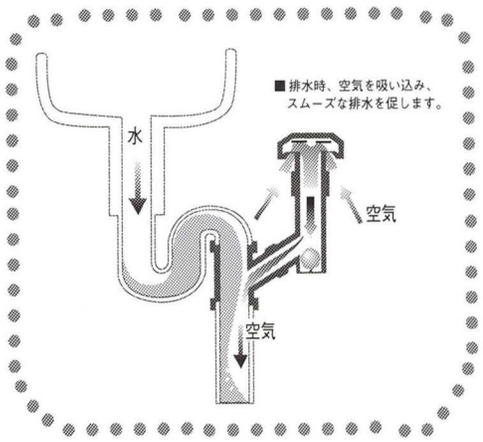
2階/3階の戸建排水をスッキリ解消。

建設大臣認定商品
建設省東住指発第655号

特許出願中

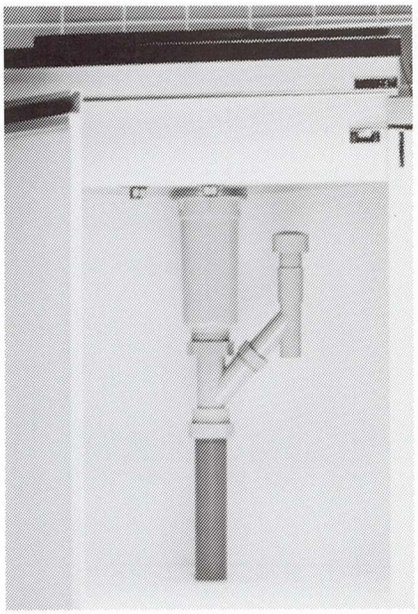
ミニドルゴ mini dugo UNIT

■短時間で簡単に取付けられます。
■特別な工事は必要ありません。
■シンク下のわずかなスペースにすっきりと納まります。
■排水パイプの裏側など、ジャマにならない場所に設置できます。
■あふれ縁より下部への設置が可能です。



※ダブルトラップなどで正圧発生が原因の排水管トラブルには、
ミニドルゴの効果は発揮されません。

「あふれ縁の下」取付けで
快適な排水環境の実現！



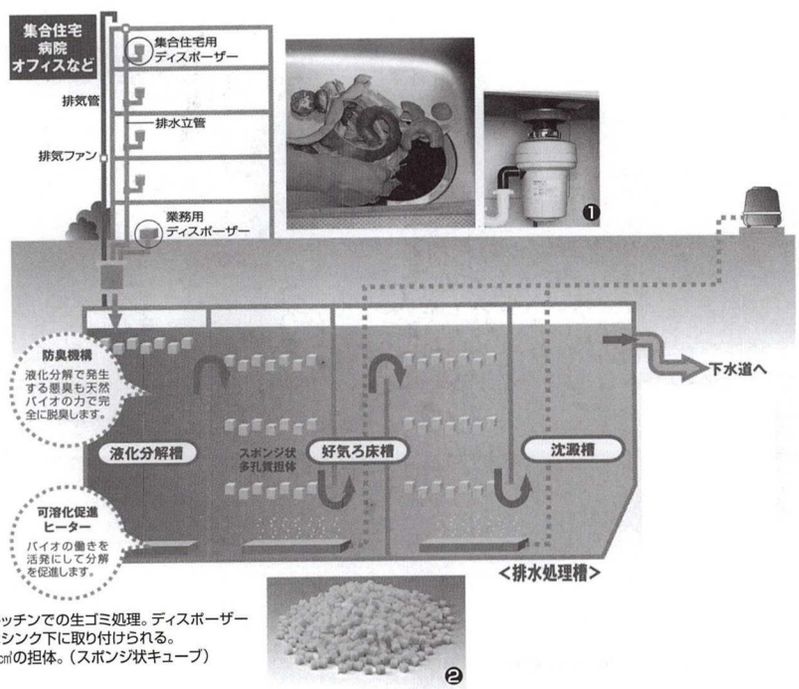
森永エンジニアリング株式会社

本　社	東京都港区三田3-12-17	〒108-0073	(03) 3454-0170
札幌営業所	札幌市中央区南1条東1丁目	〒060-0051	(011) 251-9811
盛岡営業所	盛岡市盛岡駅前北通り1-10	〒020-0033	(019) 626-2801
仙台営業所	仙台市若林区河原町1-6-23	〒984-0816	(022) 265-2622
名古屋営業所	名古屋市中区金山1-9-17	〒460-0022	(052) 323-0782
大阪営業所	大阪市中央区東高麗橋4-3	〒540-0039	(06) 945-5644

YAMATAKE

スポンジとバクテリアだけで生ゴミを水に変える

生ゴミ処理システム『KANSUI 環水』



❶キッチンでの生ゴミ処理。ディスポーザーはシンク下に取り付けられる。
❷1㎥の担体。（スポンジ状キューブ）

自然の力を活かす

自然の腐食連鎖を利用したこの画期的な生ゴミ処理システム『環水』。集合住宅、病院、オフィス、老人ホームなど、さまざまな場所で社会問題になっている生ゴミ処理を省エネルギー・省コストで水に変える生ゴミ処理システム『環水』は人と地球との共存にふさわしいクリーンな生活環境の実現を可能にしました。山武ビルシステム(株)はさらなる環境事業への取り組みを進めています。

山武ビルシステム株式会社

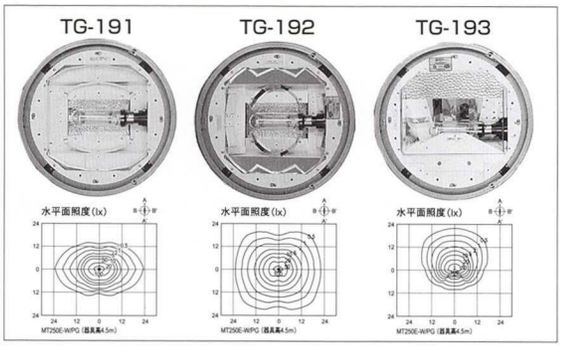
〒108-6030 本　社　東京都港区港南2-15-1
☎(03)5782-7567 FAX.(03)5782-8932
〒530-0003 大阪支店　大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル
☎(06)6347-1217 FAX.(06)6347-1257

Form10 Round Hardtop

yamada

Gardco Form 10 Roundは、自然に、無理なく従来の直線的な建物の印象を変える事が可能です。また、建築的な視点から、建物のテーマに適応するだけではなく、デザイナーの求める様々な取付高さの対応が可能です。エレガントなイメージのHardtopは、3タイプの反射板による光学的なバリエーションで、意図しない反射とグレアを抑え照射面照度の均一化を実現します。

反射板ユニット





Gardco

AH-4752（受注品）
¥423,000（ランプ・安定器別売）
◆PGX12-1 メタルハライドランプ（透明形）250W×2

AH-4751（受注品）
¥258,000（ランプ・安定器別売）
◆PGX12-1 メタルハライドランプ（透明形）250W×1
◆アルミ（銀色塗装）強化ガラス
◆安定器内蔵形

※この本体には反射板ユニットが必要です別途お求め下さい。

山田照明株式会社

本　　社/ショールーム　〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-8-11　TEL.03-3253-5161
横浜支社/ショールーム　〒220-0005 神奈川県横浜市西区南幸 2-20-1　TEL.045-311-1731

仙台支社	〒980-0824	仙台市青葉区支倉町 4-34	TEL.022-267-1630	大阪支社	〒577-0006	東大阪市楠根 2-2-6	TEL.06-745-6811
福岡支社	〒812-0042	福岡市博多区豊 1-9-61	TEL.092-414-8531	札幌営業所	〒003-0807	札幌市白石区菊水七条 2-6	TEL.011-811-2215
北関東営業所	〒370-0851	高崎市上中居町 51-1	TEL.0273-26-4111	名古屋事務所	〒461-0001	名古屋市東区泉 1-21-35-1102	TEL.052-963-8411
広島営業所	〒730-0805	広島市中区十日市町 2-2-34	TEL.082-293-6119	鹿児島事務所	〒890-0055	鹿児島市上荒田町 23-10	TEL.099-258-0031

Think space
for
people

株式会社 大丸装工
DAIMARU DESIGN & ENGINEERING CO., LTD.

空間×人×環境
都市は、人の環境です。

■本社・大阪オフィス
大阪市西区南堀江1-18-4湊町ＭＴビル
TEL(06)6538-5800

■東　　京オフィス
東京都江東区木場2-18-11大丸コアビル
TEL(03)3820-7030

■営　　業　　所
札幌・仙台・名古屋・京都
神戸・福岡・長崎

新年のご挨拶

平成12年元旦

（50音順）

青山幸夫

株式会社　青山建築積算事務所 代表取締役

〒550-0004　大阪市西区靭本町1-6-10本町西井ビル
電話06（6443）0430
〒610-1125　自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075（331）8082

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号　電話06（6362）8701
〒665-0845　自宅・宝塚市栄町2丁目10番26-1102号
電話0797（81）1174

五十嵐定義

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873　吹田市藤白台5丁目8番1号　電話06（6872）0391

会長

市川　宏

株式会社　東畑建築事務所 取締役会長

〒541-0044　大阪市中央区伏見町4—4—10　電話06（6202）0391

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役

〒547-0001　大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06（6792）4425代
FAX06（6792）5837
〒547-0041　大阪市平野区平野北2丁目9番15号

稲越二郎

中央電設株式会社　取締役社長

〒553-0001 大阪市福島区海老江1-1-31　電話06（6453）8720代表
東京・名古屋・三重/茨城・鹿島・埼玉・京都・吹田・尼崎・西宮・神戸・松山・徳島・九州

上西圭治

株式会社　大気社　代表取締役会長

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル7階
電話06（6448）3603

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長

〒542-0083　大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06（6244）1561代

多井幸男（オオイ）

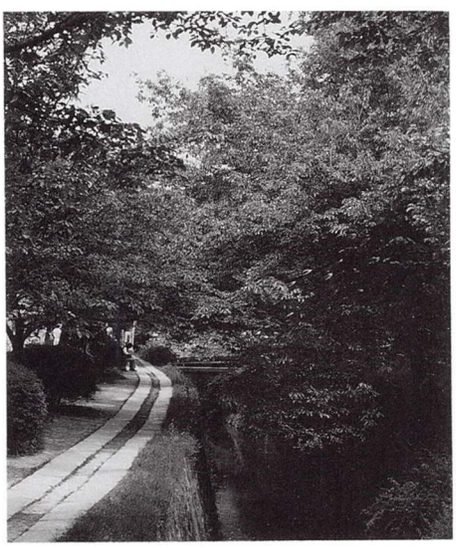
多井建築研究所　所長

〒657-0063　神戸市灘区曽和町3－1－11　電話078（821）6133

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565-0821　吹田市山田東1－12－12　電話06（6876）2334
〒565-0821　自宅・吹田市山田東1-12-12　電話06（6877）1406



数井利美

株式会社　西村建築事務所 取締役社長

〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078（521）0205～0207
〒654-0103　自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39－13
電話078（792）5862

木内啓介

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06（6543）2553

久米宏和

社団法人大阪建設業協会　専務理事

〒540-0031　大阪市中央区北浜東1番30号　電話06（6941）4821
URL http://www. o-wave. or. jp/

取締役会長 小西　岬
取締役副会長 橋本正章
取締役社長 此谷　浩

株式会社 小西設計

〒550-0012 大阪市西区立売堀1丁目12－16　電話06（6532）4051

小林四郎

住友電設株式会社　相談役

〒550-8550　大阪市西区阿波座2－1－4　電話06（6537）3430
〒662-0093　自宅・西宮市西平町19－11　電話0798（74）6621

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号 電話06（6943）1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798（72）1569

城口庸平

株式会社 大阪城口研究所　代表取締役会長

〒530-0017　大阪市北区角田町2番15号　電話06（6372）7151代

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目25番20号
電話06（6765）5650代　FAX06（6765）5655
〒614-8056　自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075（971）0395

立野一郎

株式会社　ユニオン　会長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2丁目13番22号　電話06（6532）3188

新年のご挨拶

平成12年元旦

（50音順）

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550-0004 大阪市西区靭本町1丁目17番15号
電話06（6441）0378大代
〒557-0042 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06（6651）0566

真塚達夫

株式会社　東畑建築事務所　取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町４－４－10
電話06（6202）0391

村石　全

株式会社クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556-0021 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06（6568）3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3 電話0724（37）2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
電話0736（22）7880

取締役会長 徳岡昌克
取締役社長 徳岡浩二

株式会社　徳岡昌克建築設計事務所
MASAKATSU TOKUOKA ARCHITECTS

〒530-0047 大阪市北区西天満6丁目3番11-205号
〒169-0072 東京都新宿区大久保1丁目9番21-302号
〒661-0965 尼崎市次屋３丁目６番60号
〒520-0501 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地
〒812-0007 福岡市博多区東比恵3丁目25番5号
E-mail：tokuoka@osk4.3web.ne.jp
TEL 06 (6499) 0701
FAX 06 (6499) 2223

牧　英二

日建設計　取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06（6203）2361

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06（6385）1361代表
朝日ビルディング内
〒565-0873　自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06（6871）0851

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　代表取締役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794（62）4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話0794（62）4668

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3　電話06（6443）0167～8
FAX 06（6443）1826

和田克朗

財団法人　大阪住宅センター　理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06（6253）0071

福原裕治

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1丁目2番7-1300号
あべのメデックス13階　電話06（6636）1777

三宗司郎

株式会社　昭和設計　代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街
Tel 06-6575-5555　Fax 06-6575-5556
URL http://www.showa-sekkei. co. jp

和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区天満4丁目5番14号
電話06（6363）4051代
〒659-0084 自宅・芦屋市月若町3番16号　電話0797（22）3282

福谷　剛

株式会社 ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒550-0013 大阪市西区新町1丁目34-20　電話06（6531）6001
〒666-0129 川西市緑台1丁目8－7　電話0727（93）0409

副会長

薬袋公明

日建設計　相談役 名誉会長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06（6203）2361

和中　勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531-0072 大阪市北区豊崎5丁目8番11号
電話06（6371）0731～5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11-5　電話03（3464）9723
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地 電話052（481）7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798（67）0386



新年のご挨拶

平成12年元旦

設計事務所有志

健康で豊かな生活文化の創造に貢献する

株式会社 A.R.I 建築事務所



代表取締役　建築家
亀井　晃治

■本　　社／大阪府大阪市中央区谷町7-3-4-203　〒542-0012
TEL 06-6768-1771 FAX 06-6768-1406
■東京支店／東京都千代田区東神田1-7-8　東神田大治ビル内
■神戸支店／兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-24
■創　　立／昭和37年4月1日　　■資　　本／7,600万円
■登　　録／一級建築士事務所　　大阪府知事（ヌ）第1848号
■作　　品／帝塚山学院大学、帝塚山学園大学、関西外国語大学、
大阪明浄女子短期大学など多数
■グループ／(株)arix

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　岡　本　清　彦

〒556-0016 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪 (06) 6646-0161(代)

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　鋤　納　忠　治
代表取締役社長　織　田　愈　史

本　　社　〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目2番13号（名古屋センタービル）電話〈052〉222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号（聖公会神田ビル）電話〈03〉5294-6211

URABESEKKEI 株式会社 浦辺設計

URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　〒530-0001　電話 06 (6341) 1680
岡山事務所　岡山市問屋町26－103　〒700-0977　電話 086 (245) 0090

SHOWA SEKKEI 株式会社 昭和設計

代表取締役社長　三　宗　司　郎

本　社　552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 オーク1番街　TEL 06-6575-5555
URL http://www.showa-sekkei.co.jp
東　京　160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル4F　TEL 03-3357-8631
神　戸　650-0024 神戸市中央区海岸通り6番地 建隆ビル302号　TEL 078-331-4568

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役　瀬　戸　本　　淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目1－1神戸郵船ビル　TEL078-333-0138

株式会社 創　美　設　計

代表取締役　中　原　英　雄

大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町iSビル 〒530-0054 TEL.(06)6312-3001代表

株式会社 大建設計

代表取締役社長　小　林　正　春
常務取締役 大阪事務所長　島　　幸一郎

大阪市西区京町堀1-13-20　電話06(6449)6800(代表)
東京·名古屋·福岡·札幌·仙台·横浜·長野·京都·広島·北九州

アルパック 株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役社長　金井 萬造

本社・京都事務所・〒600-8007 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132(代)　FAX.075-256-1764
大阪事務所・〒540-0001 大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-6942-5732(代)　FAX.06-6941-7478
名古屋事務所・〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル13F
PHONE.052-265-2401　FAX.052-249-3925
東京事務所・〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130(代)　FAX.03-3226-9560
九州事務所・〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ6F
PHONE.092-731-7671　FAX.092-731-7673

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　市　川　　宏
取締役社長　眞　塚　達　夫

本社 大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号　電話（06）6202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号（永田町ビル）電話（03）3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号（三井生命伏見ビル）電話（052）223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1（福岡センタービル）電話（092）472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

相談役 名誉会長　薬　袋　公　明
代表取締役社長　牧　　英　二

大阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話（06）6203-2361
東京	112-8565	東京都文京区後楽2丁目1－3	電話（03）3813-3361
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話（052）261-6131
支所・その他	東北（仙台）・神奈川（横浜）・北陸（富山）・神戸・広島・九州（福岡） シンガポール・上海・台北・ソウル・クアラルンプール		

株式会社 日積サーベイ

代表取締役　生　島　宣　幸
相　談　役　生　島　道　春

〒540-0012　大阪市中央区谷町3－1－9（MG大手前ビル）
TEL(06)6944-2756　積算部　(06)6944-9348　開発部
(06)6944-2776　ｺｽﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ室　(06)6944-2755　総務部
FAX(06)6944-2390　全部門共通
関連グループ：日積設計監理㈱／㈱東京日積

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役会長　佐　野　正　一
代表取締役社長　佐　野　吉　彦

本　社　〒540－0034　大阪市中央区島町2－4－7　☎（06）6943−1371（代表）
支　社　大阪・東京・名古屋・神戸・広島・福岡

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー
Asanuma

株式会社 浅沼組
取締役社長　浅　沼　健　一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話06(6768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州

imanishi

株式会社 今西組

取締役社長　今西邦夫

本　社　大阪市天王寺区上本町6丁目9番21号　TEL06(6779)3361
支　店　東京・高石　営業所　西宮・東大阪

OBAYASHI

株式会社 大林組

取締役会長　大　林　芳　郎
取締役社長　向　笠　慎　二

東京本社　東京都港区港南2－15－2　電話　03(5769)1111
本　店　大阪市中央区北浜東4－33　電話　06(6946)4400
支　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村正太郎

本　　社　〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号　電話 大阪(06)6621-1101(代表)
東京本社　〒107-8429 東京都港区元赤坂一丁目3番10号　電話 東京(03)3404-8111(代表)

快適な環境を創造する

鹿島 KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　梅田貞夫
常務取締役 関西支店長　井保武寿

本　　社　東京都港区元赤坂 1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
関西支店　大阪市西区阿波座 1－3－15　電話 06(6536)3311(大代)

KARATANI

株式会社 柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(6415) 2800(大代)
支　　店　大阪・神戸　営業所 西宮・三田・高砂・西播磨

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　松本良夫
常務取締役 大阪支店長　山口啓二

本　　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03 (3260) 2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06 (6352) 1151番

公成建設

代表取締役社長　絹川治

本　　社　〒600-8322　京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531-0072　大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎06-6375-1121
名古屋営業所　〒453-0023　名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　　社　〒543-0051　大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06(6779)7731(代)
FAX 大阪06(6779)7133
東京支店　〒350-2211　埼玉県鶴ケ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492(87)0301
FAX 埼玉0492(87)0300
営業部　〒104-0061　東京都中央区銀座1丁目8番14号（銀座大新ビル6F）　TEL 東京03(3538)1885
FAX 東京03(3538)1886

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　野村哲也
常務執行役員関西事業本部長　増島修二

本　　社　東京都港区芝浦１－２－３　電話 03(5441)1111
関西事業本部　大阪市中央区本町３－５－７　電話 06(6263)2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　和田　勇

本　　社　〒531-0076　大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06(6440)3111
東京本社　〒151-8070　東京都渋谷区代々木2丁目1番1号（新宿マインズタワー）　☎03(5352)3111

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪（06）6531－6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京（03）3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国
九州
URL http : // www. zenitaka .co. jp

TAISEI

大成建設株式会社

社　　長　平島　治
専務関西支店長　遠藤郁夫

本　　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL03(3348)1111大代表
関西支店　大阪市中央区南船場1丁目14番10号　TEL06(6268)8500
支　　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国・千葉・関東・神戸

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町4丁目1－13　電話 大阪（6252）1201番(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
取締役大阪支店長　河口允昭

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL 東京03(3562)6111
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・神戸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

不動建設株式会社

取締役社長　市吉正信

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話０６（６２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話０３（３８３７）６００９番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・北関東・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　大森　周

本　社　〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-3-8 ☎06-6966-0400(代)
東京本社　〒160-0008 東京都新宿区三栄町23-4 ☎03-3357-1600(代)
本支店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役社長　松丸哲也

本　社　〒530-0042 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 ☎06(6353)1001(代)
支　店　東京・東北　FAX 06(6353)1091
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡

Matsumura

株式会社 松村組

取締役社長　福田耕作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1丁目10番20号　電話 大代表 大阪(6353)1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜

望月建設株式会社

代表取締役会長　望月小太郎
代表取締役社長　松村利重

本　社　大阪市北区中崎町2丁目3番12号　〒530-0015　電話 大阪 (6375)2345(代表)

株式会社 森組

取締役社長　岡本利一

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06)6201-2761
大阪本店　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06)6201-2762
東京本店　東京都中央区日本橋浜町3丁目23-1　電話(03)3803-2071
支　店　東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　栃木・埼玉・静岡・三重・滋賀・京都・和歌山・千里・紀泉・堺・高石・西宮・松山・北九州・長崎・熊本

団体・報道・建材・設備工事有志

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬東入 建設会館別館 電話075(211)2857·2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8－4日興ビル内 TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　小宮三辰

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階) 電話 052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　黒田征四郎

〒640-8045 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内 電話 073(423)2562

社団法人 日本建築材料協会

会長　柴田藤祐

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目8番3号 電話06(6443)0345 FAX06(6443)0348
http://www.7net.com/KENZAI/

OCT

学校法人　福田学園

大阪工業技術専門学校

建築　土木　設備　CAD　機械

〒530-0043 大阪市北区天満1－9－27 ☎06(6352)0091 FAX06(6352)2861
URL http://www.oct.ac.jp/ e-mail info@oct.ac.jp 0120-0910-19

〈併設校〉大阪リハビリテーション専門学校（2000年4月開校予定。認可申請中）

創業45年

もっとも信頼され、読まれている情報紙

株式会社 **建設日報社**

代表取締役社長　重村　一

本　社 〒550-0006 大阪市西区江之子島1－7－3 TEL 06(6444)2405－9
別　館 〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2 TEL 06(6444)6431－4

建設通信新聞

株式会社 **日刊建設通信新聞社関西支社**

取締役関西支社長　伊丹隆俊

〒540-0026 大阪市中央区内本町１－３－５ 電　話 06(6944)9191代表
内本町山森・住友生命ビル ＦＡＸ 06(6944)9197
本社・〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-13-7 電　話 03(3259)8711代表

大阪府耳順会

（大阪府OB建設技術研究会）

会　長　名手宏彦　副会長　桝谷芳明(藤木工務店)　井上正義(松村組)
幹　事　難波敏廣(環境開発研究所)　小島　宏(ダイダン)　山本　勝(鴻池組)　甫出裕紀(フジタ)
四方清敏(ダイキン工業)　伊地知徳春(東洋建設)　田花嘉則(協和エクシオ)　中井靖教(志真建設)
会計幹事　神崎家次(不動建設)　髙橋久栄(コア)　監事　福家　敬(鉄建建設)　桜井安則(日立製作所)

定例会［第２・４金曜日；場所　(社)日本建築協会　☎06－6348－0635　FAX 06－6348－0634

会員の親睦と講演 ―――― 入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一

事務局　日本建築協会

〒530-0001　大阪市北区梅田 1-1-3-2100　大阪駅前第３ビル21階
電　話（06）6348－0635　　FAX（06）6348－0634

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.

代表取締役　依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428　Fax.06-6351-5299
E-mail info@aoba.co.jp　URL http://www.aoba.co.jp

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工

金属製屋根、外装、換気装置工事業

OSHÍMA OHYO

代表取締役社長　貞　利　政　和

本社／大阪本店　大阪市旭区太子橋1－15－22　TEL 06－6954－6521
支店、営業所　東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工　　場　新居浜・寝屋川

大島応用化学工業株式会社

TAJIMA

株式会社 タジマ

東京営業本部　〒101-8577 東京都千代田区岩本町3－11－13　電話(03)5821-7731　FAX(03)3862-5908
大阪営業所　〒550-0003 大阪市西区京町堀 1－10－5　電話(06)6441-5951　FAX(06)6444-2596

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101-0032　東京都千代田区岩本町 3－11－13　電話 (03)5821－7711
大　阪：〒550-0003　大阪市西区京町堀 1－10－5　電話 (06)6443－0431
FAX (06)6445－0895

マルエス印 ▲ ルーフィング ▲ シングル ▲ メルタン21（トーチ工法）

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東 2－23－4　☎東京(3882)2424 (代)
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(6533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形　工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

支部長　清水長次郎

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（6533）３１９１大代表

日本データネット株式会社

代表取締役社長　西　井　幾　雄
代表取締役副社長　松　村　信　人

本　社　〒530-0043　大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714

超高層ビルから 一戸建てまで

愛される夢を育てる

日立冷熱株式会社 代理店
日立化成工業株式会社 代理店
新明和工業株式会社 代理店
BRIDGESTONE 代理店

三協アルミニウム工業㈱ 代理店
立山アルミニウム工業株式会社 代理店
信越ユニット株式会社 代理店
昭和ロック株式会社 代理店
庭づくりのパイオニア GLOBEN

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳　馬　正　明

〒550-0004 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表6441－0378番　出張所：東京・京都・北九州

YAMAMOTO YOGYO

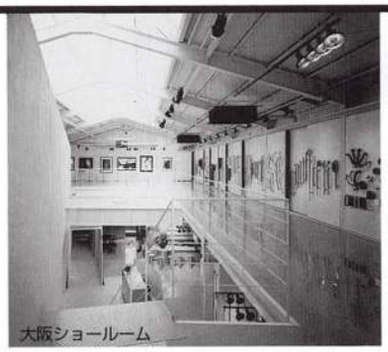
山本窯業化工株式会社

代表取締役社長　山　本　泰　通

本　　社　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20　TEL(06)6338-8601　FAX(06)6338-8606
大阪営業部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町 8 - 7　TEL(06)6338-8701　FAX(06)6384-0557
支店・営業所　東京・北関東・名古屋・静岡・広島・福岡・仙台／福崎工場

ITEMS
- ●建築用ドアハンドル
- ●レバーハンドル
- ●ケアシステムーハンドバー
- ●クロセットドア
- ●ドアストップーエッセ
- ●フロアシステム
- ●消火器収納ケースーアルジャン
- ●サインシステムーピクト
- ●都市景観ヒューランドスケープ
- ●キャスタル+メタルアート
- ●アーキパーツ

http://www.artunion.co.jp/


大阪ショールーム

建設環境金属製品の

UNION 株式会社ユニオン

UNION CORPORATION

代表取締役 社長　立野純三

■本社――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ㊅06(6532)3188 ㊅06(6533)3747
■大阪支店――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ㊅06(6532)3731 ㊅06(6532)0568
■大阪ショールーム――大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ㊅06(6532)8920 ㊅06(6533)0224
■東京支店――東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ㊅03(3630)2811 ㊅03(3630)2816
■東京ショールーム――東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ㊅03(3506)1717 ㊅03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム――名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ㊅052(363)5221 ㊅052(363)5255

デンカCSAファミリー製品

- ●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- ●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
- ●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
- ●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- ●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社

TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社

TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社 ☎06—6448—5851(代)　名古屋支店 ☎052—211—1535(代)　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９—３ 電 0720—49—2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜２—２—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町１—４—１　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027　大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川１丁目12番14号(日本生命小石川ビル７階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄
本　社　大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　06（6205）3671（代）
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

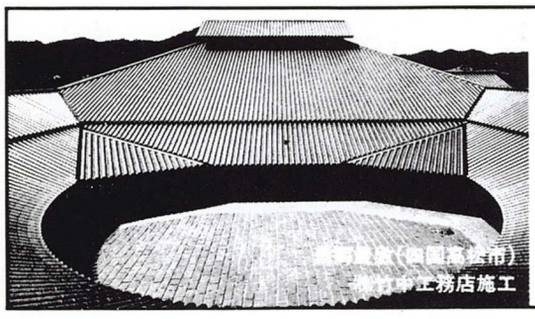
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話・放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
あらゆる場があるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本　社　〒530-0043　大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714
制作部　〒530-0043　大阪市北区天満1-9-19　TEL.06-6352-0943　FAX.06-6355-5533
印刷工場　〒530-0043　大阪市北区天満2-5-15　TEL./FAX.06-6352-1551



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス　六五六一～七四五四
☎　六五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294

祝：安井建築設計事務所創業75周年



那覇空港国内線旅客ターミナルビル　安井建築設計事務所 宮平建築設計事務所 と共同設計　（北工区）國場・大成・大米・仲本・善太郎JV （南工区）大城・三井・日航・大晋・東開発JV　：屋根工事

伸和工業株式会社

本　　社　〒590-0831　大阪府堺市出島西町２番地　TEL（0722）45-1521（代）
FAX（0722）47-0352～3
東京支店　〒101-0032　東京都千代田区岩本町3-5-2　TEL（03）3861-1301
フォアサイトビル4F　FAX（03）3861-1302
九州支店　〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2-3-23　TEL（092）482-7300
安田三井不動産ビル３F　FAX（092）482-7307
大阪営業所　〒550-0002　大阪市西区江戸堀２丁目１-１　TEL（06）6447-2872
江戸堀センタービル12F　FAX（06）6447-2930
営　業　所　鹿島・和歌山・神戸・沖縄

優心の造形。—ヤンテス・アザーアイテムズ

都市建築空間のスタンダードを目指す、私たちヤンテスのアザーアイテムズ。華麗なファサードの演出、人の動きの優雅な導き、社会的弱者への思いやり、ユーティリティの整理整頓、ドアまわりの便利性など、マルチタスクな働きを、そのフォルムが美しく発揮します。私たちヤンテスが取り組んでいるのは、人の優しさをカタチにあらわすこと。ヤンテスアザーアイテムズ—優しきこころの造形。



ウォーターリボン
(ステンレス+硝子)

ヤンテス 新聞受
(スチール塗装+透明アクリル)



手すり(ステンレス)

手すり(ステンレス)



ヤンテスアーチェントポール®



ヤンテスアーチェントポール®

照明BOX



ヤンテス ファイピット®
(床置/スチールシルバー)



ヤンテス ファイピット®
(床置/スチールシルバー)



ヤンテス ファイピット®
(床置/スチールシルバー)



ヤンテス ファイピット®
(床置/スチールシルバー)



ヤンテス ファイピット®
(床置/スチールシルバー)

ヤンテス ファイアキップ®
(半埋込/スチールホワイト)

ヤンテス ファイアキップ®
(半埋込/スチールホワイト)

ヤンテス ファイアキップ®
(半埋込/スチールホワイト)

ヤンテス ファイアキップ®
(半埋込/スチールホワイト)

ヤンテス ファイアキップ®
(半埋込/スチールホワイト)



ヤンテス ケアーバー®
(強化木+ステンレス)



ヤンテス ケアーバー®
(強化木+アルミキャスト)



ヤンテス ケアーバー®
(強化木+ステンレス)



ヤンテス ヘルプバー®
(アルミキャスト+ステンレス)



ヤンテス ヘルプバー®
(強化木+真鍮硫化)



ヤンテス ケアーマーク®
YB-10-2(35° ステンレス316)



ヤンテス ケアーライン®
YB-13-2(285×35 ステンレス316)



ヤンテス クローゼットラック
(アルミ+ステンレス)



ヤンテス セパロゲート®
(ステンレス+セラミック塗装)



車止め セパロ
(アルミキャストウレタン塗装)

yantes
空間金属製品 株式会社 ヤンテス

大阪/〒541-0046 大阪市中央区道修町3丁目1-14 ☎06-6231-5585 ☎06-6231-5586
東京/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3 ミヤタビル三和商工内 ☎03-3219-8403 ☎03-3219-0690
本社/〒630-0201 奈良県生駒市小明町495-16 ☎0743-74-6007 ☎0743-75-1036

営業アイテム
●高級手すり●照明ボックス●アーチェントポール●消化器ケース(ファイピット、ファイアキップ)●視覚障害者誘導製品(ケアーバー、ケアーライン、ケアーマーク、点字ゴムタイル)
●ホテル客室用(点検口、クローゼットラック、フック、タオルバー、ドアチェーン、ヘルプバー、新聞受、ワードローブ棚、戸当り)
●車止めセパロ、セパロゲート、防護柵●金属壁面パネル●ハニカムパネル●モニュメント●サイン

カタログをお送りいたします。
カタログ請求は
ファックス:
大阪(06-6231-5586)
にて受付致しております。

雑誌 03379-1

Vol.81通巻334号 2006年1月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
社団法人 日本建築協会 〒530-0014 大阪市北区鶴田1-6-13 TEL06(6362-7001 直通大阪06(6348)0635 FAX06(6348)0634 振替口座00710-1-3775
定価1,200円(●本体1,143円●消費税57円●送料共) 正会員の購読料は会費に含めて徴収